

姫路市

池ノ下遺跡Ⅱ

— 一般国道2号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和5（2023）年2月

兵庫県教育委員会

姫路市

池ノ下遺跡Ⅱ

— 一般国道2号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和5（2023）年2月

兵庫県教育委員会

例 言

1. 本書は兵庫県姫路市苦福に所在する、池ノ下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 池ノ下遺跡の発掘調査報告書は、既刊の成果として、中播都市計画英賀保駅周辺土地画整備事業に伴い、兵庫県教育委員会刊行『池ノ下遺跡』(2012.3) 兵庫県文化財調査報告第435冊が刊行されており、本報告は『池ノ下遺跡Ⅱ』(2023.2) 兵庫県文化財調査報告第524冊とした。
3. 発掘調査は一般国道2号姫路バイパス改良事業に係るもので、兵庫県教育委員会が国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼を受けて、平成19年度は兵庫県立考古博物館が、平成29年度と平成30年度は公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した。
4. 出土品整理は兵庫県教育委員会が国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼を受けて、令和元年度～令和4年度に公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した。
5. 遺構全体の航空写真測量を入札により、平成19年度は富士測量株式会社、平成29年度は株式会社イビソクに、平成30年度は株式会社オオノに業務委託した。
6. 写真は、遺構を調査員が担当し、遺物については入札により、株式会社地域文化財研究所に委託した。
7. 本書の図版1は、国土地理院発行の1/200,000「姫路」を使用した。図版2は、兵庫県発行の兵庫県地質図1/100,000を使用した。図版3は、姫路市都市計画図「船塀区付城」を使用した。
8. 本書に使用した方位は世界測地系(第V系)の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海面(T.P.)を基準とした。
9. 出土品の分析は、入札により土器の胎土分析を株式会社古環境研究所に、木製品の樹種同定を一般社団法人文化財科学研究センターに委託した。
10. 本書の執筆は、以下のとおりである。
 - 第1章 篠宮 正
 - 第2章 西口圭介
 - 第3章 第1節を西口
 - 第3章 第2節・第3節・第5節・第8節を篠宮
 - 第3章 第6節・第7節・第9節を西口
 - 第3章 第4節を西山昌孝

第4章 第1節・第2節を鎌宮

第4章 第3節を西口

第4章 第4節・第5節を鎌 英記

第5章 第1節を株式会社古環境研究所

第5章 第2節を一般社団法人文化財科学研究センター

第6章 第1節を鎌宮

第6章 第2節・第3節を西口

11. 本書の編集は整理技術員 柏原美音・寺西梨紗の補助のもと鎌宮・西口が行った。

12. 本書にかかると写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館が保管している。

13. その他の記載項目

- ・ 本報告書の体裁については概ね『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊を踏襲した。
- ・ 調査区の名称については、『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊の区名に続く番号として、東側から70区～77区とした。
- ・ 掲載遺構番号については、今回掲載した遺構に限り『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊の続く遺構番号に振り替えた。
- ・ 掲載遺物の番号については、今回掲載した遺物に限り『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊の掲載番号に続く番号に振り替えた。
- ・ 遺構の製図および遺物の実測・製図は公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 整理技術員が行った。なお、遺構図版の作成に際し、南を天にするものがある。
- ・ 中世の遺物については主に兵庫県遺跡Ⅱ(第270冊)の用語を参考とし、土師器・須恵器・瓦器の表現を概ね使用した。用字については、磁器以外の種別には杯・碗・鍋の字を使用、磁器については碗の字を使用した。また、土製煮炊具については土師器鍋・羽釜とし、瓦質の鍋・羽釜については瓦質土師器鍋・羽釜の用語を使用している。また、石器・木器・金属器の用語を使用している。
- ・ 今回言及した調査区の地形環境については立命館大学非常勤講師 青木哲哉氏に現地にてご教示をいただいている。加えて『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊に掲載した地形分類を参考にしている。文責は今回の執筆者にある。

14. 発掘調査および報告書の作成にあたり、

姫路市教育委員会

青木哲哉(立命館大学)、秋枝 芳・大谷輝彦・森 恒裕・中川 猛・小柴治子・福井 優・関 梓(姫路市教育委員会)、岡田章一・新田宏子(兵庫県立考古博物館)の各機関・各氏にご援助・ご指導・ご教示頂いた。記して深く感謝の意を表する。

池ノ下遺跡Ⅱ

一般国道2号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

例 言

目 次	i ~ iv
第1章 遺跡をとりまく環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の契機と経過	5
第1節 調査にいたる経緯	5
第2節 確認調査の経過	5
第3節 本発掘調査の経過	6
第4節 出土品整理作業の経過	8
第3章 発掘調査の成果—遺構—	11
第1節 発掘調査の概要	11
第2節 70区の調査	12
第3節 71区の調査	18
第4節 72区の調査	18
第5節 73区の調査	22
第6節 74区の調査	23
第7節 75区の調査	24
第8節 76区の調査	28
第9節 77区の調査	32
第4章 発掘調査の成果—遺物—	35
第1節 遺物の概要	35
第2節 弥生時代から古墳時代の土器	35
第3節 古代・中世の土器	41
第4節 石器	51
第5節 金属器	52
第5章 自然科学的調査の成果	53
第1節 池ノ下遺跡胎土分析（薄片法）	53
第2節 池ノ下遺跡における樹種同定	67
第6章 調査の成果	69
第1節 古墳時代初頭の遺構と遺物	69
第2節 古代から中世の遺構と遺物	70
第3節 池ノ下遺跡の総括	72
別 表	1 ~ 4
図 版	1 ~ 76
写真図版	1 ~ 93
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	池ノ下遺跡周辺の概地形復原(2,000分の1).....	10
第2図	土器 2001~2004	35
第3図	土器 2051~2061	40
第4図	粘土中の砕屑物の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(1)	59
第5図	粘土中の砕屑物の各粒度階における鉱物・ 岩石出現頻度(2)	60
第6図	粘土中の砕屑物の粒度組成(3).....	61

第7図	粘土中の砕屑物の粒度組成(2).....	62
第8図	砕屑物・基質・孔隙の割合.....	62
第9図	粘土薄片(1)	63
第10図	粘土薄片(2)	64
第11図	粘土薄片(3)	65
第12図	粘土薄片(4)	66
第13図	池ノ下遺跡の木材	68

表 目 次

第1表	76区土坑一覧(1)(2)	30・31
第2表	分析試料一覧	53

第3表	薄片観察結果(1)(2)(3).....	56~58
第4表	池ノ下遺跡における樹種同定結果	67

別 表 目 次

別表1	土器一覧(1)~(5)	73~77
別表2	石器一覧	78

別表3	金属器一覧	78
別表4	木器一覧	78

図 版 目 次

図版 1	遺跡 1 兵庫県の位置 2 姫路市の位置 3 池ノ下遺跡の位置(200,000分の1)
図版 2	遺跡 池ノ下遺跡周辺の主要遺跡(25,000分の1)
図版 3	遺跡 池ノ下遺跡 調査区位置図(1,500分の1)
図版 4	遺跡 遺跡全体図 1
図版 5	遺跡 遺跡全体図 2
図版 6	遺構 70区 全体図・南壁・西壁・東壁土層断面図
図版 7	遺構 70区 全体図
図版 8	遺構 70区 SD001・SD002・SD003・SD004・SD006 SD008・SD009・SD010・SD011・SD012 SD015
図版 9	遺構 70区 SR001・SR002
図版 10	遺構 70区 SR003
図版 11	遺構 70区 SR004
図版 12	遺構 70区 SR005
図版 13	遺構 70区 SR005 柱穴
図版 14	遺構 70区 SA001・SA002・SA003
図版 15	遺構 70区 SA004・SA005・SA006
図版 16	遺構 70区 SK001・SK002・SK004・SK005・SK006・SK007
図版 17	遺構 71区 全体図・西壁土層断面図・SD017
図版 18	遺構 72区 全体図・第1面・第2面
図版 19	遺構 72区 北壁土層断面図・SD019
図版 20	遺構 72区 SD020・SX2003・SX2004
図版 21	遺構 73区 全体図・西壁土層断面図・SD021・SD022
図版 22	遺構 74区 全体図
図版 23	遺構 74区 南壁土層断面図
図版 24	遺構 74区 北壁・西壁土層断面図
図版 25	遺構 74区 P74101・P74102・SK401・SX101・SR101
図版 26	遺構 75区 全体図・南壁土層断面図
図版 27	遺構 75区 粘土探堀坑Ⅰ SK506・SK512
図版 28	遺構 75区 粘土探堀坑Ⅱ SK502・SK503・SK505・SK507 SK508・SK509・SK510・SK514 SK515・SK516・SK517
図版 29	遺構 76区 全体図・南壁土層断面図
図版 30	遺構 76区 全体図 1
図版 31	遺構 76区 全体図 2
図版 32	遺構 76区 SM004・SM005
図版 33	遺構 76区 SM006・SM008・SM027・SM062
図版 34	遺構 76区 SM012・SM013・SM046・SM048・SM065
図版 35	遺構 76区 SM014・SM015・SM016・SK743
図版 36	遺構 76区 SM018・SM069
図版 37	遺構 76区 SM021・SM022・SM025・SM063

図版 38	遺構 76区 SK019・SK023・SK032
図版 39	遺構 76区 SK066・SK049・SK039
図版 40	遺構 76区 SK050・SK030・SK029
図版 41	遺構 76区 SK076・SK024・SK077
図版 42	遺構 76区 SK070・SK071・SK036・SK037・SK038
図版 43	遺構 76区 SK040・SK042・SK056・SK057
図版 44	遺構 76区 SK041・SK064・SK028・SK060
図版 45	遺構 76区 SK052・SK033・SK044・SK074
図版 46	遺構 76区 SK700・SK701・SK075・SK034
図版 47	遺構 76区 SK073・SK702・SK720
図版 48	遺構 76区 SK707・SK051・SK709
図版 49	遺構 76区 SK055・SK043・SK058
図版 50	遺構 76区 SK078・SK079・SK080・SK082・SK085 SK086
図版 51	遺構 76区 SK087・SK088・SK091・SK092・SK721
図版 52	遺構 76区 SK098・SK099・SK703・SK704・SK705 SK706
図版 53	遺構 76区 SK722・SK723・SK724・SK725・SK731 SK732・SK716
図版 54	遺構 77区 全体図
図版 55	遺構 77区 東壁土層断面図
図版 56	遺構 77区 南壁土層断面図
図版 57	遺構 77区 SR006
図版 58	遺構 77区 SR007
図版 59	遺構 77区 SR008
図版 60	遺構 77区 SR009
図版 61	遺構 77区 SR010
図版 62	遺構 77区 SR011
図版 63	遺構 77区 SK793・SB308P150・SD030 第2面粘土探堀坑
図版 64	遺物 土器 2005~2020
図版 65	遺物 土器 2021~2031
図版 66	遺物 土器 2032~2050
図版 67	遺物 土器 2101~2129
図版 68	遺物 土器 2130~2144
図版 69	遺物 土器 2145~2162
図版 70	遺物 土器 2163~2180
図版 71	遺物 土器 2181~2201
図版 72	遺物 土器 2202~2227
図版 73	遺物 土器 2228~2238
図版 74	遺物 土器 2239~2250
図版 75	遺物 石器 S001~S212
図版 76	遺物 金属器 M201~M214

写真図版目次

写真図版 1 全景 (2007 年撮影) (東から)	SD012 土層断面 (西から)	写真図版 29 78 区	SR101 土層断面 (東から)
全景 (2007 年撮影) (北から)	SD015 土層断面 (西から)	遠景 (西北西から)	遠景 (東から)
写真図版 2 70 区 近景 (上が南)	SK302 土層断面 (南から)	全景 (東から)	近景 (西から)
全景 (上が南)	SK301 遺物出土状況 (西から)	全景 (西から)	全景 (東から)
写真図版 3 70 区 全景 (東から)	SK308 (西から)	写真図版 30 75 区	近景 (西から)
写真図版 4 70 区 全景 (西から)	SK303 土層断面 (南から)	全景 (東から)	全景 (東から)
写真図版 5 70 区 SR301・SR302 (西から)	SK308 土層断面 (南から)	写真図版 31 75 区	西平部 (東から)
SR303 P02 土層断面 (南から)	SK304 完備状況 (南から)	東平部 (東から)	北壁 北東隅 (南から)
SR301 P05 土層断面 (南から)	SK305 完備状況 (南から)	東壁 (西から)	南壁 (西北西から)
SR301 P04 土層断面 (南から)	SK306 完備状況 (南から)	P75201 (北から)	奈良時代 SK516 (北から)
SR301 P05 石出土状況 (南から)	SK307 完備状況 (南から)	写真図版 32 75 区	粘土採掘坑検出状況 (北から)
写真図版 6 70 区 SR303 (東から)	SK304・SK305・SK306・SK307 土層断面 (北から)	粘土採掘坑群 (東から)	粘土採掘坑群 (南南東から)
SR303 P02 土層断面 (南から)	写真図版 15 71 区	粘土採掘坑群 (西から)	SK302・SK303 (西から)
SR303 P03 土層断面 (南から)	全景 (上が南)	SK303 (南から)	SK312・SK305・SK306 (北から)
SR303 P05 土層断面 (南から)	全景 (東から)	SK305 (南から)	SK305 (南から)
SR303 P06 土層断面 (南から)	写真図版 16 71 区	SK306 (北から)	写真図版 33 75 区
写真図版 7 70 区 SR304 (西から)	SD017 (東から)	SK306 土層断面 (東から)	SK307・SK308 土層断面 (東から)
SD004 P03 土層断面 (南から)	SD017 土層断面 (東から)	SK309・SK310 (東北東から)	SK309・SK310 土層断面 (東から)
SD004 P05 土層断面 (南から)	写真図版 17 72 区	SK309・SK310 土層断面 (東から)	SK311 (北から)
SD004 P04 土層断面 (南から)	遠景 (東から)	SK312 土層断面 (南から)	SK312 土層断面 (南から)
SD004 P05 住出土状況 (南から)	遠景 (北から)	SK302・SK303 (西から)	SK303 (南から)
写真図版 8 70 区 SR204 P06 住出土状況 (南から)	写真図版 18 72 区	SK312・SK305・SK306 (北から)	SK305 (南から)
SR304 P07 土層断面 (南から)	土層水田 (東から)	SK305 (北から)	SK306 土層断面 (東から)
SR304 P08 土層断面 (南から)	土層水田 (西から)	SK306 (北から)	SK307・SK308 土層断面 (東から)
SR304 P09 土層断面 (南から)	写真図版 19 72 区	SK307 (北から)	SK309・SK310 (東北東から)
SR304 P10 土層断面 (南から)	土層水田 東平部 (東から)	SK309・SK310 土層断面 (東から)	SK311 (北から)
SR304 P11 土層断面 (南から)	土層水田 西平部 (西から)	SK312 土層断面 (南から)	SK312 土層断面 (南から)
SR304 P16 土層断面 (南から)	SD018 (北から)	SK312 土層断面 (南から)	SK313 土層断面 (南から)
SR304 P17 石出土状況 (南から)	写真図版 20 72 区	SK313 土層断面 (南から)	SK314・SK315 (南から)
写真図版 9 70 区 SK305 (西から)	下層全景 (北から)	SK314・SK315 土層断面 (西から)	SK317-1・SK317-2 (南から)
SK305 P01 土層断面 (南から)	下層水田跡 (東から)	SK317-1・SK317-2 (南から)	SK317 土層断面 (南から)
SK305 P02 遺物出土状況 (東から)	写真図版 21 72 区	SK318 (南から)	SK318 (南から)
SK305 P01 石出土状況 (南から)	調査区北壁の状況 (西北西から)	SD327 (北から)	写真図版 35 76 区
SK305 P02 土層断面 (南東から)	調査区北壁 東端の土層堆積 (南から)	SK319 (南から)	全景 (上が南)
写真図版 10 70 区 SR305 P03 石出土状況 (南から)	調査区北壁 SD318 部分土層堆積 (南から)	SK320 (北から)	全景 (東から)
SR305 P04 住出土状況 (東から)	調査区中央東寄り土層堆積 (南から)	SK320 土層断面 (西から)	写真図版 36 76 区
SR305 P05 遺物出土状況 (南から)	調査区北壁中央 土層堆積 (南から)	SK320 断ち割り (西から)	全景 (東から)
SR305 P06 土層断面 (南から)	調査区北壁 SD319 部分土層堆積 (南から)	SK2003・SD320 (南南東から)	写真図版 37 76 区
SR305 P07 土層断面 (南から)	SD319 調査区北壁部分 (南から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK650 遺物出土、完備状況 (西から)
SR305 P08 土層断面 (南から)	写真図版 22 72 区	SK2004 断ち割り (東から)	SK605 土層断面、完備状況 (西から)
SR305 P09 鉄滓出土状況 (南から)	SD320 土層堆積 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK630 土層断面 (南から)
写真図版 11 70 区 SA304 (北東から)	SD320 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK610 土層断面、完備状況 (西から)
SA304 P01 土層断面 (南から)	SD322 (北から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK607 完備状況 (西から)
SA304 P02 土層断面 (南から)	SD321 土層断面 (北から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK665 土層断面 (南から)
SA304 P03 土層断面 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK604 土層断面、完備状況 (北から)
SA304 P02 遺物検出状況 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK620 完備状況 (北から)
SA304 P04 土層断面 (南から)	SD321 土層断面 (北から)	SK2004 断ち割り (東から)	写真図版 38 76 区
SA304 P05 土層断面 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK666・SK649・SK614・SK623 (東から)
写真図版 12 70 区 SD001 土層断面 (南西から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK666 土層断面 (西から)
SD003 土層断面 (南西から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK649 土層断面 (南西から)
SD004 土層断面 (西から)	SD321 土層断面 (北から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK614 土層断面 (東から)
SD003 W001 杭出土状況 (北東から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK623 土層断面、遺物出土状況 (南から)
SD006 土層断面 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	写真図版 39 76 区
SD008 土層断面 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK612 遺物出土状況 (西から)
SD007 土層断面 (東から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK613 遺物出土状況 (西から)
SD010 土層断面 (南西から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK612 土層断面 (西から)
写真図版 13 70 区 SD011 土層断面 (南から)	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK613 土層断面 (西から)
	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK615 遺物出土状況 (北西から)
	SD322 土層断面 (西から)	SK2004 断ち割り (東から)	SK619 遺物出土状況 (北から)

	SK015 土層断面 (西から)		SK040・SK642 土層断面 (北から)		SK307 P76 (東から)
	SK019 土層断面 (北から)		SK720 遺物出土。完備状況 (南から)		SK307 P176 (東から)
写真図版 40 76 区	SK024・SK030・SK069・SK031 (北から)	写真図版 48 76 区	SK055 遺物出土。完備状況 (西から)	写真図版 58 77 区	SK307 P09 (西から)
	SK024 土層断面 (南西から)		SK055 土層断面 (西から)		SK307 P04 (西から)
	SK030 土層断面 (北東から)		SK720 土層断面 (南から)		SK308 P229 遺物出土状況 (西から)
	SK069 土層断面 (北から)		SK055 土層断面 (西から)		SK308 P150 白磁織出土状況 (西から)
写真図版 41 76 区	SK031 土層断面 (西から)		SK720 遺物出土状況 (南から)		SK308 P150 土層断面 (北から)
	SK000 周辺 (北から)		SK055 遺物出土状況 (北から)		SK308 P191 土層断面 (西から)
	SK606 遺物出土。完備状況 (北から)		SK068 土層断面 (北西から)		SK308 P195・P194 (南から)
	SK608 遺物出土状況 (東から)		SK644 土層断面 (東から)		SK308 P195 (南から)
	SK608 土層断面 (西から)	写真図版 49 76 区	SK679・SK680 遺物出土。完備状況 (北東から)		SK309 P218 土層出土状況 (北から)
	SK608 遺物出土状況 (東から)		SK685 遺物出土状況 (西から)		SK309 P220 遺物出土状況 (北から)
写真図版 42 76 区	SK743 遺物出土。完備状況 (東から)		SK679・SK680 土層断面 (北東から)		SK309 P220 土層断面 (西から)
	SK646 遺物出土。完備状況 (北から)		SK685 土層断面 (西から)	写真図版 59 77 区	P77050 土師器皿出土状況 (南から)
	SK743 土層断面 (北東から)		SK721 遺物出土。完備状況 (南から)		P77070 土師器皿出土状況 (南から)
	SK646 土層断面 (北から)		SK085 遺物出土状況 (北から)		P77254 土師器皿出土状況 (東から)
	SK032 遺物出土。完備状況 (西から)		SK721 土層断面 (南から)		写真図版 60 77 区
	SK021・SK022 遺物出土。完備状況 (西から)		SK730 遺物出土。完備状況 (北西から)		SK793 須恵器壺出土状況 (南東から)
	SK032 土層断面 (南西から)	写真図版 50 76 区	SK099 土層断面 (北から)		SK793 埴輪状況 (西から)
	SK021・SK022 土層断面 (西から)		SK725 土層断面 (南から)		SK793 埴輪状況 (南東から)
写真図版 43 76 区	SK063 遺物出土状況 (北東から)		SK711 土層断面 (東から)		SK793 完備状況 (北西から)
	SK027 完備状況 (西から)		SK713 土層断面 (北から)	写真図版 61 77 区	SK330 全量 (南西から)
	SK063 土層断面 (北東から)		SK716 遺物出土。完備状況 (南西から)		SK330 土層断面 (西から)
	SK027 土層断面 (西から)		SK715 遺物出土。完備状況 (南から)		SK330 遺物出土状況 (南から)
	SK029 遺物出土。完備状況 (南西から)		SK716 遺物出土状況 (南から)		第 2 面粘土採掘坑 (西から)
	SK025 完備状況 (西から)	写真図版 51 77 区	SK029 完備状況 (北から)		第 2 面粘土採掘坑近接 (西から)
	SK029 遺物出土状況 (南西から)		遠景 (西から)		南東端 粘土採掘坑部分 土層断面 (北西から)
	SK025 土層断面 (西から)	写真図版 52 77 区	第 1 面近接 (北から)	写真図版 62	平成 19 年度現地説明会状況
写真図版 44 76 区	SK028・SK073・SK064・SK075 (西から)		第 1 面 (南から)		70 区現地説明会状況
	SK028 土層断面 (南西から)	写真図版 53 77 区	第 2 面 (南から)		76 区現地説明会状況
	SK073 土層断面 (北東から)		南壁 (北西西から)	写真図版 63 遺物	土器 2
	SK064 土層断面 (西から)		南壁 (北東北から)	写真図版 64 遺物	土器 2
	SK075 土層断面 (西から)		東壁 (西から)	写真図版 65 遺物	土器 3
写真図版 45 76 区	SK070・SK071 遺物出土。完備状況 (南から)		東壁近接 (西から)	写真図版 66 遺物	土器 4
	SK074 遺物出土状況 (北から)		南壁東平近接 (北から)	写真図版 67 遺物	土器 5
	SK070・SK071 土層断面 (南西から)	写真図版 54 77 区	南壁中央近接 (北から)	写真図版 68 遺物	土器 6
	SK074 土層断面 (東から)		奈良時代の擬立柱建物跡	写真図版 69 遺物	土器 7
	SK058 遺物出土。完備状況 (南から)		SK306・SK307 (南から)	写真図版 70 遺物	土器 8
	SK033 遺物出土。完備状況 (西から)		SK308・SK309 (東から)	写真図版 71 遺物	土器 9
	SK058 土層断面 (西から)		SK310・SK311 (東から)	写真図版 72 遺物	土器 10
	SK033 土層断面 (南西から)	写真図版 55 77 区	SK306 P80 土層断面 (北から)	写真図版 73 遺物	土器 11
写真図版 46 76 区	SK043 完備状況 (西から)		SK306 P87 土層断面 (西から)	写真図版 74 遺物	土器 12
	SK038 完備状況 (西から)		SK306 P87 土層断面 (東から)	写真図版 75 遺物	土器 13
	SK043 土層断面 (西から)		SK306 P87 土層断面 (南から)	写真図版 76 遺物	土器 14
	SK038 土層断面 (西から)		SK306 P87 土層断面 (北から)	写真図版 77 遺物	土器 15
	SK051 完備状況 (北から)		SK306 P05 土層断面 (西から)	写真図版 78 遺物	土器 16
	SK060 完備状況 (北から)		SK306 P139 土層断面 (東から)	写真図版 79 遺物	土器 17
	SK051 土層断面 (西から)		SK306 P137 土層断面 (東から)	写真図版 80 遺物	土器 18
	SK060 土層断面 (西から)	写真図版 56 77 区	SK306 P136 土層断面 (西から)	写真図版 81 遺物	土器 19
	SK060 土層断面 (西から)		SK306 P148 土層断面 (東から)	写真図版 82 遺物	土器 20
	SK060 土層断面 (西から)		SK306 P123 土層断面 (東から)	写真図版 83 遺物	土器 21
	SK060 土層断面 (西から)		SK305 P95・SK306 P100 (南から)	写真図版 84 遺物	土器 22
	SK060 土層断面 (西から)		P98・SK307 P101・SK306 P102 (南から)	写真図版 85 遺物	土器 23
写真図版 47 76 区	SK709 完備状況 (東から)		SK306 P102 (南から)	写真図版 86 遺物	土器 24
	SK641 完備状況 (北から)		SK306 P106 (北から)	写真図版 87 遺物	土器 25
	SK702 遺物出土。完備状況 (東から)		SK306 P106 (東から)	写真図版 88 遺物	土器 26
	SK041 土層断面 (西から)		SK306 P106 (南から)	写真図版 89 遺物	土器 27
	SK052 土層断面 (西から)		SK306 P106 (西から)	写真図版 90 遺物	土器 28
	SK008 土層断面 (北西から)	写真図版 57 77 区	SK307 P16 (北から)	写真図版 91 遺物	土器 29
	SK037 土層断面 (西から)		SK307 P16 (東から)	写真図版 92 遺物	石器 1
			SK307 P63 (東から)	写真図版 93 遺物	石器 2・金属器・木製品

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境 (図版1・2)

池ノ下遺跡は兵庫県姫路市苦編、町坪、飾磨区高町に所在する。姫路市は兵庫県の中西部に位置しており、南は瀬戸内海に面し、南東は高砂市、東は加古川市、北東は加西市、北は神崎郡福崎町・市川町・神河町、北西は宍粟市、西はたつの市と揖保郡太子町に接している。

池ノ下遺跡は姫路市街の西端の杵取山(標高200.3m)を主峰とする鬘柳山から山崎山にかけて南北に連なる荒川山塊の南部の苦編山(標高165.8m)南東麓に位置する。荒川山塊を東西に最短距離で結ぶ峠道は、道路事情が良くなった現在ではあまり使用されていないが、苦編峠や伯母ヶ谷峠がある。

荒川山塊は中生代白亜紀に位置づけられる相生層群伊勢層の流紋岩質多結晶溶結凝灰岩を主体として下部と中部には凝灰質の砂岩や頁岩などの堆積岩などが挟まれている。池ノ下遺跡をはじめとする平野部は新生代第四紀完新世の砂礫やシルトが堆積している。

荒川山塊の西側には夢前川が流れ、池ノ下遺跡の東側には今宿南の清水を水源とする大井川が南流し、水尾川に合流して播磨灘に注いでいる。現在の大井川は明暦年間(1655~1658)に夢前川を御立横間で現在の河道に付け替えるまでは置塩川と呼ばれていた。御立横間から蛤山や荒川山塊の東側を流れ水尾川とつながっていた。

池ノ下遺跡周辺の平野部は近年の大規模造成や溜め池、旧河道などを除いては、条里型地割が良好に残っており、池ノ下遺跡は標高3.2m~6.5mであり、緩やかに北東から南西に傾斜している。縄文海進時の海岸線は現在のT.P.4m~5m付近に位置していたと考えられている。

池ノ下遺跡の名称の元になった「池ノ下」の小字は北側に位置する四ツ池(北から町坪池・玉手池・中池・苦編池)の下方に位置することから付けられた。

明治22年(1889)11月には池ノ下遺跡の南東側を走る姫路から竜野間の山陽鉄道(明治39年に国有化され国鉄を経て現在JR山陽線)が開通した。池ノ下遺跡の南西800mには姫路駅と網干駅の中間駅として大正2年(1913)4月に英賀駅が開業し、交通が便利になった。遺跡の南側を国道2号姫路バイパスが走り、東側約2kmに中地ランプがあり、交通動脈の中心をなしている。

第2節 歴史的環境 (図版2)

池ノ下遺跡は姫路市の南西部に所在する。池ノ下遺跡周辺には平安時代から中世の集落である豆田遺跡や大浮口遺跡や村東遺跡が存在しており、遺跡の密度が高い。

今回中心となる遺構と遺物は旧石器時代から中世までである。したがって、池ノ下遺跡周辺地域、特に夢前川下流域から船場川下流域の縄文時代から中世の遺跡を中心に時代ごとに概観する。

1. 旧石器・縄文時代

旧石器時代の遺跡は姫路市南部では調査が行われていない。ただし遊離した状態で、池ノ下遺跡から旧石器時代後期のナイフ形石器が出土し、豆田遺跡から角錐状石器が出土している。

縄文時代の池ノ下遺跡では、区画整理事業に伴う発掘調査で、流路から中期の土器や晩期の土器が出

土している他、石鏃や石匙などの石器が出土している。周辺では辻井遺跡・堂田遺跡・橋詰遺跡・大鳥遺跡・鹿谷道遺跡・出手遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡では中期から晩期の土器が多量に出土し、中期の屈葬人骨や晩期の土器棺を検出している。橋詰遺跡では包含層から後期と晩期の土器が出土している。大鳥遺跡では晩期後半の溝や土坑などを調査している。他に石ヶ坪遺跡や鹿谷道遺跡などで後期の土器が、堂田遺跡・出手遺跡や小山遺跡などで晩期の土器が見つかっている。

2. 弥生時代

弥生時代の池ノ下遺跡では、区画整理事業に伴う発掘調査で、前期の土坑や溝、中期の堅穴住居跡や溝、後期の溝などを調査している。周辺では、今宿遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・辻井遺跡・岩端町遺跡・千代田遺跡・西延末遺跡・八反長遺跡・東川遺跡・笹山田遺跡などで調査が行われている。弥生時代中期から始まる遺跡には千代田遺跡・八反長遺跡・橋詰遺跡・権現遺跡などがある。石ツミ遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・笹山田遺跡などで中期の堅穴住居跡を検出しており、遺跡数・遺跡規模ともに拡大している。岩端町遺跡では掘立柱建物跡を検出している。弥生時代後期では今宿遺跡・今宿丁田遺跡・西延末遺跡・笹山田遺跡・竹の前遺跡などで堅穴住居跡を検出している。笹山田遺跡では円形周溝墓を調査している。

東川遺跡で銅鐸の破片が出土しており、合わせて鋳型や鏡の粗型なども出土している。名古山遺跡と今宿丁田遺跡では袈裟樽文銅鐸の石製鋳型が出土しており、水尾川流域は播磨における青銅器生産の中心地であった。

3. 古墳時代

池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、古墳時代初頭の掘立柱建物跡や流路、古墳時代中期から後期の流路や溝を調査しており、多量の遺物が出土している。北側に隣接する四ツ池遺跡では鳥形木製品が採集されている。古墳時代の集落遺跡には笹山田遺跡・長越遺跡・畑田遺跡・湯田遺跡などがあり、調査が行われている。

長越遺跡・畑田遺跡・湯田遺跡では古墳時代初頭の堅穴住居跡・井堰などを調査しており、船場川流域の中心的な集落遺跡である。遺物は他地域の広域的な土器が多量に出土している。笹山田遺跡では古墳時代初頭の堅穴住居跡・櫛列・井戸、中期の堅穴住居跡・掘立柱建物跡、後期の堅穴住居跡・掘立柱建物跡を調査している。

八反長遺跡では古墳時代初頭の方形周溝墓を、畑田遺跡では円形周溝墓を検出している。周辺では前期古墳や中期古墳の調査は行われていない。出土場所は不明ながら、苫福地区の山塊から2面の鏡の出土が伝えられている。一例は現在フランスのギメ国立博物館所蔵品となっている変形四神四獣鏡、もう一例は現品不明であるが内行花文鏡である。後期の古墳は、山崎山群集墳(7基)・手柄山北丘群集墳(12基)・山所群集墳(8基)など丘陵上や丘陵斜面に横穴式石室を主体部とする群集墳が存在している。手柄山北丘群集墳では発掘調査が行われている。周辺には規模の大きい横穴式石室を主体部とする古墳は存在していない。

4. 古代

奈良時代において、この地域は播磨国筋磨郡に含まれていた。7世紀後半の藤原宮出土の木簡に「志

加麻評」とあり、シカマの初見である。『播磨国風土記』には飭磨郡は16里が記されており、池ノ下遺跡周辺は東部の町坪が伊和里、西部の苦福が英賀里に比定されている。平安時代の『和名類聚抄』には飭磨郡は14郷が記載されており、東部の町坪が伊和郷、西部の苦福が英賀郷に比定されている。

播磨国府・播磨国分寺・播磨国分尼寺はいずれも飭磨郡に所在している。播磨国府は本町遺跡に推定されており、豆腐町遺跡からは「郡」・「郷」の墨書土器や漆工房関連遺物などが出土しており、播磨国府の関連遺跡と考えられている。播磨国分寺・播磨国分尼寺は市川左岸に位置する。

『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によると播磨国に9駅が記載されている。池ノ下遺跡の北側約2.5kmには古代山陽道が東西方向に推定されており、周辺に駅馬30疋の草上駅が置かれていた。『延喜式』神名帳に記載のあるいわゆる式内社は飭磨郡に4座あり、射橋平主神社二座・白国神社・高岡神社がある。

飭磨郡には古代寺院が多く、池ノ下遺跡の上流域には今宿廃寺や辻井廃寺があるほか、郡内には市之郷廃寺や見野廃寺などがある。池ノ下遺跡の西側の夢前川沿いの山所遺跡からは瓦や埴が出土している。『播磨国風土記』の飭磨御宅は三宅遺跡に比定されており、発掘調査によって播磨国府系瓦を含む白鳳から奈良時代にかけての瓦が大量に出土したことから、寺院跡の存在が指摘されている。

池ノ下遺跡の周辺の条里型地割は宅地化などの開発で失われた地区も多いが、広い範囲に古代山陽道を基準とした北から東に約23°振る飭磨郡条里の地割が残る。池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、掘立柱建物跡を調査しており、唐三彩の弁口瓶や円面硯や石帯などの遺物が出土している。四ツ池遺跡からは工事中に鳥形木製品が出土したと伝わっている。

集落遺跡ではほかに今宿遺跡・今宿丁田遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡からは掘立柱建物跡や井戸を検出しており、墨書土器や木簡が出土している。今宿丁田遺跡では掘立柱建物跡を検出している。

古代における須恵器生産をはじめとする窯業遺跡は飭磨郡西部から掛保郡東部にかけて群集しており、青山窯跡群・桜崎窯跡群・打越窯跡群・大池窯跡群・赤坂窯跡群・峰口窯跡群などがある。

5. 中世

中世の姫路については、不明な点が多い。古代の国府は律令制の衰退とともに、次第にその機能を失い、院政期には事実上、播磨国府は院の御分国と化してしまう。鎌倉時代に入ると、守護所が加古川に置かれたことから、国衙の機能はいっそう衰退したと考えられる。国衙機構が完全に衰退するのは、小河氏が守護赤松氏の被官化し、守護所となった書写坂本城の守護代館に移り住むようになる明徳年間以後と考えられる。以後、姫路が播磨の中心として再び歴史上に登場するのは、黒田氏による姫路城の築城期、さらには羽柴秀吉による初期城下町の形成期である。

池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、鎌倉時代の掘立柱建物跡や木棺墓を調査しており、密度が高い。東部の町坪が伊和西郷、西部の苦福が英賀保に比定されている。

中世の集落には村東遺跡・豆田遺跡・大浄口遺跡・今宿遺跡・大石橋遺跡・鹿谷道遺跡・出手遺跡・横枕遺跡・岩端町遺跡・笹山田遺跡・加茂遺跡・南通り遺跡などの発掘調査が行われている。

村東遺跡や豆田遺跡や笹山田遺跡では平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物跡・井戸・土坑墓を検出しており、池ノ下遺跡と同様に広域に集落が広がっている。豆田遺跡の井戸からは応永年間(1394～1428)の墨書がある大般若経や仁王般若経の転読札がままとって出土しており、在地領主や武士などの富裕層の存在が考えられる。笹山田遺跡では平安時代後期から鎌倉時代の掘立柱建物跡・井戸・土坑墓を検出

している。加茂遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物跡、室町時代から安土桃山時代にかけての堀・土塁・掘立柱建物跡・井戸・池などを調査しており、城館跡と推定されている。

6. 近世

池ノ下遺跡周辺は姫路藩領であり、江戸時代初期の元禄時代以降には町坪村、苦編村と呼ばれており、幕末に至っている。村の中央には姫路城下と室津を東西に結ぶ室津道が走っている。

四ツ池のうち、南端の苦編池は寛永15年（1638）の拡張工事により現在の形に整備された。

近代交通発展以前の集落は、近世の景観を保っていたと考えられ、苦編に鎮座する苦道国主神社の創建については不明な点が多いが、宝暦4年（1707）に社殿が改築されている。木村興宗寺は火災に遭った本堂を宝暦10年（1707）に再建している。

7. 近代

池ノ下遺跡が存在する姫路市町坪と苦編は、明治4年（1871）の廃藩置県により、姫路藩が7月から姫路県となり、11月に飾磨県と改称し、明治9年8月に兵庫県となった。明治22年（1889）の市制町村制施行により飾西郡荒川村に属し、明治29年（1896）4月には郡制がひかれ飾磨郡に所属した。大正12年（1923）3月には郡制が廃止された。昭和11年（1936）4月に姫路市に合併し、姫路市の大字となって現在に至っている。姫路市は平成8年に中核都市となり、播磨の中心となっている。

第2章 調査の契機と経過

第1節 調査にいたる経緯（図版3）

英賀保駅周辺遺跡第4地点は、姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い、姫路市教育委員会が平成12年度から平成14年度にかけて試掘を行い、新たに存在が明らかになった遺跡である。

仮称英賀保駅周辺遺跡第4地点（遺跡番号020578）として埋蔵文化財包蔵地として登録され、後に池ノ下遺跡と改名された。

調査の発端となった姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い実施した本発掘調査は、平成17年度・平成18年度・平成19年度、5期に分かれて実施した。調査面積は25,276㎡である。これら区画整備事業に伴う調査成果及び経緯、今回の調査に隣接した地点の調査成果については、2012年3月刊行の兵庫県教育委員会『池ノ下遺跡』文化財調査報告第435冊にまとめられており、参照されたい。

本事業の国土交通省による国道2号姫路バイパスの側道拡幅工事は、英賀保駅周辺土地区画整理事業地内にかかっており、仮称英賀保駅周辺遺跡第4地点内に含まれていたため、工事に先立ち、本発掘調査が必要であると判断された。

以上の事由から、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼（国近整姫工第64号平成19年9月25日付）を受けて、事業予定地の一部について平成19年12月7日から2月18日にかけて試掘調査の成果に基づき本発掘調査を実施した。

調査は一般国道2号姫路バイパス北側側道の北側に位置する事業用部分について実施した。

平成19年時点では事業地内には区画整理との換地が済んでいない宅地や市道や里道・水路などの調査不可能な部分が含まれていた。このため、調査可能な部分合計4か所に調査区を設定した。西から東に向かって当初1区・2区・3区・4区とした。3区と4区の間には区画整理で調査を実施した67区がある。

今回、報告に当たり、区画整理事業での調査成果と整合性をとるため、平成19年度の調査区を東から4区を70区、3区を71区とし、2区を73区、1区を76区とした。また、平成29年度の調査区を72区・77区、平成30年度の調査区を74区・75区とした。

第2節 確認調査（図版3）

国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼（国近整姫二工第67号平成30年1月9日付）を受けて70区より東側に3か所のグリッドを設定し確認調査を実施した。

遺跡調査番号 2017054

所在地 姫路市苦編

調査主体 兵庫県教育委員会

調査担当者 兵庫県立考古博物館 総務部 埋蔵文化財課 中川 渉

調査期間 平成30年1月16日

調査面積 10㎡

概 要 3か所のグリッド全てで、埋蔵文化財は認められず。

第3節 本発掘調査の経過

姫路市教育委員会の試掘調査の結果および英賀保駅周辺土地区画整理事業における発掘調査成果を踏まえ、本発掘調査を平成19年度・平成29年度・平成30年度に実施した。

当該地点は、事前に事業者が耕土を除去しており、平成29年度・平成30年度の調査区では併せて工事用道路の設置を行っていた。発掘調査は調査区の設定後、盛土および後世攪乱層の掘削を機械によって行った。遺物包含層の掘削・遺構の検出・遺構の精査については人力によって行った。遺構の測量は、全体を空中写真測量で実施し、調査の進展に合わせて撮影・測量を行った。詳細な遺構の平面図・遺物出土状況図や断面図などと写真撮影については調査担当職員および調査補助員が行った。

1. 平成19年度の発掘調査（図版3）

一般国道2号姫路バイパス北側側道の北側に位置する事業用地部分について実施した。事業用地内には英賀保駅周辺土地区画整理事業の換地が済んでいない宅地や市道や里道・水路等の調査不可能な部分が含まれていた。このため今年度は宅地ではない調査可能な部分について事業者からの発掘調査依頼に基づき合計4箇所の調査区において本発掘調査を実施した。

調査区は西から東に向けて1区（76区）・2区（73区）・3区（71区）・4区（70区）と呼称し、調査を進めた。空中写真測量は、1回の撮影・測量を行った。

調査途中の平成20年1月8日に地元苦蘆子供会を対象に現場見学および出土品の見学会を実施し、50人が参加した。また、調査の進展にあわせて、1月28日に報道機関に公表し、平成20年2月2日に現地説明会を実施し、130人が参加した。

遺跡調査番号 2007107

調査担当者 兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部 調査第2課 篠宮 正・織 英記

調査期間 平成19年12月7日～平成20年2月18日

調査面積 1,347㎡

工事請負 家島建設（株）

2. 平成29年度の発掘調査（図版3）

一般国道2号姫路バイパス改築事業では平成19年度に対象地の一部について、英賀保遺跡第4地点として本発掘調査を実施している（遺跡調査番号：2007107）。平成29年度に周辺の状況が整ったことにより、国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所からの調査依頼（平成29年9月27日付 国近整姫二工第42号）を受け、平成19年度調査地点（2007107）に隣接するA区（77区）とB区（72区）を、池ノ下遺跡として本発掘調査を実施することとした。

遺跡調査番号 2017078

調査担当者 （公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
調査課 西口圭介・西山昌孝

調査機関 平成30年1月11日～平成30年3月9日

調査面積 280㎡（72区 90㎡・77区 190㎡）

工事請負 平和建設（株）

3. 平成30年度の発掘調査（図版3）

平成30年度（2018年度）の調査地点は、2017年度のA・B両地区の間に設定した。平成19年度の調査地点2区の西側に設定したC-1区（74区）と平成19年度調査地点1区の東側に位置するC-2区（75区）の2地区である。国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所からの調査依頼（平成30年3月8日付 国近整姫二工第80号）を受け、本発掘調査を実施した。

遺跡調査番号 2018013

調査担当者 （公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
調査第1課 西口圭介・乗本愛実

調査期間 平成30年6月29日～平成30年9月6日

調査面積 248㎡（74区 139㎡・75区 109㎡）

工事請負 栄伸工業（株）

4. 発掘調査の組織

（1）平成19年度

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県立考古博物館

館長 石野博信

副館長（総務部長兼務） 松下信一 総務課 課長 若狭健利

埋蔵文化財調査部長 若生晃彦 主幹 岡崎正雄

調査第2班 調査専門員 山本三郎

総務部 埋蔵文化財課 主査 中川 渉（確認調査）

調査担当 調査第2班 主査 篠宮 正 主査 鎌 英記

調査補助員 小谷義男 清水洋子 森崎由起子 山本 啓

（2）平成29年度

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター

企画調整課 課長 中川 渉 主任 垣内拓郎

調査課 主任技術専門員 村上泰樹

調査担当 調査第2班 副課長 西口圭介 臨時的専門職員 西山昌孝

（3）平成30年度

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター

企画調整課 課長 中川 渉 技術職員 渡瀬健太

調査第1課 主任技術専門員 村上泰樹

調査担当 調査第1課 副課長 西口圭介 臨時的専門職員 乗本愛実

第4節 出土品整理作業の経過

現地において遺物洗浄の一部を行ったほかは、すべての現地調査終了後、令和元年度に兵庫県立考古博物館魚住分館において遺物洗浄・ネーミング作業、令和3年度に木製品の保存処理作業を行い、その他の作業については、令和元年度から遺物の接合から報告書の刊行までの一連の作業を兵庫県立考古博物館において実施した。これらの作業は、何れも（公財）兵庫県まちづくり技術センターが実施した。

1. 出土品整理の概要

令和元年度は、出土遺物の洗浄・ネーミング・接合・補強を行い、実測及び金属器の保存処理を行った。
令和2年度は、遺物の復元、遺物写真撮影、遺構図補正作業を行った。
令和3年度は、遺物の復元、遺物写真撮影、遺構・遺物図のトレース作業・木器の保存処理を行った。
令和4年度は、遺構図のトレース作業及び昨年度にトレースをした遺物図・構図と写真のレイアウトを行った。原稿執筆・編集を行った後、報告書を刊行した。

2. 出土品整理の組織

令和元年度

整理担当調査員	篠宮 正 西口圭介 鎌 英記 西山昌孝
整理保存課	多賀茂治 村上泰樹 深江英憲 大本朋弥 大嶋昭海
担当整理技術員	(水洗・ネーミング) 栗山美奈・藤尾裕子・藤田久範 (接合・補強) 荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡崎眞子・小林礼子 菅生真理子・森松沙耶香 (実 測) 柏原美音・古谷章子・佐伯純子・尾鷲都美子 (金属保存) 大前篤子・桂 昭子・大本昌子・香山玲子

令和2年度

整理担当調査員	篠宮 正 西口圭介 鎌 英記 西山昌孝
整理保存課	深江英憲 西口圭介 大本朋弥 大嶋昭海 藤原怜史
担当整理技術員	(復 元) 荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡崎眞子・梶原奈津子・小林礼子 菅生真理子・森松沙耶香 (遺物写真・図補正) 柏原美音・古谷章子・佐伯純子・尾鷲都美子・寺西梨紗 西本奈生

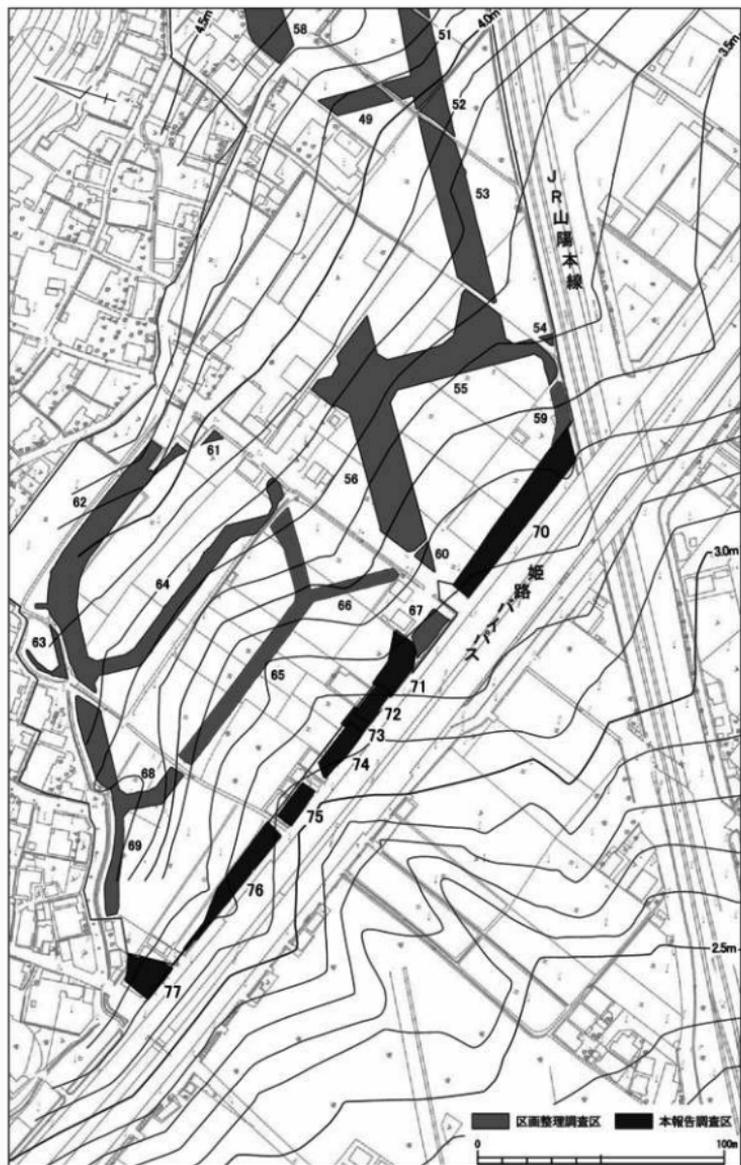
令和3年度

整理担当調査員	篠宮 正 西口圭介 鎌 英記 西山昌孝
整理保存課	深江英憲 久保弘幸 西口圭介 大嶋昭海 野田優人
担当整理技術員	(木器保存) 栗山美奈・藤尾裕子・藤田久則 (復 元) 荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡崎眞子・梶原奈津子・小林礼子 菅生真理子・富永愛子・森松沙耶香

(遺物写真・製図) 柏原美音・古谷章子・尾鷲都美子・寺西梨紗・佐々木響子
西本奈生

令和4年度

整理担当調査員	西口圭介 鎌 英記 西山昌孝
整理保存課	深江英憲 西口圭介 大嶋昭海 野田優人
担当整理技術員	(レイアウト 報告書編集作業) 柏原美音・古谷章子・尾鷲都美子・宮田麻子 寺西梨紗・西本奈生 (順不同)



第1図 池ノ下遺跡周辺の微地形復原 (2,000分の1)

第3章 発掘調査の成果—遺構—

第1節 発掘調査の概要

1. 池ノ下遺跡の調査（図版3・4）

平成19年度までの中播磨市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う調査は以下の通りである。

試掘調査は姫路市教育委員会が平成14年度に実施した。

兵庫県教育委員会が実施した本発掘調査は平成17年度～平成19年度にかけて5回にわたる。

平成17年度の本発掘調査は2回に分けて実施した。平成17年度の第1次調査（遺跡調査番号2005157）は町坪地区から苦編地区東半部にかけての22区～39区である。平成17年度の第2次調査（遺跡調査番号2005194）は町坪地区から苦編地区東半部にかけての40区～44区である。

平成18年度の本発掘調査は2回に分けて実施した。平成18年度の第1次調査（遺跡調査番号2006055）は町坪地区の4区～18区である。平成18年度の第2次調査（遺跡調査番号2006093）は苦編地区東半部の45区～56区である。

平成19年度の本発掘調査（遺跡調査番号2007057）は、昨年まで調査を実施し残った地点であるため広域に多数の地点が存在する。町坪地区の1区～3区19区～21区、苦編地区東半部の57区・58区、苦編地区西半部の59区～69区の大きく4地区に分かれる。

一般国道2号姫路バイパス改築事業に伴う調査は、国道2号姫路バイパスの北側で土地区画整理事業地に面した箇所を実施した。東端はJR山陽線、西端に市道が存在している。東西方向の延長は約290m、幅は最大20mを測る。この間、道路や水路、住宅進入路確保等の状況により8分割して実施した。

平成19年度に対象地の一部について、英賀保遺跡第4地点として70区・71区・73区・76区の本発掘調査を実施している（遺跡調査番号2007107）。

平成29年度（2017年）、周辺の状況が整ったことにより、平成19年度調査地点（2007107）に隣接する72区・77区の2地点について、遺跡名を池ノ下遺跡と変更して本発掘調査を実施した。

平成30年度（2018年）の調査地点は、2017年度の72区・77区間に設定した。平成19年度の調査地点72区の西側に設定した74区と平成19年度調査地点76区の東側に位置する75区の2地区で本発掘調査を実施し、バイパス改築事業に伴う調査を終了した。

2. 調査区の呼称と遺構名の表記（図版3）

池ノ下遺跡の本発掘調査対象地は東西900m、南北260mと広大で、調査も複数年次に亘って実施した。調査の順番も工事を優先に実施したため、まとまりが無い。このため、区画整理事業に伴う池ノ下遺跡発掘調査報告書『池ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告書第435冊の作成にあたり、地区のまとまりと調査単位とを重視して、新たに調査地区と調査区の名称を付け替えた。今回の調査区についても、その調査区名を踏襲する。原則的には北東から南西に向かって順番に付与した。なお、遺構の呼称も各遺構の種類ごとに遺構名称を付け替えた。

即ち、地区名は70区から77区まで存在する。

遺構名は、前回の遺構№から引き続きの№を付与する。

遺物№についても、『池ノ下遺跡』からの連続番号とする。

第2節 70区の調査 (図版6～16 写真図版2～14)

1. 概要と層序

70区は調査対象地の最東部に位置する。東端にJR山陽線、南側に国道2号姫路バイパスの側道が位置している。北東端は区画整理調査の59区が接している。西側には市道を挟んで区画整理調査の67区が存在している。東西方向に長い調査区であり、耕作土および床土直下で遺構を検出している。南西方向に行くにしたがって、土壌層の堆積が深くなっている。

2. 遺構

溝

SD301 (図版8・写真図版12)

検出状況 調査区中央部に位置し、北側および南側は調査区外に延びる。

形状規模 やや蛇行する溝で、一部途切れる。規模は幅34cm前後、深さ3cm、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD302 (図版8 写真図版3・4)

検出状況 調査区の中央部、SD301の南端の西側に位置し、南側は調査区外に延びる。

形状規模 溝SD301に並行する溝である。規模は幅70cm前後、深さ5cm、延長2m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD303 (図版8 写真図版12)

検出状況 溝SD301の西側に位置する。北側および南側は調査区外に延びる。

溝SD304が合流し、土坑SK050、掘立柱建物跡SB303の柱穴P04と重複し、P04が新しい。

形状規模 直線的で溝肩部は凹凸がある。ほぼ中央部の溝SD304との合流地点に杭を3本打ち込んだSW301がある。溝の規模は幅2.1m前後、深さ65cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。位置関係と断面形状、埋土から55区の中央部の溝SD169と同一であると考えられる。

出土遺物 弥生土器(2001)が出土した。

SD304 (図版8 写真図版12)

検出状況 溝SD301とSD303の間に位置し、溝SD303に合流する。

形状規模 溝SD301にはば並行し、途中から湾曲し、溝SD303に取りつく。規模は幅52cm、深さ15cm、延長10m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD305 (図版7 写真図版4)

検出状況 溝SD303の西側に位置する。北側および南側は調査区外に延びる。

形状規模 やや蛇行する溝である。規模は幅50cm前後、深さ5cm、延長8.5m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD306 (図版8 写真図版12)

検出状況 調査区の西端に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。規模は幅 80 cm 前後、深さ 34cm、延長 7.6m 以上を測り、断面形はU字状を呈する。位置関係と断面形状、埋土から 55 区の中央部の溝 SD170 と同一と考えられる。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD307 (図版7 写真図版12)

検出状況 調査区の北東隅に位置し、南側のみ検出した。

形状規模 ほとんど調査区外にあるため、規模は不明である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD308 (図版8 写真図版12)

検出状況 調査区東半部に位置し、柱列 SA301 の北辺の東側に存在する。土坑 SK303 と重複し新しく、溝 SD312 と重複し、古い。

形状規模 調査区の長軸にやや斜交する直線的な溝で、方位は N34° E である。規模は幅 44cm、深さ 16cm、延長 10.6m を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD309 (図版8 写真図版4)

検出状況 調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡 SB304 の南側に存在する。南側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位は N48.5° E である。規模は幅 35cm、深さ 4cm、延長 1.2m 以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD310 (図版8 写真図版12)

検出状況 調査区西半部に位置する。溝 SD309 と並行し、掘立柱建物跡 SB304 の柱穴 P06・P10 と重複し、両柱穴が新しい。両端とも調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位は N55° E である。規模は幅 36cm、深さ 20cm、延長 1.2m 以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD311 (図版8 写真図版13)

検出状況 調査区東半部の溝 SD303 の西側に位置する。北側は調査区外に延びる。

形状規模 北は調査区の長軸に直交する直線的な溝で、途中から屈折する。直線部分の方位は N22° E である。規模は幅 60cm、深さ 6cm を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD312 (図版8 写真図版13)

検出状況 調査区南東部に位置する。東側は調査区外に延びる。掘立柱建物跡 SB301 の柱穴 P06、溝 SD308 と重複し、新しい。埋土の状況から溝 SD314 とは同時存在していたと考えられる。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位は N70° W である。規模は幅 53～120cm、深さ 6～10cm、延長 14m 以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器碗 (2126・2127) が出土した。

SD313 (図版7 写真図版5)

検出状況 調査区南東隅に位置し、溝 SD312 の南側に並行する。西側は埋土の状況から溝 SD315 につながり、東側は溝 SD316 と重複し、古い。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位は $N75^{\circ} W$ である。規模は幅 20~40 cm、深さ 4 cm、延長 1.1 m 以上を測り、断面形は浅い U 字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD314 (図版7 写真図版5)

検出状況 調査区南東隅に位置する。溝 SD312 と SD313・SD315 との間にあり、両溝をつなぐもので、同時存在していたと考えられる。

形状規模 直線的な溝で、方位は $N27^{\circ} E$ である。規模は幅 1 m 前後、深さ 3 cm、延長 3 m を測り、断面形は浅い U 字状を呈する。

出土遺物 土師器小皿 (2129) が出土した。

SD315 (図版8 写真図版13)

検出状況 調査区南東隅に位置する。溝 SD314 の南西側に位置し溝 SD313 と同一の可能性があり、溝 SD314 と同時存在していた可能性がある。西側は調査区外に延びている。

形状規模 直線的な溝で、方位は $NS3^{\circ} W$ である。規模は幅 70 cm 以上、深さ 45 cm、延長 4 m 以上を測り、断面形は浅い U 字状を呈する。

出土遺物 土師器小皿 (2113~2115)・土師器皿 (2116~2118)・土師器鍋脚 (2120)・土鍾 (2119)・瓦器碗 (2121)・須恵器碗 (2123・2124)・白磁碗 (2125) が出土した。

SD316 (図版7 写真図版5)

検出状況 調査区南東隅に位置する。溝 SD312・SD313 と重複し、新しい。南側は調査区外に延びている。

形状規模 直線的な溝で、方位は $N17^{\circ} E$ である。規模は幅 20 cm 以上、深さ 4 cm、延長 1.9 m 以上を測り、断面形は浅い U 字状を呈する。

出土遺物 土師器小皿 (2128) が出土した。

掘立柱建物跡

SB301 (図版9 写真図版5)

検出状況 調査区東端に位置し、東方向と南方向は調査区外に延びる可能性がある。溝 SD312 に柱穴 P06 が切られている。

形状規模 南北軸を $N29^{\circ} E$ 、東西軸を $N67^{\circ} W$ にとる菱形に歪んだ総柱建物である。南北 3 間 (7.8 m) 以上×東西 2 間 (5.0 m) 以上の規模である。建物の柱間は、南北 1 間 2.6 m・2.5 m・2.8 m、東西 1 間 2.4 m・2.4 m である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径 20 cm~30 cm、柱痕は径約 15 cm、深さは 15 cm~22 cm である。P05 から石が出土した。

出土遺物 遺物は P03 から土師器小皿 (2101) が出土し、P05 から石が出土した。

SB302 (図版9 写真図版5)

検出状況 調査区東端に位置し、一部重複して北側の区画整理調査の 59 区に広がり、さらに調査区外まで広がる可能性がある。SB301 と重複しているが、先後関係は明らかではない。

形状規模 南北軸を $N21^{\circ} E$ とする総柱建物である。区画整理調査の 59 区と合わせて、南北 2 間 (6.3 m)

以上×東西2間(5.3m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.5m、東西1間2.6m、2.7mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~20cm、深さは約20cmである。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

SB303 (図版10 写真図版6)

検出状況 調査区中央部に位置し、北側は調査区外に延びている。下層の溝SD303と重複し、P04は新しい。

形状規模 南北軸をN16.5°Eにとる総柱建物である。南北1間(3.6m)以上×東西2間(4.3m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.3m、東西1間2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm~30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cmである。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

SB304 (図版11 写真図版7・8)

検出状況 調査区西半部に位置する。掘立柱建物跡SB03の西側にあり、北辺の一部は調査区外に延びている。溝SD310と重複し、P08・P10が切っており、新しい。

形状規模 南北軸をN23°Eにとる東西棟の総柱建物である。南北3間(6.1m)×東西4間(8.8m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m・2.0m、東西1間2.1m~2.3mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm~30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cmである。P17からは石が出土している。

出土遺物 遺物はP04・P13・P14・P16の柱穴から土器が出土している。P05からは柱材が、P06からは礎板が出土している。

SB305 (図版12・13 写真図版9・10)

検出状況 調査区西半部に位置し、北側は調査区外に延びる。掘立柱建物跡SB304の西側に方位をそらえており、南辺には柱列SA304が存在する。

形状規模 南北軸をN16°Eにとる南北棟の側柱建物である。南北3間(6.0m)以上×東西2間(3.4m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m・2.1m・1.8m、東西1間1.9m・1.5mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm~30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm~55cmである。P01・P02・P03・P04・P05・P07の下部から石が出土した。

出土遺物 遺物はP03・P07以外の柱穴から土器が出土している。P02から羽口(2104)、P09から須恵器椀(2103)・椀形淨(M213・M214)が出土したほか、P04からは柱の一部と考えられる木片が出土した。

柵 列

SA301 (図版14)

検出状況 調査区東部に位置し、SD308の西側に位置する。調査区外に延びる可能性もある。

形状規模 南北軸の方位をN17.5°Eにとる柱列である。規模は南北2間(3.5m)以上である。柱間は1.8mと1.7mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~20cm、深さは7cm~15cmである。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

SA302 (図版14)

検出状況 調査区中央部の南端に位置し、調査区外に延びるため掘立柱建物跡の可能性もある。

形状規模 東西軸の方位をN77°Wにとる柱列である。規模は東西3間(6.1m)以上である。柱間は2.1m・2.1m・1.5mと不揃いである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~30cm、深さは15cm~38cmである。

出土遺物 柱穴P04からは木と石が出土した。

SA303 (図版14 写真図版6・7)

検出状況 調査区中央部に位置し、掘立柱建物跡SB303の南辺の柱穴と近接並行している。

形状規模 東西軸の方位をN73°Wにとる柱列で、規模は東西2間(4.5m)の規模である。柱間は2.0mと2.5mと不揃いである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~20cm、深さは20cm~40cmである。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SA304 (図版15 写真図版11)

検出状況 調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡SB304・SB305の南辺の柱穴と近接並行している。

形状規模 南北軸の方位をN75°Wにとる柱列である。規模は東西4間(7.3m)であり、西側柱間は2.0m、東側柱間は1.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~20cm、深さはP03が特に深く45cmで、他は7cm~25cmである。

出土遺物 遺物はP02・P03から土器が出土している他、柱穴P03からは碗形滓(M212)が出土した。

SA305 (図版15)

検出状況 調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡SB304・SB305と重複している。

形状規模 南北軸の方位をN66°Wにとる柱列である。規模は東西4間(13.1m)であるが、ほぼ等間隔に並ぶP3とP4の間では柱穴を検出できなかった。柱間は3.0mと2.6m・2.3mと不揃いである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm~25cm、深さは2cmである。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SA306 (図版15)

検出状況 調査区西端に位置するため、調査区外に広がる掘立柱建物跡の可能性もある。

形状規模 南北軸の方位をN17°Eにとる柱列である。規模は南北3間(3.35m)で、柱間は1.7mと1.6mと不揃いである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm~20cm、深さは20cm~40cm程度である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

その他の柱穴 (図版7)

概 要 上記、掘立柱建物跡、柱列に伴わない柱穴で遺物が出土しているものについて述べる。

P7001 調査区南東部に位置し、溝SD312・SD314・SD313・SD316に囲まれて位置する。柱穴は円形で、掘形径26cm、深さは30cmである。土師器小皿(2107)が出土した。

P7002 調査区中央部に位置し、柱列SA302の西側に位置する。柱穴は円形で、掘形径14cm、深さは27cmである。土師器小皿(2105)が出土した。

P7003・P7004 調査区西半部、掘立柱建物跡SB304の南東隅の柱間の間に位置する。共に柱穴は不整な円形で、P7003は掘形径20.5cm、深さは3cmである。P7004は掘形径28cm・深さは24cmである。柱根部分からは石が出土した。

P7005 調査区中央部に位置し、溝SD302とSD303の間に位置する。柱穴は円形で、掘形径17cm、

深さは18cmである。須恵器椀(2108)が出土した。

土杭

SK301 (図版16 写真図版13)

検出状況 調査区の北端に位置し、溝SD312の南側、溝SD313の北側、溝SD314の東側に位置する。

形状規模 平面形は円形で、断面は浅いU字形である。規模は直径49cm、深さは9cmを測る。

出土遺物 土師器小皿(2112)が出土した。

SK302 (図版16 写真図版13)

検出状況 調査区東部、溝SD308の東側、SD312の北側に位置する。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面はU字形である。規模は南北1.0m、東西30cm、深さは13cmを測る。

埋土 灰黄褐色土の単層である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK303 (図版7 写真図版13)

検出状況 調査区東半部に位置し、溝SD308と重複し古い。

形状規模 平面形は円形で、断面形は浅い皿状で凹凸がある。規模は直径40cm、深さは8cmを測る。

埋土 細礫混じりの灰褐シルトである。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK304～SK307 (図版16 写真図版14)

検出状況 調査区東部の南壁に接している。溝SD312の南側で、溝SD308の東側に位置している。

東側から順にSK304、SK305、SK306、SK307である。一直線にほぼ等間隔に並んでいるが、SK307のみやや離れている。

形状規模 平面形は円形で、断面形はU字形である。規模は直径54cm～63cm、深さは20cm前後を測る。

埋土 灰黄褐色土の単層である。

出土遺物 SK304から土師器皿(2109)、SK306から土師器小皿(2110)、SK307から土師器小皿(2111)が出土した。

SK308 (図版7 写真図版13)

検出状況 調査区東部に位置し、溝SD311の西側に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北1.7m、東西1.3m、深さは53cmを測る。

埋土 上層は10YR5/2 灰黄褐極細砂～細砂・中層には2.5Y7/2 灰黄褐極細砂(地山土のブロック)が入る。下層には2.5Y5/2 暗灰黄細砂～極細砂が埋土となっている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

第3節 71区の調査 (図版17 写真図版15)

1. 概要と層序

71区は区画整理事業調査の67区の西側、平成29年度調査の72区の東側との間に位置し、南側には国道姫路バイパスの側道が走る。東西に長く、東半分が北側に屈折した調査区である。遺構検出面は黒色シルト及びベース土面上である。検出した遺構は溝1条のみである。

2. 遺構

SD317 (図版17 写真図版15・16)

検出状況 調査区の全体に位置し、東側は調査区外から延び、西側は72区SD320に続く。

形状規模 調査区の東端から西端にかけて蛇行して西に向かって流れる溝である。規模は幅1m以上、深さ35cm、延長23m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

第4節 72区の調査

1. 概要と層序 (図版18・19 写真図版17・21)

東側に位置する東西方向に長い調査区で、面積90㎡を測る。旧耕土まで機械掘削、以下は人力掘削を行った。基本となる包含層は4層あり、9層上面、9層下面の2面で遺構検出を行い水田28枚、溝3条を検出した。

出土土器は、弥生時代から近世にわたるが、何れもローリングや人為的攪拌によって、細片である。

本調査では、限界掘削深度である現地表面下約3.5mまでの土層をa層(人為的堆積層)とb層(自然堆積層)に区別し、1～15層に分層し主な層序のみ記述する。

盛土は搬入土で、厚さ約1mを測る。1a層は調査区西側1/3にのみ堆積する近世の耕作土で、所々に攪乱を受ける。7.5YR6/1褐灰色砂質シルトで、厚さ約18cmを測る。細礫(円礫)が少し混じり、よく締まる。上面より耕作に関係する溝を検出した。1a層からは伊万里碗片と共に弥生土器・土師器・古墳時代後期や奈良時代の須恵器が出土した。2a層は調査区西側1/3にのみ堆積する近世の耕作土である。6YR5/1褐灰色砂質シルト～粘土質砂で、厚さ約20cmを測り、西側に向かって厚みを増す。粗粒砂～中粒砂が混じり、やや締まりがある。土師器・須恵器・土師質土錘・瓦(2237)等が出土した。3a層は調査区西側1/3にのみ堆積する耕作土である。10YR7/1灰白色砂質シルトで、厚さ約10cmを測る。粘性はなく、1.5～3cm大の角礫～亜円礫が少し混じり、やや締まりがある。遺構は上面より耕作に関係する溝を検出した。3a層からは古墳時代前期の土師器や須恵器が少量出土した。4a層は調査区西側半分に堆積する耕作土である。5YR6/2灰褐砂質シルトで、厚さ約14cmを測る。

2. 第1面の遺構 (図版18 写真図版18・19)

水田遺構

調査区中央から東側に位置する。水田13枚を検出した。上方からの耕作(攪拌)深度が異なり、部分的に重層して畦畔、または痕跡を検出した。切り合いより3段階に分けることができた。

第1段階は調査区西側で検出し、主軸をやや西に振った畦畔で構成される。畦畔幅約50cm、高さ約1cmを測る。第2段階は全面で検出し、主軸を東に振った畦畔で構成されている。畦畔幅約30cm、高さ1～10cmを測る。中央で検出した水田は大きく、東西幅約4mを測る。東側には畦畔を伴った溝、SD318があり方形区画であるが、西側では畦畔の方向が乱れている。第3段階は畦畔状の高まりを確認したが、明確な水田の形態、規模は検出できなかった。

SN8・9・10・11・12・13

検出状況 調査区西側に位置する。第1段階の水田で耕作土は残存しておらず、疑似畦畔Bの検出である。方位はN38°Eを示す。

形状規模 残存短辺約1.5m～2mを測る。

SN1

検出状況 調査区東端に位置する。第2段階の水田で、南側の畦畔はSD318に直行する。方位はN22°Eを示す。

形状規模 残存長辺約1m、短辺約2.3mを測る。畦畔の高さは約10cmを測る。

埋土 第1面水田の耕作土(3a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備考 遺構の時期は、不明である。

SN4

検出状況 調査区中央東寄りに位置する。第2段階の水田で、南側の畦畔はSD318に直行する。北側の畦畔は方位はN111°Eを示す。

形状規模 残存長辺約4.2m、残存短辺約2.9mを測る。畦畔の幅は約40cmを測る。

埋土 第1面水田の耕作土(3a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備考 本遺構のみ水田の長辺が確認できる。遺構の時期は、不明である。

SL1

検出状況 調査区中央東寄りに位置する。第3段階の水田で耕作土は残存しておらず、疑似畦畔Bの検出である。南北方向の畦畔の痕跡が1条残るのみである。方位はN21°Wを示す。

備考 全く異なる方位の畦畔を検出したため、第3段階とした。遺構の時期は、不明である。

SD318

検出状況 調査区東側に位置する。北から南へ向かって流れる溝で、左右に畦畔を伴う第2段階の水田耕作用水路である。方位はN22°Eを示す。

形状規模 幅約0.3m、深さ約7.5cmを測る。

埋土 溝より越流した土砂は耕作され、第1面水田の耕作土(3a層)を構成する。

出土遺物 出土しなかった。

備考 遺構の時期は、不明である。

3. 第2面の遺構 (図版18～20 写真図版20～22)

水田遺構

調査区中央から東側に位置する。水田15枚を検出した。しかし、水田上面に明確なb層の堆積が見

られず、畦畔は耕作の底面(基底部)での検出となった。そのため、畦畔は疑似畦畔Bにあたり、水田の痕跡である。痕跡は2段階に分けることができた。水田はやや南へ曲がるSD320に沿うように配置され、規模は小さく約1.5㎡から約3.8㎡、畦畔基底部の幅約30cmを測る。古段階の畦畔はやや溝より離れる。これは溝の埋没、掘直しにより、溝幅が狭くなったことに対応する。耕作土は5Y7/3浅黄色砂質シルトから5Y2/1黒色砂質シルト、北壁東側で少し残っており厚さ約14cmを測る。耕作土は攪拌されているが淘汰は悪く、母材となった土壌の様相が残っている。

なお、第2面の水田はSD319より越流した土砂により埋没したと考えられる。

SN14

検出状況 調査区北東端に位置する。第1段階の水田で、SD320に接する。南西隅にはSX2003がある。

形状規模 残存長辺約1.2m、短辺約1.3mを測る。畦畔は残っていなかった。

埋 土 第2面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備 考 遺構の時期は、不明である。

SN15

検出状況 調査区東側に位置する。第1段階の水田で、南側の畦畔はSD320の北側堤と共用する。

形状規模 残存長辺約1.6m、短辺約1.2mを測る。

埋 土 第1面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備 考 遺構の時期は、不明である。

SN16

検出状況 調査区東側に位置する。第1段階の水田で、南側の畦畔はSD320の北側堤と共用する。

形状規模 長辺約1.7m、短辺約1.3mを測る。

埋 土 第1面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備 考 遺構の時期は、不明である。

SN17

検出状況 調査区中央に位置する。第1段階の水田で、南側の畦畔はSD320の北側堤と共用する。

形状規模 長辺約1.6m、短辺約1.5mを測る。

埋 土 第1面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備 考 遺構の時期は、不明である。

SN24

検出状況 調査区西側に位置する。第1段階の水田で、SD320より離れて2列目である。

形状規模 長辺約2m、短辺約1.3mを測る。

埋 土 第1面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備 考 3列目は確認できなかった。遺構の時期は、不明である。

SN27

検出状況 調査区東側に位置する第1段階の水田で、南側の畦畔はSD320の北側堤と共用する部分には水口SX2004がある。

形状規模 一辺約1.1mを測る。南側畦畔は確認できなかった。

埋土 第1面水田の耕作土(4a層)である。

出土遺物 出土しなかった。

備考 遺構の時期は、不明である。

SD319

検出状況 調査区北西隅に位置する。東から西へ流れる溝である。方位はN79°Eを示す。この溝は73区SD322へ続く。

形状規模 幅約1.8m、深さ約30cmを測る。

埋土 溝より越流した土砂は耕作され、第1面水田の耕作土(3a層)を構成する。

出土遺物 弥生土器の小片が出土した。

備考 遺構の時期は、既存の調査成果から古墳時代頃と思われる。

SD320

検出状況 調査区東半に位置する。東から西へ流れる蛇行している溝で、左右に畦畔を伴う水田耕作の用水路である。方位は概ねN5°Wを示す。この溝は71区SD317から続き72区で調査区南側へと流れ出る。

形状規模 幅約0.85m、深さ約23～48cmを測る。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

備考 埋没による掘り直しは2回以上ある。溝に面する水口SX2003・SX2004は、水口底面より溝底面が低いことから排水用の溝と考えられる。遺構の時期は、既存の調査成果から弥生時代と考えられる。

SX2003

検出状況 調査区東側、SD320の北岸に位置する。水田SN14の水口である。

形状規模 幅約80cm、深さ約11cmを測る。SD320の最終段階の一つ前の段階で機能した水口と考えられる。

備考 本遺構の周辺は最終面とする堆積と同じであるがやや攪拌されており、下位に遺構のような埋土がブロック状の堆積が観察できる。しかし、明確な面が確認できなかったことから耕作の影響が大きく、同じ場所で繰り返し水口を設置したためと思われる。SD320の埋土には広い範囲に流入による堆積が確認でき、小さな破堤が発生した可能性も考えられる。水口から湧出した土砂が、溝岸を形成している部分もある。

SX2004

検出状況 調査区中央の南側、SD320の南岸に位置する。水田SN27の水口である。

形状規模 掘方は楕円形で幅約30cm、深さ約14cmを測る。

備考 遺構の上面はよく締まっており、水田の水を排水した後、埋め戻されたと考えられる。

参考文献 佐藤甲二1999「水田跡に関する疑似畦畔Bと連続耕作」『人類誌集報1999』東京都立大学人類誌調査グループ

第5節 73区の調査 (図版21 写真図版23)

1. 概要と層序

73区は平成29年度調査の72区の西側、平成30年度調査の74区の東側の間に位置する。南側は国道2号姫路バイパス側道が走る。ほぼ正方形の調査区である。耕作土・床土の下に褐灰シルト質極細砂(4層)が堆積しており、遺構を被覆・埋積している。遺構検出面は土壌層(6層)の上である。検出した遺構には、溝2条がある。

2. 遺構

SD321 (図版21 写真図版24)

検出状況 調査区北東隅から南西隅にかけて斜めに位置し、西側は74区に続く。

形状規模 ほぼ直線的に流れる溝である。規模は幅1.5m前後、深さ10cm前後を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD322 (図版21)

検出状況 調査区東部に位置する。東側は72区の溝SD319から続き、南側は調査区外に延びる。

形状規模 北東から南西方向に流れる、やや蛇行する溝である。規模は幅1.4m、深さ11cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

第6節 74区の調査

1. 概要と層序 (図版 22～24 写真図版 25～27)

幅 5.7～6.0m・全長 22.0mの調査区を設定した。面積 139 m²を測る。但し、調査区の西辺に民家の出入り口を確保するため、西側は調査区の形が矩形となり、75区と調査区を分けた。

調査区は扇状地の末端あたり。調査の結果、埋没した旧河道の凹み、水田畦畔の痕跡を検出した。

約1.2mの盛り土下には、I層 近現代の旧耕土、近世の耕土 (II層 黄白色土)、中世後期に遡る耕土 (III層 灰色土)、灰色土下に洪水砂礫を含むIV層 暗灰色土がある。この暗灰色土が中世前期の土壌層 (耕土) と考えられる。暗灰色土下には土壌化したV・VI層 灰褐色シルトが堆積しており、古代の遺物を含む水田土壌である。灰褐色シルト下にはVII層 黒褐色シルトが広がっている。黒褐色シルトには弥生中期の土器が若干含まれている。黒褐色シルト下に周辺の基盤層であるVIII層 灰白シルト～砂が出現する。このVIII層上面を遺構検出面とした。標高は約2.5mである。

74区からは下記の遺構以外に、不定形な浅い落ち込みが幾つか検出されている。これらは、水田に伴う起耕痕や樹木の根痕と考えられるが、明確にはできなかった。また、調査区南東隅の落ち込みは73区SD321の延長と考えられる。74区での説明は省いた。

2. 遺構

柱穴・土坑・落ち込み・水田畦畔痕跡・埋没旧河道

P74101 (図版 25 写真図版 28)

検出状況 調査区東端、P74102と並んで検出した。

形状規模 平面形は不整形で、断面形は箱型である。規模は一辺 20 cm、深さは 4 cm を測る。

埋 土 10YR4/2 灰黄褐色シルト質砂

備 考 出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

P74102 (図版 25 写真図版 28)

検出状況 調査区東端、P74101と並んで検出した。

形状規模 不整な卵形で、断面形は逆台形である。規模は南北 40 cm、東西 18 cm、深さは 10 cm を測る。

埋 土 上層は 10YR3/1 黒褐色砂質シルト・下層は 10YR3/1 黒褐色シルト

備 考 出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

SK401 (図版 25 写真図版 28)

検出状況 調査区東半、SX102の東隣に位置する。

形状規模 南北軸を N75° W にとる不整な卵形の土坑である。南北長 1.40 m・東西幅 0.54 m・深さ 0.05 m を測る。断面は浅い皿状、中央部に向かって傾斜する。

埋 土 10YR3/1 黒褐色シルト

備 考 出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

SX101 (図版 25 写真図版 28)

検出状況 調査区中央、水田遺構の東端に位置する。

形状規模 南北軸を N26° E にとる不整な四角形の落ち込みである。南北長 2.70 m・東西幅 0.95 m・深さ 0.08 m を測る。断面は極浅いすり鉢状、中央部に向かって傾斜する。

埋 土 10YR3/1 黒褐シルト、2.5Y4/2 暗灰黄シルトのブロックが混じる。

備 考 水田遺構の東端に並行しており、ベース土を攪拌している。水田区画の残欠とも考えられる。

水田畦畔痕跡 (図版22 写真図版26)

検出状況 水田畦畔はSR101を埋没させた黒褐色シルトの上面に痕跡が残ったものである。東西南北に小畦畔の痕跡を検出した。概ね方位をN60°Wにとる。

形状規模 重複があり、個別の水田区画の規模は不明である。

埋 土 5Y4/1 灰粘土質シルト・2.5Y3/1 黒褐シルトが耕土化している。

出土遺物 灰褐シルトに若干、古代の須恵器が含まれている。

備 考 当該水田も古代以降の時期が考えられる。

埋没旧河道SR101 (図版25 写真図版28)

検出状況 調査区西半部において、北東から南西に帯状に検出された。この帯状の変色は、旧河道が埋没した最上層の凹みを黒褐色シルトが被覆して形成されたものである。

形状規模 旧河道の最上層の凹みは幅3m・深さ0.4mの浅い皿状、深さ45cm以上。旧河道は元々幅13m前後であったと考えられ、北東から南西に走っている。

埋 土 黒褐シルト

出土遺物 弥生時代中期と考えられる摩滅した土器片が出土した。

備 考 『池ノ下遺跡』第435冊において立命館大学 青木哲哉氏が分析した北方から2本に分岐して南流する旧河道のうちの東側の流れにあたり、上流では黒灰シルト(本調査区の黒褐シルト対応)が旧河道を埋没・被覆している。黒灰シルトからは弥生時代中期の土器が出土している。旧河道は、分岐して74区と75区・76区周辺に至ると分析されており、74区ではその東側の河道の延長が確認できた。

第7節 75区の調査

1. 概要と層序 (図版26 写真図版29)

幅6.5～7m・全長16.5m、長方形の調査区を設定した。面積109㎡を測る。

調査区は扇状地の末端あたると。調査の結果、江戸時代の溝、奈良時代のピット、弥生時代末の粘土採掘坑群、時期不明の2方向の水田畦畔痕跡を検出した。

約1.2mの盛り土下には、現代の旧耕土(Ⅰ層)があり、以下、近世の耕土(Ⅱ層)、中世～近世にかけての洪水砂起因の耕土(Ⅲ層)がある。Ⅳ層の黄灰シルトは中世(前期)の耕土と考えられる。Ⅳ層下には土壌化したⅤ層 褐灰シルトが堆積しており、古代の遺物を含む水田土壌である。Ⅴ層の下には更に暗調のⅥ層が局所的に残存している。この層位も古代の水田土壌であった可能性が高い。平面的に起耕痕が認められる。75区では74区で認められたⅦ層 黒褐色シルトはなく、直下に基盤層であるⅧ層 黄白シルト～砂層が出現する。この層上面を遺構検出面とした。標高は約2.8mである。75区では埋没旧河道は面的には確認できなかったが、SK512の壁面に砂層が認められる。

2. 弥生時代末の粘土採掘坑群 (図版27・写真図版32・33)

調査区北西部を中心に16基の不整形土坑が検出された。これらの土坑は人為的に埋められており、SK512の土坑底からは弥生時代末の甕片が出土している。各土坑は粘土採掘坑と考えられ、Ⅷ層を対象に

掘削されている。この土坑群は76区において調査された粘土採掘坑群の東端に当たる。土坑群の西端は77区の東端において確認されており、東西方向約80mの範囲に広がる事が判明した。

また、調査区内において面的に検出されない腐植質シルト（74区のVII層 黒褐シルト）が埋土に混じっており、同層が75区にも及んでいたことも明らかとなった。

粘土採掘坑SK506（図版27・写真図版33）

検出状況 調査区北西半より検出された。他の採掘坑とは切り合わない。SK512の西隣に位置する。

形状規模 長軸を北北東にとる不整な卵形の土坑である。長軸0.94m・短軸0.75m・深さ0.33mを測る。断面は深い箱形、一部袋状になる。

埋土 SK512と類似、上部1～3層は自然堆積、4層にはシルトのブロック土が入る。

出土遺物 最上部の凹みから土器片が出土している。図示できる出土遺物はない。

粘土採掘坑SK512（図版27・写真図版32・33・34）

検出状況 調査区北西半より検出された。他の採掘坑とは切り合わない。SK506の東隣に位置する。

形状規模 長軸を西南西にとる不整な円形の土坑である。長軸1.00m・短軸0.90m・深さ0.40mを測る。断面は深いバケツ状、中央部に向かってやや深く掘る。

埋土 1～4層は自然堆積、5層以下はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。

出土遺物 土坑底からは弥生時代末の甕（2003）が出土している。

粘土採掘坑SK502-1（図版28・写真図版32）

検出状況 調査区北西隅から検出された。SK503と切り合い古い。SK502-2下層に袋状に潜り込む。

形状規模 切り合いがあり形状は不明。南北に長軸をもつ不整な三角形（オムスピ形）か。長軸1.30m以上・短軸1.20m・深さ0.40mを測る。断面は深い箱形、底部は平坦。袋状に掘削している。

埋土 ベース土を主体としたブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土採掘坑SK502-2（図版28・写真図版32）

検出状況 SK503に切られている。SK502-1が袋状に下層に潜り込む。

形状規模 南北に長軸をもつ不整な三角形。長軸1.22m・東西幅1.00m以上・深さ0.22mを測る。断面は舟底状、中央部に向かって傾斜する。北辺は真直ぐ掘り下げられる。

埋土 ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土採掘坑SK503（図版28・写真図版32）

検出状況 調査区北西隅から検出された。SK502-1・SK502-2と切り合い新しい。

形状規模 長軸を東西方向に持つ不整な楕円形の土坑である。南北長1.06m・東西幅1.00m・深さ0.30mを測る。断面形状は舟底形を呈する。

埋土 上層（1・2層）はSK506・SK512と同じ自然堆積、下層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物 弥生土器甕（2002）が出土している。

粘土採掘坑SK505（図版28・写真図版32）

検出状況 調査区北西半北壁から検出された。北端は調査区外にある。SK504・SK513の間に位置する。

形状規模 長軸を南北にとる楕円形の土坑である。長軸0.70m以上・短軸0.78m・深さ0.21mを測る。

断面は舟底形。

埋 土 上層(1・2層)はSK506と同じ自然堆積、下層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK507 (図版28・写真図版33)

検出状況 調査区西壁中央付近から検出された大型の粘土探掘坑。西壁に西半部が入る。SK508と切り合いSK508の下層埋土がSK507に一部被覆する。

形状規模 長軸を南北にとる不整な長楕円形の土坑である。長軸2.50m・短軸1.00m以上・深さ0.25mを測る。断面は舟底形、底面は平坦である。

埋 土 ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK508 (図版28・写真図版33)

検出状況 調査区西壁中央付近から検出された。SK507と切り合い新しい。

形状規模 長軸を南北にとる不整な隅丸方形の土坑である。長軸0.97m・短軸0.95m・深さ0.18mを測る。断面はすり鉢形、底面は凹凸が激しい。

埋 土 ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK509 (図版28・写真図版33)

検出状況 調査区南西隅から検出された。SK510と切り合い新しい。

形状規模 長軸を東西にとる不整ないわゆるオムスビ形の土坑である。東西長1.10m・南北辺0.92m・深さ0.21mを測る。断面は舟底形で、西辺に段が生じる。底面は平坦である。

埋 土 上層(2・3層)は自然堆積、以下はベース土主体のブロック土と褐色シルトのブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK510 (図版28・写真図版33)

検出状況 調査区南西隅から検出された。SK509と切り合い古い。

形状規模 長軸を南北にとる不整な楕円形の土坑と考えられる。長軸0.80m以上・短軸0.95m・深さ0.20mを測る。断面は舟底形で、底面はSK509側で一段下がる。

埋 土 ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 弥生土器甕(2004)が出土している。

粘土探掘坑SK514 (図版28・写真図版34)

検出状況 調査区南西半、SK512の南側に位置する。SK515と切り合い古い。

形状規模 長軸を東西にとる不整ないわゆるオムスビ形の土坑である。東西長1.05m・南北辺0.80m・深さ0.10mを測る。断面は東半がすり鉢形で、西辺に段が生じる。

埋 土 1層は自然堆積、3層はベース土のブロック土で人為的に埋められている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK515 (図版28・写真図版34)

検出状況 調査区南西半、SK512の南側に位置する。SK514と切り合い新しい小土坑である。

形状規模 長軸を東西にとる不整な卵形の土坑である。長軸0.49m・短軸0.40m・深さ0.13mを測る。断面は凹凸が激しい。

埋 土 1・2層共に自然堆積、1層はSK514と同一層が被覆する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK517-1 (図版28・写真図版34)

検出状況 粘土探掘坑群の東端に位置する。調査区北壁に係る。SK517-2と切り合い古い。

形状規模 長軸を南北方向にとる。不整形の土坑である。長軸1.10m・東西短軸0.70m以上・深さ0.19mを測る。底面は凹凸が激しい。

埋 土 3層はSK503の4層と同じ、シルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。4層は自然堆積。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

粘土探掘坑SK517-2 (図版28・写真図版34)

検出状況 粘土探掘坑群の東端に位置する。調査区北壁に係る。SK517-1と切り合い新しい。

形状規模 半円形に検出した。東西径0.85m・南北0.50m・深さ0.20mを測る。断面は箱形、底面は凹凸が激しい。

埋 土 1層は律令期の水田土壌、2層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

3. 奈良時代の遺構

SK516 (図版28・写真図版31)

検出状況 調査区中央北より検出した。奈良時代の須恵器杯蓋片が検出され、その直下より柱根を検出した。対になるその他の柱穴は検出されなかった。

形状規模 東西方向に長軸をもつ不整な卵形の土坑である。長軸0.50m・短軸0.42m・深さ0.20mを測る。断面は深い箱形。直径0.18mの柱根が認められる。

埋 土 ベース土が混ざった5Y4/1灰 極細砂混じり粘質シルトを掘形埋土としている。

出土遺物 須恵器杯蓋(2136)が出土した。同時代の遺物としては、V層 褐灰シルト中より墨書のある須恵器杯身(2140)が出土している。

4. その他の遺構

江戸時代の溝 (図版26)

調査区西端において南北方向に走る溝2条を検出した。SD324(古)からは18世紀代の肥前系染付磁器(2144)が出土している。現在の用水路に並行しており、同様の性格をもっていたと考えられる。本報告では壁断面のみの報告とした。平面図等は挙げていない。

水田畦畔痕跡 (図版26・写真図版30・31)

遺構面上の酸化鉄の集積状況によりA B 2種の畦畔痕跡を検出した。AはN17° Eに方位を持つもので、長方形を企図しているようである。調査区東半の極一部で検出できた。BはN75° Eに方位を持つもので、畦畔の幅が広く、不整形である。旧地形に沿って水田区画を営んだものと考えられる。

両者とも時期は不明であるが、Aは2017年度調査の72区の上層、Bは下層の様相に近い。

第8節 76区の調査 (図版 29～53 写真図版 35～50)

1. 概要と層序 (図版 29 写真図版 35・36)

76区は東側に水路を挟み平成30年度調査の75区が位置し、西側に平成29年度調査の77区が位置する。南側は国道2号姫路バイパス側道が走る。東西方向に長く、西側半分は徐々に幅が狭くなっている。調査区が細長く遺構の密度が高いため、東側から調査区の変化点を目安としてA区・B区・C区・D区・E区と小地区を設定して報告する。A区は0mから10m、B区は10mから20m、C区は20mから34.5m、D区は34.5mから59m、E区は59mから73.5mである。

調査区全体に耕作土および旧耕作土、床土が堆積しており、床土下の土壌層を除去すると遺構検出面である。床土下の土壌層や堆積層は、南西部に行くに従い厚くなっている。この土壌層から、古墳時代から中世にかけての遺物が多量に出土した。

2. 遺構

検出した遺構は、溝・土坑がある。土坑については75区の西半部から続く土坑群である。

A・B区は黄灰色の粘土層が堆積しており、この粘土を採取するための土坑が累積的に掘られている。

C区は基盤層が上がってきており、土坑がまばらになり、C区からD区にかけては小形のものも多く、柱穴の可能性もある。D区からE区は検出面が低くなり、土坑は調査区外に伸びており、詳細は不明であるが、全体に大型である。

以下、小地区ごとに概略を説明するが、詳細な数値等は一覧表(第1表)に掲示する。

A区 (図版 29・30・32～41 写真図版 37～43)

A区はほぼ全面にSK604・SK605・SK606・SK607・SK608・SK610・SK611・SK612・SK613・SK614・SK615・SK616・SK617・SK618・SK619・SK620・SK621・SK622・SK623・SK624・SK625・SK627・SK629・SK630・SK631・SK632・SK634・SK635・SK639・SK645・SK646・SK648・SK649・SK650・SK662・SK663・SK665・SK666・SK669・SK676・SK677・SK743の土坑42基を調査した。

密集して、複雑に切り合っていることや、調査区外まで延びているものもあることから、数は変わる可能性がある。不定形のものが多いが、楕円形を中心に円形に掘削が行われている。規模は直径が1mから2mのものも多く、深さは25cmから50cmのものが多い。

遺物はSK606・SK607・SK612・SK613・SK614・SK615・SK618・SK622・SK623・SK632・SK650・SK666・SK743からは土器が出土しており、SK650の最上層から墨書のある須臾器(2145)が出土しているが、混入の可能性が高い。そのほかは弥生時代末から古墳時代初頭の土器である。弥生時代末から古墳時代で一番新しい土器が出土している土坑SK743は深さ10cm程度と極端に浅い。

SK606・SK624からは石鏃(S205・S202)が出土している。

B区 (図版 29～31・42～49 写真図版 44～48)

B区はほぼ全面に、SK628・SK633・SK636・SK637・SK638・SK640・SK641・SK642・SK643・SK644・SK651・SK652・SK653・SK656・SK657・SK658・SK660・SK664・SK667・SK668・SK670・SK671・SK673・SK674・SK675・SK700・SK701・SK702・SK707・SK708・SK709・SK720・SK737・SK738・SK739・SK655の土坑36基を調査した。

A区同様、密集して複雑に切り合っていることや、調査区外まで延びているものもあることから、数は変わる可能性がある。例えば不定形大形のSK618は複数の土坑が累積的に掘られ、埋められた痕跡が断面から読み取れた。不定形のものも多く、楕円形を中心に掘削が行われている。規模は直径が1mから2mのものも多く、深さは35cmから20cmが多く、A区より相対的に浅い。

SK664・SK655・SK670・SK673・SK701・SK707・SK708・SK720・SK737・SK738から土器が出土した。SK655の鉢(2027)とSK637の壺(2024)、SK720の壺(2036)以外は甕である。

SK655・SK700からは石炭(S203・S204)が出土している。

C区(図版29・31・50～52 写真図版49)

C区はSK678・SK679・SK680・SK681・SK682・SK684・SK685・SK686・SK687・SK688・SK689・SK691・SK692・SK698・SK710・SK721・SK728・SK730・SK733・SK734・SK735・SK736・SK742・SK729の土坑24基を調査した。

東半分はA・B区と同様であり、密集して複雑に切り合っている

西半部からD区にかけてのSK733やSK729の大形の土坑が存在するほか、基盤層が上がってきており、土坑がまばらになり、円形で小形の10cmから30cmと浅い土坑がほとんどである。柱列は並ばないが、柱穴等の機能を有するものと考えられる。

SK680・SK685・SK687・SK730・SK733・SK734からは土器(2038～2042)が出土した。

D区(図版29・31・52・53 写真図版50)

D区はSK699・SK703・SK704・SK705・SK706・SK711・SK712・SK713・SK717・SK719・SK722・SK723・SK724・SK725・SK726・SK727・C D区にかかるSK729・SK731・SK732の土坑計19基を調査した。

C区西半部からD区にかけてのSK733やSK729・SK713の大形の土坑を切る小形の土坑SK687・SK680・SK679・SK689・SK688・SK691・SK692・SK728・SK698・SK699・SK706・SK721・SK723・SK704・SK705・SK724・SK725・SK726・SK717・SK731・SK732については、柱痕跡は確認できなかったが、円形で10cmから20cmと浅く土器づくりに適した土層まで掘削が及んでいないため、柱列は並ばないが、柱穴等の機能を有するものと考えられる。SK699からは古代の甕(2148)が出土しており、遺構検出時に遊離した古代の遺物が多数出土していることから肯定できる。

SK725からは弥生土器甕(2037)が出土した。

E区(図版53 写真図版50)

E区はSK715・SK716・SK718の3基の土坑を調査した。幅が狭く、調査区外に広がっているため不明であるが、比較的大形で不定形な形であり相対的に浅い。

SK715からは弥生土器甕(2034)、SK716からは弥生土器甕(2035)が出土した。

S D 3 2 9 (図版31 写真図版50)

検出状況 E区西端に位置し、調査区に直交し、北側および南側は調査区外に続く。

形状規模 調査幅は狭く詳細は不明であるが、ほぼ直線的に流れる溝である。規模は幅70cm前後、深さ12cm前後を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

埋土 10YR4/1 褐灰極細砂混じりシルトである。

出土遺物 土師器皿(2147)が出土した。

第1表 76区土坑一覧(1)

地区	遺構No.	形状	長さ(m)	短辺(m)	深さ(m)	切り合い	土器	石器	図版	写真図版	備考
A	SK604	楕円形	1.44	0.6+	0.26				32	37	
A	SK605	楕丸方形	2.08	1.2+	0.49				32	37	調査区外へ
A	SK606	不定形	2.08	1.50	0.47		2005・2006	S205	33	41	
A	SK607	円形	0.7+	0.5+	-	SK608を切る	2007～2009		30	37	調査区外へ
A	SK608	楕円形	1.2+	0.54	0.18	SK607に切られる			33	47	調査区外へ
A	SK610	円形	0.94	0.5+	-	SK618を切る			30	37	調査区外へ
A	SK611	円形	0.7+	0.2+	-	SK620を切る			30	-	調査区外へ
A	SK612	楕丸方形	1.30	0.97	0.34		2010・2011		34	39	
A	SK613	楕円形	1.36	1.3+	0.38		2012		34	39	
A	SK614	楕円形	0.72	0.46	0.24		2013		35	38	
A	SK615	不定形	1.31	1.10	0.30	SK616を切る	2014		35	39	
A	SK616	不定形	2.44	2.33	0.43	SK610・SK615に切られる			35	-	
A	SK617	不定形	1.9+	0.65	-	SK618を切りSK616に切られる			30	-	
A	SK618	不定形	3.12	1.48	0.32	SK617に切られる	2015～2017		36	-	
A	SK619	ほぼ円形	1.00	0.87	0.34				38	39	
A	SK620	不定形	1.7+	1.10	-	SK611に切られる			30	37	調査区外へ
A	SK621	楕円形	1.21	0.7+	0.33	SK622に切られる			37	42	
A	SK622	楕円形	1.10	0.78	0.28	SK621を切る	2018		37	42	
A	SK623	楕円形	1.01	0.71	0.30		2019		38	38	
A	SK624	不定形	1.23	1.15	0.34	SK677を切る		S202	41	40	
A	SK625	楕円形	0.89	0.68	0.24				37	43	
A	SK627	不定形	1.4+	0.78	0.30				33	43	調査区外へ
A	SK629	楕円形	1.35	0.77	0.31	SK630・SK662を切る			40	43	
A	SK630	楕丸方形	0.84	0.7+	0.26	SK663を切りSK629に切られる			40	40	
A	SK631	不定形	1.1+	0.90	-	SK632に切られる			30	40	
A	SK632	不定形	1.68	1.10	0.30	SK631・SK639を切る	2020		38	42	
A	SK634	楕円形	1.4+	0.67	0.36				46	-	調査区外へ
A	SK635	楕円形	0.76	0.43	0.25				34	-	
A	SK639	台形	1.17	0.7+	0.28	SK632に切られる			39	-	
A	SK645	円形	1.35	1.15	-				30	-	
A	SK646	円形	1.16	1.04	0.29				34	42	
A	SK648	円形	0.58	0.5+	0.06				34	-	
A	SK649	円形	0.81	0.66	0.37				39	38	
A	SK650	不定形	2.2+	1.4+	0.35		2145		40	37	調査区外へ
A	SK662	楕円形	1.3+	0.44	0.18	SK629に切られる			33	-	
A	SK663	不定形	1.7+	1.29	0.29	SK630に切られる			37	43	調査区外へ
A	SK665	楕丸方形	1.00	0.5+	-				30	37	調査区外へ
A	SK666	不定形	2.5+	2.14	0.32		2025		39	38	
A	SK669	楕円形	1.96	1.26	0.31				36	40	
A	SK676	不定形	1.4+	0.94	0.27				41	-	
A	SK677	不定形	3.39	1.4+	-	SK624に切られる			41	-	調査区外へ
A	SK743	不定形	0.66	0.64	0.09		2045		35	42	
B	SK628	楕円形	1.6+	1.26	0.27				44	44	調査区外へ
B	SK633	ほぼ円形	0.99	0.89	0.25	SK652を切る			45	45	
B	SK636	不定形	1.5+	1.2+	-				42	-	
B	SK637	不定形	1.9+	1.52	0.31				42	47	
B	SK638	不定形	1.09	0.97	0.28				42	46	
B	SK640	楕円形	1.4+	0.78	0.30				43	47	
B	SK641	不定形	2.0+	1.16	0.30				44	47	調査区外へ
B	SK642	不定形	0.97	0.62	0.24				43	47	
B	SK643	楕円形	1.32	1.06	0.37				49	46	
B	SK644	不定形	2.2+	2.0+	0.34	SK739を切りSK671・SK674に切られる	2021・2022		45	48	調査区外へ
B	SK651	不定形	1.27	0.8+	0.27				46	46	調査区外へ
B	SK652	楕円形	1.6+	0.89	0.26				45	47	
B	SK653	楕円形	1.3+	0.8+	-				30	-	調査区外へ
B	SK656	不定形	2.6+	1.45	0.24				43	-	調査区外へ
B	SK657	不定形	1.8+	0.77	0.26				43	-	
B	SK658	菱形	1.39	0.81	0.23				49	45	
B	SK660	楕円形	1.15	0.57	0.35				44	46	
B	SK664	楕丸方形	0.77	0.69	0.22				44	44	
B	SK667	楕円形	1.00	0.60	-				30	-	
B	SK668	楕円形	1.20	1.05	-				30・31	48	

第1表 76区土坑一覧(2)

地区	遺構No.	形状	長さ(m)	短辺(m)	深さ(m)	切り合い	土器	石器	図版	写真図版	備考
B	SK670	横円形	1.35	0.80	0.27		2026		42	45	
B	SK671	横円形	1.81	1.01	0.19	SK644を切る			42	45	
B	SK673	横円形	0.78	0.59	0.20		2027		47	44	
B	SK674	横円形	1.11	0.66	0.22				45	45	
B	SK675	隅丸方形	0.76	0.65	0.25				46	44	
B	SK700	横円形	1.06	0.86	0.18			S204	46	-	
B	SK701	不定形	2.2+	1.02	0.27		2031		46	-	
B	SK702	不定形	1.93	1.15	0.16				47	47	
B	SK707	横円形	2.83	1.62	0.16		2032		48	-	
B	SK708	不定形	2.2+	1.4+	-		2033		30	-	調査区外へ
B	SK709	横円形	0.97	0.77	0.19				48	47	
B	SK720	不定形	1.81	1.71	0.18		2036		47	48	
B	SK737	不定形	2.0+	1.0+	-		2043		30	-	
B	SK738	不定形	3.4+	1.1+	-		2044		48	-	
B	SK739	不定形	1.8+	0.5+	-				30	-	調査区外へ
B・C	SK655	方形	2.1+	1.92	0.32		2023・2024	S203	49	48	調査区外へ
C	SK678	横円形	1.17	0.82	0.16				50	-	
C	SK679	円形	0.57	0.48	0.19				50	49	
C	SK680	ぼぼ円形	0.69	0.6+	0.19		2028		50	49	
C	SK681	不定形	1.8+	1.5+	-		2146		31	-	調査区外へ
C	SK682	横円形	1.4+	0.87	0.25				50	-	調査区外へ
C	SK684	不定形	1.10	0.75	-				31	-	
C	SK685	隅丸方形	0.81	0.71	0.26		2029		50	49	
C	SK686	横円形	1.51	0.78	0.28	SK733を切る			50	-	
C	SK687	横円形	0.81	0.71	0.22	SK733を切る	2030		51	-	
C	SK688	円形	0.61	0.60	0.20				51	-	
C	SK689	ぼぼ円形	0.50	0.40	-				31	-	
C	SK691	横円形	0.69	0.44	0.09				51	-	
C	SK692	横円形	0.64	0.47	0.19				51	-	
C	SK698	横円形	1.29	0.59	0.30				52	-	
C	SK710	ぼぼ円形	1.10	0.90	-				31	-	
C	SK721	隅丸方形	1.87	1.37	0.20				51	49	
C	SK728	不定形	1.30	0.80	-				31	-	
C	SK730	横円形	3.30	2.60	-		2038・2039		31	49	
C	SK733	不定形	8.2+	3.9+	-	SK686に切られる	2040		31	-	調査区外へ
C	SK734	不定形	5.2+	4.6+	-		2041・2042		31	-	
C	SK735	隅丸方形	2.30	1.2+	-				31	-	
C	SK736	不定形	2.4+	0.9+	-				31	-	
C	SK742	不定形	1.2+	0.6+	-				31	-	調査区外へ
C・D	SK729	不定形	10.50	4.2+	-				31	-	
D	SK699	円形	0.58	0.51	0.26		2146		52	50	
D	SK703	円形	0.52	0.46	0.12				52	-	
D	SK704	横円形	0.75	0.56	0.12				52	-	
D	SK705	ぼぼ円形	0.60	0.55	0.11				52	-	
D	SK706	横円形	0.62	0.56	0.16				52	-	
D	SK711	横円形	1.30	0.6+	-				31	50	
D	SK712	不定形	1.10	0.8+	-				31	-	
D	SK713	不定形	3.1+	3.30	-				31	50	
D	SK717	円形	0.45	0.40	-				31	-	
D	SK719	横円形	1.00	0.65	-				31	-	
D	SK722	円形	0.44	0.39	0.12				53	-	
D	SK723	横円形	0.68	0.57	0.12				53	-	
D	SK724	横円形	0.54	0.34	0.09				53	-	
D	SK725	横円形	0.52	0.36	0.22		2037		53	50	
D	SK726	円形	0.40	0.2+	-				31	-	
D	SK727	不定形	0.60	0.3+	-				31	-	
D	SK731	横円形	0.76	0.68	0.12				53	-	
D	SK732	横円形	0.80	0.5+	0.11				53	-	
E	SK715	不定形	3.1+	1.4+	-		2034		31	50	
E	SK716	不定形	1.70	0.8+	0.27		2035		53	50	
E	SK718	横円形	1.85	0.5+	-				31	-	

第9節 77区の調査

1. 概要と層序 (図版 55 写真図版 51～54)

76区の西側にあり池ノ下遺跡1区～77区の中で最も西側に設定した調査区である。南北長17.3m、東西幅15.0m、面積190㎡を測る。不整な五角形の調査区である。

弥生時代後期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物を検出した。

調査地点は支流性扇状地の末端に位置しており、洪水砂礫が複数回供給されている。

遺構面は北から南へと緩やかに傾斜しており、黄褐色砂礫19層を挟んで上下2面に分かれる。上面(第1面)からは弥生時代末から鎌倉時代(主に13世紀代)の遺構を検出した。下面(第2面)、黄褐色砂礫層下の旧地表面上からは、調査区南東端において弥生時代後期の粘土探掘坑を検出した。

東壁の層序を挙げる。調査地点の大半には約1.5mの盛り土があり、多量のコンクリートガラ・アスファルトが混入していた。盛り土下には近現代の旧耕土2層、近世の耕土(黄灰色土)3層、中世後期に遡る耕土(灰色土)東壁4・5層、灰色土下には洪水砂礫を含む褐灰色土6層があり、この褐灰色土が13世紀頃の遺物を含む土壌層と考えられる。褐灰色土下には土壌化した灰色砂礫7層が堆積しており、8世紀代の遺物を含む土壌層である。

灰色砂礫の下には黄褐色砂礫19層が堆積しており、弥生時代後期から末にかけての洪水砂礫である。

弥生時代末から鎌倉時代の遺構はすべてこの上面において検出した。

黄褐色砂礫の下層には旧地表と考えられる34層があり、その下層が灰白シルト35層で構成される基盤層である。

上面からは弥生時代末の甕等、8世紀前半から中頃の須恵器杯・稜碗、緑釉陶器碗、平瓦片、平安時代後期～鎌倉時代の土師器皿・須恵器碗、中国製白磁玉縁碗・白磁端反り口縁碗のほか、華南産灰釉陶器壺片などが出土している。

下層の遺構からは弥生時代後期の甕・高坏などが出土している。

2. 第1面の遺構

弥生時代末の溝

SD330 (図版 54 写真図版 61)

検出状況 北東から南西へ流れ、調査区を横断した状態で検出した。

形状規模 検出した長さは13mで幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。断面は浅いU字形である。北東から南西N34°E方向に流れ、南壁付近では更に西側へ向きを変えている。

埋土 洪水砂礫によって埋没している。

出土遺物 上下層で時期が判れる。

時期 最上層には14世紀代の土器、下層には弥生時代末の多量の土器を包含しており、至近に同時期の集落が存在すると考えられる。

奈良時代の掘立柱建物跡

掘立柱建物跡2棟を検出した。

SB306 (図版 57 写真図版 54～56)

検出状況 調査区南西部で検出した。SB307と切り合い古い。

形状規模 南北棟の総柱建物、桁行の方位がN1.5°Wである。桁行南北3間(5.00m)、梁行東西2間(4.70m)・床面積23.5㎡を測る。柱穴は概ね隅丸方形か隅丸長方形を呈し、主柱穴である。柱間は桁行が1間1.72m・1.55m、梁行1間は2.35mを測る。加えて、棟行・梁行の柱通り上に8基の柱穴を0.75m~0.80mの間隔で検出している。これらは径20cm前後の円もしくは長軸50cm・短軸40cm程度の楕円形で、東柱と考えられる。

柱 穴 柱穴の形状は先述の通り、一边が70cm~100cm、深さは30cm~50cmである。柱痕は概ね径30cm前後である。掘形埋土にはベース土35層のブロックが多く含まれており、全体に灰白色を呈する。断面観察から掘り替えが認められる。

出土遺物 柱穴P05から須恵器皿(2202)、P139から須恵器杯B(2203)が出土している。

SB307 (図版58 写真図版54・57)

検出状況 調査区南西部で検出した。SB306と切り合い新しい。北西隅の柱穴は調査区外にある。

形状規模 南北棟の側柱建物、桁行の方位がN3°Wである。桁行南北4間(7.80m)・梁行東西2間(4.50m)・床面積35.1㎡を測る。梁行方向の柱間は1間が2.25mである。桁行の柱間は1間1.73m、南1間は2.60mと長い。

柱 穴 柱穴は一边60cm~70cmの正方形を呈する。深さは34cm~10cmである。柱痕は概ね30cmを測る。

出土遺物 図示できる遺物は出土していない。

中世前期の建物跡と柱穴群

SB306・SB307の東側を中心に200基近い柱穴を検出した。直径20cm~30cmの円形の柱穴で構成されている。白磁端反り碗・須恵器碗・土師器皿が柱穴内より出土している。複数棟の掘立柱建物跡が存在したと考えられ、4棟を復元した。時期は出土遺物から主に12世紀代~13世紀前半代と考えられる。

SB308 (図版59 写真図版54・58・63)

検出状況 調査区南東部で検出した。SB310・SB311と切り合い古い。東側・南側は調査区外に延びる可能性は残る。

形状規模 南北棟の総柱建物、桁行の方位がN6°E、桁行4間(7.90m)以上・梁行2間(4.12m)以上、床面積32.5㎡以上を測る。桁行1間1.95m前後、梁行は東1間が2.10m・西1間が2.02mを測る。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径は20cm~80cm、深さは35cmである。P150は根石を持つ。また、白磁端反り口縁碗を埋納している。

出土遺物 柱穴P229から土師器小皿(2203・2204)、須恵器碗(2205)、柱穴P49から土師器小皿(2206)、P77179から土師器皿(2208)、瓦器碗(2209)、P58から平瓦(2210)、P150から白磁端反り口縁碗(2211)・土師質土錘(2212)、P180から土師器皿(2207)・華南産灰釉(黄釉)陶器四耳壺(2213)が出土している。

SB309 (図版60 写真図版54・58)

検出状況 調査区南東部で検出した。SB308・SB310・SB311と重複するが先後関係は不明。東側・南側は調査区外に延びる可能性は残る。

形状規模 南北棟の総柱建物、桁行の方位がN7°E、桁行4間(8.00m)以上・梁行2間(4.25m)以上・床面積32.5㎡以上を測る。南東2間分は柱がない。桁行1間2.00m、梁行は東1間が2.15m・西1間が2.10mを測る。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径は20 cm～40 cm、深さは16 cmである。P220には柱根が遺存していた。柱根は長22 cm・径14 cmが残存しており、樹種はヒノキ属である。

出土遺物 柱穴P50から土師器小皿(2214)。柱穴P62から土師器小皿(2215・2216)、柱穴P218から須恵器椀(2217)が出土している。

SB310 (図版61 写真図版54)

検出状況 調査区南東部で検出した。SB309と切り合い新しい。

形状規模 南北棟の側柱建物である。桁行の方がN10° E、桁行3間(5.10m)・梁行3間(3.70m)を測る。更に南桁行側に1間分2.80mの柱通りがある。桁行1間1.60m・1.80m、梁行は北梁行で1.25m・0.85m・1.60mを測るが、全体にばらつきがある。合わせて床面積29.2㎡を測る。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径は15 cm～25 cm、深さは20 cm前後である。

出土遺物 柱穴P173からは土師器小皿(2218)が出土している。

SB311 (図版62 写真図版54)

検出状況 調査区南東部で検出した。SB308と切り合い、新しい。

形状規模 南北棟の総柱建物である。桁行の方がN8° Eである。桁行3間(5.00m)・梁行は南梁行で4間(3.80m)を測る。桁行1間1.80m・1.40m、梁行は北梁行で1.20m・1.10m・0.70mを測るが、全体にばらつきがある。

柱 穴 柱穴は円形もしくは不整な隅丸方形で、掘形径は15 cm～40 cm、深さは30 cm～40 cmである。

出土遺物 柱穴から図示できる遺物は出土していないが、P29には柱根片が遺存していた。樹種はヒノキ属である。

SK793 (図版63 写真図版60)

検出状況 調査区南東隅に位置する。土坑底に器高51.9 cm・最大腹径47 cm以上の亀山焼甕を据えていたと考えられる。甕は内部に崩落しており、最大腹径部分は後世に削平を受け、残っていない。

形状規模 土坑の平面形は径0.55 m・深さ0.23 mの円形である。半球形に掘られている。

埋 土 甕本体は土坑に密着している。崩落した甕内には黄灰礫混じりシルトが堆積している。

出土遺物 亀山焼甕(2227)が出土している。甕の時期は13世紀前半と考えられる。

3. 第2面の遺構 弥生時代後期の粘土採掘坑群

調査区南東隅において粘土採掘坑群を検出した。調査区の隅から検出されており、南北約2.50 m、東西約2.00 m、深さ0.45 mの範囲で複数回掘削されている。各掘削坑は切り合い、重複しており、個々の規模は不明である。採掘坑中からは弥生時代後期の土器が出土している。今回検出した粘土採掘坑は平成19年度に調査された76区から続く粘土採掘坑群の西端に当たる。

粘土採掘坑SK794 (図版63・写真図版61)

検出状況 調査区南東隅から検出した。

形状規模 東西N75° Wにとる不整な卵形の土坑である。東西長3.20 m・南北幅2.80 m・深さ0.35 mから0.50 mを測る。断面は箱形の土坑が3基以上、複数切り合って形成されている。

埋 土 ベース土のブロックで人為的に埋められている。

出土遺物 弥生土器甕(2052・2053)、弥生土器高坏(2054・2055)が出土している。

第4章 発掘調査の成果—遺物—

第1節 遺物の概要

池ノ下遺跡は広大な面積の調査を実施したため、旧石器時代から近代に至る遺物が出土した。また遺物の種類も土器・石器・金属器など多種多様な遺物が出土した。

遺物の出土状況は第3章の遺構の説明で述べたため、本章では弥生時代から古墳時代と古代から中世の土器、石器、金属器に分けて成果を述べる。

第2節 弥生時代から古墳時代の土器

1. 概要

弥生時代から古墳時代の遺構には溝・土坑などがある。特に土坑からは弥生時代後期後半から古墳時代初頭の土器が多く出土している。以下、地区ごとに説明する。

2. 70区 (第2図 写真図版63)

SD306

甕2001は大形甕の平底の底部で、外面は縦方向のミガキ痕跡が残り、内面は上方向のケズリを行う。

3. 75区 (第2図 写真図版63)

SK503

甕2002は体部からく字に外反する口縁部で体部外面はタタキ整形を行う。体頭部内面は粘土紐接合痕が残る。口縁部外面にススが付着している。

SK512

甕2003は平底の底部で、体部は右上がりのタタキ整形で仕上げている。底部から体部にかけて接地黒斑が存在している。

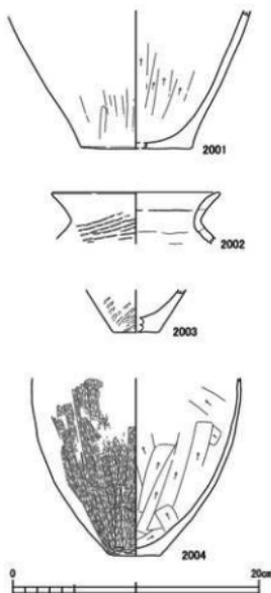
SK510

甕2004は縦長の体部で、平底である。外面は下部をタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行い、内面は縦方向のケズリを行う。体部下端から底部にかけて接地黒斑がある。体部に厚く帯状のススが付着し、それより下部はスス酸化部である。

4. 76区 (図版64~66 写真図版63~69)

SK606

2005は直口壺で、平底で球形の体部に直立する口縁



第2図 土器 2001～2004

部が付く。口頭部には粘土紐の接合痕が残り、やや斜めに作っている。体部外面下半は縦方向のミガキを行う。底部から体部下半部には接地黒斑があり、対する肩部と口縁部の一部に覆接触黒斑がある。体下半部に部分的にススが付着する。

甕2006は体部からく字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部外面はタタキ整形、内面はナデ調整を行い、上部は粘土紐接合痕跡や指オサエ痕跡が残る。外面下半部にススが付着している。

SK607

壺2007は底部が完存した破片で、平底である。体部外面はタタキ整形後縦方向のハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整を行う。外面にはススが付着している。甕2008は体部からく字に外反する口縁をもつ。体部外面はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面上部には粘土紐接合痕跡が残り、部分的に横方向のケズリを行う。外面下半部に薄くススが付着している。甕2009は底部が完存した破片で、平底である。体部外面はタタキ整形調整を行い、底部は木葉圧痕が残る。体部外面にはススが付着している。

SK612

甕2010は球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後ハケ調整、内面はハケ調整を行う。上部には粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。外面下半部にススが付着している。内面の一部に薄いコゲが存在する。甕2011は底部の破片で、平底である。体部外面はタタキ整形後弱いハケ調整、内面はハケ調整を行う。体部最大径部にはススが付着し、底部付近はス酸化部があり、対する内面にはコゲが付着する。

SK613

甕2012は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。内面は火回り不良黒斑がある。体部外面下半部には薄くススが付着している。

SK614

甕2013は底部が完存した破片で、平底である。体部内外面ともに縦方向のハケ調整を行う。内面には薄いコゲが残る。

SK615

甕2014は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部にタタキ工具でキザミを付ける。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。体部外面下半部および口縁部にはススが付着し、肩部に吹きこぼれ痕跡が残る。

SK618

甕2015は球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整、内面は上部に粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。肩部および口縁内面には覆接触黒斑痕跡がある。甕2016は体部からく字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。薄くススが付着している。甕2017は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後弱いハケ調整を行う。内面は下部をハケ調整、上部は粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。体部外面下半部および口縁部にはススが付着している。肩部には吹きこぼれ痕跡が残る。

SK622

壺 2018 は球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行い、一部にケズリ滓が付着している。

SK623

壺 2019 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。外面は縦方向のミガキ調整、内面は横方向のケズリを行う。内面は火回り不良黒斑がある。体部外面下半部および口縁部にはススが付着しており、吹きこぼれ痕跡が残る。

SK632

壺 2020 は小形の球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方向につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後弱いハケ調整を行う。内面には部分的に粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。体部外面下半部および口縁部にはススが付着している。

SK644

壺 2021 は、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。体部内面は横方向のケズリを行う。壺 2022 は肩部から最大頸部の破片で、外面は縦方向のハケ調整、内面は最大頸部を横方向のケズリ、肩部は指オサエ痕跡が残る。胎土は鈍い黄橙色を呈し外面にススが付着している。

SK655

広口壺 2023 は球形の体部に直立する頸部と短く外反する口縁部をもつ。体上半部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。頸部にはタタキ工具の当たりが残り、口縁部には指爪の痕跡が残る。内面は横方向のハケ調整を行う。肩部には覆接黒斑がある。壺 2024 は口縁部の破片で、口縁部は内傾して立ち上がる。ヨコナデを行い、内面は縦方向のミガキを行う。

SK666

壺 2025 は球形の体上半部の破片で、頸部境には同一工具による沈線と直下に刺突文が巡る。内面は上部に指オサエの痕跡が残り、最大頸部は横方向のケズリを行う。

SK670

壺 2026 は底部が完存した破片で、底部周囲を突出させ、上げ底にしている。体部外面はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。体下半部から底部にかけて接地黒斑があり、内面は火回り不良黒斑である。

SK673

鉢 2027 は底部が完存した破片で、平底である。体部内外面共に縦方向のミガキを行う。内面に織溜黒斑がある。

SK680

壺 2028 は長球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。体部外面下半部にはススが付着し、被熱による剥離が著しい。

SK685

直口壺 2029 はやや扁平な体部から直線的に伸びる口頸部を持ち、口縁部に凹線を巡らす。体部下半部は縦方向のハケ調整を行い、最大径部は横方向のミガキを行う。内面下半部はハケ調整を行い、体上半部は粘土紐接合痕が残る。底部はやや上げ底気味の平底である。体部下半部に接地黒斑が残り、対する肩部に覆接黒斑が弱く残る。

SK687

壺 2030 は球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、斜め方向のミガキを行う。内面下半部はハケ調整を行い、体上半部は粘土紐接合痕と指オサエ痕が残る。体部外面下半部には厚くススが付着している。内面は火回り不良黒斑がある。

SK701

壺 2031 は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は縦方向のケズリ痕跡が残る。外面下半部と口縁部に厚くススが付着する。体部下半部はススが酸化しており、対する内面にはコゲが付着する。

SK707

壺 2032 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は斜め方向のケズリ、上半部は横方向のケズリ痕跡が残る。体部外面最大径部および口縁部にススが付着し、吹きこぼれ痕跡が残る。体部下半部はススが酸化しており、対する内面にはコゲが付着する。

SK708

壺 2033 は球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は縦方向、上半部は横方向のハケ調整を行う。体部外面最大径部および口縁部にススが付着している。

SK715

壺 2034 は完存する底部で、周縁に粘土を貼り付け、置いた状態の平底である。体部は左上がりのタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。体部外面下半部に接地黒斑が、対する内面には燻溜黒斑がある。

SK716

壺 2035 は体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に擬凹線の面を作る。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。

SK720

壺 2036 は直立する頸部から外反する口縁部を持つ。体部外面はタタキ整形後、頸部にかけてハケ調整を行う。内面は頸体境に粘土紐接合痕跡が残る、体部は横方向のケズリを行う。

SK725

壺 2037 は長球形の体部にく字に外反する口縁をもつ。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は斜め方向のハケ調整、上半部は粘土紐接合痕が残る。また、下半部には燻溜黒斑がある。外面下半部と口縁部にススが付着する。

SK730

壺 2038 は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。壺 2039 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。

SK733

鉢 2040 は口縁部にかけて直線的に開き、外面はハケ調整後縦方向のミガキを行う。

SK734

壺 2041 は完存する底部で、底部および体部下端はタタキ整形を行い、体部は縦方向のハケ調整を行っ

ている。外面はススが付着し、下部はススが酸化しており、対する内面には帯状のコゲが付着する。鉢2042は口縁部が外反する大形の鉢である。

SK737

甕2043は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部は欠損する。体部は左上がりのタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面は粘土接合痕跡と横方向のハケ調整が残る。外面最大径部および口縁部に厚くススが付着している。

SK738

甕2044は完存する底部で、体部はタタキ整形を行い、内面はケズリ後ナデで仕上げられる。底面は「-」のヘラ記号がある。外面にススが付着している。

SK743

甕2045は球形の体部に外反する口頸部を持つ小形の甕である。底部の器壁は他に比べ厚く、底部は未調整の為、本来丸底であったものが乾燥時に平底化している。体部下端に接地黒斑があり、対する内面に燻溜黒斑がある。

遺構に伴わない土器

甕2046は球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面は粘土接合痕跡が残る。肩部に覆接触黒斑が弱く残る。甕2047は縦長の体部に短い有段口縁を持ち、口縁端部は上方に拡張し、擬凹線を施す。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。甕2048はほぼ完存する底部は厚く、底面に葉脈痕が残る。体部外面はタタキ整形を行う。底面の一部に接地黒斑がある。甕2049は完存する底部で、体部および底面はタタキ整形を行い、のち体部はハケ調整を行う。体部下端に接地黒斑があり、対する内面に燻溜黒斑がある。甕2050は完存する底部で、体部はタタキ整形を行う。体部にススが付着している。

5. 77区 (第3図 写真図版70)

SK794

甕(2051・2052)・高坏(2053・2054)がある。

甕2051はく字に外反する口縁で口唇に面を持つ。体部外面は右上がりのタタキ整形後ハケ調整を行っている。内面は斜め方向のハケ調整を行う。甕2052は完存する底部で、体部外面は右上がりのタタキ整形で仕上げている。体部下半部から底部にかけては接地黒斑が残る。

高坏2053は坏部に稜を作り、口縁部が外反する。外面は横方向に細かいミガキを行う。高坏2054は脚部の破片で大きく広がる低い脚部でφ9mmの円孔を外から内へ穿つ。

SD330

壺(2055)・甕(2056・2057・2058)・高坏(2059)・製塩土器(2060)・弥生土器壺(2061)がある。

壺2055は口縁部の破片で直線的に斜めに立ち上がる。

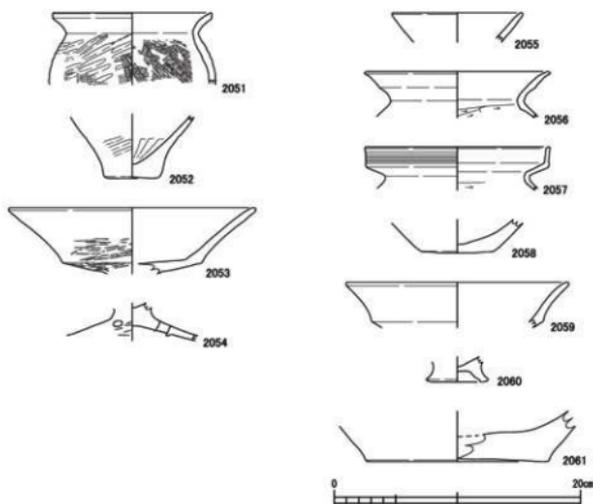
甕2056は口縁部の破片で、く字に外反する。体部内面上部は横方向のケズリを行う。

甕2057は口縁部の破片で、口縁部は直立し、外面に擬凹線を施す。体部内面上部は横方向のケズリを行う。甕2058は底部の破片で、底部から体部にかけて丸く立ち上がる。讃岐地域系の甕である。

高坏2059は坏部の破片で、坏部に稜を作り、口縁部が外反する。調整は磨滅のため不明である。

製塩土器2060は底部の破片で低い脚台が付く。二次的な火を受けている。

弥生土器壺 2061 は大形壺の底部で、底面は敷き砂の痕跡が残り、体部は形成時の粘土紐接合剥離痕跡が残る。



第3図 土器 2051～2061

第3節 古代・中世の土器

1. 概要

古代の土師器・須恵器については調査地西部の包含層から多く出土しており、中世の土器・陶磁器などは70区・76区・77区の掘立柱建物跡の柱穴や溝などに加え各区の包含層から出土している。ごく一部、近世の土器・陶磁器も報告している。なお、土師器煮炊具や陶磁器の記述にあたっては以下の文献の掲げる編年・分類などを参考とした。

土師器煮炊具：長谷川眞「播磨における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21 2007年

兵庫県教育委員会2004.3『兵庫津遺跡Ⅱ 浜崎・七宮地区の調査』第270冊

備前焼：乗岡実「備前焼播鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』2000年

亀山焼：永野千織「安芸地方における中世須恵器の研究：西条盆地の出土資料を中心に」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』2012年

肥前系陶磁器：九州近世陶磁研究会『九州陶磁の編年』2000年

輸入陶磁器：森田勉・横田賢次朗「大宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4 1978年

小野正敏「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 1982年

大宰府市教育委員会『大宰府条坊跡X V—陶磁器分類編—』2000年

碗について：九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙跡V - 不丁地区 遺物編2』2014年

2. 70区（図版68・69 写真図版71・73・74・75）

SB301P03

2101は土師器小皿である。底部は丸みを帯び、手捏ね整形と考えられる。口縁部は浅く、端部は丸く収める。

SA302P104

2102は須恵器碗である。底部を欠く。心持ち体部は内湾して立ち上がり、口縁端部は若干外反する。中世前期と思われる。

SB305P09

2103須恵器碗である。口縁部のみ残る。低く外方へ開き、端部は稜をもつ。

SB305P02

2104は大鍛冶に使用したと考えられる、ふいご羽口。2重に巻いて径10.05cmの円筒を作っている。

P7002

2105は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯びユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。

P7006

2106は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。2105に比べ口径がやや大きい。

P7001

2107は手捏ね整形の土師器小皿である。底部はユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ

調整を施す。器壁が厚く、口縁端部は心持ち揃まみ上げられる。

P7005

2108は須恵器碗である。底部を欠く。体部・口縁部は外方に開き、口縁端部は外反する。

SK304

2109は手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。ユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部に稜をもつ。

SK306

2110は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部は丸く収める。

SK307

2111は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部は強めのヨコナデ調整を施し、心持ち外反気味。端部は丸く収める。

SK301

2112は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は平たく、底径が大きい。内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部は丸く収める。底部外面に黒斑が広がる。

SD315

2113～2120を図示した。

2113・2114・2115は何れも手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部に弱い稜をもつ。2116は手捏ね整形の土師器皿である。京都系土師器皿である。ヨコナデによって口縁部は外反し、体部と底部の内面境は大きく窪み、円圏が出来ている。口縁端部は揃まみ上げられる。16世紀代と考えられる。2117は口径に対し底径が大きい手捏ね整形の土師器皿である。器高は低く、口縁部は外反し端部は弱い稜をもつ。2118は2116に近い形をもつが、底部・体部の境に稜を持ち、口縁部の器壁が厚い。2119は土師質の土鐘である。最大径を中位にもつ。2120は小型の土師器三足脚付の羽釜である。直線的な筒状の体部に短い罅をもつ。口縁端部は上部に面をもつ。口縁部はヨコナデ、体部にはユビオサエ痕が認められる。脚部の貼付痕が認められる。兵庫津羽釜タイプA系統I類に分類される。時期は13世紀後半代と考えられる。2121は土師器三足脚付の羽釜の脚部である。脚部外面にはタテハゲが全面に認められる。羽釜の貼付部分にはヨコハゲが認められる。2122は瓦器碗である。底部を欠く。口縁部内外面・体部内外面ともに横方向のヘラミガキが認められる。

2123は須恵器碗である。底部の大半を欠くが、平底。回転糸切りが認められる。体部との境にはユビオサエ痕が残る。斜め外方へ立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収められる。2124は須恵器甕の口頸部である。頸部外面に縦方向のタタキを施し、後内外面共にクロコナデを施す。口縁部は外反し端部は水平に伸びる。端部は外側に面をもち、上方に揃まみ上げられ、内側に凹部が巡る。2125は白磁玉縁口縁碗である。口縁端部は上方に拡張され、外側に内傾する面をもつ。外面に貫入・ピンホールが認められる。

SD312

2126・2127を挙げた。共に須恵器碗である。2126は平底。底部外面に回転糸切りが認められる。体部は斜め外方へ立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収められる。体部下半に稜痕が認められる。2127は底部を欠く。体部は斜め外方へ、若干内湾気味に立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収める。器壁が2126に比べ薄い。

SD316

2128 はロクロ土師器小皿である。口縁部は厚く、内面側に肥厚する。底部外面は糸切り後板状工具による調整を施す。2129 は手捏ね整形土師器小皿である。底部外面はユビオサエ整形後ナデ、内面はナデ。口縁部はヨコナデ調整である。

包含層

2130 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2131 は瓦器椀である。底部を欠く。外面下半はユビオサエ痕が残る。口縁部は内外面ともヨコナデ。内面下半は横方向のヘラミガキ後粗い縦方向のヘラミガキを施す。2132 は須恵器小皿である。底部は右回転の糸切りを施す。口縁部は厚く、外方に開く。端部は丸く収める。2133 は須恵器捏ね鉢である。体部下半以下を欠く。体部は直線的に外方へ開き、口縁端部は上下に肥厚し、内傾して外側に面をもつ。

3. 71 区 (図版 69 写真図版 74)**包含層**

2134 は白磁皿である。内外面ともに施釉しており、口縁端部のみ露胎のいわゆる口禿となっている。口縁端部は僅かに外反し、内側が若干窪む。大宰府編年で白磁皿 IX-1b 類もしくは c 類、13 世紀後半～14 世紀前半と考えられる。

4. 72 区 (図版 69 写真図版 74)**攪乱層**

2135 は平瓦である。凸面に格子タタキ、凹面に布目痕が認められる。

5. 75 区 (図版 69 写真図版 76)**SX516**

2136 は SX216 の上面から出土した。ボタン形の縮みを持った須恵器杯蓋である。平坦な天井部から僅かに口縁部に向かって傾斜を見せる。内面に『×』のヘラ描きがある。時期は 8 世紀中頃か。

包含層

2137～2144 は褐灰シルト層を主にベース面までの掘削で出土した。2137 は土鉢、中央部に最大径をもつ。2138 は縮みを欠く須恵器杯蓋である。平坦な天井部から僅かに口縁部に向かって傾斜し口縁端部は折り曲げ、断面三角形。外側に面をもつ。2139 は須恵器杯 A である。底部はロクロヘラ切りを施し平底である。杯部は外方に開き、ごくわずかに端部は外反する。器壁は薄い。2140 は杯 A もしくは皿の底部である。底部はロクロヘラ切りを施し平底。内面に回転ナデを施す。内面にはヘラ描きの沈線および『个』状の墨書が書かれている。2141 は杯 B と考えられる。底部は欠く。杯部が直立し、口縁端部が僅かに外反する。2142 は須恵器皿である。口縁部はロクロケズリによって突出し、口縁部は低く外方に開く。端部は小さく外側に拡張する。時期は 10 世紀前半代。2143 は須恵器捏ね鉢である。体部下半・底部を欠く。口縁部は外方に開き、端部は上方に拡張、内傾して外側に面をもつ。時期は 13 世紀後半と考えられる。2144 は近世溝 SD324 (古) から出土した施釉陶器椀底部である。断面三角形の高台をもつ。高台及び高台裏は露胎。見込みに草花文が描かれている。

6. 76区 (図版70~72 写真図版77~83)

SK650

2145は須恵器杯B底部である。底部外面はロクロヘラケズリの後ナデ。杯部との境近くに、小さく断面三角形の高台が貼付されている。底部外面高台裏には『福』の墨書がある。時期は8世紀代か。

SK608

2146は須恵器杯B底部である。杯身底部外面はロクロヘラ切りの後ナデ調整。杯部内外面はロクロナデ、底部内面には仕上げナデを施す。杯部との境近くに外方に踏ん張る小さな高台が貼付されている。2157と類似する。時期は8世紀代中頃か。

SK699

2148は8世紀代の土師器甕である。屈曲して開く口縁にラグビーボール形の体部が付く。外面に煤が付着する。

SD329

2147は須恵器皿で、高台がつく台付皿の可能性もある。口縁部は強いロクロナデによって外反し、中位と端部に稜をもつ。皿は内外面共にロクロナデを施す。時期は8世紀末~9世紀初めか。

包含層

2149~2162は灰色粘質シルトから出土した。

2149は土師質フイゴ羽口である。先端部は欠損している。径約7cm前後と考えられる。孔は欠損のため不詳。表面は融解している。2150は土師質の土鐘である。最大径は中央よりも一方に偏っている。2151は須恵器脚部、台付壺の脚部と考えられる。6世紀末~7世紀初頭か。方形の透かしが認められる。2152は須恵器底部である。底部に回転糸切り、緩やかに上方へ開く。内面に墨書『口』がある。釈義は不明。2153は須恵器杯蓋Bである。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、外側に面を持つ。内面は平滑で墨痕が若干残る。転用硯と考えられる。2154は須恵器杯蓋Bである。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。外面はロクロケズリ後ナデ。内面は平滑で転用硯の可能性もある。2155は須恵器杯蓋Bである。扁平な笠形、天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。2156は須恵器杯Aである。平坦な底部から杯部は内湾して立ち上がり、口縁部は心持ち内湾し、端部は丸く収める。底部は回転ヘラ切りの後板状工具によるナデを施す。2157は杯Bである。平坦な底部から杯部は内湾して立ち上がる。口縁部端部を欠く。端部は丸く収める。底部は平坦で、ロクロヘラ切りの後ナデを施す。杯・底部境に甘い断面三角形の高台を貼付している。2158は須恵器皿。底部はロクロヘラ切りの後ナデ、口縁部は低く外方に開き、口縁部は外反し水平に伸びる。端部は欠く口縁部内外面は右回転のロクロナデ、内面には仕上げナデを施す。内面は平滑で、薄い墨が付着する。転用硯と考えられる。2158は須恵器杯もしくは皿の底部である。外面はロクロケズリの後ロクロナデ、内面はロクロナデを施す。外面には一本線のヘラ記号、内面は平滑で、転用硯の可能性もある。2160は須恵器円面硯である。陸部及び脚部下半を欠く。脚部の透かしは2か所認められるが、透かし幅・単位は不明。2161は無釉陶器壺下半である。底部の大半を欠く。体部との境付近はヘラ切り調整、内面はナデ調整。体部内外面はロクロナデ、外面下半にユビオサエ痕が残る。胎土は白色の粒を含み、粘質・精良・練り込みの線が断面に認められる。中国南方系あるいはベトナムなどの産地の可能性がある。2162は龍泉窯系青磁劃文陶

である。内面口縁端部下に沈線が走る。体部下半以下を欠く。12世紀中頃～後半の時期が考えられる。

2163～2169は灰色シルトから出土した。

2163は手捏ね土製品である。ユビオサエで整形されている。不整形な円錐状を呈しており、脚付皿もしくは杯の脚の可能性が考えられる。2164は須恵器杯底部片と考えられる。外面はロクロヘラ切り、内面はロクロナデ後ナデが認められる。外面には『口』の墨書が認められる。2165が須恵器杯Bの蓋である。扁平な笠形の形状である。握み部分は欠く。ロクロケズリの後丁寧なロクロナデを施した平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、外側に面を持つ。下端は丸みを帯びる。器壁は全体に厚い。内面に擦痕が認められ、転用碗と考えられる。2166は須恵器杯蓋である。平坦な天井部から屈曲し、口縁端部は折り曲げ、断面は小さな三角形となり、外側に面をもつ。外面天井部はロクロケズリ後ロクロナデ、口縁部及び内面はロクロナデ。外面天井部と口縁部の境には波型の工具痕が残る。内面には墨が薄く附着しており、擦痕が認められる。転用碗と考えられる。2167は須恵器杯Aである。平坦な底部から杯部は外方に直線的に立ち上がり、口縁部は心持ち外反し、端部は丸く収める。底部は右回りの回転ヘラ切りの後一部ナデを施す。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。外面に火罨が認められる。2168は須恵器壺もしくは須恵器杯Bの高台と考えられる。破片上部に接合痕が認められる。2169は白磁玉縁口縁碗である。底部を欠く。玉縁外側面には軸ダレが波状に認められ、体部外面にはピンホールが点々と認められる。内面口縁部下にはロクロ成形時の浅い沈線が一巡している。大宰府編年白磁碗IV類にあたる。2170～2180は暗褐色灰色粘質シルトから出土した。2170は土師器杯A、底部中央を欠く。丸みを帯びた底部から内湾気味に体部が立ち上がる。口縁部は外反し、端部は内湾、内面に凹部を作る。先端部は丸く収める。体部外面にはユビオサエ痕が残る、底部・体部内外面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ調整を施す。2171は土師器杯、底部を欠く。丸みを帯びた底部から内湾気味に体部が立ち上がり、口縁部は外反して、内湾、内面に沈線が巡る。端部は稜をもつ。体部外面には3条の沈線が巡る。体部内外面はナデ、口縁部内外面は強いヨコナデ調整を施す。内外面には化粧土を施す。2172は土師質土鉢である。最大径を中位に持つ。2173は土師器鉢の把手である。断面形状は長方形、上部に向かって外反する。先端を欠く。2174は須恵器杯蓋である。扁平な笠形。平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し口縁部に至る。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロケズリ、外縁部と内面はロクロナデの後、内面に仕上げナデを施す。2175は須恵器杯蓋である。2174に比べ扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し口縁部に至る。口縁端部は短く折り曲げられ、鈍い三角形の断面、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロ削り、外縁部と内面はロクロナデの後、内面に仕上げナデを施す。2176は須恵器杯B蓋である。ボタン形の握みと天井部の一部が残る。2177は須恵器椀の蓋である。平坦な天井部に断面三角形の環状の握みが貼付されている。天井部外面はロクロヘラ切りの後ロクロナデ、内面は丁寧なナデが施されている。2178は須恵器杯Aである。平坦な底部から杯部が外方に直線的に立ち上がり、口縁部は強いロクロナデを施す。口縁端部は稜をもつ。底部は右回りのロクロヘラ切りの後ナデ。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。内面に火罨が認められる。2179は須恵器杯Aである。平坦な底部から杯部は外方に直線的に立ち上がり、口縁端部は稜をもつ。底部は右回りの回転ヘラ切りの後ナデを施す。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。口縁部は強いロクロナデを施す。底部外面に火罨が認められる。2180は須恵器椀底部である。底部は突出し、内面は中央に向かい緩やかに窪み、中央にユビオサエを施す。底部外面は左回りの回転糸切りを施す。体部外面は強いロクロナデによって弱い稜が目立つ。

2181～2195は粗砂混じりシルトから出土した。

2181は土師器皿である。中央が上げ底となった底部から体部が内湾して立ち上がり口縁部はヨコナデによって心持ち外反する。端部は丸く収める。底部外面はヘラケズリもしくは板ナデ、体部との境部分は面取りを施す。口縁部内外面はヨコナデ調整を施す。内外面には化粧土を施す。2182は土師器杯A、底部を欠く。体部は直線的に外方に立ち上がり、口縁部は厚みを増し、紡錘形である。端部は擴み上げ、内面に沈線が巡る。内外面には化粧土を施す。内面には漆が付着しており、パレットとして使用されたと考えられる。2183は2197と類似する製塩土器である。口縁部は屈曲して直口する。端部上面に面を持つ。器壁は、体部部分は厚く、口縁端部に向かって厚みが減じてゆく。口縁部分内外面ともにユビオサエ整形である。2185は土師質の土鍾である。両端が窄まり、体部は細長い管状である。2186は土師器底部片と考えられる。内外面には化粧土を施す。内面には漆が付着しており、パレットとして使用されたと考えられる。2187は瓦質鍋である。体部下半以下を欠く。体部は内湾気味に上方へ立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外方へ開き、受け口状に内湾する。端部外側には内傾した面をもつ。体部内外面はユビオサエ整形の後、外面はナデ、内面は板ナデ及びナデ調整を施す。口縁部はヨコナデを施す。兵庫津編年鍋形Ⅱ類に属し、時期は13世紀後半と考えられる。2188は平瓦である。凹凸面共にナデ、端部は面取りを行っている。2189は土師器杯蓋である。須恵器杯蓋2190に比べ扁平な器形、広い天井部に短い口縁部が付き、口縁端部に至る。端部は丸く玉縁状に収められる。天井部は内外面ともナデ、口縁部はヨコナデを施す。内外面には化粧土を施す。2190は須恵器杯蓋である。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに傾斜し口縁部に至る。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロケズリ、外縁部と内面はロクロナデ。2191は須恵器杯Aである。底部は右回転のロクロヘラ切りの後ナデ調整を施し、全体に丸みを帯びる。体部との境は稜がなく丸い。口縁部は外反し端部は丸く収める。志方窯跡群中谷4号窯（8世紀後半）の時期に対応か。2192は須恵器杯Bである。底部を欠く。体部・口縁部は斜め上方に立ち上がり端部を丸く収める。外面口縁部下の全面に弱い横方向のヘラミガキを施す。口縁部及び内面はロクロナデを施す。底部境付近に強いヘラミガキを施している。2193は緑釉陶器である。丸みを帯びた底部をもち、高台を体部との境に貼付している。内面見込みはヨコナデもしくはミガキ、体部内面はナデ、外面はロクロナデが認められる。2194は須恵器鉢、底部を欠く。底部と体部の境はロクロヘラケズリを施し丸い。口縁部は外反し、端部は外側・上部に面を持つ。2195は須恵器円形硯である。皿もしくは杯Aの一方に脚部がついた硯と考えられる。底部内面が緩やかに盛り上がり陸としている。外縁に沿って窪み、体部もしくは口縁部へと続く屈曲がある。底部外面には一部欠損した脚部と脚部の剝離痕があり、少なくとも2か所に逆台形と推測される脚部が底部と体部の境に貼付されていた。底部外面の脚部周辺はロクロケズリを施し、内側は一方方向の強いナデ調整が施されている。内面はロクロ目が顕著なロクロナデを施している。内面は平滑で、擦過痕が認められることから硯と判断した。本硯の類例は、大宰府政庁周辺官衙跡から出土しており、定形硯Ⅱ類円形硯に分類される。2195aは大宰府政庁周辺官衙跡 不丁地区出土例を参考とし、脚を2個とした。

2196～2201は機械掘削・側溝から出土した。

2196は土師器カマドの一部と考えられる。中央の鏝の部分は端部が欠損している。体部側は粗い刷毛目を施す。2196は2182と類似する製塩土器である。口縁部は屈曲して直口する。端部は丸く収める。内外面ともにユビオサエ痕が顕著である。2198は大型の須恵器蓋と考えられる。口縁部周辺のみ残存する。平坦な天井部から口縁部に向かって湾曲し端部に至る。端部は丸く収めるが、稜を伴う。天井部は

内外面ともナデ、口縁部はロクロナデを施す。2199は須恵器台付皿である。輪状の高台、平坦な底部から湾曲して口縁端部に至る。口縁端部は巻き込むように端反りする。底部外面はロクロヘラ削りの後、ロクロナデ・ナデ。内面は丁寧なロクロナデ後仕上げナデを行い平滑である。口縁部は内外面ともにロクロナデを施す。9世紀前半代と考えられる。2200は須恵器杯Bである。杯身底部外面はロクロヘラ削りの後ロクロナデ調整。杯部との境近くに高台が貼付されている。高台は小さく断面三角形である。杯部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部外面はロクロナデによって心持ち外反気味。器壁は厚い。時期は10世紀代か。2201は須恵器蓋の摘みである。円錐状に尖り、蓋身部分との境は細くなる。全体にロクロナデを施す。広口壺類の蓋と考えられる。

7. 77区 (図版73~75 写真図版85~90)

2202~2250を挙げた。

SB306P05

2202は柱穴P05掘形内から出土した須恵器皿である。底部を欠く。体部・口縁部は外方に大きく直線的に開き、端部は端反りとなる。体部は右回転のロクロケズリ。口縁部はロクロナデ。8世紀後半代か。

SB306P139

2203は柱穴P139掘形内から出土した。須恵器杯Bである。底部を欠く。底部・体部との境は丸く、沈線が巡る。体部・口縁部は直線的に外方に立ちあがり口縁端部は紡錘形となる。内外面ともにロクロナデ、口縁端部は強い丁寧なロクロナデを施す。

SB308P31

2204~2206は柱穴P31から出土した。2204は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、中央はユビオサエの凹凸が顕著である。口縁部は短く、内湾気味に立ち上がる。口縁端部は外側に面をもつ。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2205は手捏ね整形の土師器皿である。底部外面は平坦。口縁部との境は丸く、ユビオサエ痕が残る。口縁部は内湾して立ち上がる。口縁端部は外側に面をもつ。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2206は須恵器碗である。底部を欠く。口縁部に強いロクロナデを施し口縁部は外反、端部は肥厚し丸く収める。体部・口縁部の境はロクロナデの強弱によって弱い稜となる。

SB308P49

2207は柱穴P49から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。底部はやや丸みを持つ。口縁部との境は丸く、内湾気味の短い口縁部が付く。端部は丸く収める。ユビオサエ整形後、底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。

SB308P179

2209・2210は柱穴P179から出土した。2209は手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。底部・体部の境は丸く、体部はヨコナデによって外反気味、口縁部はヨコナデによって端部に内傾する面を持つ。2210は掘形から出土した瓦器碗である。底部を欠く。体部は内湾気味、口縁部は外反する。外面口縁部と内面口縁端部はヨコナデ、体部はユビオサエ整形痕が顕著。内面は体部・口縁部共にナデ・ヨコナデのち横方向のミガキを施す。

SB308P58

2211は柱穴P58から出土した平瓦である。凹面には布目、凸面にはタタキが施される。断面観察から

瓦は表・裏2枚の粘土を貼り合わせて作成した可能性が高い。

SB308P150

2212・2213は柱穴P150から出土した。2212は白磁端反り口縁碗で、高台は細く高く直立し断面形状は矩形である。体部は内湾し、口縁部は屈折し外方に伸びる。軸は体部下半部まで掛かる。ロクロケズリは体部中位以下である。大宰府編年白磁碗V類である。2213は土師質土錘で、管状の形状である。

SB308P180

2208は手捏ね整形の土師器小皿。底部はやや丸みを持つ。口縁部との境は丸く、内湾気味の短い口縁部が付く。端部は丸く収める。ユビオサエ整形後、底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。2207に比べ器高がやや高い。2214は柱穴掘形から出土した。華南産灰釉（黄釉）陶器四耳壺の口頸部片である。大宰府条坊跡編年の陶器耳壺V-2類に相当する。耳壺V-2類は肩部には横形の四耳を貼付し、各耳を巡って波状沈線が1条巡る。2214では耳の貼付痕と波状沈線の一部が残っている。肩部と頸部の境目には断面三角形の凸帯が巡り、両者の境を強調している。頸部は内傾し、口縁部は短く外へ屈折し、端部は肥厚、外側と上面に面をもつ。口縁部から体部上半にはロクロナデの痕跡が顕著である。内面は、頸部・肩部の境は甘い。横方向に強いナデが認められ、板状工具を使用したか。胎土は灰白～灰褐色で精良である。内外面に共に灰釉が掛かる。華南産灰釉陶器片は別個体の2246が包含層から出土している。

SB309P50

2215は手捏ね整形の土師器小皿。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部外面には指オサエ痕が顕著である。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。

SB309P62

2216・2217が出土した。2216は手捏ね整形の土師器小皿である。底部中央が微かに盛り上がる個体である。口縁部は内湾し、端部は丸く収める。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。内面には白色の化粧土が遺存する。2217は掘形内から出土した。手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。口縁部は大きく内湾し、口縁端部は上方に揃まみ上げられ、外傾する面をもつ。下半は内外面ともナデ、上半はヨコナデ調整を施す。内面に化粧土が遺存する。

SB309P218

2218は須恵器碗である。平底から内湾して体部が立ちあがり、口縁部に至る。口縁部は丸く収める。底部外面は回転系切り、内面にはロクロナデの後仕上げナデを施す。体部・口縁部は内外面共にロクロナデ、ロクロ目が顕著である。

SB310P173

2219は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸く口縁部は外方に浅く開く。端部は丸く収める。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。器壁が厚く、歪みの激しい個体である。

SB310P182

2224はP182から出土した土師質鉢。半球形の体部に屈曲し外側に伸びる口縁部が付く。口縁端部は肥厚し、外側に面をもつ。体部外面はタタキ整形を行い、後、粗いたテハケ、内面は粗いヨコハケ。口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコハケを施す。内外面に煤が付着する。底部外面にはタタキ目が残る。

各柱穴出土の遺物

建物として復元できなかった柱穴出土の遺物を挙げる。2220はP80から出土した手捏ね整形の土師器小皿。器高は低い。平坦な底部から口縁部は外反して外方に開く。端部は水平に伸び、稜を持つ。底部

外面はユビオサエ整形後ナデ。内面はナデ。口縁部はヨコナデ調整。2221はP77059から出土した。手捏ね整形の土師器小皿である。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部外面にはユビオサエ痕が顕著である。調整は、底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2215と類似した個体である。2222はP77070から出土した。手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び中央部はユビオサエで凹みをもつ。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ調整、口縁部は強いヨコナデによって短く外反し、底部との境と口縁端部に稜をもつ。底部は厚く、焼成は2207に類似する。2223はP77254から出土した。手捏ね整形を行う、いわゆる京都系土師器皿である。底部は平坦で、底部との境は丸い、口縁部は大きく外反し、端部は内湾する。底部内外面はナデ調整、口縁部はヨコナデを施す。体部から口縁部にかけて粘土紐巻き上げ痕が認められる。口縁部外面には種子痕が認められる。2225はP77155から出土した。土師質の鍋である。口縁部は外側に肥厚し、端部は丸く収める。口縁部から体部外面にはユビオサエ痕が見受けられ、内面にはヨコハケ調整を施す。端部はヨコナデ調整を施す。内面にはススが付着する。2226はP77155から出土した瓦質羽釜である。口縁部は直立し端部は上部に面をもつ。口縁端部下に短い鐙が付く。外面体部はユビオサエの後ナデ、内面はヨコ方向のナデ調整を施す。兵庫津羽釜タイプAⅠ類にあたる。2227はP77052から出土した。褐釉陶器片である。中国南方系の陶器壺肩部周辺の部位と考えられる。外面は唐草文をヘラ描きし施軸されている。壺の腹径は20cm程度と考えられる。同一個体と考えられる破片が複数出土している。

土坑SK793

2228は土坑内に埋置された亀山焼甕である。底部は丸く、胴部はやや長胴と考えられる。口縁部は中位で屈曲し外反するが、水平にはならず、外方へ開く。口縁端部の外側面は外傾し、窪む。口縁部から底部まで外面は格子目のタタキを施すが、口縁部はロクロナデによってナデ消されている。内面は、口縁部はロクロナデ、体部上面は同心円文の当て具痕をナデ消している。下半から底部については、丸い痕跡が認められ、ユビオサエ痕もしくは丸石などを当て具に使用した可能性がある。これらの痕跡上にユビナデ痕が認められる。岡田編年の第2段階（13世紀前半）の製品と考えられる。

包含層

2229～2250は77区の各層から出土した。2229は須恵器杯B蓋である。平坦な天井部から口縁端部に至る扁平な器形。口縁端部は折曲げられ、外側に面を持つ。端部は丸く収める。天井部はロクロケズリ、外縁部はロクロナデを施す。8世紀第1四半世紀の時期と考えられる。2230は須恵器椀の蓋である。環状の縁は剥離している。笠形の天井部から屈曲して口縁端部に至る。端部の断面は三角形、端部外側に面を持ち、くぼむ。天井部はロクロケズリ、内面は平滑で、転用硯に使用したと考えられる。平城宮Ⅲ段階の時期と考えられる。2231は須恵器皿である。第1面上層礫混じり灰色粘質土（7層）から出土した。底部外面は右回転のロクロヘラケズリ、底部内面・口縁部内外面はロクロナデを施す。外面底部・口縁部の境はロクロケズリによって丸い。8世紀後半の時期と考えられる。2232は須恵器杯Aである。ロクロヘラ切りを施した平底から体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は肥厚し、内側に弱い稜を作り出す。底部・体部の境はロクロケズリを施す。体部・口縁部内外面はロクロナデを施す。8世紀第2四半世紀の時期と考えられる。2233は須恵器椀である。底部を欠く。口縁端部は玉縁を作り出している。機械掘削時に出土した。2234は須恵器杯B、底部を欠く。深い器形である。体部下半は若干丸みをもつが、口縁部は外上方に真直ぐ伸び、口縁端部は尖る。内外面共に右回転のロクロナデを施し、下半はロクロ目が目立つ。類似する志方窯跡群中谷4号窯（8世紀後半）の時期に対応か。

2235は調査区南東隅から出土した。須恵器杯B、口縁部を欠く。平坦な底部に体部との境際に低い高台が貼付される。高台畳付は内側のみ接している。底部外面はロクロヘラ切り後ロクロナデ、工具の圧痕が認められる。内面は、中央部は平坦で仕上げナデを施す。体部との境が大きくくぼむ。体部は上方に真直ぐ伸びる。8世紀前半以降の時期が考えられる。2236は遺構面直上から出土した。須恵器杯B底部である。体部との境に短く踏ん張る高台が付く。高台裏はロクロヘラ切り、内面はロクロナデ後仕上げナデを施す。8世紀前半の時期と考えられる。2237は平瓦片である。西側側溝から出土した。凹面には布目、凸面には格子目タタキを施す。焼成後凹面から凸面側に穿孔されている。2238は第3層（近世耕土）から出土した。京都系緑釉陶器底部である。短い高台が付き、高台畳付から高台裏にかけては露胎である。底部内面には細い沈線が見込みに巡り、内側にはヨコ方向のヘラミガキの後ロクロナデを施す。縁を打ち欠き、円盤状土製品に転用している。2239は第2・3層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した。手握ね整形の土師器小皿である。底部内外面共にユビオサエ整形痕が残る。整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデを施し、端部に弱い稜をもつ。2240はSD330上面の窪みに落ち込む近世耕土中から出土した土師器鍋である。口縁部は直立し、口縁端部は断面三角形に外方に揃まみだされる。口縁部は内外面ともヨコナデ。最大径は体部中位にもつ。体部外面は右上がりの平行タタキ、内面は当て具痕が残る。兵庫津編年壘タイプⅡ類、14世紀前半代と考えられる。2241は瓦質羽釜口頸部片である。第3層（近世耕土）から出土した。直立する口縁部に断面長方形の鐙が水平に付く。内外面共に粗いヨコハケを施し、口縁部内面の端部付近と外面鐙部より上についてヨコナデを施す。兵庫津羽釜タイプB系列Ⅱ類に近いものか。2242は調査区南東部、地形に沿って落ち込む第3層（近世耕土）から出土した瓦質羽釜片である。体部に脚部の剥離痕が残る。口縁部は内傾し、口縁端部は強いヨコナデで窪み、端部は丸く収める。口縁部下に角頭の短い鐙がやや上方に向いて付く。体部外面にはユビオサエ痕が顕著、内面はナデ調整を施し、ハケ調整は認められない。形態からは兵庫津編年羽釜タイプB系列ⅡA類に対応する。14世紀後半代と考えられる。2243は第3層（近世耕土）から出土した瓦質羽釜脚部である。外面にタテハケ、体部との接合部にもハケ目が認められる。2244・2245は土師質土鉢である。2244は崩削残土中から、2245は第3層（近世耕土）から出土した。2246は華南産灰釉（黄釉）陶器四耳壺の口頸部片である。大宰府条坊跡編年の陶器耳壺V-2類に相当する。耳壺V-2類は肩部には横形の四耳を貼付し、各耳を巡って波状沈線が1条巡る。肩部と頸部の境目には断面三角形の凸帯が巡り、両者の境を強調している。頸部は内傾し、口縁部は外反、端部は外へ拡張し上面に面をもつ。口縁部から体部上半にはロクロナデの痕跡が顕著である。内面は、頸部・肩部の境は甘い。横方向にナデが認められ、板状工具を使用したか。胎土は灰白色で精良である。内外面共に灰釉が掛かる。別個体の華南産灰釉陶器2214がSB308P180から出土している。2247は白磁玉縁口縁碗、体部下半以下を欠く。第3層（近世耕土）から出土した。大宰府編年白磁碗Ⅳ類である。玉縁は下側への肥厚はない。2248は第2・3層（近現代の旧耕土・近世の耕土）から出土した。同安窯系青磁碗である。体部は丸く口縁部の外面には浅い沈線状の凹み、内面には体部との境に界線がある。外面には6本の櫛目、内面には文様の一部が認められる。大宰府分館 同安窯系青磁碗Ⅰ-1c類に属す。12世紀中頃～後半の時期と考えられる。2249は調査区北西隅第2・3層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した。龍泉窯系青磁碗底部である。内面及び外面高台外側まで施釉、畳付及び高台裏は露胎である。内面に印花が薄ら認められる。外縁が打ち欠かれ円盤状にされている。2250は調査区北西隅第2・3層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した青磁碗である。体部下半以下が残る。高台際から体部が外方に開く。外面は上部に釉が残る以外は高台裏まで露胎である。見込みに蛇の目輪刺ぎ、内面にもロクロケズリのカンナ痕が認められる。

第4節 石器 (図版75・写真図版92・93)

ナイフ形石器と石鏃といった打製石器と砥石類が出土している。12点を実測し、種類ごとに記述している。なお、70区SB305のP01・P05で検出した礎石(S213・S214)は写真のみ掲載している。

ナイフ形石器 (S201)

77区のピットSB306P136付近から出土した。金山産サヌカイト製の国府型ナイフ形石器である。表面は風化していると共に、上端に新しい欠損も認められる。

石鏃 (S202～S205)

S202～S205は石鏃である。いずれも76区から出土しており、サヌカイト製である。S202は平面形がほぼ正三角形を呈する。先端及び基部両端には凹圧剥離を施しているが、端部にはぶく終わる。鏃身断面は薄く、大きな剥離面を残す。SK624から出土している。S203も平面形がほぼ正三角形を呈する。鏃身断面は薄い菱形を呈し、鏃身中央に鑄が形成されている。SK655から出土している。S205は平面形が二等辺三角形を呈する。大きな剥離面を残したまま、周縁を調整し刃部と基部を形成しており、断面形は不整形となっている。基部片側を欠損する。SK606から出土した。以上3点は平基式である。S204は凹基式である。基部の繰り込みは浅く、片側の逆刺を欠損する。側辺は途中までほぼ平行して伸び、先端部付近で丸みを帯びて端部を形成する。先端をわずかに欠損している。鏃身断面は薄い杏仁形を呈する。SK700から出土している。

砥石 (S206～S210)

S206～S210は研磨により平滑化した面を持つことから、砥石と考えている。形状は多様である。S206は扁平な亜角鏃で片側端部を欠く。上下両面とも使用により平滑化している。77区から出土している。S207は方柱状を呈する小型の砥石である。上下両面を使用し、削痕が認められる。77区から出土した。S208は片端が欠損し、平面形が長方形を呈する。上面から右側縁にかけてよく使用している。70区から出土している。S209は両端を欠くうえ、上面と右側縁のみが残存したものだが、本来は据え置いた大型の砥石と考えられる。残された2面とも使用しているが、上面の平滑化が著しく、主たる機能面は上面と考えられる。77区から出土した。S210は機能面1面が細長く残された砥石である。最終的な形態は板状を呈する。77区のSB308P180から出土した。

敲石 (S211)

S211は棒状を呈する礫を使用した敲石である。片側の端部に敲打痕が認められる。反対側の端部には一部に平滑化した箇所があるため、磨棒状の使用も考えられる。76区から出土した。

器種不明 (S212)

S212は器種不明の石器である。薄い板状の粘板岩の両面が平滑化しており、側縁に押圧剥離を施していると考えられるため、石器とした。75区から出土している。

第5節 金属器 (図版76・写真図版93)

釘・その他の鉄製品と鉄滓が出土している。種類ごとに記述していく。

鉄製品 (M201～M205)

M201は鉄釘である。頭部と先端部を欠くが、断面が方形を呈する角釘であると考えられる。77区のSK793から出土している。M202も鉄釘である。頭部は一部を欠損するが蔽き曲げて作り出す。断面方形の角釘で先端に向から細くなる。77区のSB307P176から出土した。

M203は棒状を呈する鉄製品である。両端が尖り、片方が大きく鉤状に曲がっている。断面はほぼ円形を呈する。70区から出土した。

M204は刀子の刀身部である。断面形は三角形を呈し、70区から出土している。

M205は板状を呈する鉄製品の一部である。錆び膨れで大きく変形しているものの、緩やかに屈曲しており、鍋・やかんなどの胴部である可能性がある。77区から出土した。

鉄滓 (M206～M214)

鉄滓は表土・包含層から出土したものが大半を占め、所属時期は不明である。

M206・M207は76区、M208～M214は70区からの出土である。比重を計測していないため、正確な数値は不明ながら、体積/重量比でグルーピング可能と考えられる。

M209・M211が比較的軽いグループ、M212～M214が重いグループに当たると考えられる。

重いグループに当たるM212～M214はいわゆる楕円形で、断面が明確な凹形で底部が尖り気味である。いずれも70区のピットから出土している。

M212はSA304P02から、M213とM214はSB305P09から出土している。

第5章 自然科学的調査の成果

第1節 池ノ下遺跡胎土分析（薄片法）

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

姫路市苦福地先に所在する池ノ下遺跡は、中播丘陵南端に近い播磨平野西部、夢前川下流域左岸の沖積低地上に位置する。調査区のうち、北部の76区は段丘上に位置し、その南東側の73区以下は沖積低地上に位置する。発掘調査では弥生時代後期後半から古墳時代初頭とされる粘土探掘坑が検出され、それらに伴う土器などの遺物が出土している。

今回の分析調査では、粘土探掘坑より出土した土器の材質(胎土)の特性を明らかにし、調査区内の堆積物および周辺地質との比較から、当該期の土器生産について検討する。

2. 試料

試料は、池ノ下遺跡の粘土探掘坑より出土した弥生時代後期後半とされる土器の甕・壺の破片7点と比較対照試料として調査区内より採取された堆積物5点の合計12点である。各試料には、試料番号1～12が付されており、試料番号1～7は土器片、試料番号8～12は堆積物である。各試料の出土遺構などは、一覧にして第2表に示す。

第2表 分析試料一覧

試料番号	報告番号	調査番号	種別	器種	出土地区	出土遺構	時期
1	2017	2007107	土器	甕	76	粘土探掘坑 SK618	弥生時代後期後半
2	2019	2007107	土器	甕	76	粘土探掘坑 SK623	弥生時代後期後半
3	2028	2007107	土器	甕	76	粘土探掘坑 SK680	弥生時代後期後半
4	2029	2007107	土器	壺	76	粘土探掘坑 SK685	弥生時代後期後半
5	2036	2007107	土器	壺	76	粘土探掘坑 SK720	弥生時代後期後半
6	2038	2007107	土器	甕	76	粘土探掘坑 SK730	弥生時代後期後半
7	2043	2007107	土器	甕	76	粘土探掘坑 SK737	弥生時代後期後半
8	-	2007107	土	-	76	SK616底	
9	-	2007107	土	-	76	SK637・SK638	
10	-	2007107	土	-	76	-	
11	-	2007107	土	-	76	-	
12	-	2007107	土	-	76	SK606とSK634の間	

3. 分析方法

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断し(堆積物については樹脂で固化した後切断)、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用いて観察し、胎土に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成等を明らかにした。なお、土器胎土および赤玉の薄片のデータの呈示は、松田ほか(1999)が示した仕様に従う。砂粒の計数は、メカニカルステージを

用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

4. 結果

結果を第3表、第4～12図に示す。胎土中の砕屑物について、鉱物・岩石の種類構成、粒径組成、砕屑物の割合の順に述べる。

1) 鉱物・岩石の特徴

土器試料7点は、全体的に計数された砕屑物の粒数が少ないために、試料によって各種類の1粒あたりの評価が大きく異なる。したがって、その割合をグラフにすると各試料それぞれ異なる特徴を示すように見えるが、第3表に示された各鉱物や各岩石片の出現傾向からは、7点の試料に共通する特徴を見出すことができる。鉱物片は石英が多い傾向にあり、少量の斜長石を伴い、試料によっては微量のカリ長石や角閃石を含む。岩石片は、凝灰岩と多結晶石英が多い傾向にあり、微量の花崗岩類と珪化岩を伴い、試料によってはチャートや頁岩などの堆積岩類を極めて微量含む。さらに各試料ともにバブル型の火山ガラスを少量含むことも共通する特徴とされる。

堆積物試料の特徴は、試料番号12以外の4点にバブル型火山ガラスが含まれることである。特に試料番号8と10には多量に含まれている。また、火山ガラス以外の砕屑物では、試料番号12も含めた5点の試料において、鉱物片の種類も岩石片の種類も、土器試料とほぼ同様の傾向を示す。

2) 粒径組成

前述したように、土器試料では計数された砕屑物全体の粒数が少ないために、粒径組成においても試料によるばらつきが大きい。したがって、粒径組成の詳細な評価はできないが、土器試料の全体的な傾向としては、中粒砂および細粒砂の割合が高いとみることができる。

堆積物試料については、極細粒砂の割合の高い傾向が認められる。極細粒砂のうち多くを植物珪酸体が占めているが、それを除いても石英の鉱物片や火山ガラスに極細粒砂の多い傾向が認められる。

3) 砕屑物の割合

土器試料では、試料番号3と4以外の5点は概ね10%前後を示す。試料番号3は、それよりも多く、20%程度を示し、試料番号4はそれよりも低い5%程度を示す。

堆積物試料では、試料番号11と12は土器試料と同程度の10%前後を示すが、他の3点の試料は15～20%であり、土器試料に比べると若干多い。

5. 考察

分析結果で述べたように、土器試料の胎土における鉱物・岩石の種類の出現傾向は、調査区内で採取された堆積物のそれと非常によく類似する。このことは、土器試料の原材料には、周辺堆積物と同様の地質学的背景を有する地域の堆積物が使用されている可能性が高いことを示唆している。

猪木(1981)や山元ほか(2000)などによれば、調査区背後の中播丘陵は、中生代白亜紀後期の流紋岩・デイサイト質の凝灰岩により構成されており、丘陵内には調査区北方の板山岩体に代表されるような角閃石黒雲母花崗閃緑岩からなる白亜紀～古第三紀の貫入岩体が点在する。また、凝灰岩中には、ロウ石

鈎床などを胚胎する塊状鈎床が散在し、この鈎床には珪化岩体が伴われている。さらに、中播丘陵背後の中国山地東南端部の産地には中生代ペルム紀の堆積岩類からなる超丹波帯と呼ばれる地質が分布している。そして、火山ガラスについては、丘陵の縁辺に形成された山麓緩斜面堆積物中に始良Tnテフラ(A T:町田・新井, 1976)や鬼界アカホヤテフラ(K-Ah:町田・新井, 1978)といったいずれもバブル型火山ガラスを主体とするテフラ層が確認されている。調査区の位置する播磨平野西部には、夢前川をはじめとする諸河川により、これら地質に由来する砕屑物が移動して混在し堆積することによって、今回の土器胎土や堆積物に認められる鈎物・岩石の出現傾向を形成していると考えられる。したがって、今回の土器試料7点は、いずれも播磨平野西部の堆積物を材料として作製されたと考えられる。

なお、土器試料と堆積物試料との関係についてより詳細にみれば、出現傾向は一致するものの各鈎物や岩石片の割合、粒径組成および砕屑物の割合まで全て一致するものはない。一般には土器の素地土(成形・焼成直前の土)に、自然の堆積物が単味でそのまま利用されることはないと言われ、堆積物と素地土の間には水箆や混和材の添加など、砕屑物の除去や添加という調整過程が加わっていると想定される。本分析調査における土器試料と堆積物試料との間に認められる各組成の違いにも、そのことが表れていると考えられる。

引用文献

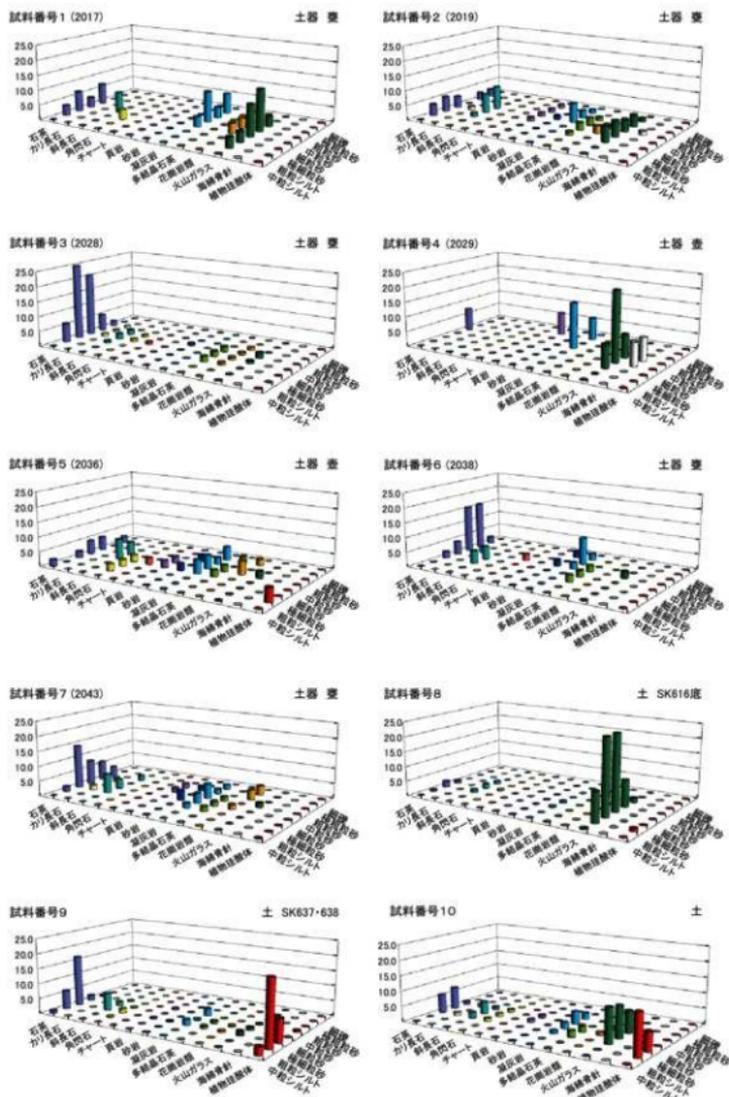
- 猪木幸男 (1981) 20万分の1地質図幅「姫路」. 地質調査所.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p. 339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p. 143-163.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 (1999) 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察—岩石学的・堆積学的による—. 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, p. 120-121.
- 山元孝広・栗木史雄・吉岡敏和 (2000) 龍野地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 66p.

第3表 薄片観察結果(1)

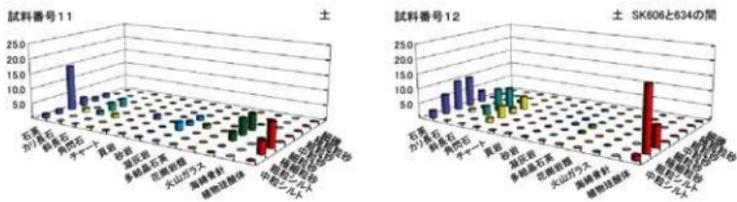
試料番号	砂粒区分	砂粒の種類構成																	合計									
		鉱物片							岩石片							その他												
		石英	カリ長石	斜方輝石	斜方輝石	角閃石	緑化角閃石	黒雲母	シムコン	燧石	不透明鉱物	チャイト	頁岩	砂岩	凝灰岩	凝結凝灰岩	多結晶石英	流紋岩・デイサイト		花崗岩類	結核岩	頁岩	凝灰岩	火山ガラス	酸化鉄結核	有機質	植物遺体	
1	細砂																										0	
	極細粒砂												2														2	
	細粒砂											1											1				2	
	中粒砂	2										3											1				11	
	粗粒砂	1	2									1			1									3			8	
	極粗粒砂	2				1																		1			4	
	粗粒シルト	1																					1			2		
	中粒シルト																										0	
基質																										230		
孔隙																										17		
備考	基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。細粒サイズの黒雲母の鉱物片もきわめて微量含まれる。																											
2	細砂																										0	
	極細粒砂	2									1	1											2	1	2		9	
	細粒砂	2									1	2			1									1	3		10	
	中粒砂											8															8	
	粗粒砂											1	1	5			2	1						4	3		1	24
	極粗粒砂	3	1	5								1				2	2							2	4	1	21	
	粗粒シルト	4	1													1									4		10	
	中粒シルト	3																									3	
基質																										589		
孔隙																										7		
備考	基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。																											
3	細砂																										0	
	極細粒砂																										0	
	細粒砂	2	1																					3			7	
	中粒砂	6	1	2			1						1			2	1							4	2	1	21	
	粗粒砂	23	1	2			1						1			2	1							2	1		34	
	極粗粒砂	36	1													2	1							1			41	
	粗粒シルト	7																									7	
	中粒シルト																										0	
基質																										376		
孔隙																										15		
備考	基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。																											
4	細砂																										0	
	極細粒砂												1	1									1				3	
	細粒砂																										0	
	中粒砂	1														2								1		1	5	
	粗粒砂																								3		1	4
	極粗粒砂																							1			1	
	粗粒シルト																										0	
	中粒シルト																										0	
基質																										337		
孔隙																										20		
備考	基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。																											

第3表 薄片観察結果(2)

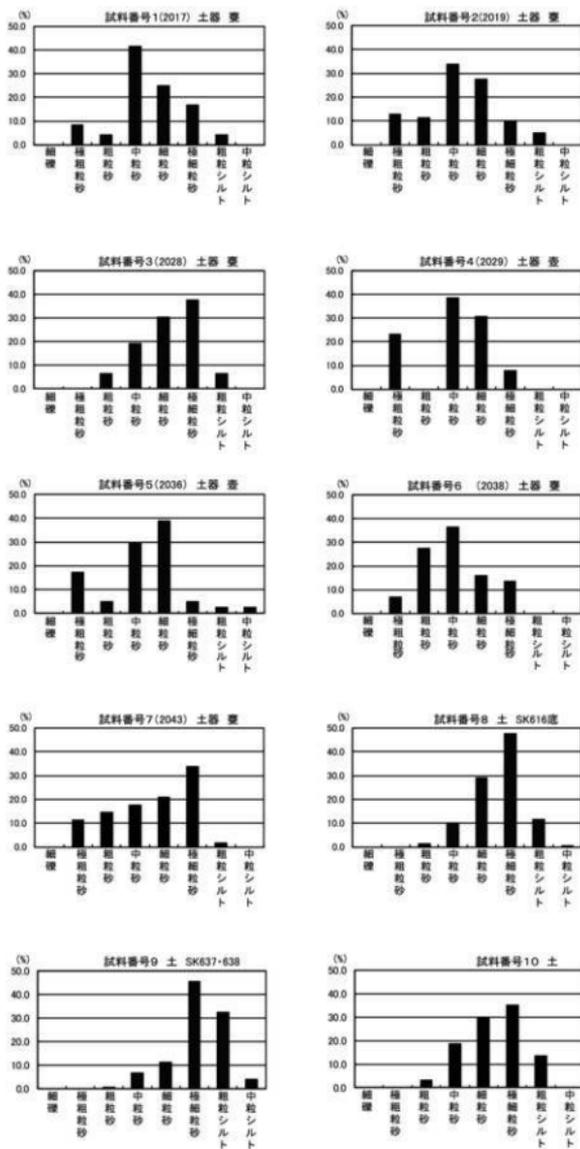
試料番号	砂粒区分	砂粒の種類構成																	合計														
		鉱物片							岩石片							その他																	
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	黒斜輝石	角閃石	緑色角閃石	黒雲母	白雲母	シムコン	燧石	不透明鉱物	チャイト	頁岩	砂岩	凝灰岩	凝結凝灰岩		流紋岩・デイサイト	多結晶石英	定常岩類	結核岩	黒石英	変質岩	結晶岩	珪化岩	火山ガラス	炭質物	酸化鉄結核	植物遺骸	菌類骨針	
2037	細砂																															0	
	極細粒砂	1														2		1	1						1	1						7	
	細粒砂														1	1																2	
	中粒砂	2	2	1														1	2								1					12	
	粗粒砂	2	3		1									1	1	2		1	1								2		1			18	
	極粗粒砂	1				1																										2	
	粗粒シルト						1																							2	3		
	中粒シルト	1																														1	
	基質																																538
	孔隙																																8
備考	基質はセリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。																																
2039	細砂															1	1															0	
	極細粒砂	1																															3
	細粒砂															4										1							12
	中粒砂	7	1										1	1	1			1								3	1					18	
	粗粒砂	2	2																1							2						7	
	極粗粒砂	1	2								1							1								1						6	
	粗粒シルト																															0	
	中粒シルト																																0
	基質																																289
	孔隙																																8
備考	基質は短長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。角閃石の一部が弱蝕化している。																																
2044	細砂																															0	
	極細粒砂																1			2						1			3				7
	細粒砂	2	1											1	1	1			2						1							9	
	中粒砂	4	1											1	3			1									1					11	
	粗粒砂	5	2												2	2			1	1												13	
	極粗粒砂	3	1	4	1												1		1							1	1	1				21	
	粗粒シルト	1																														1	
	中粒シルト																															0	
	基質																																442
	孔隙																																6
備考	基質は黒母岩、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。角閃石の一部が弱蝕化している。																																
8	細砂																															0	
	極細粒砂																																0
	細粒砂																											3					3
	中粒砂				2																						18						20
	粗粒砂	2	3		1										1												51					58	
	極粗粒砂	4	2													1		1								87						95	
	粗粒シルト	1																								20			2	23		23	
	中粒シルト																											1				1	
	基質																																778
	孔隙																																24
備考	基質は短長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。火山ガラスは無色透明のバブル型を主体とし、まれに軽石型を伴う。基質には有孔虫、植物遺骸などの微化石が認められる。																																



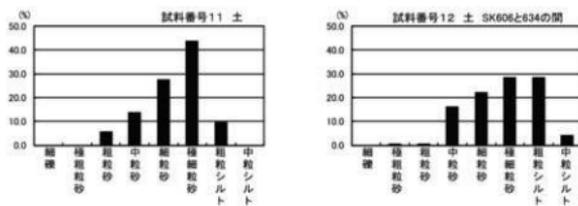
第4図 胎土中の碎屑物の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(1)



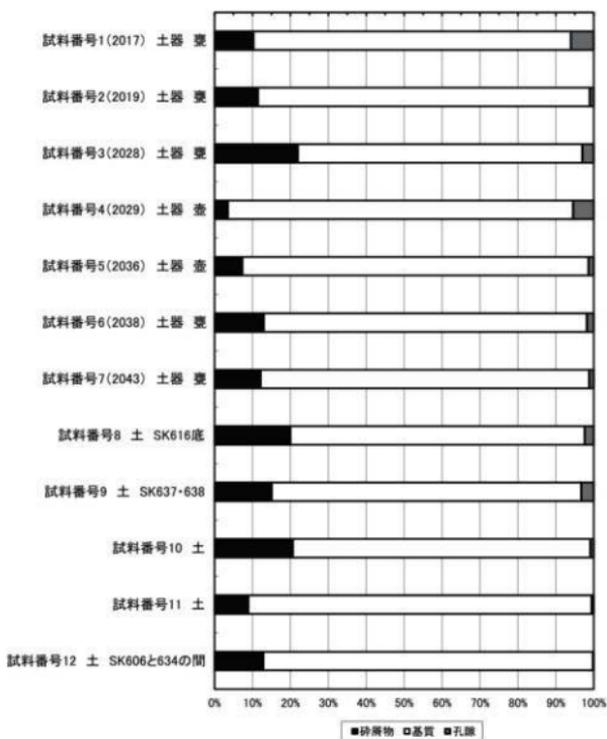
第5図 胎土中の碎屑物の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(2)



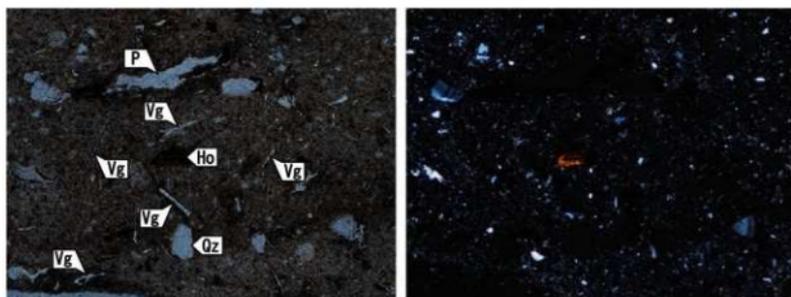
第6図 胎土中の碎屑物の粒径組成(1)



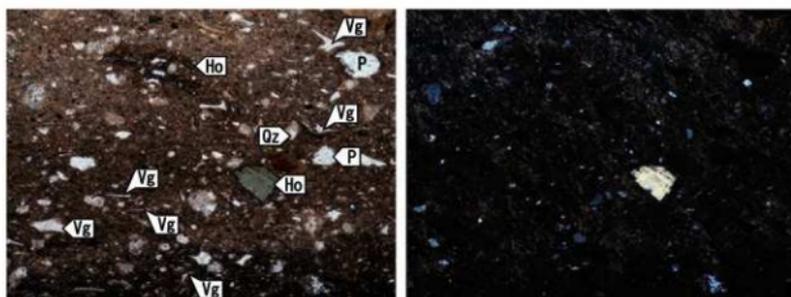
第7図 胎土中の碎屑物の粒径組成(2)



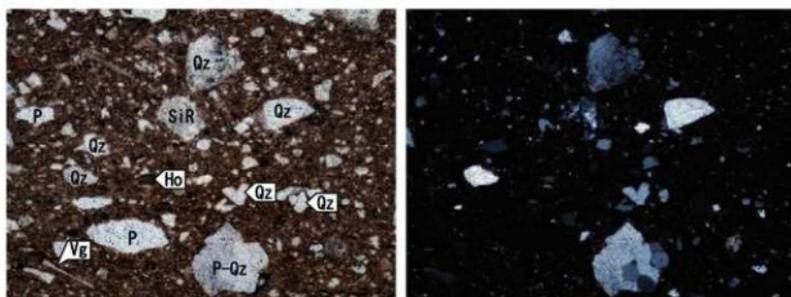
第8図 碎屑物・基質・孔隙の割合



1. 試料番号1 (2017 土器 甕 粘土探掘坑 SK618)



2. 試料番号2 (2019 土器 甕 粘土探掘坑 SK623)



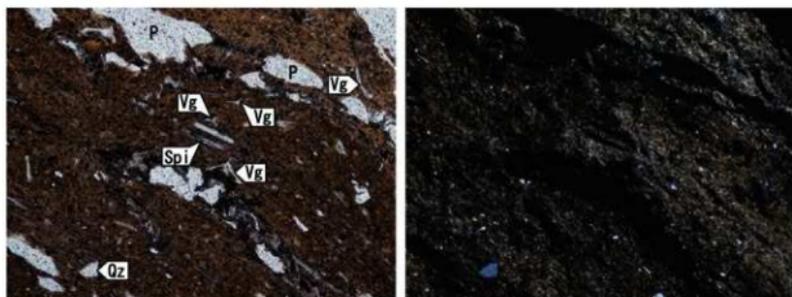
3. 試料番号3 (2028 土器 甕 粘土探掘坑 SK680)

Qz: 石英, Ho: 角閃石, P-Qz: 多結晶石英, SiR: 珪化岩, Vg: 火山ガラス,
P: 孔隙。

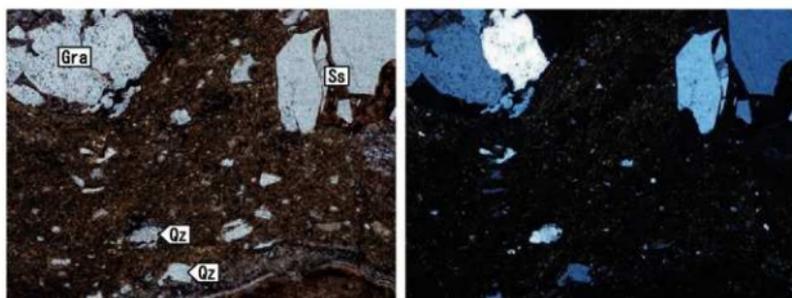
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

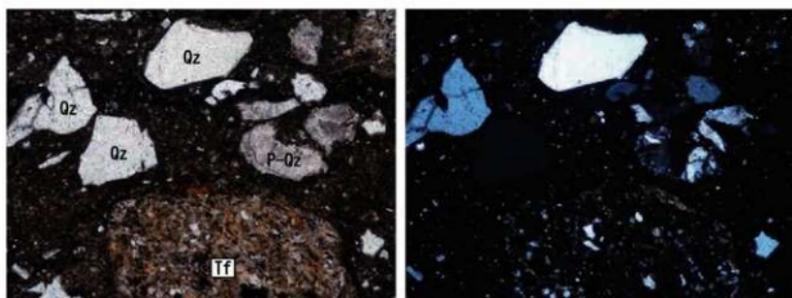
第9図 胎土薄片(1)



4. 試料番号4 (2029 土器 壺 粘土探掘坑 SK685)



5. 試料番号5 (2036 土器 壺 粘土探掘坑 SK720)



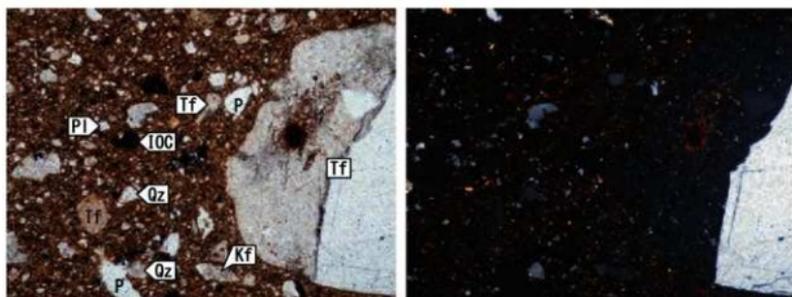
6. 試料番号6 (2038 土器 壺 粘土探掘坑 SK730)

Qz:石英, Ss:砂岩, Tf:凝灰岩, P-Qz:多結晶石英, Gra:花崗岩,

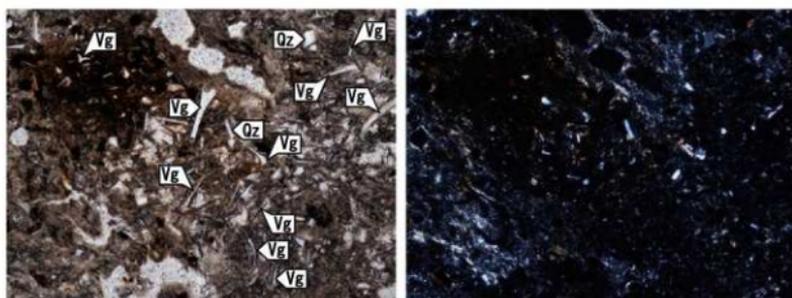
Vg:火山ガラス, Spi:海綿骨針, P:孔隙。

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

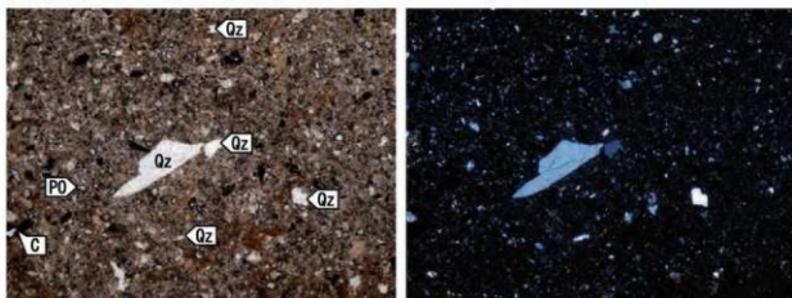
0.5mm



7. 試料番号7(2043 土器 甕 粘土採掘坑 SK737)



8. 試料番号8(土 SK616底)



9. 試料番号9(土 SK637-638)

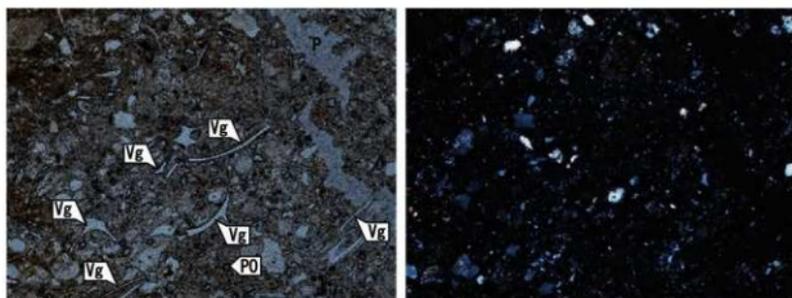
Qz: 石英. Kf: カリ長石. Pl: 斜長石. Tf: 凝灰岩. Vg: 火山ガラス.

IOC: 酸化鉄結核. PO: 植物珪酸体. C: 炭質物. P: 孔隙.

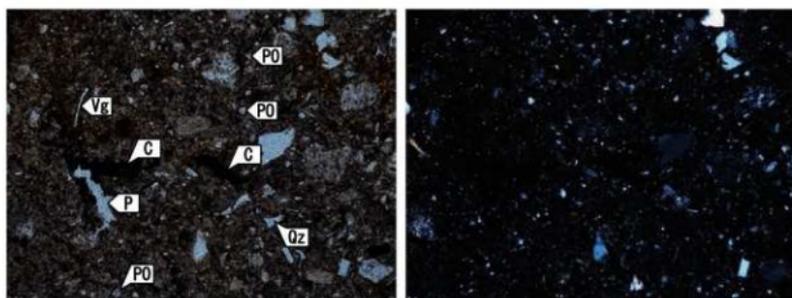
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

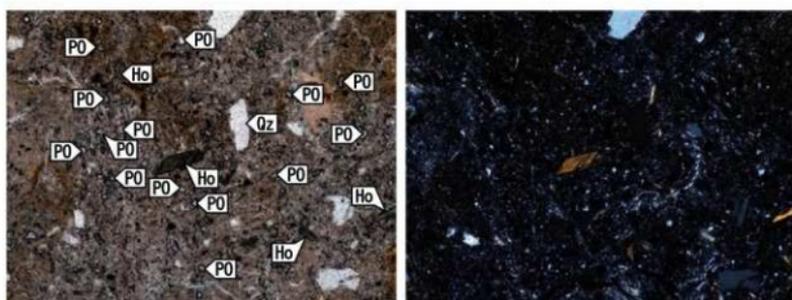
第11図 胎土薄片(3)



10. 試料番号10(土)



11. 試料番号11(土)



12. 試料番号12(土 SK606と634の間)

Qz:石英. Ho:角閃石. Vg:火山ガラス. PO:植物珪酸体. C:炭質物. P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

第2節 池ノ下遺跡における樹種同定

一般社団法人 文化財科学研究センター

1. はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2. 試料と方法

試料は、77区 P220、P29 より出土した中世の柱材 2点である。試料は結果第4表に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2: Nikon）によって40～1000倍で観察した。切片をマウントクイックアクエオス（Mount-Quick "Aqueous" : 大道産業）で封入し、プレパラートを作製する。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

第4表 池ノ下遺跡における樹種同定結果

報告番号(処理No.)	種別	器種	出土地区	出土遺構	時期	結果(学名/和名)	
W201(2017078-1)	建築材	柱	77区	SB309P220	中世前期	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
— (2017078-2)	建築材	柱	77区	SB311P29	中世前期	<i>Chamaecyparis</i>	ヒノキ属

3. 結果

第4表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。

2) ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科

横断面、放射断面、接線断面共にヒノキ科の特徴を示し、分野壁孔は1分野に2個存在するが、分野壁孔の型が腐朽により不明瞭なものはヒノキ属とした。

4. 所見

同定の結果、池ノ下遺跡の柱材はヒノキ1点、ヒノキ属1点であった。

ヒノキは木理通直、肌目緻密で強靱であり、耐朽・耐湿性も高い大きな材が取れる良材で、建築などに広く用いられる。なお、ヒノキは古くより建築用材に利用されており、また『日本書紀』ではヒノキ材が宮殿を造営するための用材として推奨されており、上流階級の邸宅などにも用いられてきた。また、

現存する法隆寺や唐招提寺などの大寺院がヒノキを用いて造営されている。ヒノキ属にはヒノキやサワラなどがあり、いずれの樹木も木理通直で耐湿性が高い良材で、加工し易い。また、ヒノキないしヒノキ属の木材は、律令期以降、瀬戸内から東海地方では、流通し最もよく用いられる材である。これらの樹木は大きな材がとれ木理通直で耐湿性に優れ、柱材として適材である。

同定された樹種はいずれも温帯に分布する樹木であった。いずれの樹木も適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育し、ヒノキ属の中には溪流沿いを好んで生育する種もある。いずれの柱材も当時瀬戸内によく流通する木材であることから、素材や成品が流通によってもたらされたと考えられる。

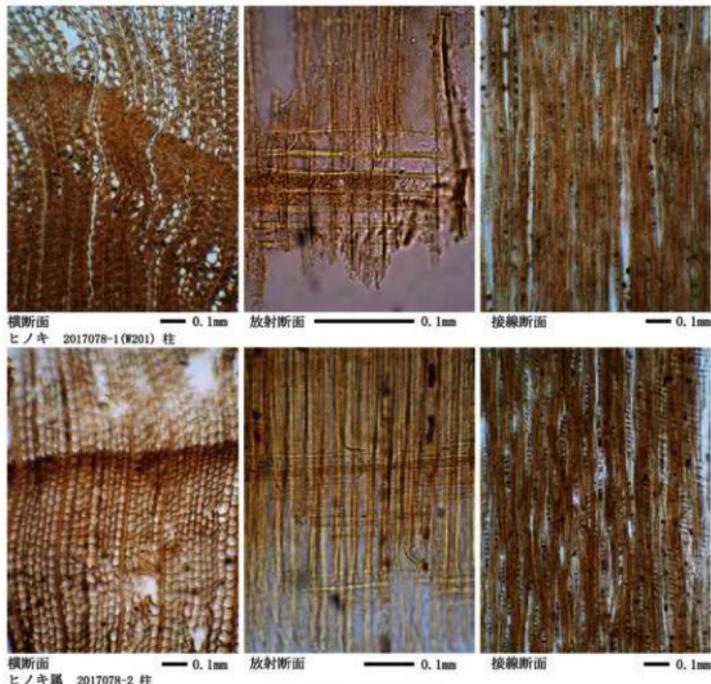
参考文献

伊東隆夫・山田昌久 (2012) 木の考古学, 雄山閣, p. 449.

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p. 20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p. 296.



第13図 池ノ下遺跡の木材

第6章 調査の成果

第1節 弥生時代から古墳時代について

1. 弥生時代から古墳時代の遺構

今回の池ノ下遺跡の調査で弥生時代から古墳時代の遺構は弥生時代中期の遺構と弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての大きく2時期の遺構が見つかった。ほかにも可能性がある遺構も存在するが、時期を確定できる遺物が存在していないため、ここでは時期が明らかなものについて検討する。

弥生時代中期の遺構は70区の溝SD303があり、遺物量は少ない。区画整理調査区との位置関係や断面形状、埋土からみて55区の中央部の溝SD169から続いていると考えられる。ほかにも区画整理調査区から続くと考えられる溝などが存在するが、遺物が出土していないため、明確ではない。遺物量が少ないあるいは出土しないのは、居住域から離れているためか、生産域である可能性が高い。

弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての遺構は75区・76区・77区で検出した土坑群である。土坑群の詳細については、次項で検討する。

2. 75区・76区・77区の土坑群

今回調査した池ノ下遺跡の調査のうち、75区・76区・77区の土坑群から出土した土器を検討し、遺構の性格を明らかにしたい。

土坑群は76区の東半部のA区・B区が中心で密度が濃く、切りあった状態で検出しており、東方向の75区、西方向の77区に離れるにしたがって、密度が希薄くになり単独のものが多くなる。

これらの土坑から出土している土器の時期は古いものにはSK715の甕2035があり、弥生時代後期前半であるが、下層の河道に伴う可能性が高い。新しものにはSK738の甕2045があり、布留併行期に下る。しかしそのほとんどは後期後半に位置づけられる。

池ノ下遺跡の前回区画調査で発掘調査を行った当該時期の遺構はほとんど古墳時代初頭であり、今回報告した75区・76区・77区の土坑群は弥生時代後期後半であり、時期が異なる。したがって、粘土採掘にきた集団の集落は別遺跡もしくは別地点に位置していると考えられる。

前回の区画整理事業に伴う発掘調査でも北側に位置する68区で古墳時代中期の土坑群を調査しており、粘土採掘土坑の可能性を指摘している。調査を実施した地点では古墳時代中期も少ない傾向にある。

出土点数全53点で、器形別点数は甕41点、壺8点、鉢2点、高坏2点で、比率は甕が77%と非常に高い。この粘土採掘土坑群の甕の比率が高いという特徴は西脇市津万遺跡群、加西市丸山ノ下遺跡、朝来市筒江浦石遺跡、丹波市板井寺ヶ谷遺跡等の遺跡と同様である。

甕の使用痕を観察すると、2014・2017・2019・2032は吹きこぼれが存在しており、2010・2013・2031・2032・2041は内部にコゲが付着しており炊飯に使われた痕跡を残す。また、SK622から出土した甕2018の内面の一部にケズリ滓が付着しており、土器作成から使用・廃棄まで短期間であった可能性が高い。

今回、76区の土坑群の機能や性格の一端を知るために、土器および土坑群周辺の各土層から採取した堆積土のサンプルと土坑群出土土器の胎土分析を実施した。結果は第5章第1節に報告したとおりであり、堆積土のサンプルは鉱物・岩石組成や粒径組成、碎屑物の割合によっていくつかのパターンに分かれるものの、鉱物・岩石組成は当地域の特性が明らかになった。これらの堆積土のサンプルと土坑群出

土器の胎土分析の結果を比較すると、一部の組成鉱物や粒径組成比率や砕屑物の割合にわずかな違いが認められる。しかし、ここで採取した堆積土は水簾したり、混和材を添加調合して土器素地を作ったと考えられる。その場合も混和材の採集地は鉱物・岩石組成の分析から池ノ下遺跡の近接域である。

以上、土器の出土状況や出土器種構成、土器に残された使用痕跡、胎土分析からこの土坑群は粘土を採掘するための土坑であることが検証できた。これはすでに別稿で地形や遺構の状況・木器の出土状況などから粘土採掘土坑であると検討された結果を追認したことになる。

今後、粘土採掘者の集落を検討し、行動領域を解明する必要がある。

第2節 古代から中世の遺構と遺物

1. 各調査区の概要

今回の調査では古代・中世の集落跡、水田遺構を検出し、各時期の遺物が出土している。以下、各区の遺構・遺物の概要に触れておく。

70区からは、中世前期の掘立柱建物群・柵列などの遺構、須恵器碗・皿、輸入磁器などの遺物が出土した。

71区からは中世前期の須恵器小皿・碗が出土しているが、その時期の遺構は明確ではない。

72区では現地表に残る条里型地割 N23° E に近い方位を取る水田畦畔痕跡が検出されている。

73区・74区では遺構・遺物とも明確ではない。

75区では、古代の遺構・遺物が若干認められる。また、70区の中世前期の建物SB303～SB305・柵列SA303・SA304・SA306とほぼ同じ向き（もしくは直交する）のN17° Eにとる水田畦畔痕跡が検出されている。

76区・77区では古代～中世の建物跡・土坑・溝、土師器・須恵器が検出されている。

2. 古代の遺構と遺物について

8世紀を中心とした古代の集落跡は、77区を中心とする部分にほぼ集まり、76区では土坑・溝、規則性はないが、柱穴が検出されている。75区ではピットが検出されている。

77区からは、正方位に向きをとる大型の方形掘形をもつ建物跡が2棟（SB306・SB307）検出されている。奈良時代の遺物としては、円面硯・円形硯・緑釉陶器・墨書土器や漆塗りのパレットに使用したと考えられる須恵器片が出土している。これらの大半は、76区・77区の洪水砂起因の土壌層から出土している。大宰府政庁周辺官衙跡に複数の出土例を見る円形硯を加え、これらの出土遺物から官衙的な性格をもつ建物群が77区を含め周辺に存在した可能性が考えられる。

75区・76区では集落跡は認められないが、奈良時代の遺物が出土していることに加え、75区では建物柱穴の可能性があるSK516が、76区では8世紀代の土坑SK699が検出されている。

池ノ下遺跡では区画整備に伴う調査において、64区及び70区の北側にある55区の東南端から建物跡等が検出されている。また、山裾に近い61区からは多量の遺物が出土しているが、大規模な建物跡などは見つかっていなかった。今回の調査成果から、律令期の遺構は、少なくとも77区周辺から76区・75区の北側付近に広がっていたと考えられる。

調査地点の北側、山裾の現集落部分には正方位の条里型地割が残っている。周辺に官衙が存在した可能性が高く、今回の調査で検出された建物跡・遺物から77区周辺がその末端に当たる可能性が浮上した。

但し、8世紀代の建物と同じ正方位を取る水田遺構などは明確ではない。70区と71区の間にある67区のSD255、76区の西半部において、8世紀代の遺構が認められる部分では東西方向に掘削されない部分があることや、区画整備調査66区の柱穴列が正方位をとることなどから推して、完新世段丘上に広範囲に広がる池ノ下遺跡の中に、部分的に正方位の地割が残る可能性がある。

3. 中世前期の遺構と遺物について

中世前期の遺物は70区・71区、76区・77区から出土している。概ね12世紀から14世紀前半の時期幅をもつが、その多くは13世紀代である。

70区～71区では12世紀代～14世紀代にかけて、76区～77区では12世紀中頃～13世紀後半代の土器が顕著であり、14世紀代は少ない。

中世前期の遺構としては集落跡が調査区の東西端、70区と77区から検出されている。

70区では、調査区の西端にある掘立柱建物跡SB304の規模が大きく、根石を伴う柱通りのしっかりした建物群が検出されている。SB304は床面積が53.6㎡以上を測り、SB303・SB305といった付属屋を伴うこと、櫓列SA301・SA303・SA304・SA306による西側・南側との区画性も見受けられる。荘所などの機能をもった在地領主層の屋敷地が存在した可能性が考えられる。

これらの建物・櫓列・溝の大半は、N17°E前後の方位を持ち、現地表に残るN23°Eの方位ではない。対して、後述するが、東端において検出された掘立柱建物跡・溝はN23°Eの方位に近い方位をとる。

N17°Eに方位をもつ遺構は、75区の畦畔痕跡がある。これらも、70区のSB304・SB305、櫓列SA301やSA306とほぼ同じ方位を持ち、中世前期の可能性が高い。

以上の点を勘案すると、中世前期にN17°E前後の方位の遺構は建物単体ではなく、生産域にも及んでおり、N17°E前後の地割が70区～75区にかけて広範囲に存在した可能性がある。

77区で検出・復元された建物跡4棟は何れも規模が小さく、柱通りもしっかりしない建物が多いが、調査範囲が限定的であり、北側や東側・南側に広がる可能性が高く、名主や在地領主の屋敷地の一角であった可能性がある。これらの建物群と重複して13世紀前半代の亀山焼甕の埋甕が検出されており、集落の時期の一点を知ることができる。また、今回の出土遺物の中に、華南産の四耳壺が含まれている点は注目される。中世前期での華南産輸入陶器は、県下では在地領主や名主層クラスの屋敷地から出土することが多く、池ノ下遺跡においても古網干遺跡など周辺の中世の港湾からもたらされた可能性が高い。

77区の中世の掘立柱建物群は、軸方位をN10°E前後に取り、条里型地割N23°Eに取るものがなく、山裾で認められる正方位の地割の影響を受けた可能性が考えられる。

70区と71区の間にある67区や、72区・75区では中世前期と考えられる水田畦畔痕跡と溝が見つかり、中世には生産域になっていたものと考えられる。

4. 中世前期の遺構と現地表に残る条里型地割について

中世前期の遺構の中で、現在の地表面に残るN23°Eの条里型地割に近い方位を持つものとして、70区の東端の掘立柱建物跡SB301・SB302・溝SD302及び西端の櫓列SA305が挙げられる。

また、72区において検出した第1面の溝SD318と水田畦畔の多くはN22°Eに方位をとり、現在の地表に残る条里型地割N23°Eに近い。区画整備に伴う『池ノ下遺跡』で報告された掘立柱建物の多くは、軸方位をN23°E前後にとる中世前期の建物であり、70区の調査結果を勘案すると、N22°Eに方位をとる

72区の第1面 水田遺構の一部もまた、中世前期である可能性が高い。

72区の水田遺構の一部は、現在の地表に残る条里型地割 N23° E よりも更に東 (N38° E) に振り、65区古墳時代後期以降の水田遺構の向きの中に近いものがある。明確なことは不明であるが、区画整備調査 65 区の掘立柱建物跡が平安時代であり、N42° E とやや近い方向性をもつことから、72 区の第1面の水田畦畔の一部は古墳時代後期から古代の間の可能性が考えられる。

第3節 池ノ下遺跡の総括

今回の調査では、調査区の東西両端に集落跡が存在し、中央西半には粘土採掘坑、中央から東半には水田遺構というように、東西の集落跡の間に生産域を検出している。

池ノ下遺跡の地形分析を行った青木哲哉氏は（青木 2012）、遺跡は沖積低地の完新世段丘に位置しており、今回の調査区には3本の埋没旧河道があり、その間に埋没旧中州が存在するとしている。最も西側の埋没旧河道は75・76区間の現用水路周辺、中央の埋没旧河道は74区に、最も東側の旧河道は70区中央付近を通ると分析している。加えて2017年度の現地踏査によって77区は支流性扇状地の末端に位置すること、72区は完新世段丘と沖積地の境目に位置する可能性があることを指摘している。

今回のバイパス改良工事に伴う調査において遺構を検出したベース面は、概ね、区画整備の調査においても検出している灰白シルトである。各調査区において出現した灰白シルトの出現標高は以下の通りである。西から①77区では北端で3.15m、南側で2.85m、南西端では2.75m、東端では3m。②76区では西側で2.4m、東側でも2.5m。③75区が2.75m。④74区が2.6～2.65m。⑤73区が2.6～2.7m。⑥72区が2.7m。⑦71区が2.85～2.6m。⑧区画整備67区が2.6～2.9m。⑨70区が2.9～3mを測る。標高の若干高い77区から緩やかに下り、76区では全体的に低く、75区では若干高く、74区では低く、若干のアップダウンをもちながら、71区・67区・70区へと高くなることが判る。

ベースの状況に、扇状地・埋没旧河道・埋没旧中州の情報を重ねると、西端の77区は支流性扇状地末端、76区は埋没旧河道、75区西半は埋没旧河道、75区東半は埋没旧中州、74区は埋没旧河道、73区は埋没旧中州、72区は埋没旧中州から沖積地、71区・70区西半にかけては埋没旧中州、70区中央には埋没旧河道、70区東半は埋没旧中州上に立地していると考えられる。

8世紀代の集落と中世の集落は西端の最も安定した支流性扇状地上にあり、埋没旧河道上と考えられる76区西半では各時期の遺構が希薄となる。

76区中央から75区西半は弥生時代末の粘土採掘坑が多数存在する。粘土採掘坑群は、支流性扇状地と埋没旧中州間にある埋没旧河道上の凹部の堆積土を掘削対象としたものと考えられる。

旧河道のある74区～71区・67区は弥生時代～中世にかけて主に水田域として使用されている。

70区西半の埋没旧中州上と東半の埋没旧中州上は、中世前期に入って屋敷地として使用されており、西半部の屋敷地は中央付近の埋没旧河道上にまで広がっていたと考えられる。しかし、東半の屋敷地との間の大半は空地となり、屋敷境の区画や水田などに利用されたと考えられる。

〔参考文献〕青木哲哉 2012.3「第5章 第7節 池ノ下遺跡の地形環境」『池ノ下遺跡』

兵庫県文化財調査報告 第435冊 兵庫県教育委員会

別表1 土器一覽(1)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査 番号	調査 区	遺構	備考	法 量(cm)						分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚		重量(g)
2001	第2図	63	弥生土器	壺	2007107	70	SD300			11.3+	9.0					
2002	第2図	63	弥生土器	壺	2018013	75	SK503		(13.3)	4.2+						
2003	第2図	63	弥生土器	壺	2018013	75	SK512			3.5+	3.7					
2004	第2図	63	弥生土器	壺	2018013	75	SK510			14.5+	4.4					
2005	64	63	弥生土器	壺	2007107	76	SK606			10.9	28.9	5.0				
2006	64	63	弥生土器	壺	2007107	76	SK606			15.9	15.1+					
2007	64	63	弥生土器	壺	2007107	76	SK607				7.7+	5.0				
2008	64	63	弥生土器	壺	2007107	76	SK607			14.7	16.1+					
2009	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK607				6.9+	5.2				
2010	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK612			13.8	15.3+	17.5				
2011	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK612				12.3+	5.2				
2012	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK613			13.7	16.9+					
2013	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK614				4.1+	5.4				
2014	64	64	弥生土器	壺	2007107	76	SK615			14.7	17.6+					
2015	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK618			16.1	12.5+					
2016	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK618		(16.8)	8.1+						
2017	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK618			15.4	19.2+					試料No.1
2018	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK622			13.8	7.0+					
2019	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK623			14.3	20.7+					試料No.2
2020	64	65	弥生土器	壺	2007107	76	SK632		(11.8)	10.5+						
2021	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK644			14.8	5.3+					
2022	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK644				8.7+					
2023	65	66	弥生土器	壺	2007107	76	SK655			12.6	12.1+					
2024	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK655		(23.0)	6.9+						
2025	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK666				11.8+					
2026	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK670				6.9+	4.8				
2027	65	67	弥生土器	鉢	2007107	76	SK673				7.1+	7.8				
2028	65	66	弥生土器	壺	2007107	76	SK680			13.3	26.0+	4.7				試料No.3
2029	65	66	弥生土器	壺	2007107	76	SK685			9.2	19.9+	4.4				試料No.4
2030	65	66	弥生土器	壺	2007107	76	SK687			12.0	16.3+					
2031	65	67	弥生土器	壺	2007107	76	SK701			(14.4)	20.9+					
2032	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK707			15.0	24.5+					
2033	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK708			13.4	11.8+					
2034	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK715				4.2+	4.7				
2035	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK716			14.8	6.0+					
2036	66	66	弥生土器	壺	2007107	76	SK720		(13.8)	8.1+						試料No.5
2037	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK725		(14.0)	18.4+						
2038	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK730			17.0	9.9+					試料No.6
2039	66	68	弥生土器	壺	2007107	76	SK730			15.6	11.8+					
2040	66	69	弥生土器	鉢	2007107	76	SK733		(10.1)	3.8+						
2041	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	SK734				9.7+	4.4				
2042	66	69	弥生土器	鉢	2007107	76	SK734		(24.6)	7.0+						
2043	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	SK737				11.4+					試料No.7
2044	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	SK738				5.7+	3.5				
2045	66	66	土師器	壺	2007107	76	SK743		(12.2)	12.6	5.9					
2046	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	包舍帯		(13.5)	10.4+						
2047	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	南側削溝			3.8+						破産 (12.1)
2048	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	南側削溝				6.7+	5.6				
2049	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	SK652-628 629-657周辺			5.2+	4.8					
2050	66	69	弥生土器	壺	2007107	76	SK652-628 629-657周辺			5.4+	4.7					
2051	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SK794			12.7	5.8+					
2052	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SK794				5.1+	4.5				
2053	第3図	70	弥生土器	高坏	2017078	77	SK794		(19.6)	5.4+						
2054	第3図	70	弥生土器	高坏	2017078	77	SK794				3.1+					
2055	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SD330		(10.3)	2.4+						
2056	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SD330			(14.7)	3.7+					
2057	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SD330		(14.8)	3.5+						

別表1 土器一覽(2)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査 番号	調査 区	遺構	備考	法 量(cm)						分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚		重量(g)
2058	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SD330			2.7+	(5.8)					
2059	第3図	70	弥生土器	高坏	2017078	77	SD330		(17.6)	3.7+						
2060	第3図	70	弥生土器	製造土器	2017078	77	SD330			2.0+	(5.0)					
2061	第3図	70	弥生土器	壺	2017078	77	SD330			4.1+	14.9					
2101	67	71	土師器	小皿	2007107	70	SB301P03		(7.8)	1.2+						
2102	67	71	須恵器	椀	2007107	70	SA302P01		(15.7)	3.5+						
2103	67	71	須恵器	椀	2007107	70	SB305P09		(16.5)	2.6+						
2104	67	72	土師質	羽口	2007107	70	SB305P02			孔徑 3.1	12.5+	10.1	底径 9.7			
2105	67	71	土師器	小皿	2007107	70	P7002		(6.7)	1.2+						
2106	67	71	土師器	小皿	2007107	70	P7006		(7.7)	1.4+						
2107	67	71	土師器	小皿	2007107	70	P7001		(8.3)	1.5						
2108	67	71	須恵器	椀	2007107	70	P7005		(15.6)	3.4+						
2109	67	72	土師器	皿	2007107	70	SK304		(13.7)	2.6+						
2110	67	72	土師器	小皿	2007107	70	SK306		(8.7)	2.0						
2111	67	72	土師器	小皿	2007107	70	SK307		(7.7)	1.4+						
2112	67	72	土師器	小皿	2007107	70	SK301		8.6	1.6	7.8					
2113	67	73	土師器	小皿	2007107	70	SD315		(6.9)	1.3+	(4.8)					
2114	67	73	土師器	小皿	2007107	70	SD315		(8.2)	1.6+	(6.4)					
2115	67	73	土師器	小皿	2007107	70	SD315		(7.5)	1.6+	(5.0)					
2116	67	73	土師器	皿	2007107	70	SD315		(12.6)	2.0+	(7.9)					
2117	67	73	土師器	皿	2007107	70	SD315		(12.6)	2.0+	(9.7)					
2118	67	73	土師器	皿	2007107	70	SD315		(13.0)	2.3+	(9.7)					
2119	67	73	土師質	土埴	2007107	70	SD315			孔徑 (0.4)	4.3	1.6	1.5	9.8		
2120	67	73	土師質	三足脚付羽釜	2007107	70	SD315	(14.9)	6.1+							
2121	67	74	土師質	三足脚付羽釜	2007107	70	SD315		9.9+							
2122	67	73	瓦葺	椀	2007107	70	SD315	(14.9)	3.0+							
2123	67	74	須恵器	椀	2007107	70	SD315	(15.6)	5.1+	(5.3)						
2124	67	74	須恵器	壺	2007107	70	SD315	(22.6)	4.2+							
2125	67	74	白磁	碗	2007107	70	SD315	(15.7)	2.9+							
2126	67	73	須恵器	椀	2007107	70	SD312	15.7	14.7	5.7						
2127	67	74	須恵器	椀	2007107	70	SD312	14.8	4.1+							
2128	67	74	土師器	小皿	2007107	70	SD316	(8.2)	1.5+	(5.2)						
2129	67	74	土師器	小皿	2007107	70	SD314	(7.8)	1.5+	(5.0)						
2130	68	74	土師器	小皿	2007107	70	包含層	8.4	1.5							
2131	68	74	瓦葺	椀	2007107	70	包含層	(4.7)	3.8+							
2132	68	74	須恵器	小皿	2007107	70	包含層	(7.1)	2.0+	(4.8)						
2133	68	74	須恵器	控鉢	2007107	70	壺	(27.7)	4.5+							
2134	68	74	白磁	皿	2007107	71	包含層	(9.8)	2.9	(6.0)						
2135	68	74	瓦	平瓦	2017078	72	包含層				5.9+	7.0+	断面1.8			
2136	68	76	須恵器	杯蓋	2018013	75	SK516		2.3+			つまみ 径2.8				
2137	68	76	土師質	土埴	2018013	75	包含層			孔徑 (0.3~ 0.4)	4.8	1.2	1.0	6.0		
2138	68	76	須恵器	杯蓋	2018013	75	包含層	(19.7)	1.6+							
2139	68	76	須恵器	杯A	2018013	75	包含層	(13.8)	3.0	(10.2)						
2140	68	83	須恵器	杯Aか皿	2018013	75	包含層		0.7+	(10.6)						
2141	68	76	須恵器	杯B	2018013	75	包含層	(16.8)	4.7+							
2142	68	76	須恵器	皿	2018013	75	包含層	(13.8)	3.0	(6.2)						
2143	68	76	須恵器	控鉢	2018013	75	包含層	(26.5)	4.8+							
2144	68	76	施釉陶器	椀	2018013	75	SD324古		1.4+	(5.0)						
2145	69	83	須恵器	杯B	2007107	76	SK650		2.1+	(9.3)						
2146	69	77	須恵器	杯B	2007107	76	SK681		2.9+	(11.0)						
2147	69	77	須恵器	皿	2007107	76	SD329	(13.7)	2.1+							
2148	69	77	土師器	壺	2007107	76	SK699	15.7	11.0+							
2149	69	77	土師質	羽口	2007107	76	包含層				5.5+	5.2+				
2150	69	77	土師質	土埴	2007107	76	包含層			孔徑 (0.4)	4.2	1.1	1.1	4.5		

別表1 土器一覧(3)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査 番号	調査 区	遺構	備考	法 量(cm)							分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		
2151	69	77	須恵器	台付壺	2007107	76	包含層										
2152	69	83	須恵器	不明	2007107	76	包含層										
2153	69	83	須恵器	杯蓋	2007107	76	南側削溝	(13.6)	1.7+				3.4+	2.1+	0.7		
2154	69	78	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	(19.8)	2.3+								
2155	69	77	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	(14.9)	2.1+								
2156	69	77	須恵器	杯A	2007107	76	包含層	(12.1)	3.4								
2157	69	77	須恵器	杯B	2007107	76	包含層		3.3+	(9.1)							
2158	69	78	須恵器	皿	2007107	76	包含層	乾用硯		1.4+	(10.1)						
2159	69	78	須恵器	杯か皿	2007107	76	包含層			0.8+							
2160	69	82-83	須恵器	円形硯	2007107	76	包含層	(16.6)	4.4+								
2161	69	77	無釉陶器	壺	2007107	76	包含層			7.7+	(13.1)						
2162	69	77	青磁	碗	2007107	76	包含層	(15.7)	2.9+								
2163	70	78	土製品	不明	2007107	78	包含層			2.6+			1.8	5.6			
2164	70	83	須恵器	杯?	2007107	76	包含層			0.5+							
2165	70	78	須恵器	杯B蓋	2007107	76	包含層	乾用硯	(25.8)	2.7+							
2166	70	78	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	乾用硯	(20.8)	1.5+							
2167	70	78	須恵器	杯A	2007107	76	包含層	(14.8)	3.1	(11.5)							
2168	70	78	須恵器	杯Bか壺	2007107	76	包含層			1.5+	(14.0)						
2169	70	78	白磁	碗	2007107	78	包含層	(15.8)	3.2+								
2170	70	79	土師器	杯A	2007107	76	包含層	(14.3)	3.6+								
2171	70	79	土師器	杯	2007107	76	包含層	(16.4)	3.7+								
2172	70	79	土師質	土鉢	2007107	76	包含層					孔径 (0.5)	5.2	1.6	1.7	12.4	
2173	70	79	土師器	鍋の把手	2007107	78	包含層			3.4+							
2174	70	79	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	(12.9)	2.0+								
2175	70	79	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	(14.4)	1.5+								
2176	70	79	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層			1.6+							
2177	70	79	須恵器	椀の蓋	2007107	76	包含層			1.3+	(8.8)						
2178	70	79	須恵器	杯A	2007107	76	包含層	(13.8)	3.3	(12.8)							
2179	70	79	須恵器	杯A	2007107	76	包含層	(16.4)	3.6	(13.0)							
2180	70	79	須恵器	碗	2007107	76	包含層			2.4+	(5.5)						
2181	71	80	土師器	皿	2007107	76	包含層	(15.8)	2.4	(13.4)							
2182	71	80	土師器	杯A	2007107	76	包含層	(15.7)	3.5+	(12.8)							
2183	71	80	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層	(11.4)	6.5+	(12.0)							
2184	71	80	土師器	イデコ壺	2007107	76	包含層	(4.8)	5.2+			腹径 (8.0)					
2185	71	80	土師質	土鉢	2007107	76	包含層					孔径 (0.3)	3.9	1.0	0.9	3.4	
2186	71	80	土師器	杯?	2007107	76	包含層						縦 3.1+	横 3.7+	厚 0.5		
2187	71	80	瓦質土器	鍋	2007107	76	包含層	(30.4)	8.1+								
2188	71	80	瓦	平瓦	2007107	76	包含層						9.5+	8.2+	2.0		
2189	71	81	土師器	杯蓋	2007107	76	包含層	(18.3)	1.5+								
2190	71	81	須恵器	杯蓋	2007107	76	包含層	(17.5)	2.6+								
2191	71	81	須恵器	杯A	2007107	76	包含層	(16.1)	3.7	(11.9)							
2192	71	81	須恵器	杯B	2007107	76	包含層	(16.7)	5.0+								
2193	71	81	無釉陶器	皿か鉢	2007107	76	包含層			2.7+	(8.7)						
2194	71	82	須恵器	鉢	2007107	76	包含層	(43.6)	10.9+								
2195	71	82-83	須恵器	円形硯	2007107	76	包含層			2.4+	(13.9)						
2196	71	82	土師質	甕	2007107	76	包含層						5.6+	8.3+			
2197	71	81	土師器	製塩土器	2007107	76	北側削溝			6.4+							
2198	71	82	須恵器	蓋	2007107	78	南側削溝	(34.4)	2.9+								
2199	71	82	須恵器	台付皿	2007107	76	機械掘削	(14.0)	2.02								
2200	71	82	須恵器	杯B	2007107	76	南側削溝	(12.0)	3.8	(8.8)							
2201	71	82	須恵器	蓋	2007107	78	北側削溝			2.6				2.4			
2202	72	85	須恵器	皿	2017078	77	SB306P05	(15.6)	1.9+								
2203	72	85	須恵器	杯B	2017078	77	SB306P139	(16.0)	4.1+								
2204	72	85	土師器	小皿	2017078	77	SB308P229	(8.1)	1.7								
2205	72	84	土師器	皿	2017078	77	SB308P229	(13.5)	2.6	10.6							

別表1 土器一覽(4)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査 番号	調査 区	遺構	備考	法 量(cm)						分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚		重量(g)
2206	72	87	須恵器	碗	2017078	77	SB308P229		(14.0)	3.5+						
2207	72	85	土師器	小皿	2017078	77	SB308P49		(8.6)	1.3	(7.5)					
2208	72	85	土師器	小皿	2017078	77	SB308P180		(8.7)	2.0+						
2209	72	85	土師器	皿	2017078	77	SB308P179		(15.6)	2.5+						
2210	72	87	瓦	板	2017078	77	SB308P179		(13.7)	3.8+						
2211	72	87	瓦	平瓦	2017078	77	SB308P58					縦 7.9+	横 8.7+	2.6		
2212	72	84	白磁	碗	2017078	77	SB308P150		(17.1)	6.7	6.3					
2213	72	85	土師質	土鉢	2017078	77	SB308P150				孔径 (0.4)	2.5+	1.1	1.0	3.0	
2214	72	87	灰釉陶器	四耳壺	2017078	77	SB308P180		(9.1)	5.7+						
2215	72	84	土師器	小皿	2017078	77	SB309P50		8.3	1.2						
2216	72	84	土師器	小皿	2017078	77	SB309P82		(8.4)	1.4						
2217	72	86	土師器	皿	2017078	77	SB309P62		(14.2)	2.5+						
2218	72	84	須恵器	板	2017078	77	SB309P218		(15.4)	5.1+	6.8					
2219	72	86	土師器	小皿	2017078	77	SB310P173		(8.3)	1.5						
2220	72	86	土師器	小皿	2017078	77	SB308P180		(7.1)	0.8	(5.9)					
2221	72	84	土師器	小皿	2017078	77	P77059		8.2	1.6	7.3					
2222	72	84	土師器	小皿	2017078	77	P77070		7.8 (長径 8.2)	1.5						
2223	72	84	土師器	皿	2017078	77	P77254		11.6	3.0	7.9					
2224	72	84	土師器	鍋	2017078	77	SB310P182		(27.5)	9.3+						
2225	72	86	土師器	鍋	2017078	77	P77155		(27.4)	5.8+						
2226	72	86	瓦質土器	羽釜	2017078	77	P77155		(26.9)	4.7+						
2227	72	89	褐釉陶器	壺	2017078	77	P77052			4.9+						
2228	73	87	須恵器	壺	2017078	77	SK793		(29.6)	51.9+						
2229	73	88	須恵器	杯蓋	2017078	77	包含層		(16.4)	1.3+						
2230	73	88	須恵器	椀の蓋	2017078	77	包含層		(18.2)	3.0+						
2231	73	88	須恵器	皿	2017078	77	包含層		(15.8)	2.1+	(13.3)					
2232	73	88	須恵器	杯A	2017078	77	包含層		(11.5)	3.7	(7.0)					
2233	73	88	須恵器	椀	2017078	77	包含層		(16.2)	4.0+						
2234	73	88	須恵器	杯B	2017078	77	包含層		(19.7)	6.2+						
2235	73	88	須恵器	杯B	2017078	77	東壁付近			2.6+	(12.1)					
2236	73	88	須恵器	杯B	2017078	77	包含層			1.9+	(9.1)					
2237	73	88	瓦	平瓦	2017078	77	包含層					4.7+	4.0+	断面1.9		
2238	73	88	緑釉陶器	碗?	2017078	77	包含層			1.2+	6.3					
2239	74	89	土師器	小皿	2017078	77	包含層		(8.2)	1.4+	(5.7)					
2240	74	89	土師器	鍋	2017078	77	SD330		(22.0)	15.0+						
2241	74	89	瓦質土器	羽釜	2017078	77	包含層			5.5+						
2242	74	89	瓦質土器	羽釜	2017078	77	包含層		(16.5)	6.4+						
2243	74	89	瓦質土器	三足脚付羽釜	2017078	77	包含層			9.7+						
2244	74	89	土師質	土鉢	2017078	77	包含層				孔径 (0.3)	4.3	1.0	1.0	4.4	
2245	74	89	土師質	土鉢	2017078	77	包含層				孔径 (0.3)	5.9	1.1	1.1	7.3	
2246	74	89	灰釉陶器	四耳壺	2017078	77	包含層		(9.9)	4.7+						
2247	74	90	白磁	碗	2017078	77	包含層		(16.3)	2.8+						
2248	74	90	青磁	碗	2017078	77	包含層		(15.7)	3.4+						
2249	74	90	青磁	碗	2017078	77	包含層			1.7+	(5.6)					
2250	74	90	青磁	碗	2017078	77	包含層			3.4+	(6.8)					
2251	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2252	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2253	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2254	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2255	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2256	—	75	白磁	碗	2007107	70	包含層									
2257	—	89	褐釉陶器	壺	2017078	77	P77052									
2258	—	89	褐釉陶器	壺	2017078	77	包含層									
2259	—	89	褐釉陶器	壺	2017078	77	P77052									

別表1 土器一覧(5)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査 番号	調査 区	遺構	備考	法 量(cm)							分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		
2260	—	89	灰釉陶器	壺	2017078	77	SB306P180 a										
2261	—	90	白磁	皿	2017078	77	包含層										
2262	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2263	—	90	白磁	碗	2017078	77	SB308P58										
2264	—	90	青磁	碗	2017078	77	包含層										
2265	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2266	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2267	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2268	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2269	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2270	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2271	—	90	白磁	碗	2017078	77	西側溝										
2272	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2273	—	90	白磁	碗	2017078	77	包含層										
2274	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2275	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2276	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2277	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2278	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2279	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2280	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2281	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2282	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2283	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2284	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2285	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2286	—	91	土師器	製塩土器	2007107	76	包含層										
2287	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	包含層										
2288	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	包含層										
2289	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	包含層										
2290	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	包含層										
2291	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	SB306P102										
2292	—	91	土師器	製塩土器	2018013	75	包含層										
2293	—	91	土師器	製塩土器	2017078	77	包含層										
2294	—	91	土師器	製塩土器	2018013	75	包含層										
2295	—	91	土師器	製塩土器	2018013	75	包含層										
2296	—	91	土師器	製塩土器	2018013	75	包含層										

別表2 石器一覧

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	調査番号	調査区	遺構	備考	法量(mm)						分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚		重量(g)
S201	75	92	打製石器	ナイフ形石器 (圓身段) 石皿	2017078	77	SB306P136 付返					36.9	18.2	8.3	6.8	
S202	75	92	打製石器	石皿 (平基式)	2007107	76	SK624					20.2	20.0	2.2	1.0	
S203	75	92	打製石器	石皿 (平基式)	2007107	76	SK655					18.0	15.5	3.2	0.7	
S204	75	92	打製石器	石皿 (凹基式)	2007107	76	SK700					27.7	15.7	2.7	1.2	
S205	75	92	打製石器	石皿 (平基式)	2007107	76	SK606					25.1	13.2	2.7	1.0	
S206	75	92	磨製石器	砥石	2017078	77	包含層					104.7	89.4	31.6	344.0	
S207	75	92	磨製石器	砥石	2017078	77	包含層					31.0	17.5	新径15.7 最大17.3	12.9	
S208	75	92	磨製石器	砥石	2007107	70	包含層					54.6	38.7	15.8	50.1	
S209	75	92	磨製石器	砥石	2017078	77	包含層					50.6	115.9	101.4	758.0	
S210	75	92	磨製石器	砥石	2017078	77	SB308P180					106.3	22.7	63.4	231.9	
S211	75	92	磨製石器	砥石	2007107	76	包含層					156.2	33.6	28.3	241.9	
S212	75	92	磨製石器	不明	2018013	75	包含層					56.6	36.5	4.2	14.9	
S213	—	93	石製品	礎石	2007107	70	SB305P01					217.2	206.4	102.9	6490.0	
S214	—	93	石製品	礎石	2007107	70	SB305P05					238.5	193.3	99.6	3950.0	

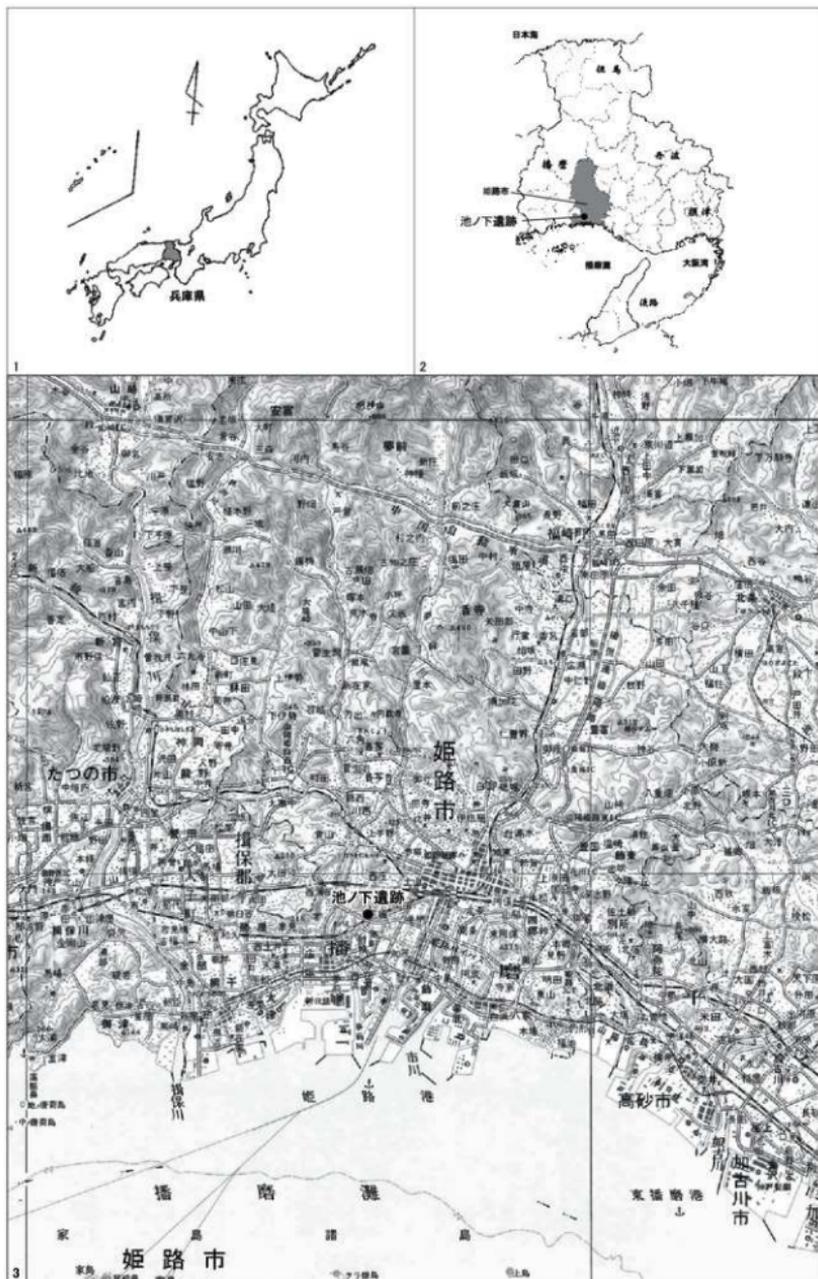
別表3 金属器一覧

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	調査番号	調査区	遺構	備考	法量(cm)						分析
									口径	器高	底径	長	幅	厚	
M201	76	93	鉄器	釘	2017078	77	SK793					7.2+		新径0.5 新高0.4	
M202	76	93	鉄器	釘	2017078	77	SB307P176					7.7+		新径0.7 新高0.7	
M203	76	93	鉄器	不明	2007107	70	包含層					7.9	3.3	新径0.7 新高0.7	
M204	76	93	鉄器	刀子	2007107	70	包含層					5.1+	2.0	新径2.0 新高0.3+	
M205	76	93	鉄器	不明	2017078	70	SB301P06					9.6+	8.4+	新長9.5+ 新厚0.4+	
M206	76	—	—	鉄滓	2007107	76	包含層					3.1	4.8	新厚1.4	41.6
M207	76	—	—	鉄滓	2007107	76	包含層					5.3	5.4	新径4.6 新厚2.2	75.7
M208	76	—	—	鉄滓	2007107	70	包含層					5.0	5.6	新径5.4 新厚1.3	77.2
M209	76	—	—	鉄滓	2007107	70	包含層					2.6	3.3	新径3.1 新厚1.0	14.9
M210	76	—	—	鉄滓	2007107	70	包含層					3.9	5.2	新径4.6 新厚1.4	60.0
M211	76	—	—	鉄滓	2007107	70	包含層					4.5	3.7	新厚0.9	29.3
M212	76	—	—	板形滓	2007107	70	SA304P02					5.5	6.8	新厚1.4	53.3
M213	76	—	—	板形滓	2007107	70	SB305P09					9.4	8.2	新厚2.1	130.9
M214	76	—	—	板形滓	2007107	70	SB305P09					7.8	8.5	新径0.3 新厚0.9	182.2

別表4 木器一覧

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	調査番号	調査区	遺構	備考	法量(cm)						分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚		重量(g)
W201	—	93	木器	柱礎	2017078	77	SB308P220				12.4					処理No. 2017078- 1

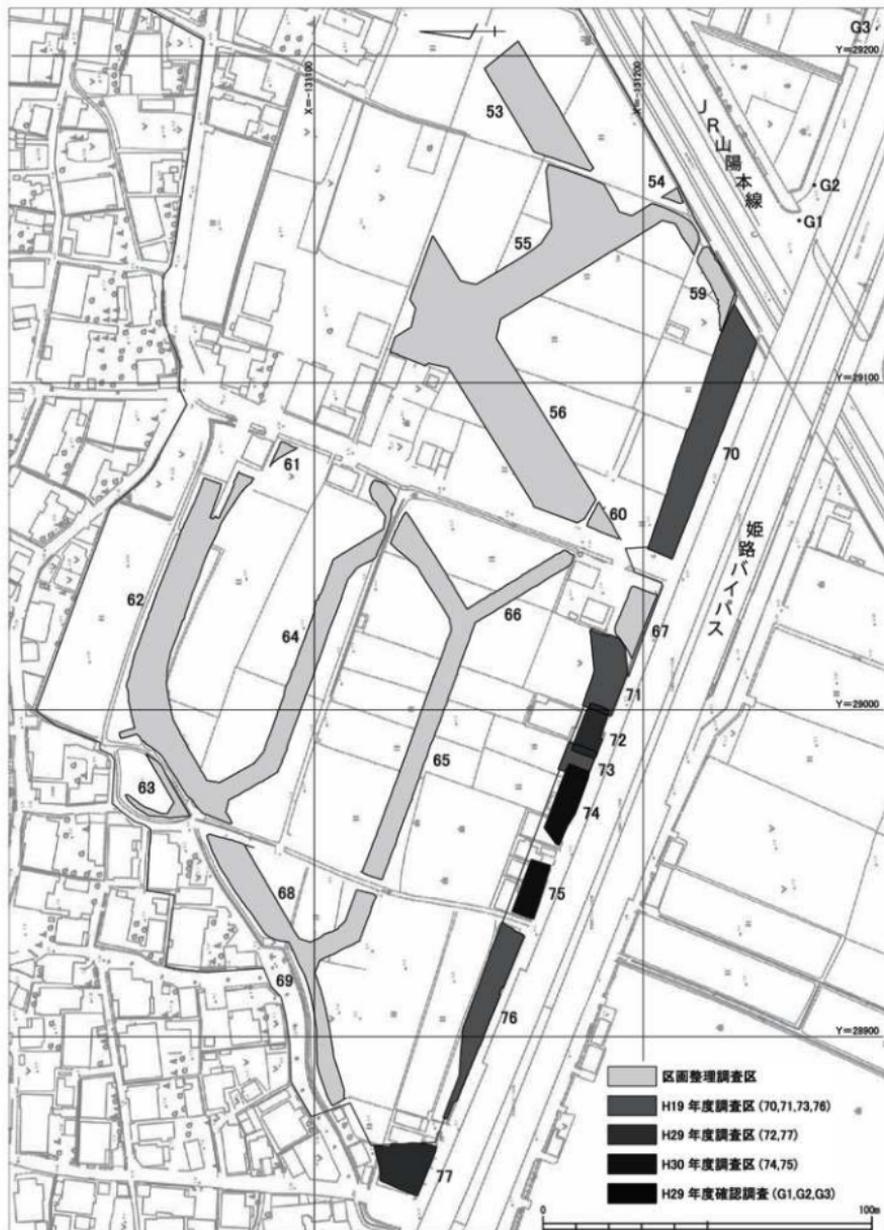
圖 版



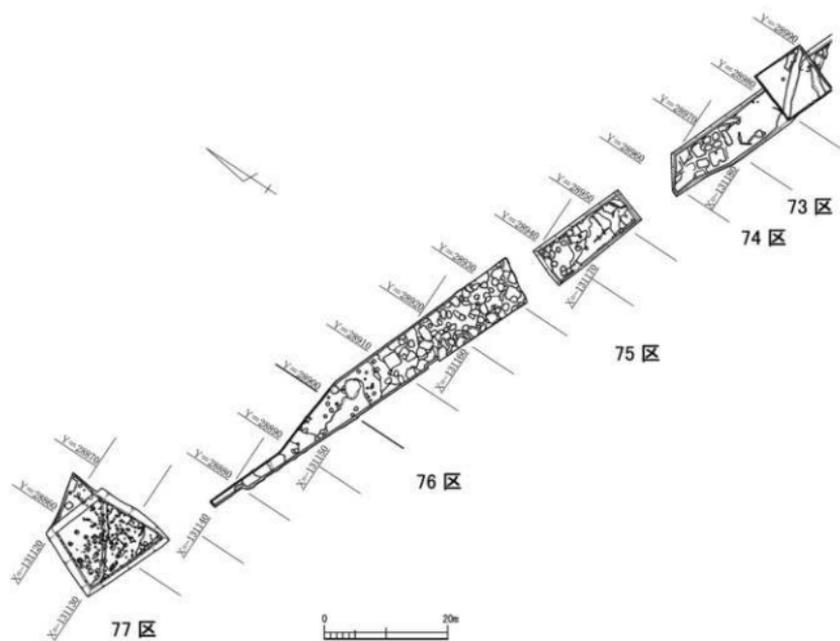
1 兵庫県の位置 2 姫路市の位置 3 池ノ下遺跡の位置 (200,000分の1)



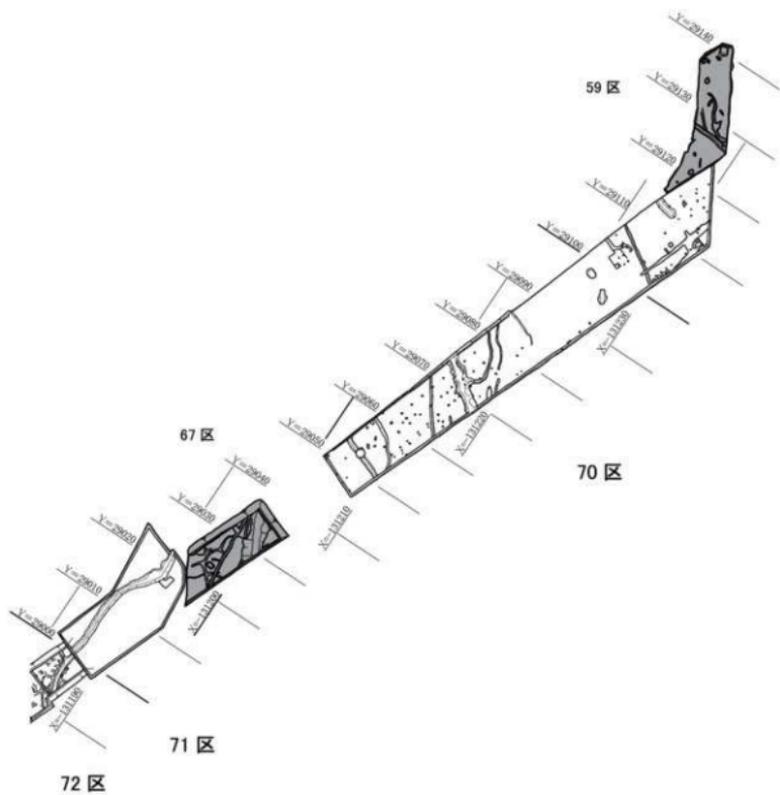
- | | | | |
|-----------|-----------|--------------|-------------|
| 1 池ノ下遺跡 | 20 八反長遺跡 | 39 大町遺跡 | 58 手柄山南丘群集墳 |
| 2 蒲田遺跡 | 21 堂田遺跡 | 40 大塚遺跡 | 59 村瀬遺跡 |
| 3 山所群集墳 | 22 村前遺跡 | 41 石田遺跡 | 60 橋詰遺跡 |
| 4 山所遺跡 | 23 法輪寺山遺跡 | 42 真福寺遺跡 | 61 黒表遺跡 |
| 5 山所庵寺 | 24 豆田遺跡 | 43 橋遺跡 | 62 小山遺跡 |
| 6 山所南遺跡 | 25 大浮口遺跡 | 44 南雲遺跡 | 63 生矢神社裏遺跡 |
| 7 山崎城跡 | 26 中ノ町遺跡 | 45 今在家平塚遺跡 | 64 浜田遺跡 |
| 8 権尻ヶ瀬古墳群 | 27 大石橋遺跡 | 46 タテノ遺跡 | 65 古原敷遺跡 |
| 9 村東遺跡 | 28 辻堂遺跡 | 47 坂川遺跡 | 66 竹の前遺跡 |
| 10 付城山群集墳 | 29 鹿谷遺跡 | 48 栗木遺跡 | 67 長経遺跡 |
| 11 付城山遺跡 | 30 出手遺跡 | 49 石ヤ田遺跡 | 68 蒲田遺跡 |
| 12 四ツ池遺跡 | 31 横杖遺跡 | 50 加茂遺跡 | 69 畑田遺跡 |
| 13 辻垣内遺跡 | 32 東川遺跡 | 51 横石田遺跡 | 70 カスカ工遺跡 |
| 14 歌野橋遺跡 | 33 丁田遺跡 | 52 千代田遺跡 | 71 飯田カスカ工遺跡 |
| 15 英賀城跡 | 34 西久保遺跡 | 53 山崎遺跡 | 72 善慶田遺跡 |
| 16 城田付城橋跡 | 35 都東遺跡 | 54 手柄山北丘遺跡 | 73 笹山田遺跡 |
| 17 今宿丁田遺跡 | 36 東久保遺跡 | 55 手柄山北丘頂上古墳 | 74 大鳥遺跡 |
| 18 土山遺跡 | 37 中地天神遺跡 | 56 手柄山北丘群集墳 | 75 石ヶ坪遺跡 |
| 19 町田遺跡 | 38 権現遺跡 | 57 手柄山南丘遺跡 | 76 三宅遺跡 |



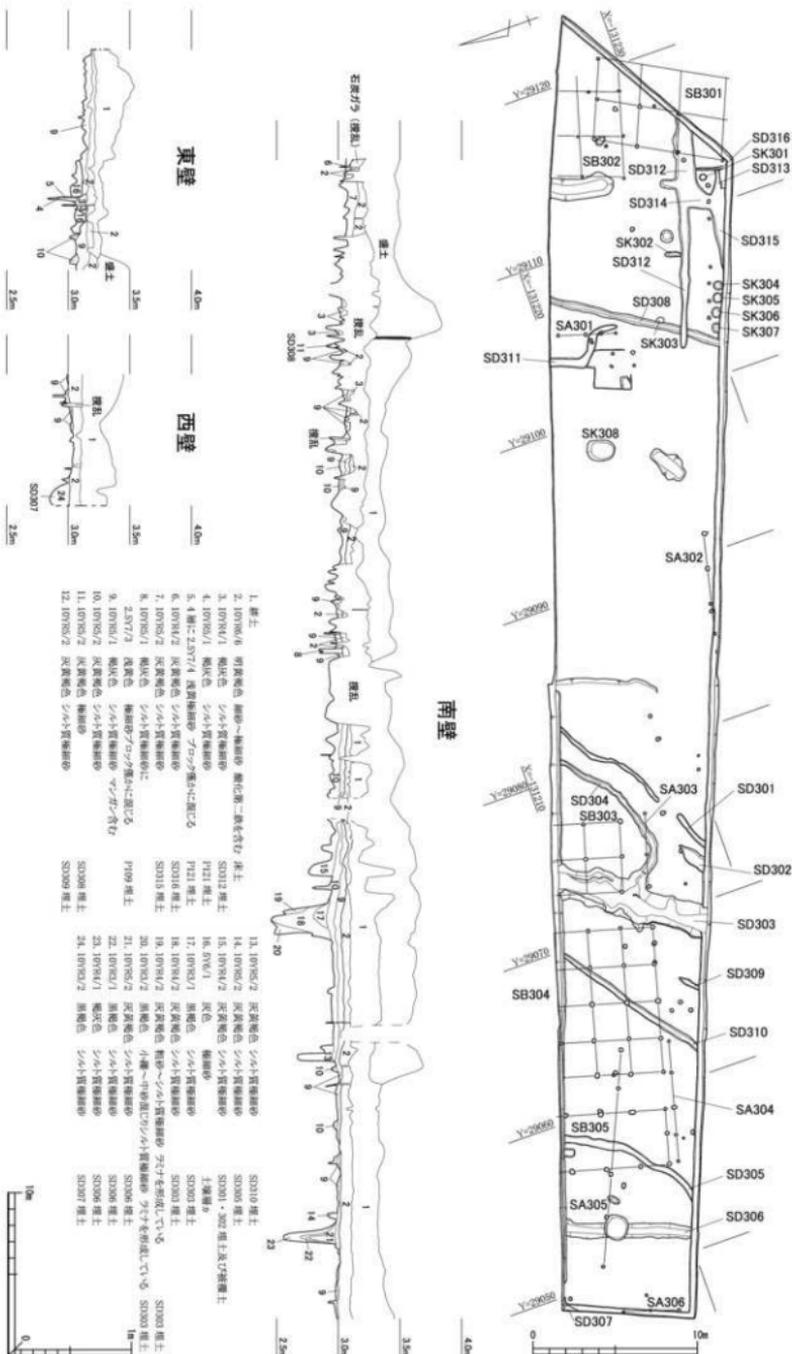
池ノ下遺跡 調査区位置図 (1,500分の1)



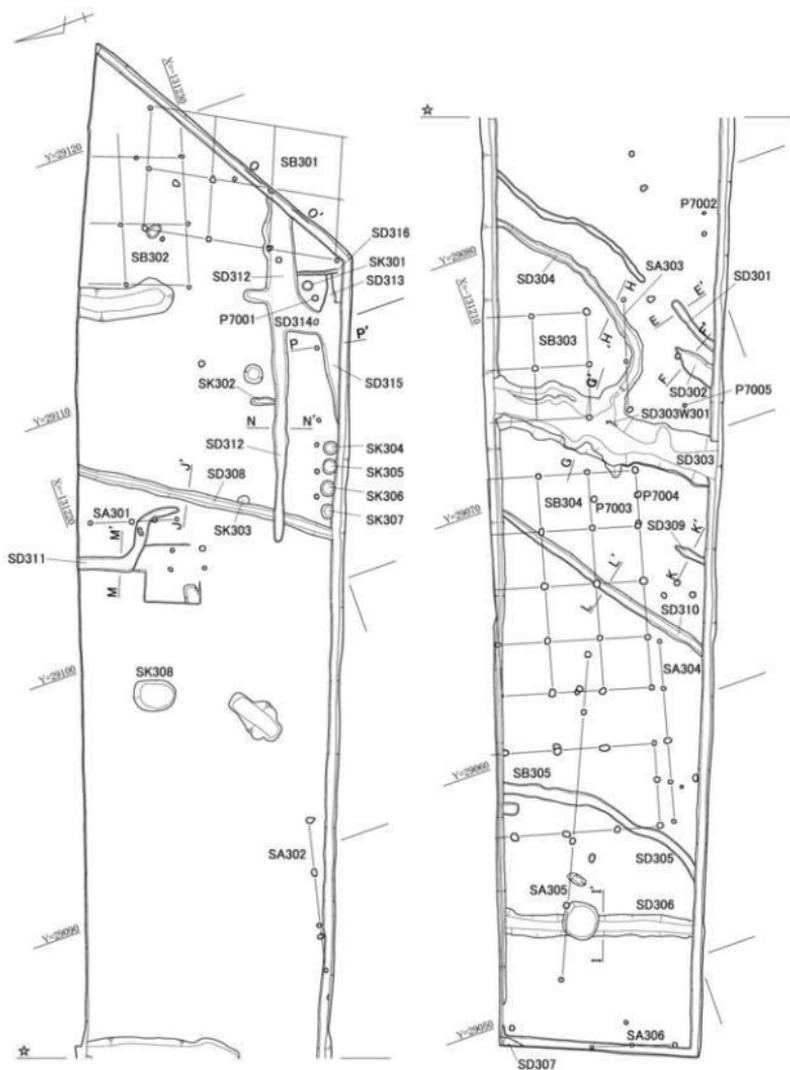
遺跡全体図 1



遺跡全体図 2



全体図・南壁・西壁・東壁土層断面図



全体図

SD301

E _____ E' 3.2m



1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SD302

F _____ F' 3.2m



1. 2.5Y4/1 灰色 シルト質極細砂

SD304

H _____ H' 3.2m



1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SD308

J _____ J' 3.2m



1. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂

SD312

N _____ N' 3.2m



1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂

P7001

SD315

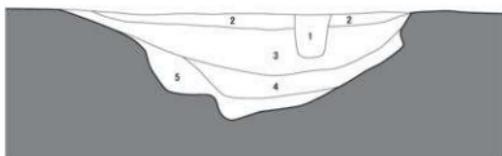
P _____ P' 3.2m



1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂

SD303

G _____ G' 3.2m

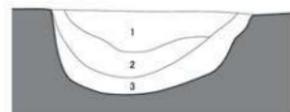


1. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト質極細砂 SB303P04
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
3. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色 粗砂〜シルト質極細砂 フラニ
5. 10YR3/2 黒褐色 小礫〜中砂混じりシルト質極細砂 フラニ

0 1m

SD306

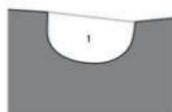
I _____ I' 3.2m



1. 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
2. 10YR3/1 黒褐色 極細砂
3. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂

SD310

L _____ L' 3.2m



1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂

SD309

K _____ K' 3.2m



1. 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SD311

M _____ M' 3.2m



1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SB301 P07

SD312

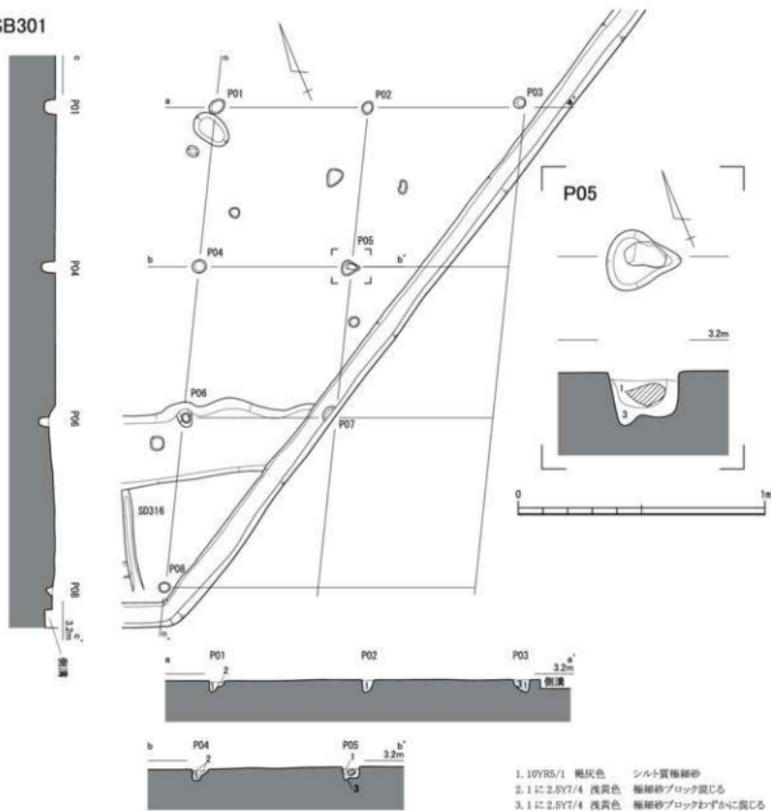
O _____ O' 3.2m



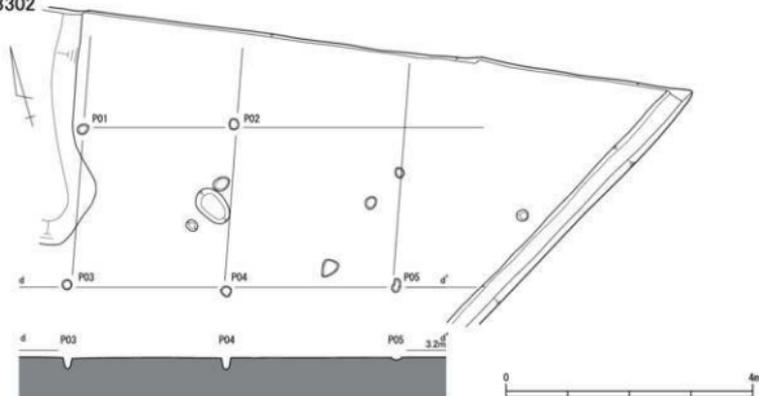
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
3. 1 に 2.5Y7/4 浅黄褐色 極細砂ブロックわずかに混じる

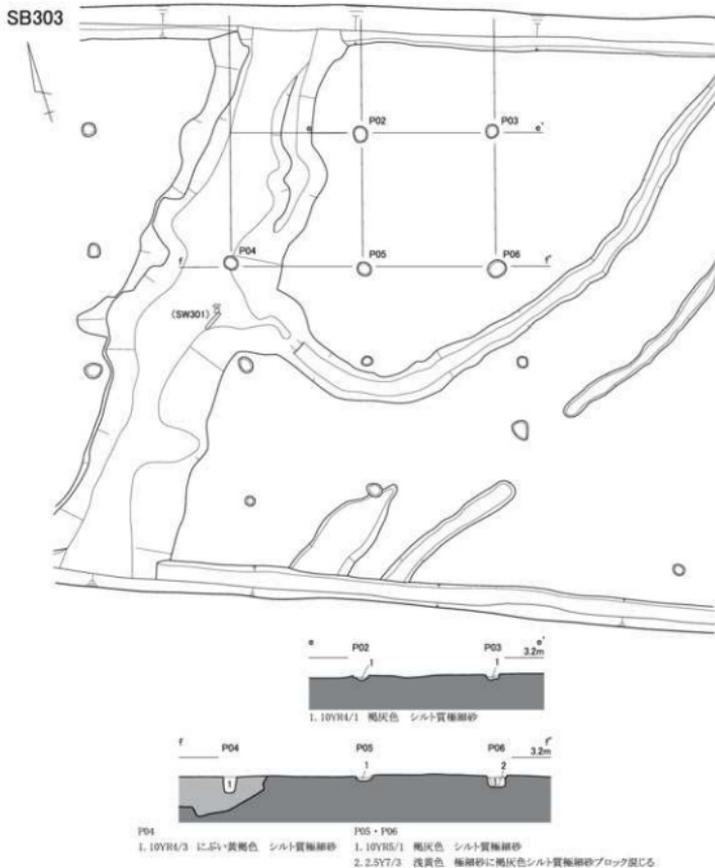
0 1m

SB301



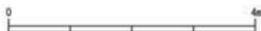
SB302



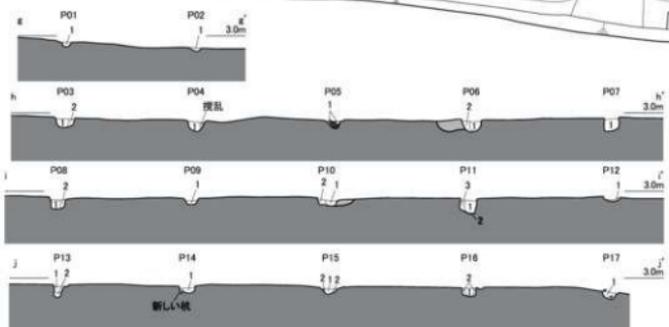
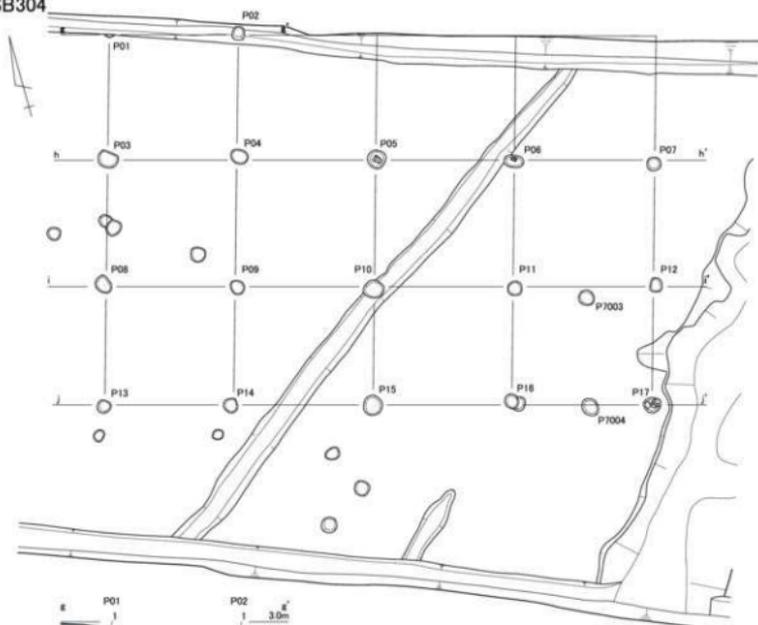


SB304

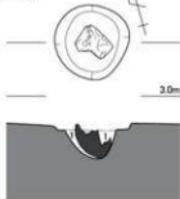
- P01 - 02
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
- P03
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3 浅黄色 極細砂ブロックと1のブロック散じる
- P04 - 05
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
- P06 - 07
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 5Y6/1 灰色 極細砂ブロックと褐灰色シルト質極細砂散じる
- P08
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂にわずかに浅黄色極細砂ブロック散じる
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
- P09
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック散じる
- P10
1. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂 散乱
- P11
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 10YR3/1 黄褐色 シルト質極細砂 散乱
3. 5Y6/1 灰色 極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック散じる
- P12
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック散じる
- P13
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3 浅黄色 極細砂～細砂
- P14 - 15
1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂 散乱
2. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂に浅黄色極細砂ブロック散じる
- P16 - 17
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック散じる



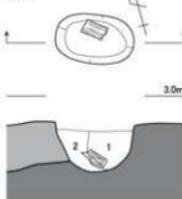
SB304



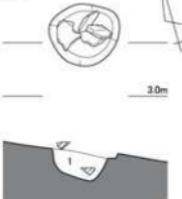
P05



P06

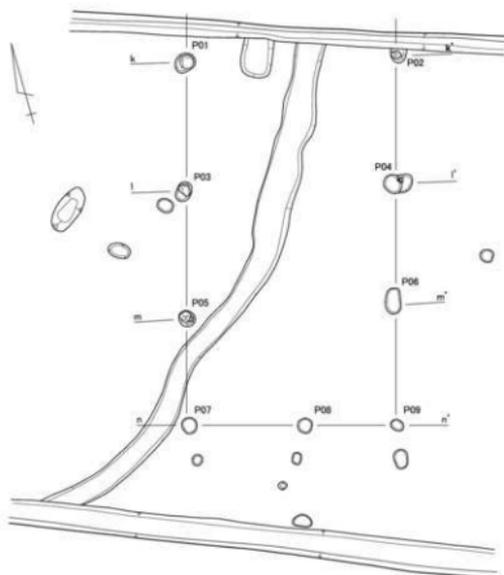


P17



SB304

SB305



P06

1. 10YR4/1 黒灰色 シルト質極細砂
2. 5Y6/1 灰色 極細砂
3. 1 のブロックと 2 のブロック層になる

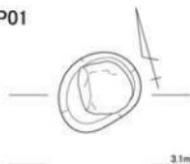


P09

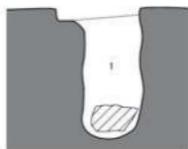
1. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂 炭多量を含む
2. 10YR5/1 黒灰色 シルト質極細砂 炭含む
3. 2.5Y7/3 淡黄色 極細砂に黒灰色シルト質極細砂ブロック層になる



P01

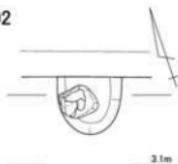


3.1m

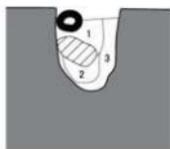


1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
灰と浅黄色極細砂ブロックわずかに含む

P02

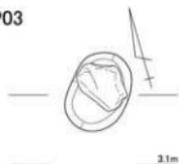


3.1m

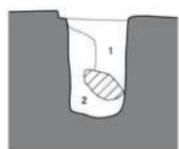


1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂 泥口あり
2. 1に浅黄色極細砂ブロックわずかに含む
3. 2.5Y7/3 浅黄色 極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック含む

P03

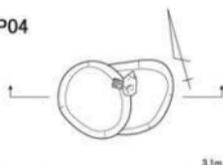


3.1m



1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3 浅黄色 極細砂に1のブロック混じる

P04

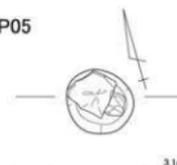


3.1m



1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂 灰わずかに含む
3. 5Y6/1 灰色 極細砂ブロック
4. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂ブロックに灰色極細砂ブロック混じる
5. 10YR7/1 灰白色 極細砂
6. 1と同じ

P05

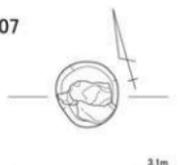


3.1m

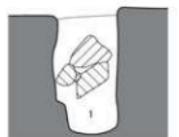


1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 1のブロックと灰色極細砂ブロック混じる

P07

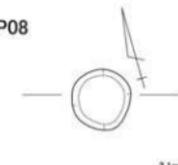


3.1m



1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂

P08



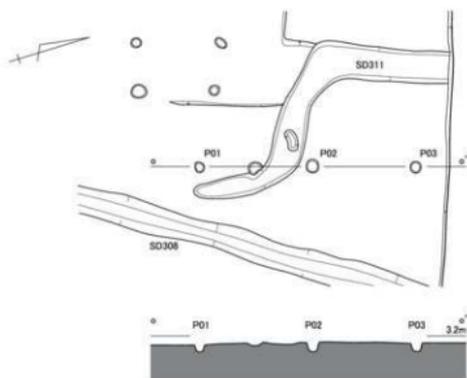
3.1m



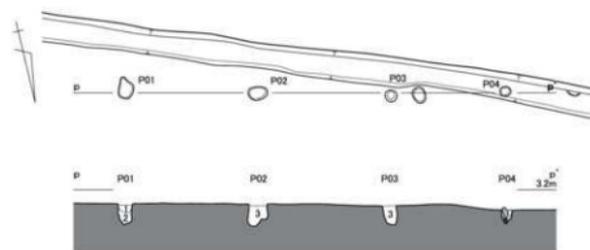
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂に灰と浅黄色極細砂ブロックわずかに含む



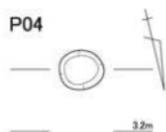
SA301



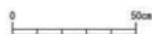
SA302



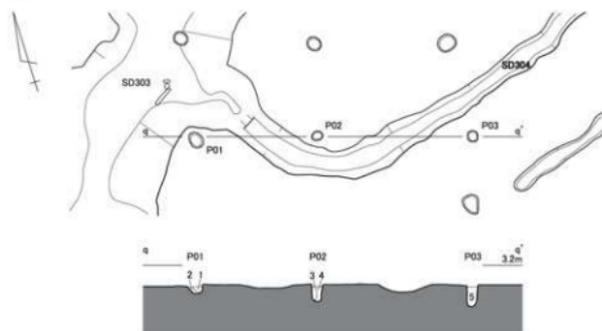
P04



- | | |
|----------------|----------------------------|
| 1. 10YR5/1 褐灰色 | シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロックわずかに混じる |
| 2. 10YR5/1 褐灰色 | シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロック多量に混じる |
| 3. 10YR5/1 褐灰色 | シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロック混じる |



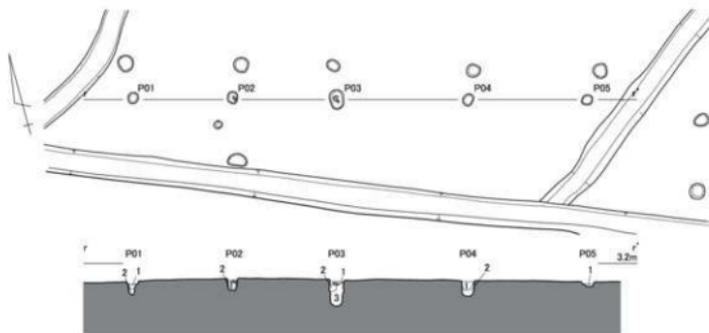
SA303



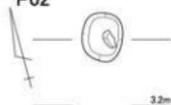
- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 10YR5/1 褐灰色 | シルト質極細砂 |
| 2. 2.5Y7/3 浅黄色 | 極細砂に褐灰色シルト質極細砂混じる |
| 3. 10YR5/2 灰黄褐色 | シルト質極細砂 |
| 4. 2.5Y7/3 浅黄色 | 極細砂 |
| 5. 10YR5/1 褐灰色 | シルト質極細砂ブロックと浅黄色極細砂ブロック混じる |



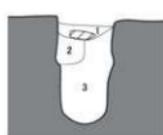
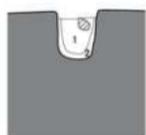
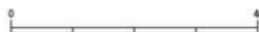
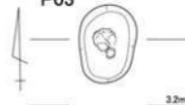
SA304



P02

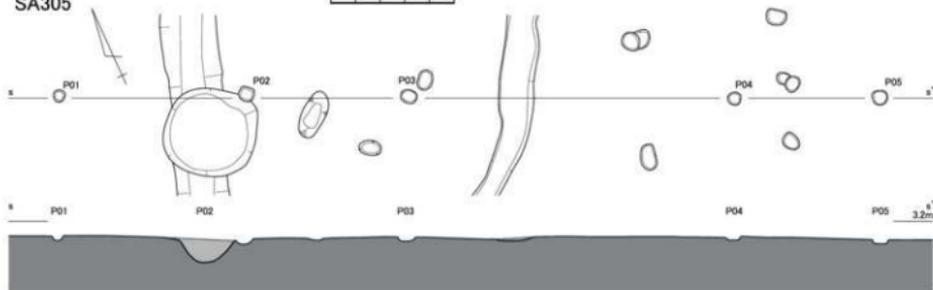


P03

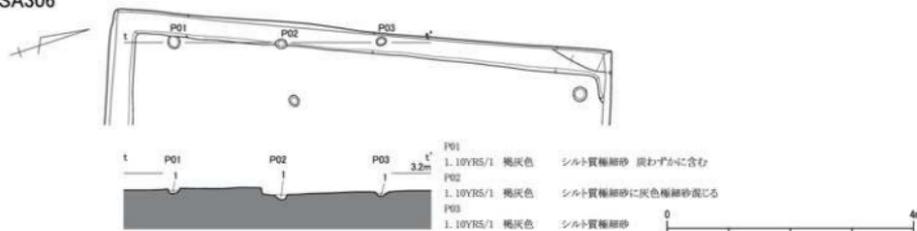


- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| P01 | 1. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 |
| | 2. 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂 |
| P02 | 1. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 鉄滓含む |
| | 2. 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂 |
| P03 | 1. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 鉄滓・炭含む |
| | 2. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 炭含む |
| | 3. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂ブロックと灰色シルト質極細砂ブロック混じる |
| P04 | 1. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 |
| | 2. 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂 |
| P05 | 1. 10YR4/1 褐灰色 | シルト質極細砂 |

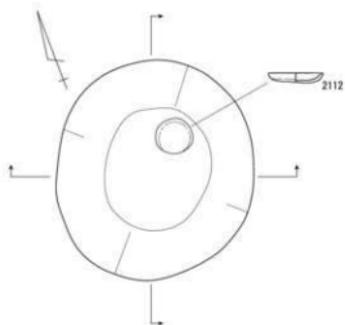
SA305



SA306



SK301



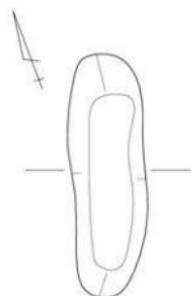
3.2m



1.10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂



SK302



3.2m



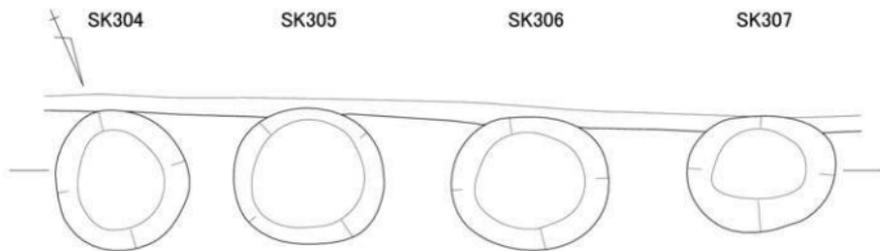
1.10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SK304

SK305

SK306

SK307

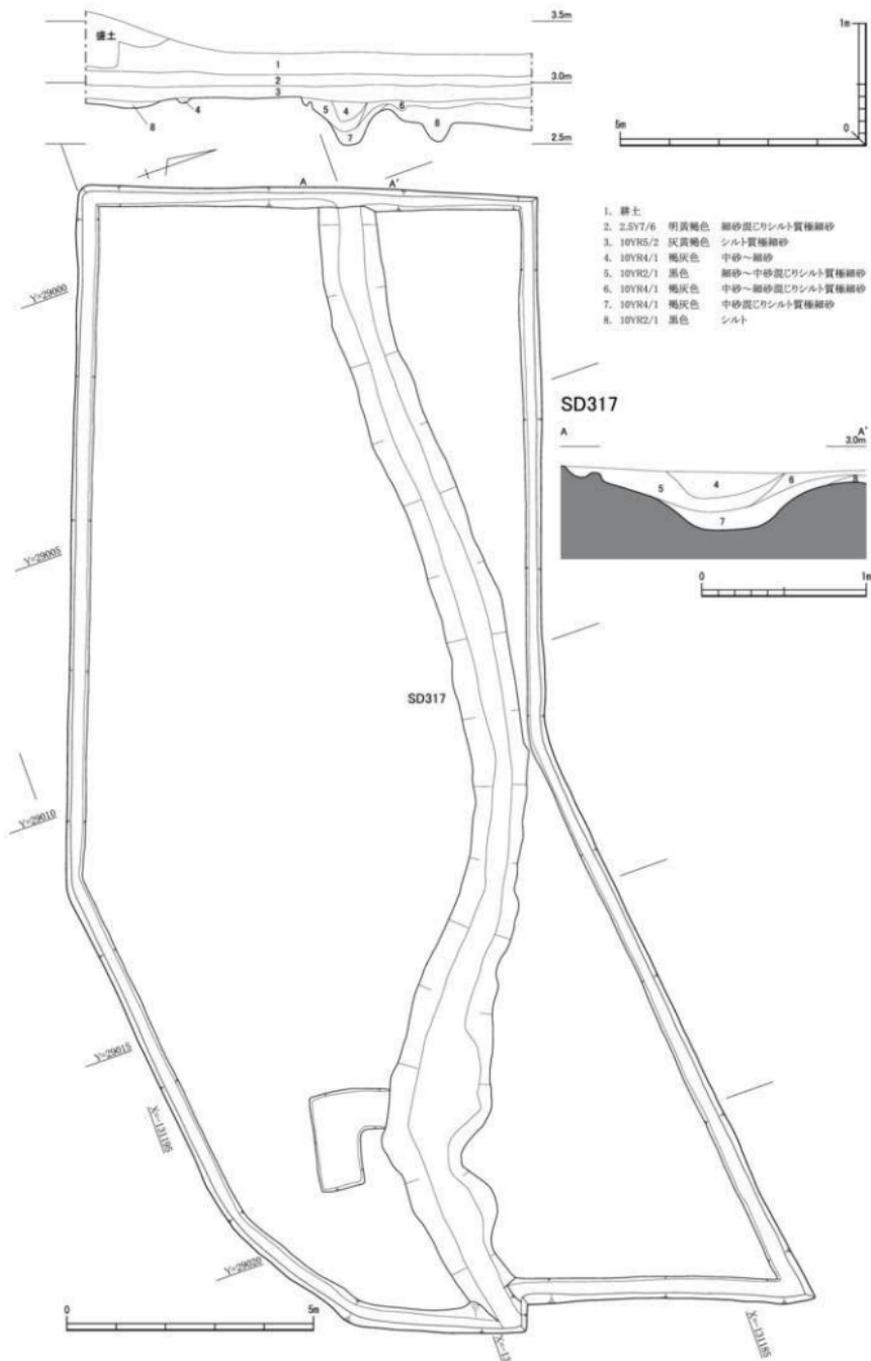


3.2m

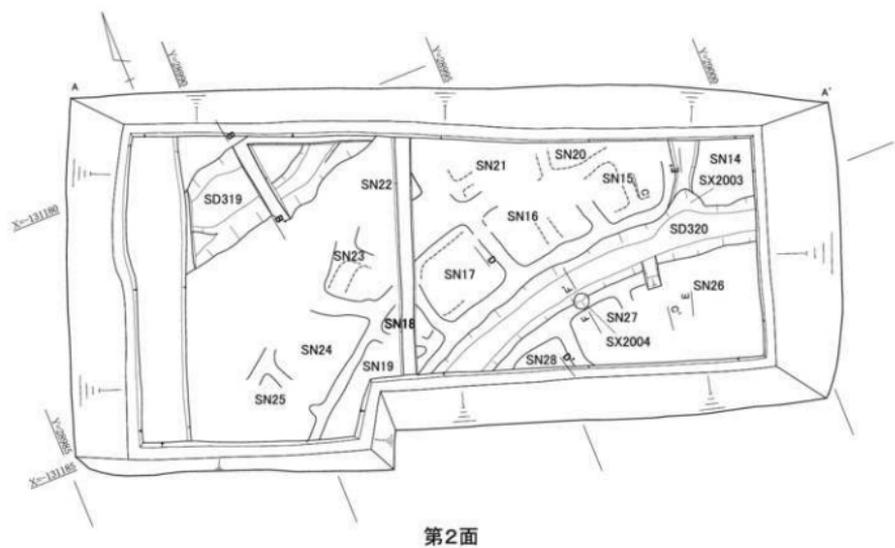
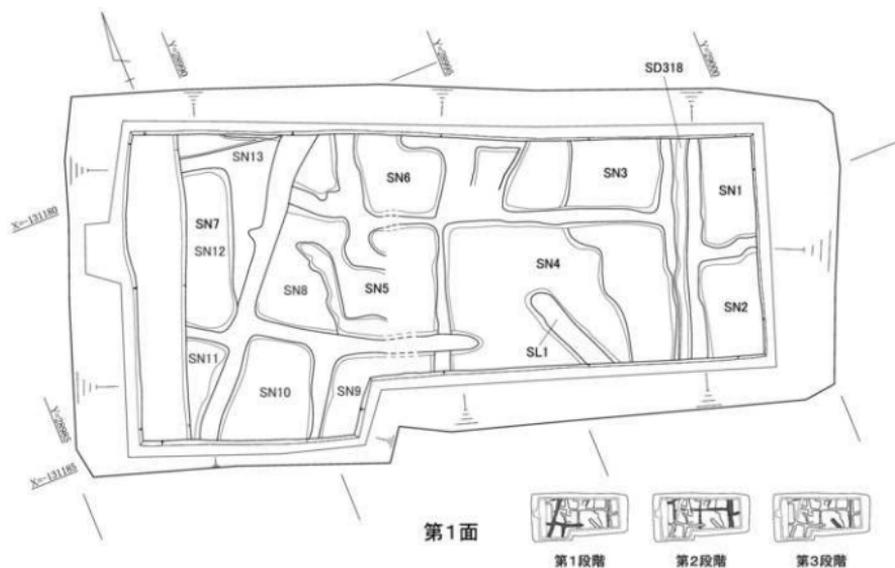


1.10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

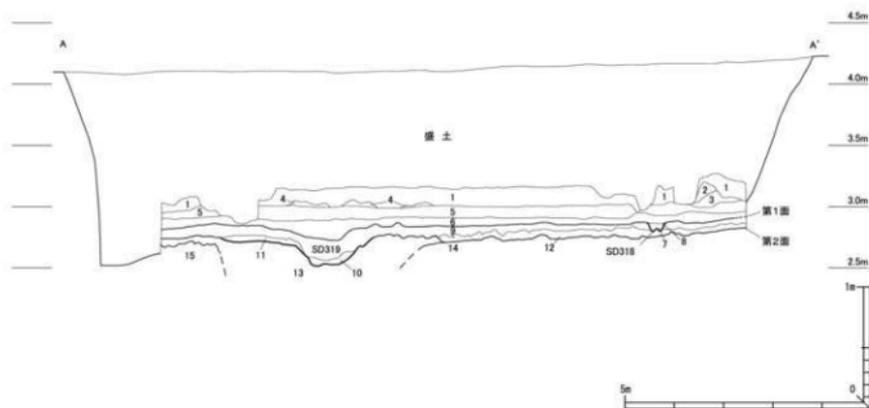




全体図・西壁土層断面図・SD317

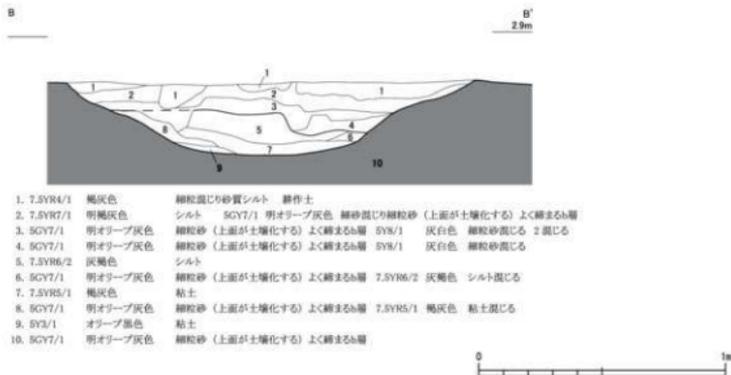


北壁



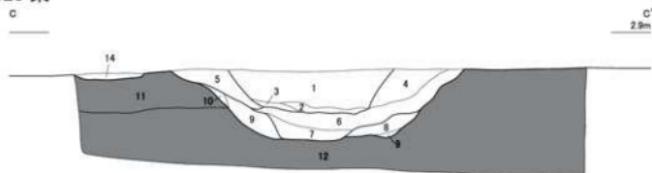
- | | | | |
|-----------|----------|---------|--|
| 1. 旧耕作土 | 5B4/1 | 暗青灰色 | 砂質シルト (2.5Y6.6 明黄褐色微粒砂ブロックを少量含む
下位に陶片の多い 5B5/1 青灰色砂質シルトが部分的に堆積する) |
| 2. 旧埴埴 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト (1と4のブロックを含む) |
| 3. 旧埴埴 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト (4のブロック、1は少量を含む) |
| 4. | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 砂質シルト |
| 5. 耕作土 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト (ラベル第1層) |
| 6. 耕作土 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 砂質シルト (細～中粒砂を含む ラベル第2層) |
| 7. 溝 318 | 5Y4/1 | 黄灰色 | シルト (細粒砂混じり) |
| 8. 溝 318 | 5P6/1 | 明青灰色 | シルト |
| 9. 耕作土 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | シルト (10YR7/1 微粒砂を部分的に含む ラベル第3層) |
| 10. 溝 319 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | シルト (溝 319-5) |
| 11. 溝 319 | 5GY6/1 | オリーブ灰色 | 砂質シルト |
| 12. 耕作土 | 5Y2/1 | 黒色 | 砂質シルト (N7/8 灰白色粘土多く含む 陶片は多いが砂粒を含み攪拌する) |
| 13. 旧河溜 | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 砂質シルト (7.5YR5/1 褐灰色粘土混じる 溝 319-8) |
| 14. 地山 | 5Y2/1 | 黒色 | 細～中粒砂 粘りあり (径約 10mmの 2.5YR6.6 明黄褐色粘土砂混りブロックを含む) |
| 15. 地山 | 2.5YR6/6 | 明黄褐色 | 粘土 粘性あり (N7/9 灰白色粘土多く含む 上位は砂粒を含み暗色化する 5Y2/1 黒色砂質シルト) |

SD319

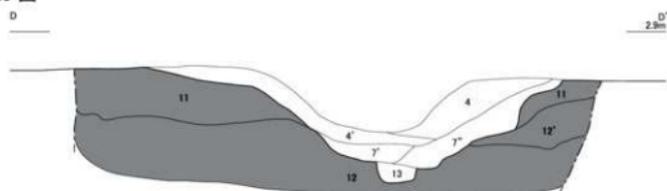


- | | | | |
|-------------|---------|-------------------------|---|
| 1. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 細粒混じり砂質シルト | 耕作土 |
| 2. 7.5YR7/1 | 明褐灰色 | シルト | 5GY7/1 明オリーブ灰色 細砂混じり細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 |
| 3. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 | 5Y8/1 灰白色 細粒砂混じる 2 混じる |
| 4. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 | 5Y9/1 灰白色 細粒砂混じる |
| 5. 7.5YR6/2 | 灰褐色 | シルト | |
| 6. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 | 7.5YR6/2 灰褐色 シルト混じる |
| 7. 7.5YR5/1 | 褐灰色 | 粘土 | |
| 8. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 | 7.5YR5/1 褐灰色 粘土混じる |
| 9. 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土 | |
| 10. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂 (上面が土壌化する) >C(締まるa層 | |

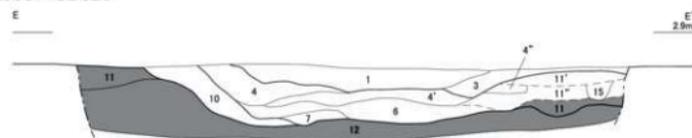
SD320 東



SD320 西



SX2003・SD320

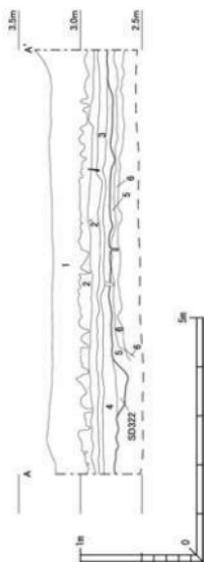
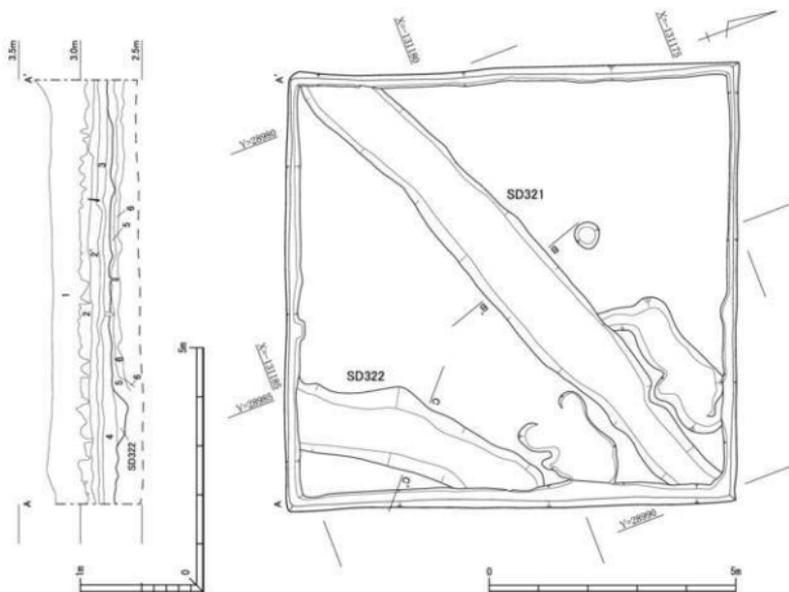


SX2004



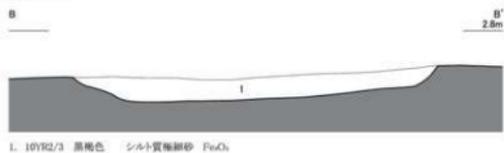
- | | |
|---------------------|---|
| 1. 10YR3/2 黒褐色 | 砂質シルト(細粒)と10YR5/6 褐灰色 砂質シルト(細粒)の互層 |
| 2. 5GY7/1 明オリーブ灰色 | 細粒砂(10YR3/2 黒褐色 砂質シルトを少し含む) |
| 3. 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト(5GY7/1 明オリーブ灰色 中粒砂を少し含む) |
| 4. 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない |
| 4' 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルトと2の互層 5Y6/1 灰色 中粒砂 よく締まる 粘性少ない |
| 4'' 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない ブロック含む |
| 5. 5GY オリーブ灰色 | 中粒砂(10YR2/2 黒褐色 砂質シルトを少し含む) やや締まる 粘性なし |
| 6. 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルトと10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 |
| 7. 10YR5/1 褐灰色 | 細粒砂(10YR2/2 黒褐色 砂質シルトを少し含む) |
| 7' 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルトと10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 φ0.5~1mmのレイを含む |
| 7'' 10YR5/1 褐灰色 | 細粒砂(10YR2/2 黒褐色 砂質シルトを少し含む) |
| 8. 10YR2/3 黒褐色 | 砂質シルト(10YR5/1 褐灰色 細粒砂を多く含む) |
| 9. 5Y5/2 灰オリーブ色 | 細粒砂 よく締まる 粘性なし |
| 10. 10YR2/3 黒褐色 | 砂質シルト(10YR5/1 褐灰色 細粒砂を少し含む) |
| 11. 5GY7/1 明オリーブ灰色 | 細粒砂(上面が土壌化する) よく締まる |
| 11' 10YR3/2 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない 11のブロックを含む |
| 11'' 5GY7/1 明オリーブ灰色 | 細粒砂(上面が土壌化する) よく締まる |
| 12. 2.5Y6/1 黄灰色 | 中粒砂(上面が黄灰色化している 5Y6/4 オリーブ黄色) 締まり弱い |
| 13. 10YR5/4 褐灰色 | シルト 締まりなし、粘性あり(10YR2/1 黒色 シルトブロック型張り 腐植土) |
| 14. 7.5YR4/1 褐灰色 | 細粒泥状砂質シルト 締り土 |
| 15. 5YR3/1 黒褐色 | シルト質中粒砂 |
| 16. 5GY7/1 明オリーブ灰色 | 細粒砂(上面が土壌化する) よく締まる |
| 17. 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない 6と11少し混じる |
| 18. 10YR2/2 黒褐色 | 砂質シルトと10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 4と11少し混じる |



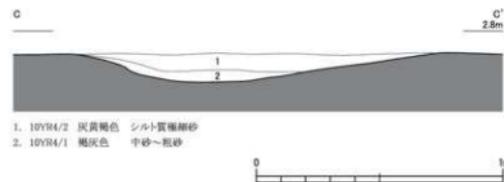


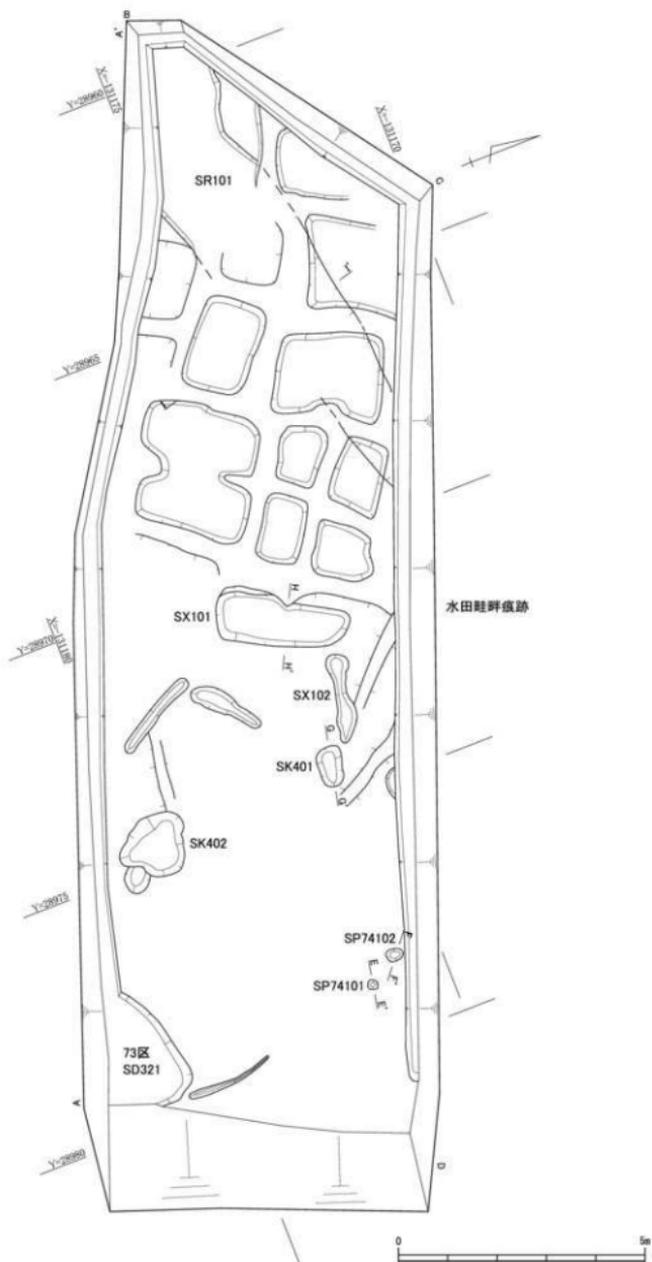
- | | | | |
|----|---------|--------|----------------|
| 1. | 10YR7/2 | にじい黄土色 | 細砂 |
| 2. | 10YR7/2 | 明黄土色 | 細砂 |
| 3. | 10YR5/2 | 灰黄土色 | シルト質極細砂 |
| 4. | 10YR4/1 | 黄土色 | シルト質極細砂 |
| 5. | 10YR3/2 | 灰黄土色 | 中砂～粗砂 |
| 6. | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中砂～粗砂及びシルト質極細砂 |
- 層上
 層上
 層上
 砂層
 土著化層

SD321



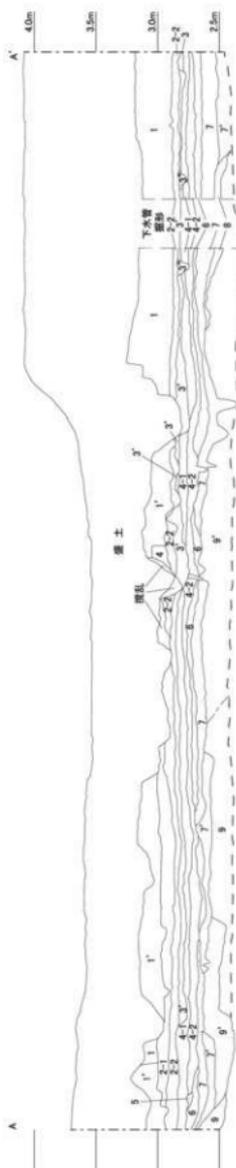
SD322





全体図

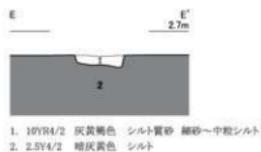
南壁



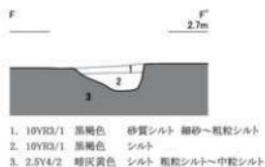
1. 5V4/1	灰色	砂質シルト	現代耕土	I層
1. 5V4/1	灰色	砂質シルト	現代耕土	I層
2-1. 5V5/1	灰色	埋砂混じりシルト	現代耕土 (灰混)	II層
2-2. 5V5/1	灰色	砂質シルト	耕土化 灰土	埋砂
3. 2. 5V5/1	黄灰色	埋砂混じり砂質シルト	粘性多め 埋砂を含む	
3. 2. 5V5/1	黄灰色	埋砂混じりシルト		
3. 2. 5V5/1	黄灰色	埋砂混じりシルト		
4-1. 2. 5V5/1	黄灰色	シルト質粘土	埋砂土層に含む 4層上半	III~IV層
4-2. 5V4/1	灰色	粘土質シルト	4-1 下部層 4層下半	IV層
5. 5V4/2 ~ 7. 5V4/2	埋砂質埋砂		耕土化	
6. 5V4/1	灰色	埋砂混じりシルト	埋砂、粗砂混じり褐色ブロック含む	V層
7. 2. 5V5/1	黄褐色	シルト	埋砂~埋砂多め含む 5層ブロック状に混入 耕土化	VI層
7. 2. 5V5/1	黄褐色	シルト	(SR101 最上層)	V埋砂
8. 5V4/1	灰色	シルト混じり埋砂		
9. 2. 5V5/1	黄褐色	シルト	(SR101 最上)	V埋砂
9. 2. 5V4/1	黄灰色	シルト混じり埋砂~中砂 僅 1mm程度の埋砂を含む パーミッシュ SR101 埋土		V埋砂

南壁土層断面図

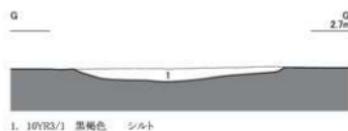
P74101



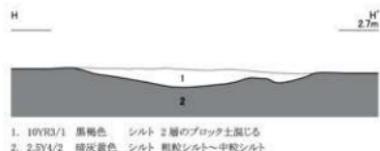
P74102



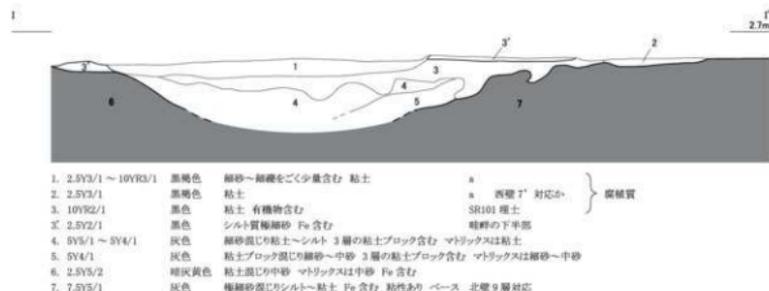
SK401

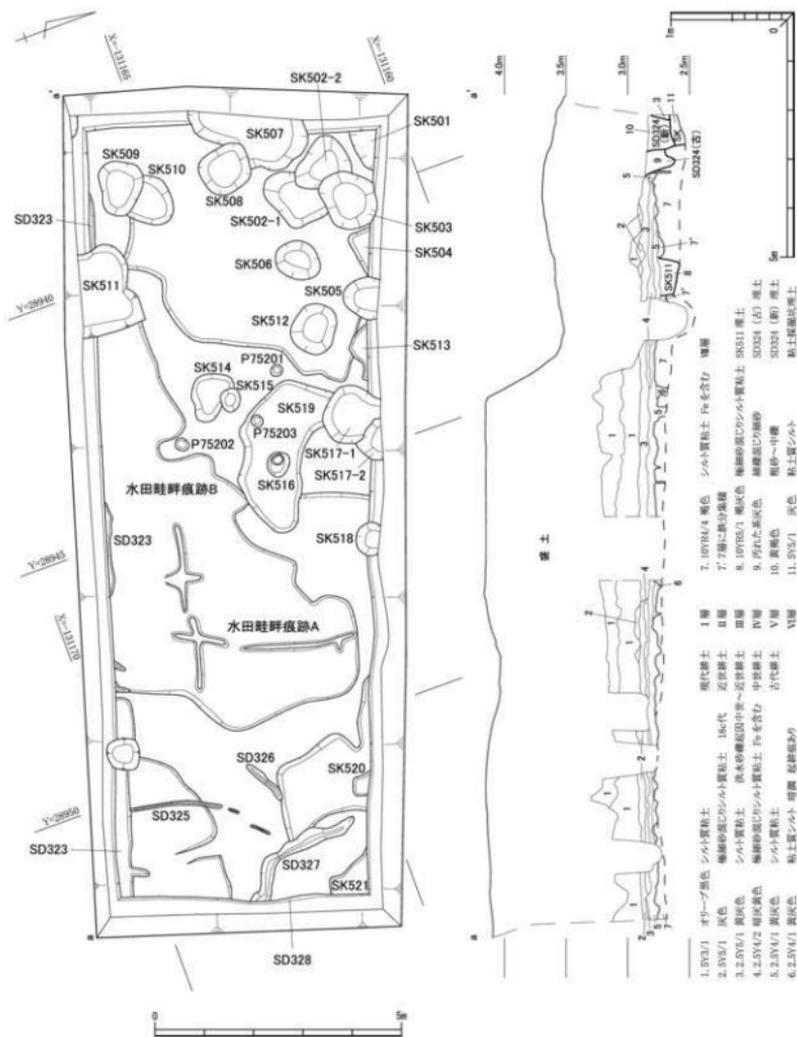


SX101

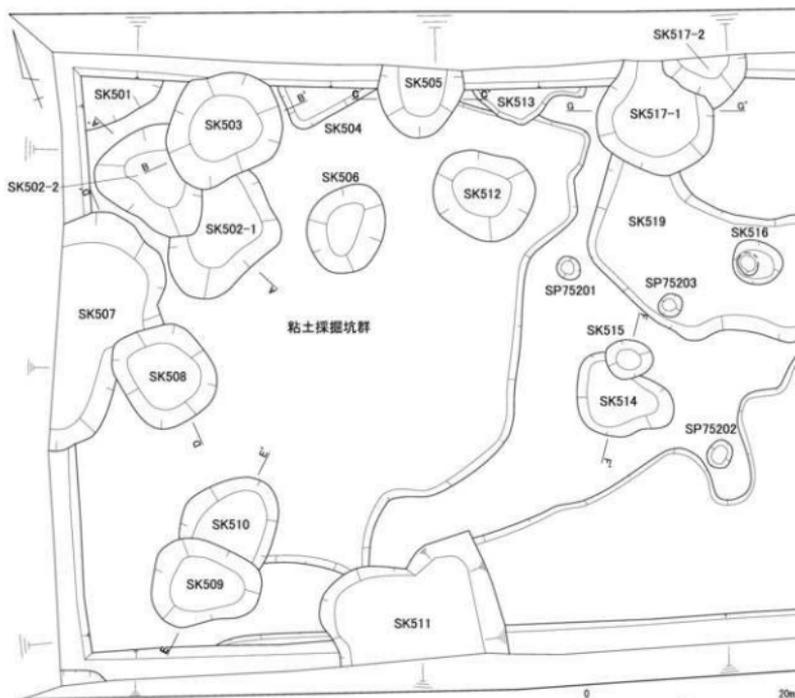


SR101

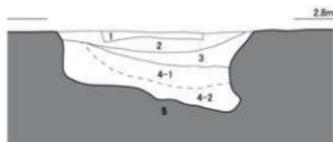




全体図・南壁土層断面図



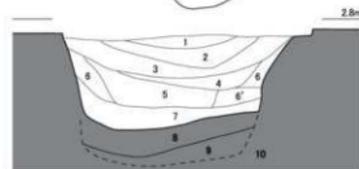
SK506



1. 10YR5/1 褐色土 雑砂・植物による腐乱を伴う 10YR/1 シルトブロック入る
2. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト質粘土・有機物・炭化物入る *
3. 5Y5/1 灰色 シルト面の中層砂 *
- 4-1. 2.5YR/1 ~ 10YR6/1 黄灰色~褐色 シルト面の中層砂
- 4-2. 褐色 雑砂混じりシルト~粘土 (自然堆積) 5YR3/1 雑砂砂混じり腐乱質シルト・10YR4/4 ~ 4/6 シルトブロック含む Fe 含む
5. 10YR6/1 褐色土 シルト面の中層砂~雑砂 上面に Fe 集積するベース

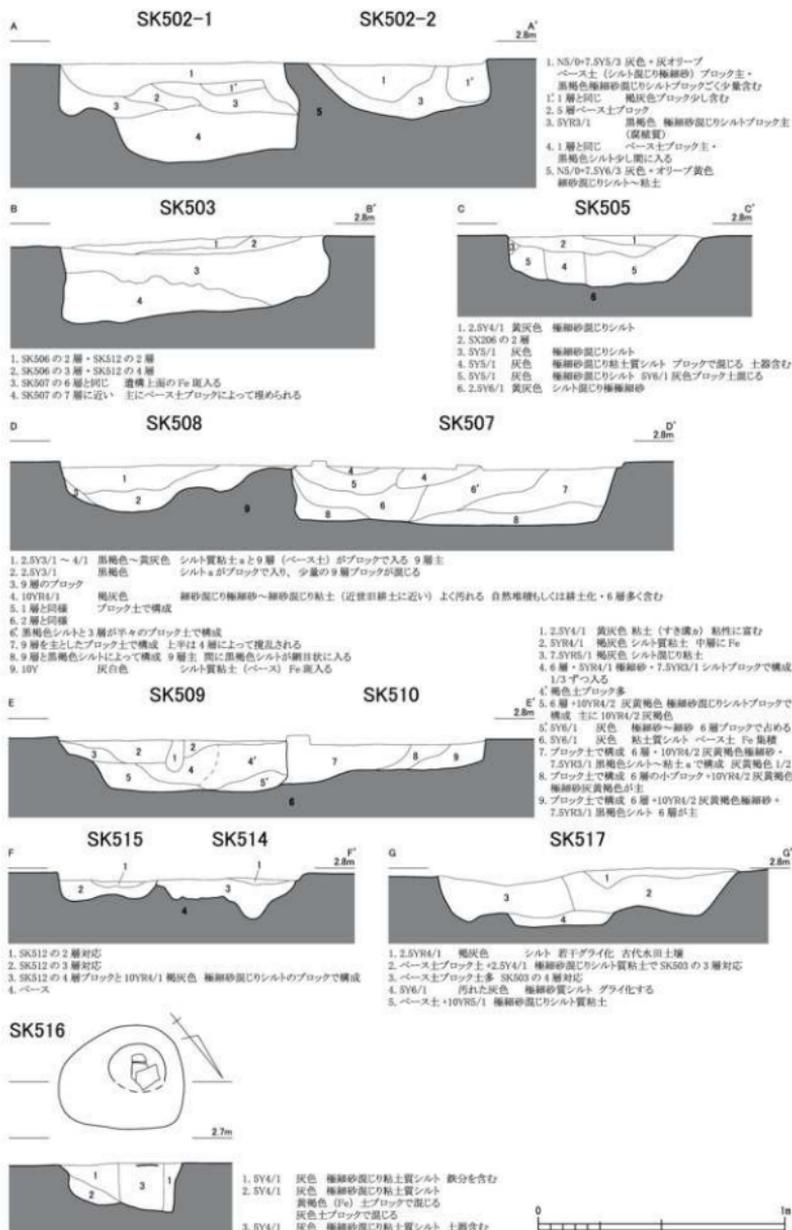


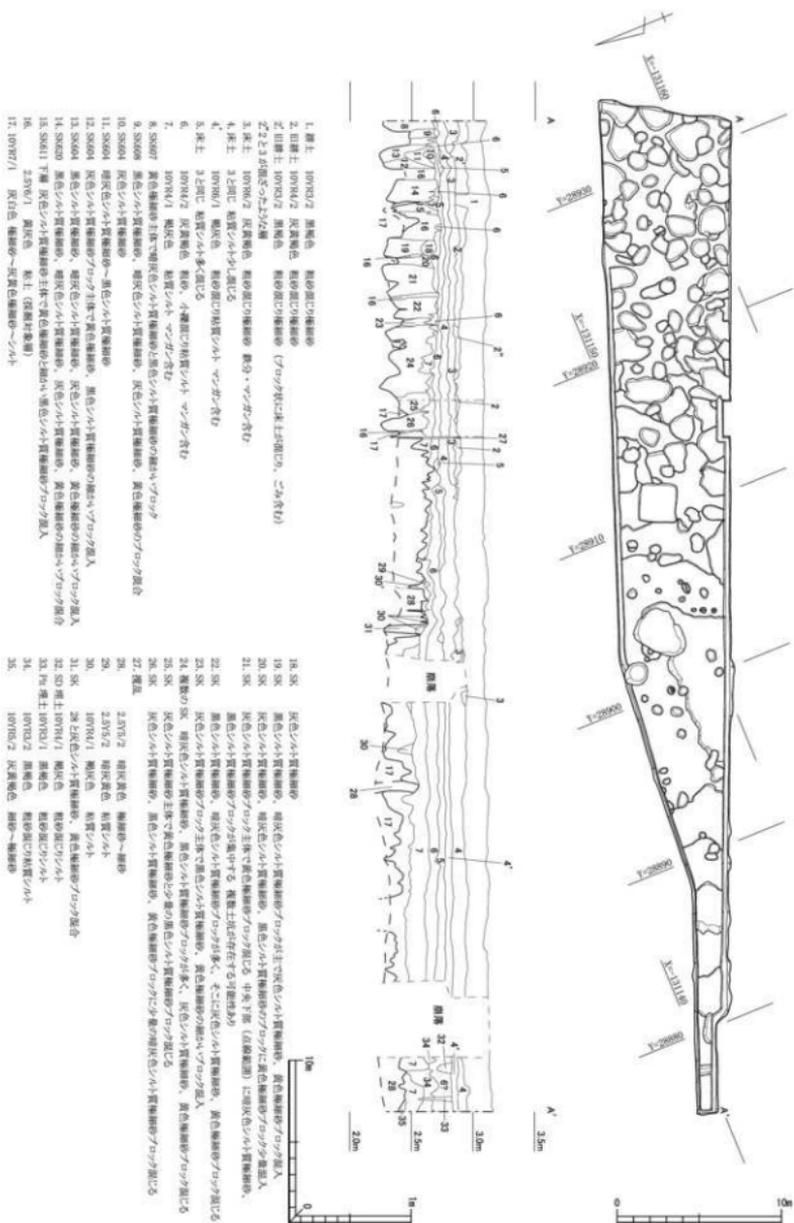
SK512



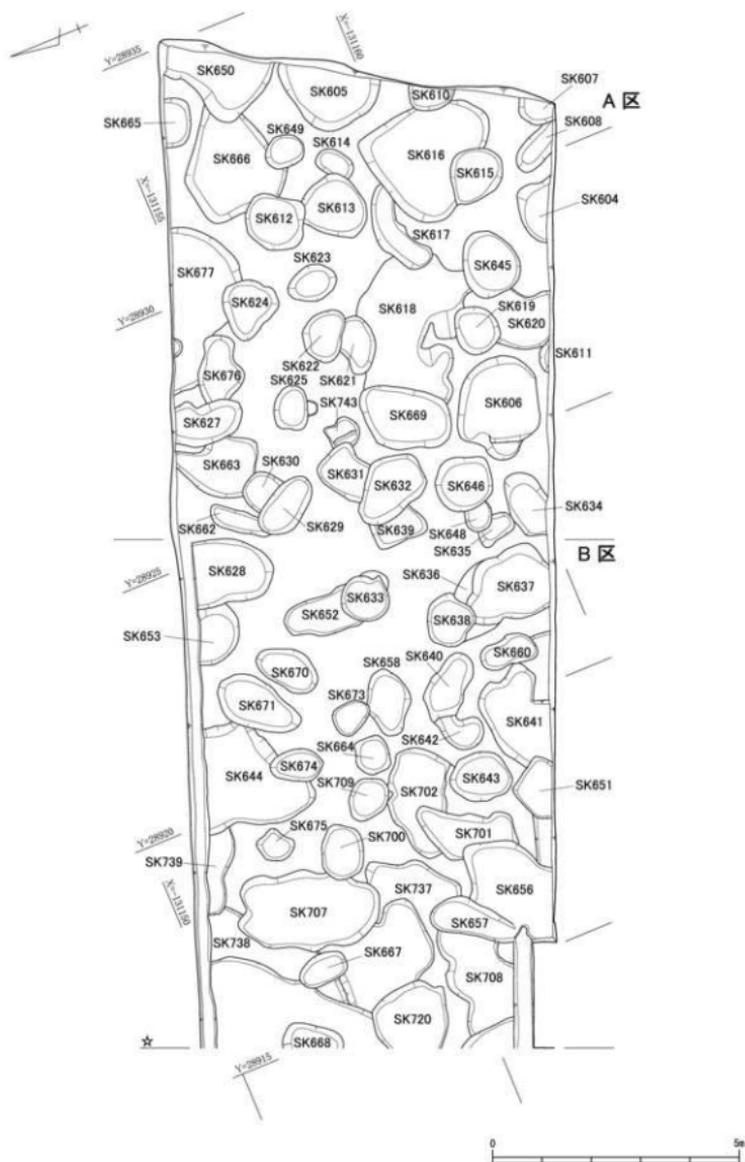
1. 10YR5/1 褐色土 雑砂・植物による腐乱を伴う 10YR/1 シルトブロック入る
2. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト質粘土・有機物・炭化物入る *
3. 5Y5/1 ~ 4/1 灰色 雑砂面の中層土質シルト *
4. 5Y5/1 灰色 シルト面の中層砂 *
5. 多数のシルト・粘土ブロックが混入する 5YR3/1 雑砂砂混じりシルト・10YR4/4 ~ 4/6 シルト・ベースのブロック * 層 5 層 6 層が混入する
6. 2.5YR/1 ~ 10YR6/1 黄灰色~褐色 シルト面の中層砂
- 6' 2.5YR/1 黄灰色 雑砂混じりシルト
7. 10YR6/1 褐色土 雑砂混じりシルト~粘土 (自然堆積) 5YR3/1 雑砂砂混じり腐乱質シルト・10YR4/4 ~ 4/6 シルトブロック含む Fe 含む
8. 2.5Y7/1 ~ 7/2 灰白色~灰黄色 雑砂混じりシルト Fe 含む 黄褐色土ブロック一部混入
9. 10YR6/2 ~ 7.5YR6/2 灰黄褐色~灰褐色 中層質砂
10. 10YR6/1 褐色土 シルト面の中層砂~雑砂 上面に Fe 集積するベース

粘土探掘坑 I SK506・SK512

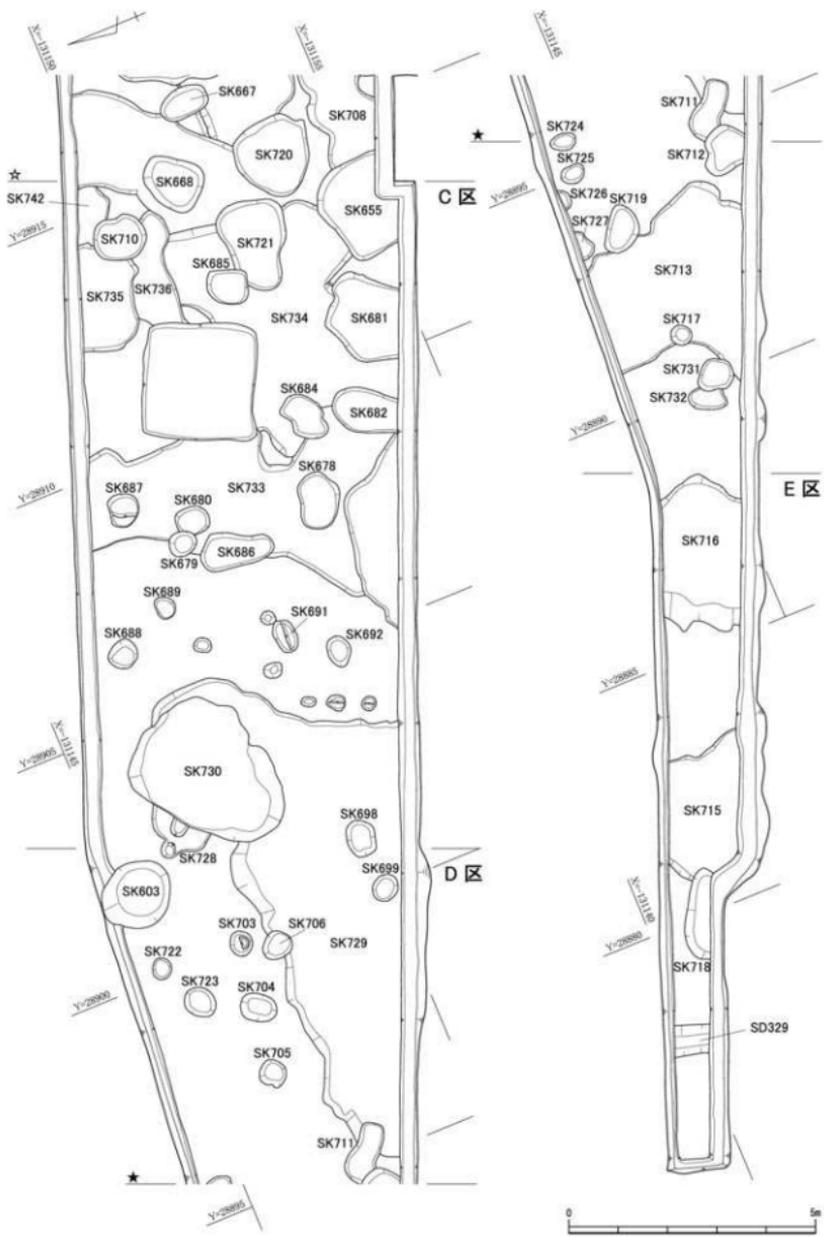




全体図・南壁土層断面図

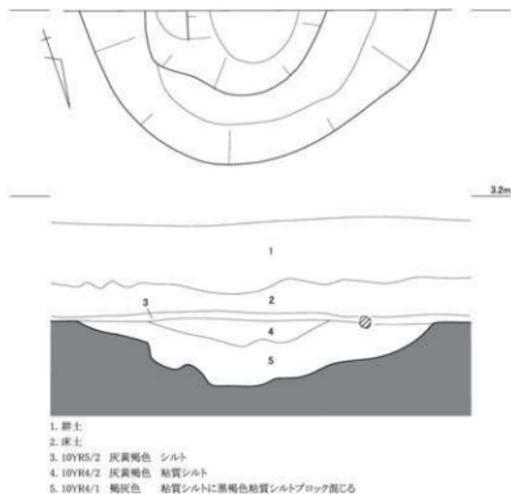


全体図 1

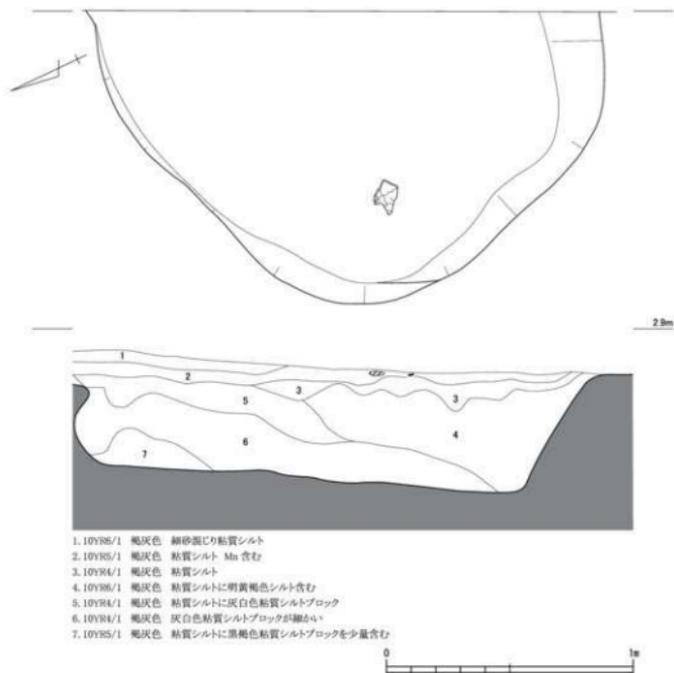


全体図 2

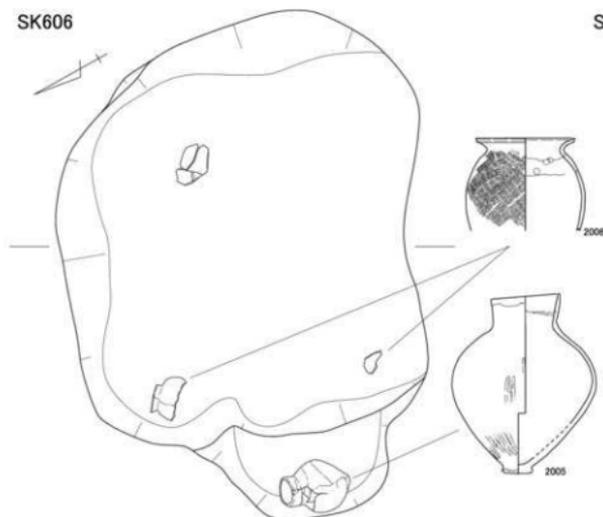
SK604



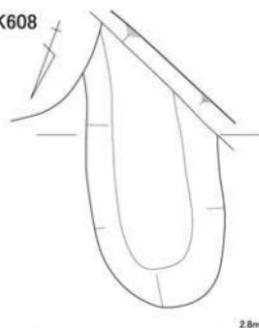
SK605



SK606

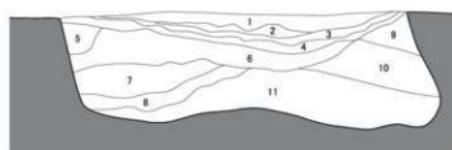


SK608



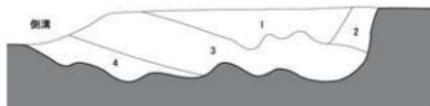
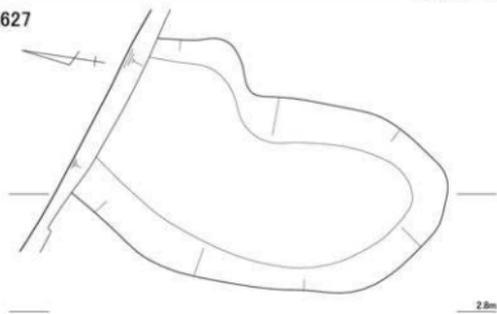
1. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルト
2. 10YR6/4 濃い黄褐色 粘質シルトに黒褐色粘質シルト混じる

2.8m



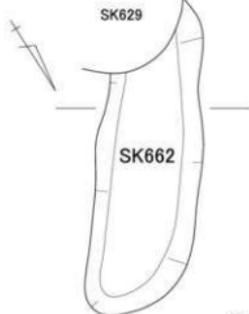
1. 10YR4/2 灰黄褐色 粘質シルト
2. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルトに濃い黄褐色粘質シルト少量混じる
3. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルト
4. 10YR5/1 褐色 粘質シルト
5. 10YR5/1 褐色 粘質シルト
6. 5YR6/1 褐色 粘質シルトに灰黄褐色粘質シルトブロックと黒褐色粘質シルト混じる
7. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルトと黒褐色粘質シルトと褐色粘質シルトの3種類のブロック混じる
8. 10YR6/1 褐色 粘質シルトに黒褐色粘質シルト少量含む
9. 10YR5/1 褐色 粘質シルトに濃い黄褐色粘質シルト少量混じる
10. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルトに灰黄褐色粘質シルトブロック混じる
11. 10YR6/1 褐色 粘質シルトに黒褐色粘質シルト少量含む

SK627



1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の層が4ブロックに大きなブロック(5~10cm)を含む。黄色極細砂混入
4. 3と同じだが黄色極細砂ブロックがなくなる(5cm以下)

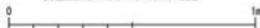
SK629

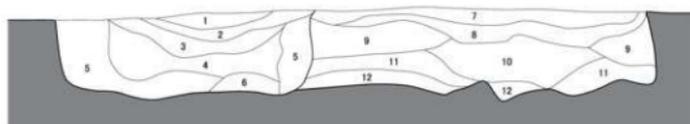
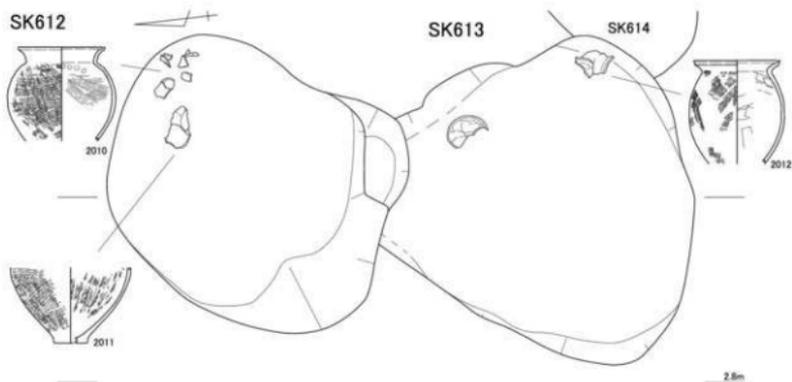


SK662



1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の層が4ブロックの混合



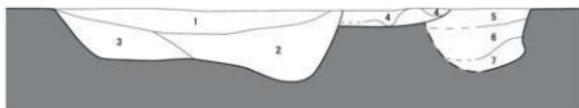
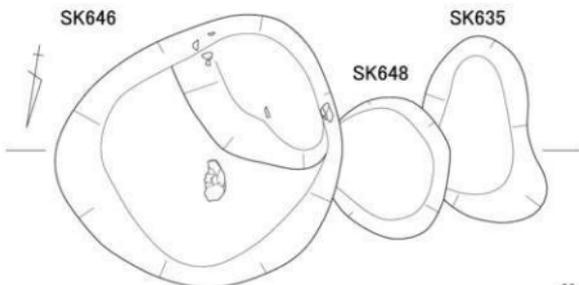


SK612

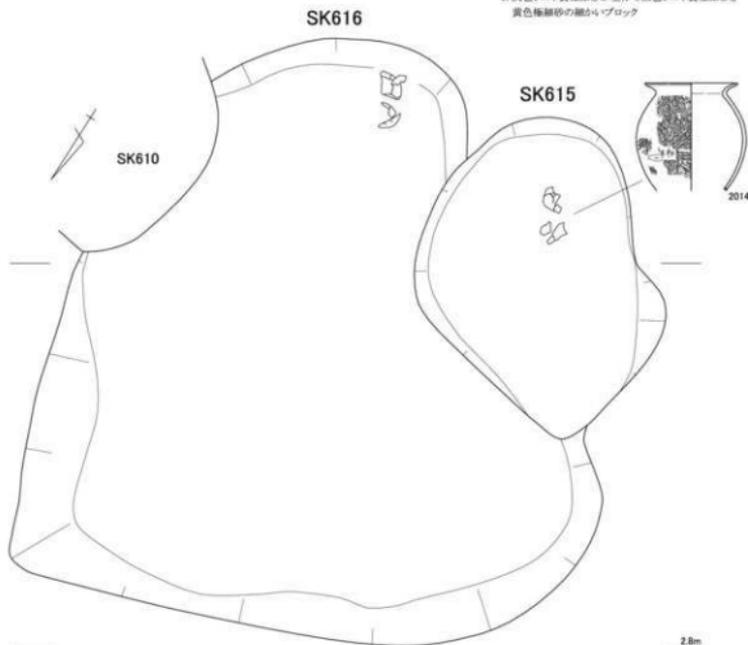
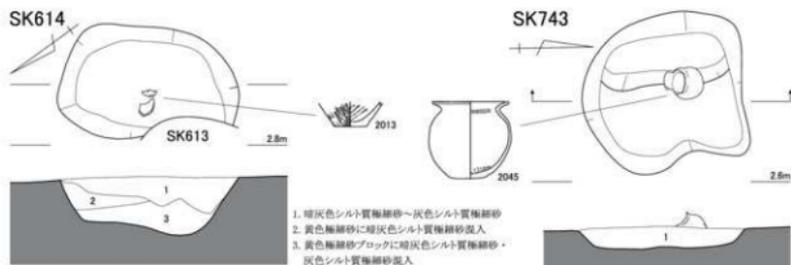
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト
2. 10YR3/2 黒褐色 粘質シルト
3. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルト
4. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルトに灰白色粘質シルトブロック混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルトに灰白色粘質シルトと黒褐色粘質シルトブロック混じる
6. 10YR5/1 褐色 粘質シルトに灰白色粘質シルトブロックと黒褐色粘質シルトブロック混じる

SK613

7. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルト
8. 10YR6/1 褐色 粘質シルト
9. 10YR5/2 灰黄褐色 シルトに灰黄褐色シルトと灰白色シルトブロック含む
10. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルトブロックと灰白色粘質シルトブロックの混合
11. 10 と色は同じで各々のブロックが細かい
12. 10YR6/1 褐色 粘質シルト

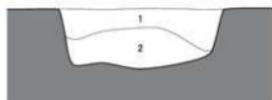
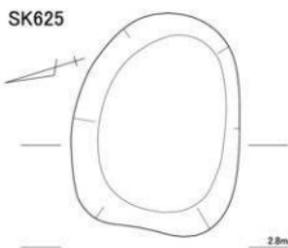


1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロックと黒色シルト質極細砂ブロック混入
2. 灰色シルト質極細砂ブロック・黄色極細砂ブロックの混合に少量の黒色シルト質極細砂ブロック混じる
3. 灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂混入
5. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック
6. 暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合
7. 黒色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂ブロック

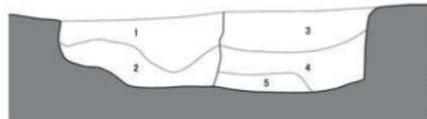


1. 灰色シルト質極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂、黄色極細砂とごく少量の黒色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂が同じくらいで、黒色シルト質極細砂ブロック混入
3. 暗灰色シルト質極細砂に縞が、黄色極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック含む
4. 黄色極細砂ブロック主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック混入
5. 灰色極細砂
6. 黄色極細砂ブロック主体で灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック含む、黒色シルト質極細砂少量
7. 暗灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックが主体で黒色シルト質極細砂ブロック少量含む

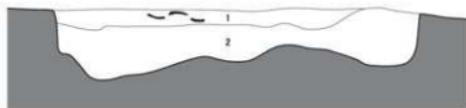
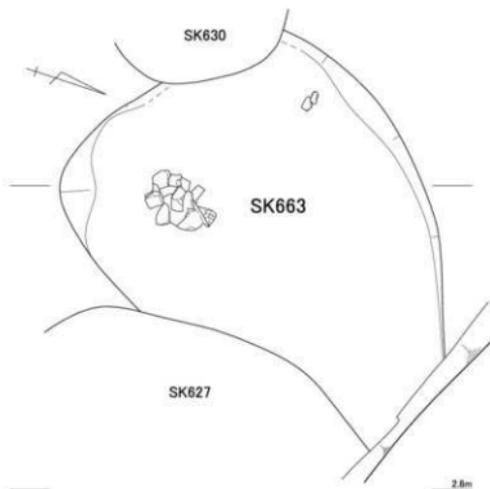




1. 暗灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂少量混入
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロック混合

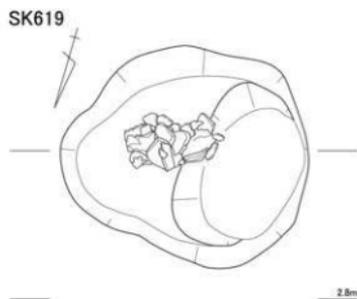


1. 灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂ブロックが土で灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の間にブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂ブロックが土で黒色シルト質極細砂ブロック及び黄色極細砂ブロック混入
5. 2に細かい黒色シルト質極細砂ブロックが混ざったもの

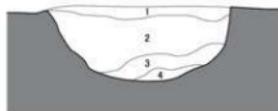
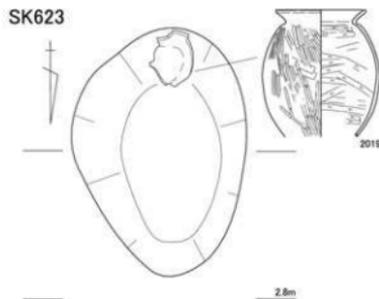


1. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックの混合
2. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックが混じり、暗灰色シルト質極細砂が多い



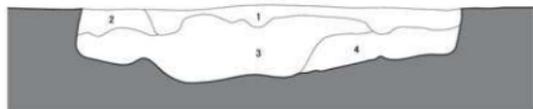
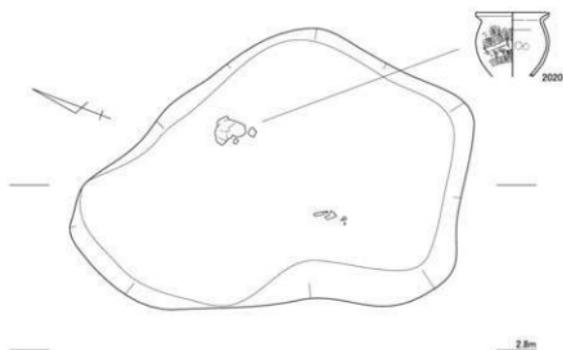


1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 細か〜灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合
4. 黄色極細砂ブロックに径 2 cm 程度の黒色シルト質極細砂ブロック・灰色シルト質極細砂ブロック混合



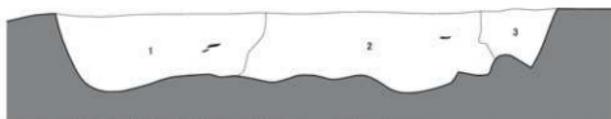
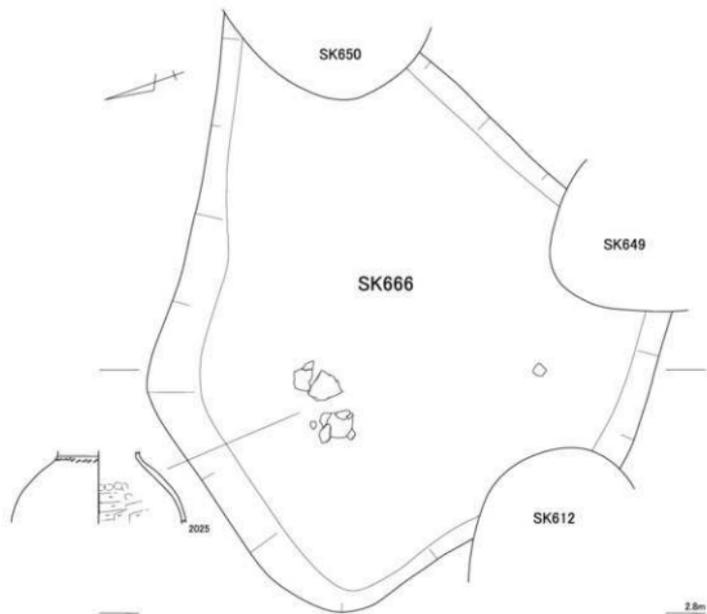
1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混合
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロックと少量の黒色シルト質極細砂ブロック混じる
3. 黒色シルト質極細砂に極少量の灰黄色極細砂
4. 灰黄色極細砂

SK632

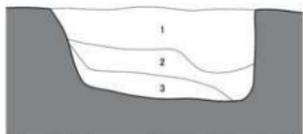
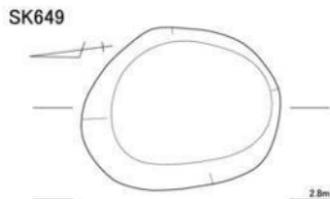


1. 灰色シルト質極細砂〜暗灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂ブロックが主体で、灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細か〜ブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂の細か〜ブロック (φ 5cm 以下) の混合
4. 黄色極細砂・黒色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックの混合

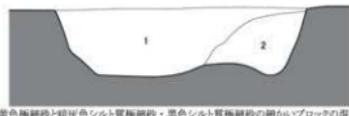
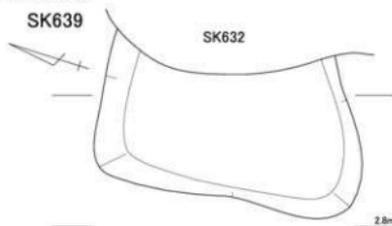




1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の大きなブロックと極少量の黒色シルト質極細砂ブロック
2. 暗灰色シルト質極細砂、灰色シルト質極細砂、黄色極細砂、黒色シルト質極細砂の細か4ブロックの混合
3. 黄色極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂、黄色シルト質極細砂の細か4ブロック

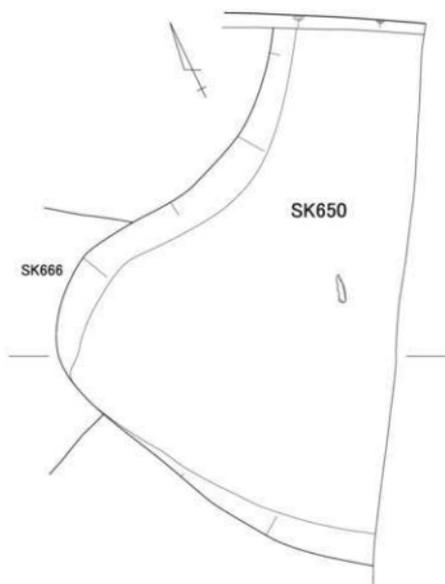


1. 灰色シルト質極細砂に5cm大の黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックの混合
3. 細か4 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) 暗灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックの混合

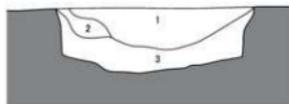
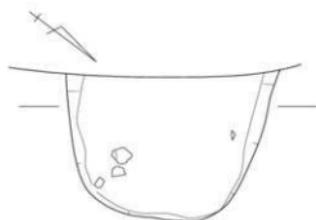


1. 黄色極細砂と暗灰色シルト質極細砂、黒色シルト質極細砂の細か4ブロックの混合
2. 黄色極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂、灰色シルト質極細砂の細か4ブロック混入

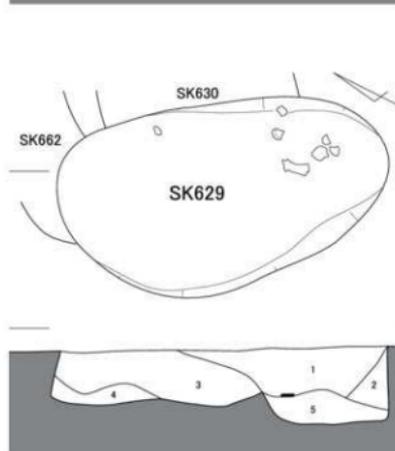
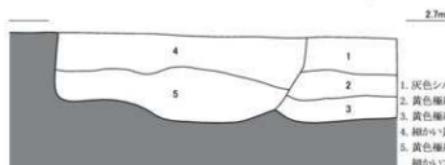




SK630



1. 灰色シルト質礫細砂
2. 灰色シルト質礫細砂に縞状に黒色シルト質礫細砂混入
3. 灰色シルト質礫細砂・黄色礫細砂のブロック混合に黒色シルト質礫細砂ブロック混入

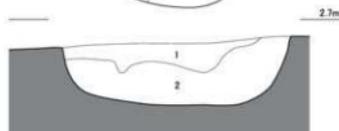
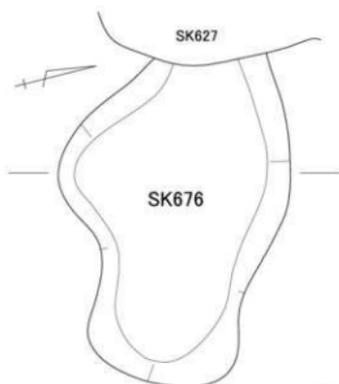


1. 灰色シルト質礫細砂
2. 黄色礫細砂に暗灰色シルト質礫細砂ブロック少量混入
3. 黄色礫細砂に灰色シルト質礫細砂・暗灰色シルト質礫細砂ブロック少量混入
4. 縞が、黄色礫細砂ブロックと灰色シルト質礫細砂・暗灰色シルト質礫細砂ブロックの混合
5. 黄色礫細砂・灰色シルト質礫細砂・暗灰色シルト質礫細砂・黒色シルト質礫細砂の縞が、ブロックの混合

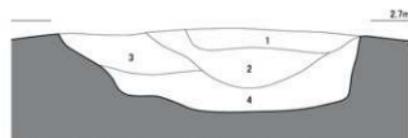
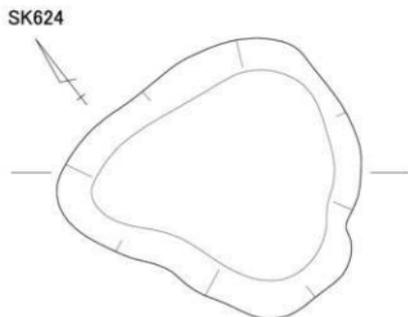
2.7m

1. 暗灰色シルト質礫細砂～灰色シルト質礫細砂
2. 灰色シルト質礫細砂に暗灰色シルト質礫細砂と黄色礫細砂の縞が、ブロック、細砂混入
3. 灰色シルト質礫細砂・暗灰色シルト質礫細砂・黄色礫細砂のブロックに黒色シルト質礫細砂の縞が、ブロック(φ2 cm程度)混入
4. 黄色礫細砂と暗灰色シルト質礫細砂・黒色シルト質礫細砂のブロック混合
5. 4と同じ



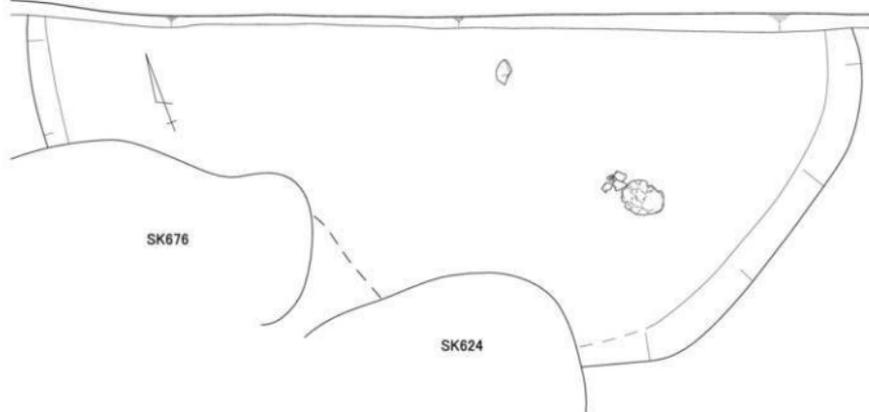


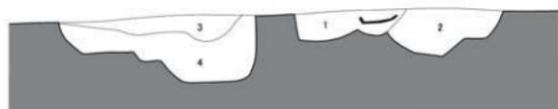
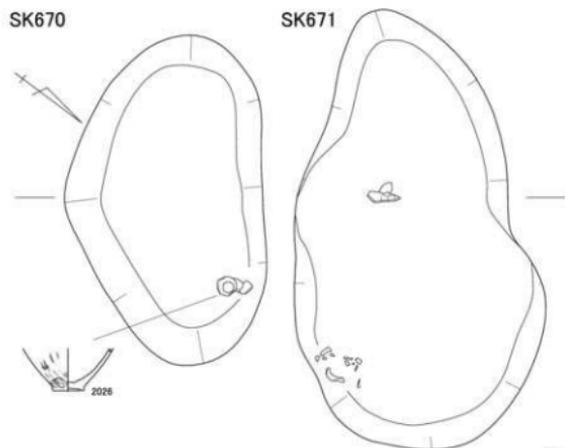
1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック少量混じる
2. 灰色シルト質極細砂 > 黒色シルト質極細砂 > 暗灰色シルト質極細砂 > 黄色極細砂ブロックの混入



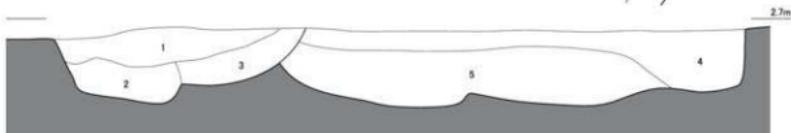
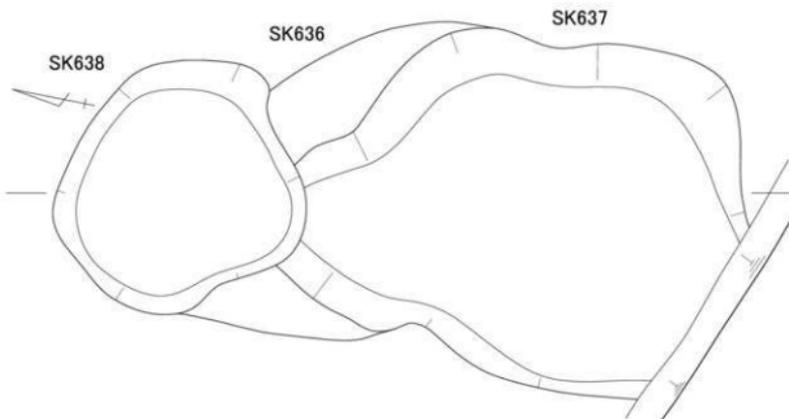
1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混入
2. 黄色極細砂に灰色シルト質極細砂混じる
3. 黄色極細砂と暗灰色シルト質極細砂のブロック混入
4. 灰黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂の細かいブロック混入

SK677



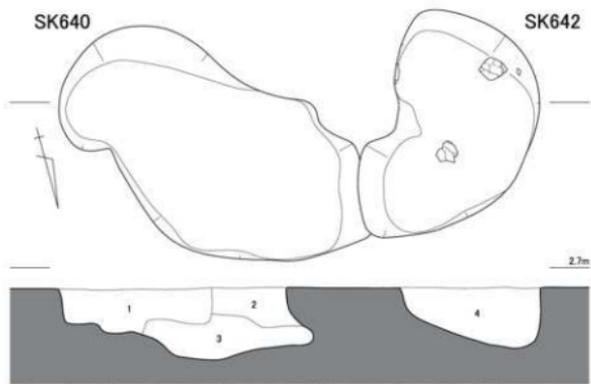


1. 灰色シルト質極細砂に極少量の暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂に灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細54μブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂
4. 暗灰色シルト質極細砂

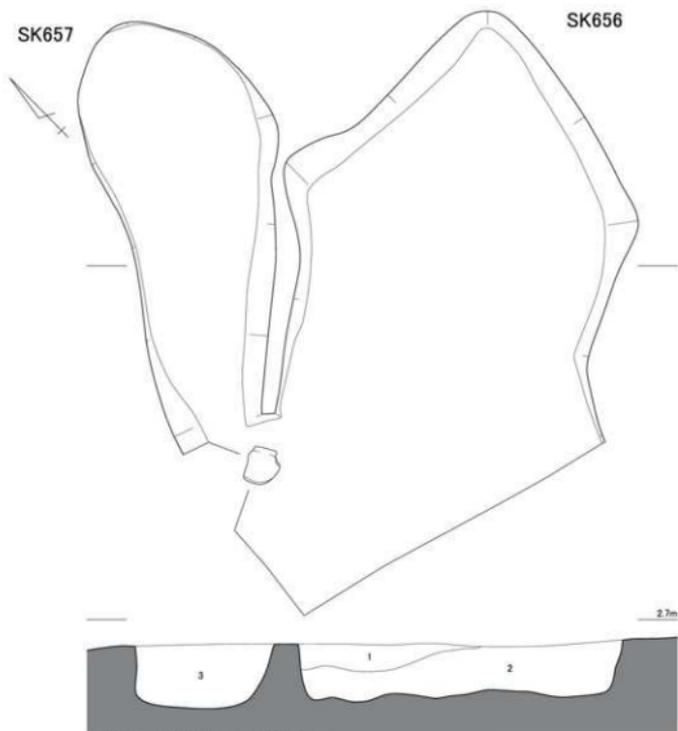


1. 灰色シルト質極細砂
2. 緑がけ暗灰色シルト質極細砂及び黄色極細砂ブロック混合
3. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂の細54μブロック
4. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合
5. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混じる





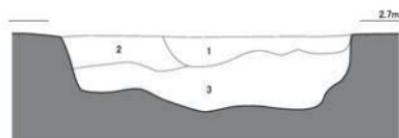
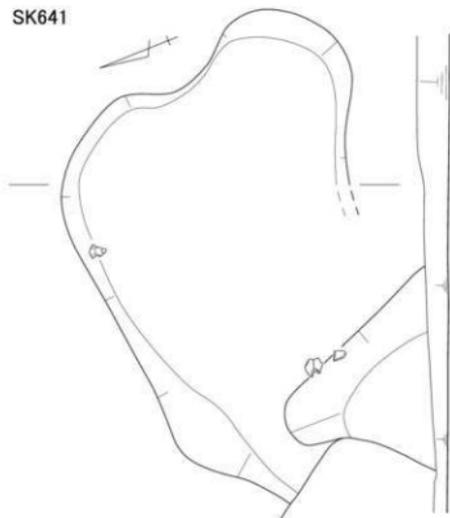
1. 上面に灰色シルト質極細砂のうすい層、黄色極細砂と灰色シルト質極細砂のブロックに埋められ、黒色シルト質極細砂ブロック
2. 黄色極細砂に埋められ、灰色シルト質極細砂ブロック
3. 黒色シルト質極細砂主体で埋められ、黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
4. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の埋められブロック混入



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック
2. 黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の埋められブロック
3. 暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロックの混入

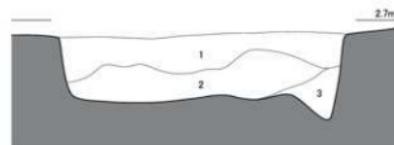
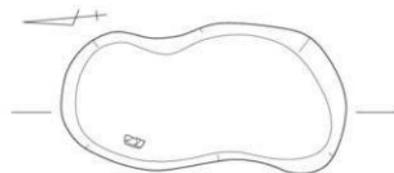


SK641



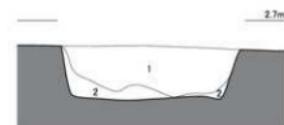
1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の細いブロック少量混入
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混入

SK660



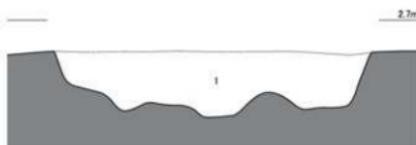
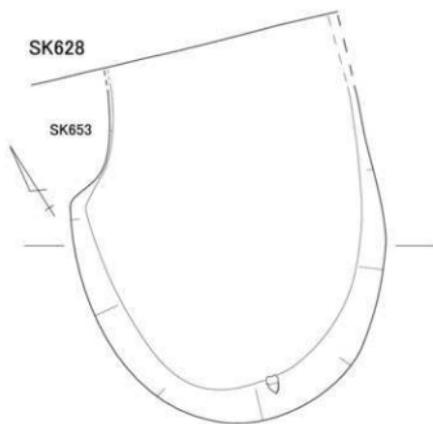
1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混入
2. 黄色極細砂が主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細いブロックの混入

SK664



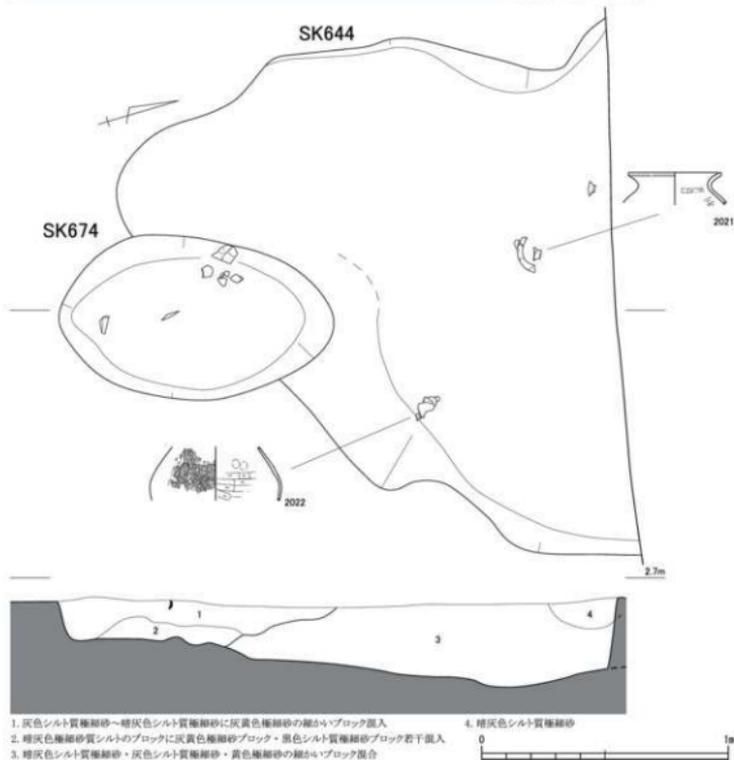
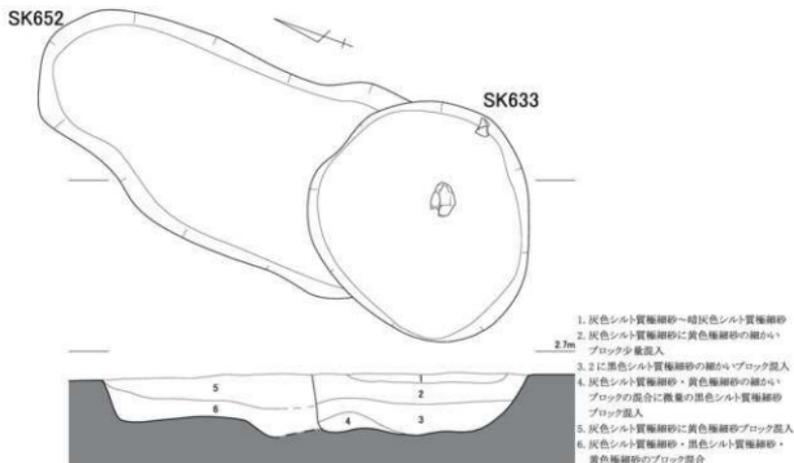
1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック少量混入
2. 灰色シルト質極細砂・淡黄色極細砂の細いブロックの混入

SK628



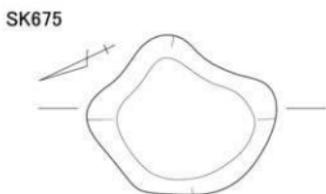
1. 黄色極細砂ブロックに灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細いブロック混入



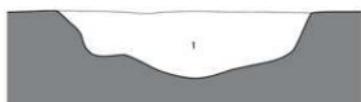
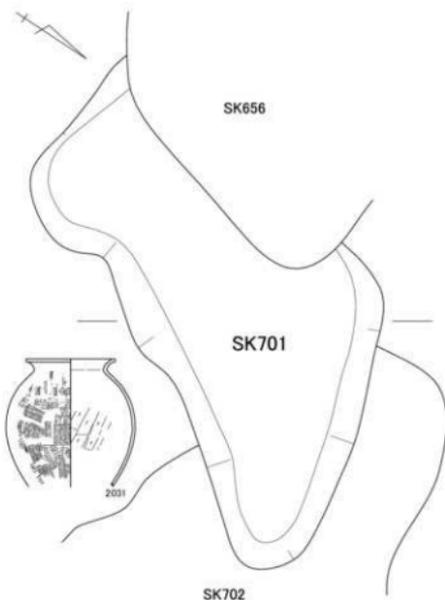




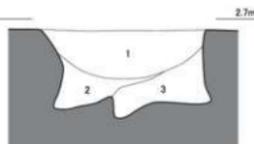
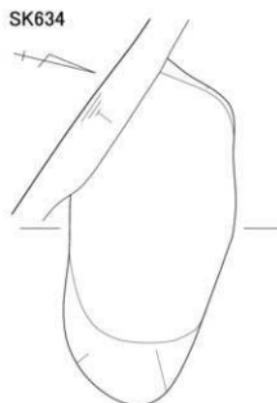
1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細5~4ブロックの混合



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック混入、鉄分付着
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合



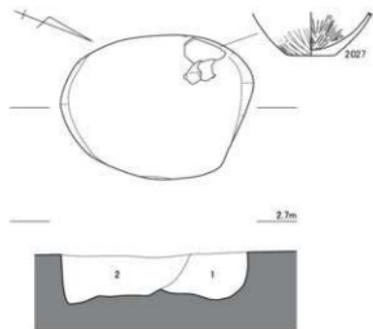
1. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細5~4ブロックの混合



1. 灰色シルト質極細砂（埋積層）
2. 黒色シルト質極細砂ブロック（大）・灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂
3. 黒色シルト質極細砂ブロック・暗灰色シルト質極細砂ブロックに黄色極細砂ブロック混入

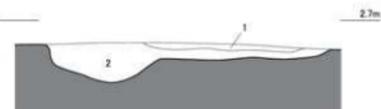
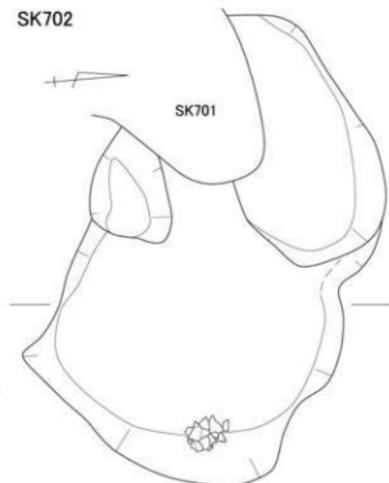


SK673



1. 灰黄色極細砂に灰色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂に灰黄色極細砂・増灰色シルト質極細砂のブロック混入

SK702



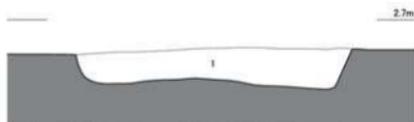
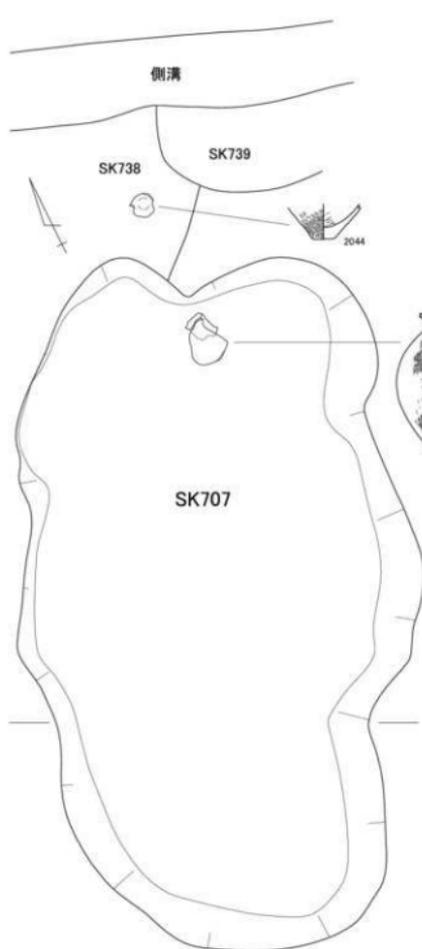
1. 増灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・灰黄色極細砂ブロックの混入

SK720

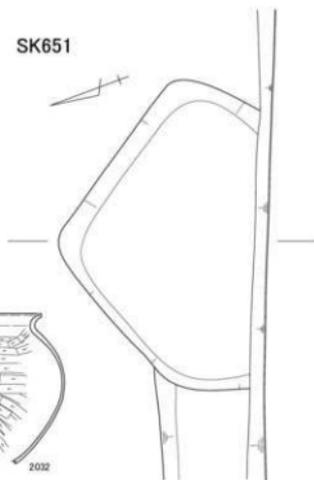


1. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混入
2. 灰色シルト質極細砂ブロック主体で増灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロック混入

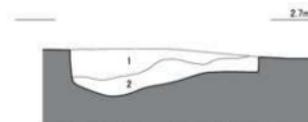
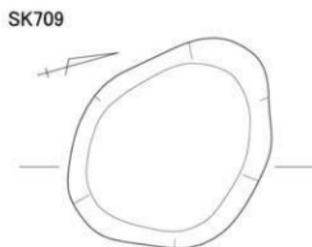




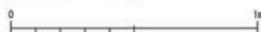
1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合



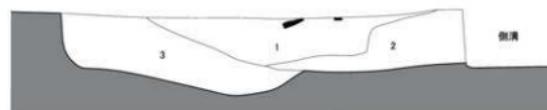
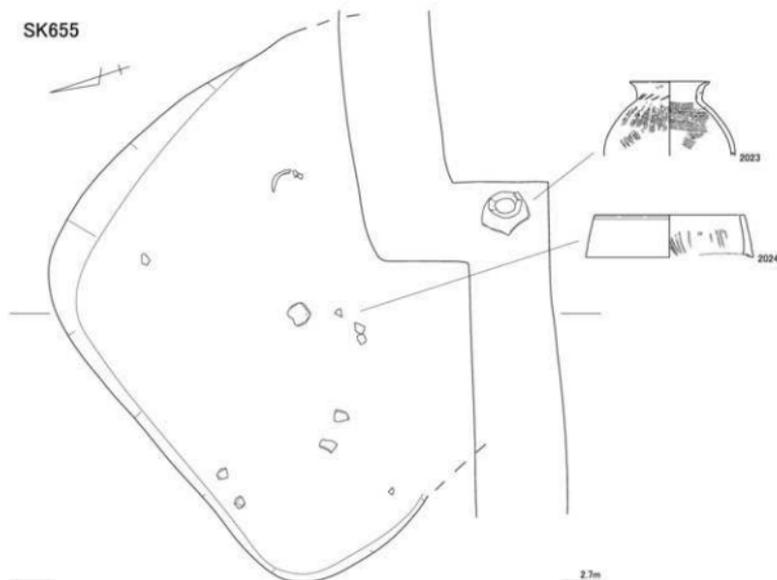
1. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロックの混合
2. 黒色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の中に少量の黄色極細砂ブロック混入



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂ブロック主体で暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細さ4~5ブロック含む



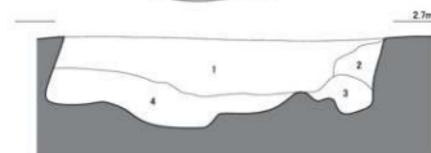
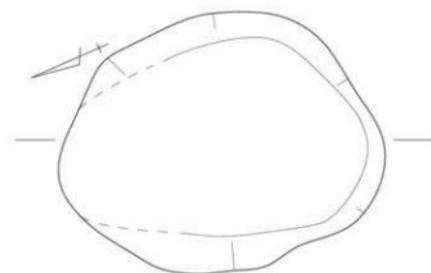
SK655



2.7m

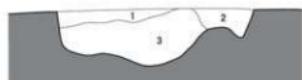
1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂及び灰色シルト質極細砂ブロックの混合
3. 2とほぼ同じで灰色シルト質極細砂ブロック極少量混入

SK643



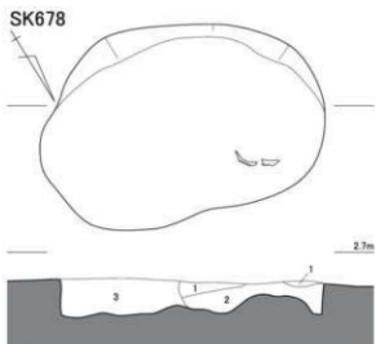
1. 灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂のブロック混入
2. 黄色極細砂に灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック少量混入
4. 黒色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロック・灰色シルト質極細砂ブロックの混合

SK658

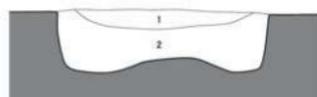
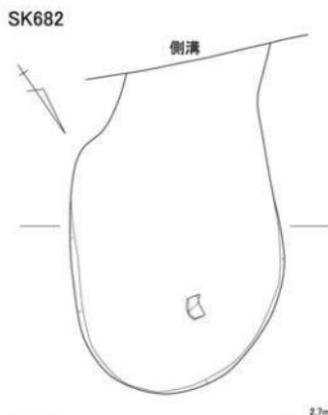


1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂少量混入
2. 1とほぼ同じで黄色極細砂の量が多い
3. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細砂ブロックの混合

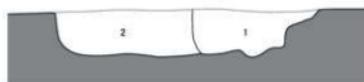
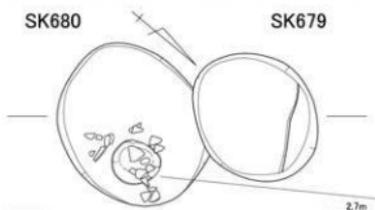
0 1m



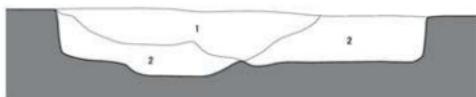
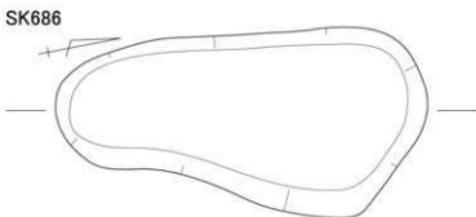
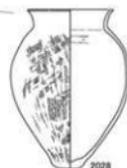
1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂～黒色シルト質極細砂ブロックに黄色極細砂ブロック少量混じる
3. 灰色シルト質極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック混入



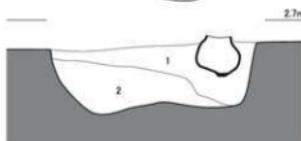
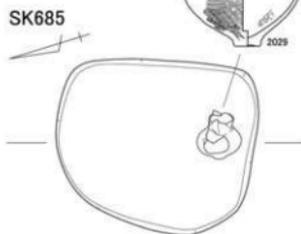
1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細3:4ブロックの混合



1. 暗灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の細3:4ブロック混入
2. 暗灰色シルト質極細砂に黒色シルト質極細砂混入



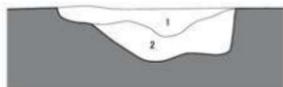
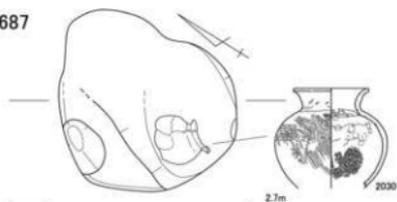
1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロックの混合



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂ブロック混入
2. 黄色極細砂ブロック・暗灰色シルト質極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロックの混合

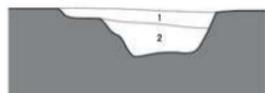
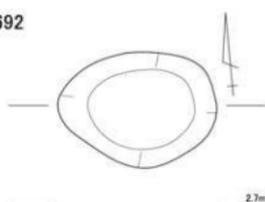


SK687



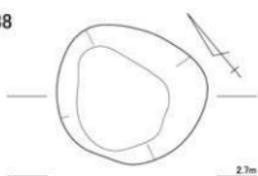
1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂に細かき黄色極細砂ブロック混じる(下層)

SK692



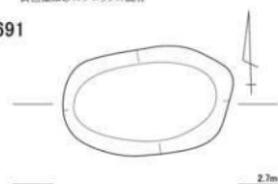
1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロックの混合

SK688



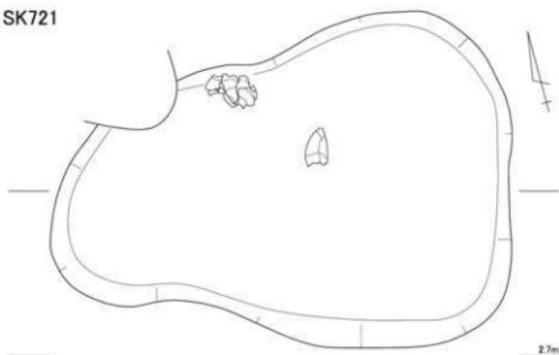
1. 暗灰色シルト質極細砂に粗砂及び黄色極細砂ブロック混入

SK691



1. 暗灰色シルト質極細砂

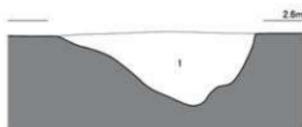
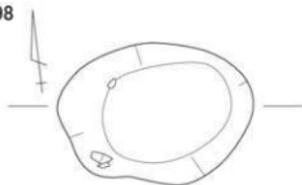
SK721



1. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック

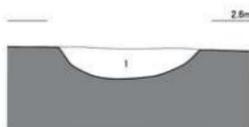
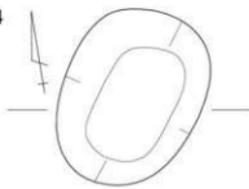


SK698



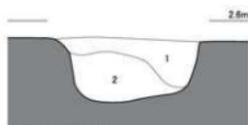
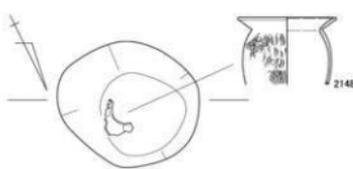
1. 灰色シルト質礫層砂～暗灰色シルト質礫層砂

SK704



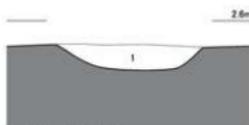
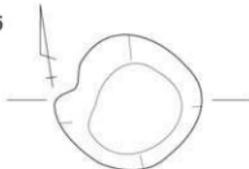
1. 暗灰色シルト質礫層砂

SK699



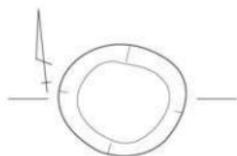
1. 暗灰色シルト質礫層砂
2. 暗灰色シルト質礫層砂と黄色礫層砂のブロック (下層?)
土器は黄色礫層砂のブロック層

SK705



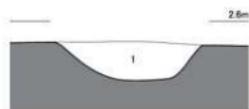
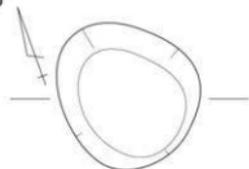
1. 暗灰色シルト質礫層砂

SK703



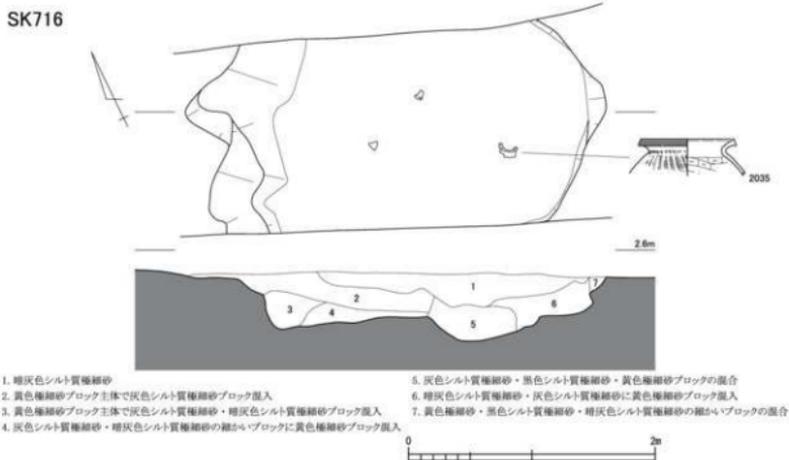
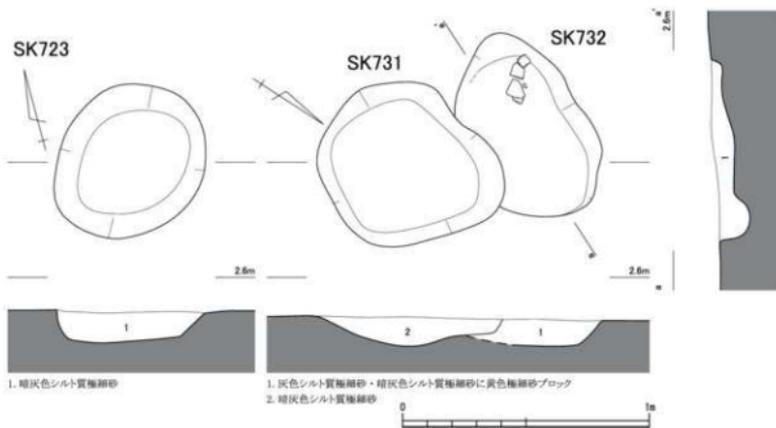
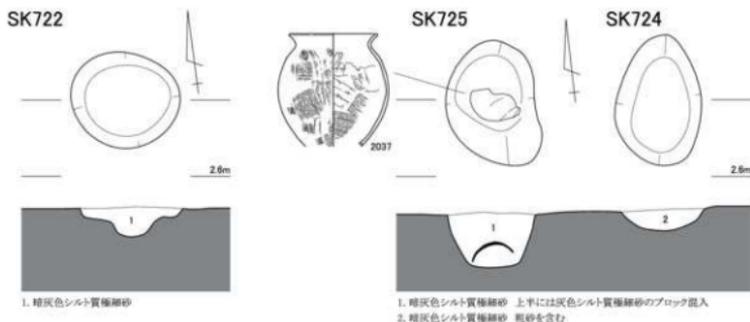
1. 暗灰色シルト質礫層砂

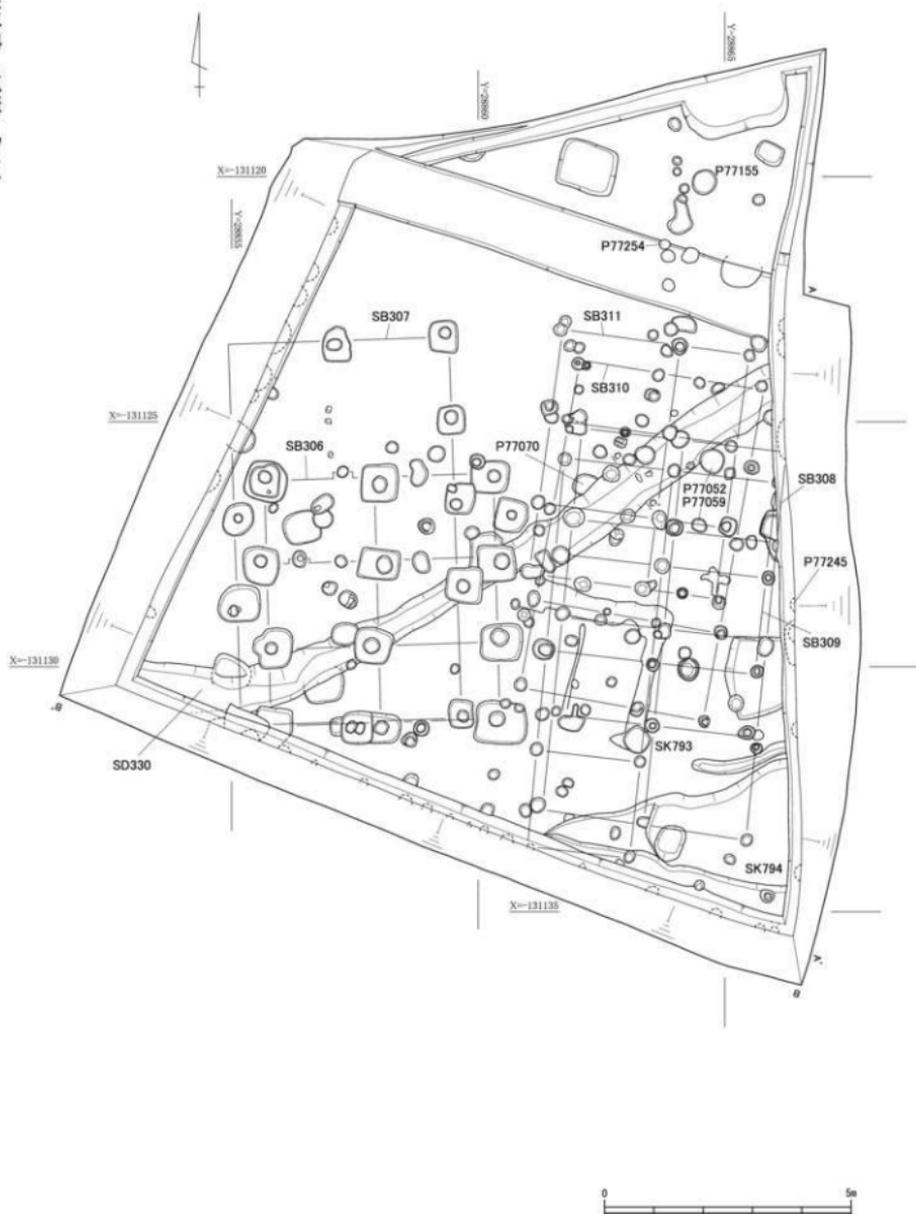
SK706



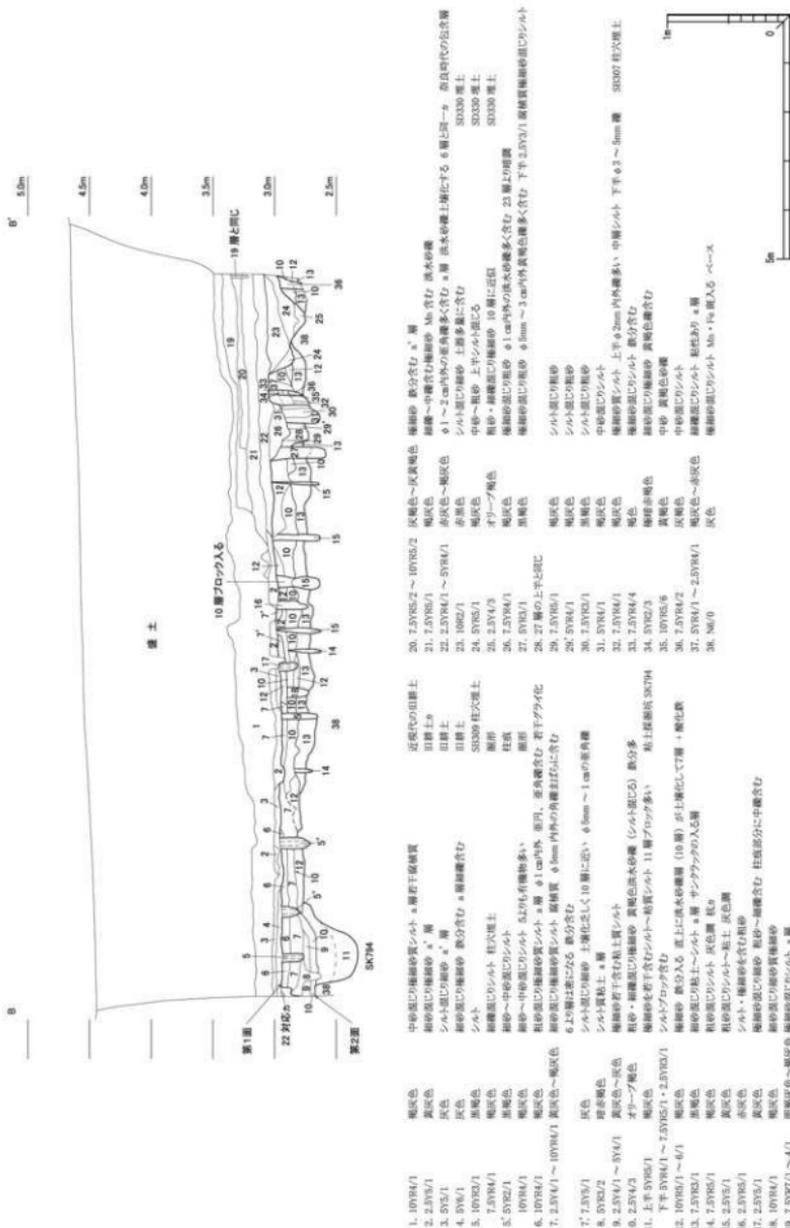
1. 暗灰色シルト質礫層砂





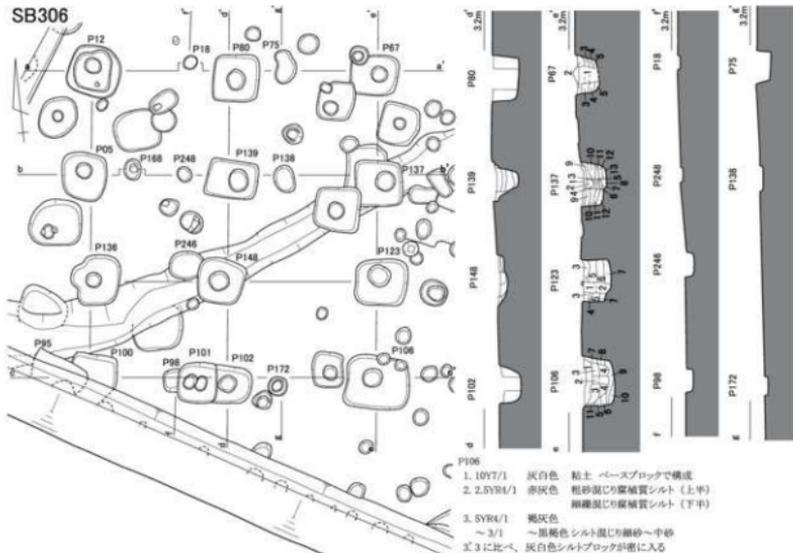


全体図

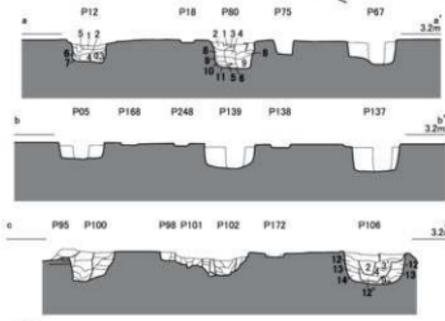


南壁土層断面図

SB306

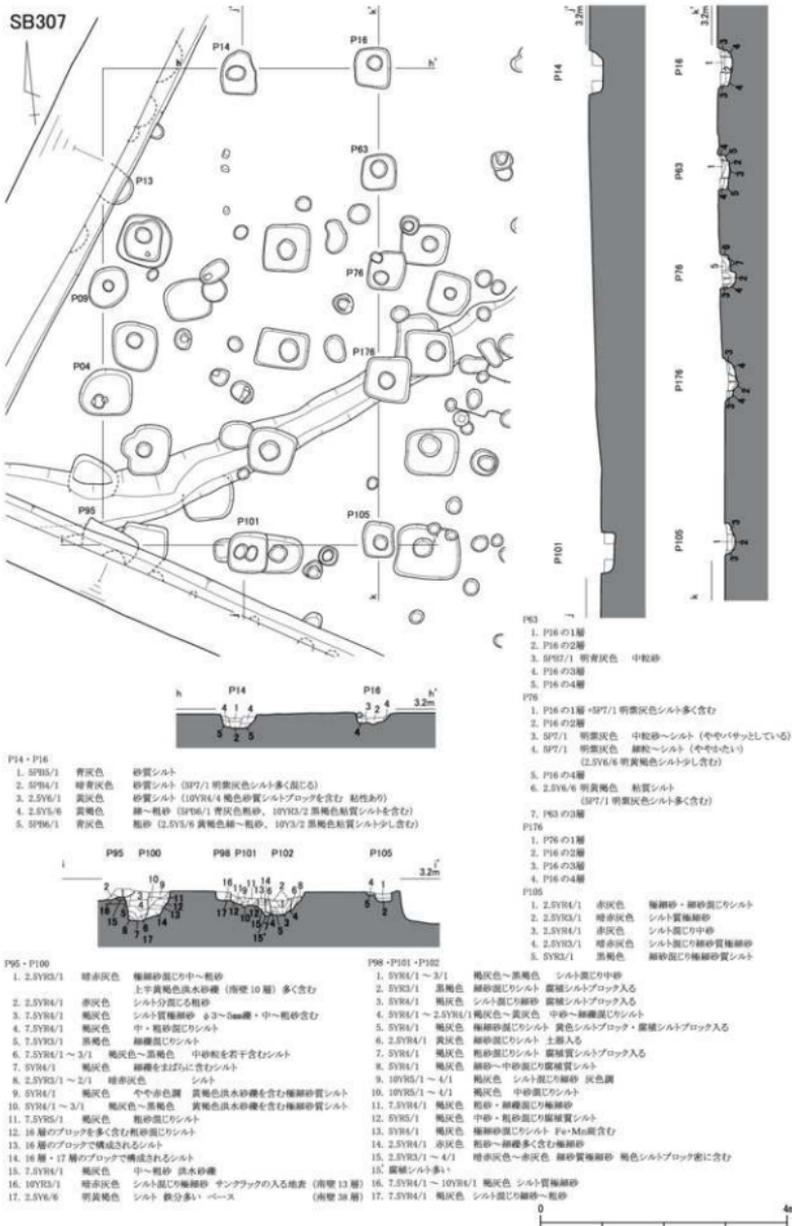


- P106**
1. 10Y7/1 灰白色 粘土 ベースブロックで構成
 2. 2.5YR4/1 赤灰色 粗砂混じり腐植質シルト (上半)
 3. 5YR4/1 黄灰色 細砂混じり腐植質シルト (下半)
 4. 5YR4/1 黄灰色 シルト混じり細砂～中砂
 5. 5YR4/1 黄灰色 シルト混じり細砂が層に入る
 6. 5YR4/1 黄灰色 細砂～中砂混じりシルト 中々腐植質
 7. 3. 層と同じ
 8. 4 層と同じ
 9. 2.5YR4/1 赤灰色 腐植質細砂混じりシルト 黄褐色砂礫ブロックを含む
 10. 5YR4/1 黄灰色 黄褐色砂礫ブロック混じり腐植質シルト
 11. 5YR4/1 黄灰色 粗砂混じり細砂
 12. 2.5YR2/1 暗赤灰色 ～ 5YR2/1 ～黄褐色 細砂混じりシルト質腐植質
 13. 2.5YR2/1 赤褐色 細砂混じり腐植質シルト
 14. 5YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト質シルト
- P123**
1. 10YR4/1 黄灰色 細砂混じり細砂
 2. 10YR3/1 黒褐色 中砂～粗砂混じりシルト
 3. 7.5YR4/1 黄灰色 黄灰色シルトブロック混じりシルト混じり腐植質
 4. 7.5YR4/1 黄灰色 細砂混じりシルト 細砂混じり
 5. 2.5YR4/1 赤灰色 中砂・粗砂混じりシルト ベースブロック多く入る
 6. 2.5YR4/1 赤灰色 腐植質シルト 黄褐色洪水礫・細砂混じり
 7. 5YR4/1 黄灰色 細砂混じりシルト φ10mm 内外を含む
- P137**
1. 7.5YR4/1 黄灰色 シルト混じり腐植質細砂
 2. 7.5YR4/1 黄灰色 ～ 4/2 ～灰褐色 黄褐色洪水礫混じりシルト
 3. 2.5YR2/1 赤褐色 腐植質シルトブロック
 4. 5YR3/1 黒褐色 シルト質腐植質
 5. 10YR4/6 褐色 腐植質シルト ベースブロック
 6. 10YR3/2 黒褐色 腐植質シルト
 7. 10R3/1 暗赤褐色 ベースブロック
 8. 2.5YR4/1 赤灰色 粗砂混じり腐植質シルト
 9. 2.5YR4/1 赤灰色 細砂混じり腐植質 黄褐色洪水礫混じりシルト 腐植質シルトブロック
 10. 10R4/1 暗赤褐色 細砂混じり中・粗砂 腐植質シルトブロック多い
 11. N6/0 灰色 細砂混じりシルト ベースブロック
 12. 10R2/1 赤褐色 腐植質シルト
 13. 7.5YR4/1 黄灰色 腐植質シルト混じり粗砂
- P67**
1. 5YR5/6 明赤褐色 細砂混じりシルト
 2. 2.5YR5/1 赤灰色
 3. 5YR5/1 ～ 5YR5/1 ～黄褐色 灰白色シルト混じり質腐植質
 4. 2.5YR4/1 赤褐色 細砂混じりシルト
 5. 5YR4/1 黄灰色 灰白色シルトブロックが層に入るシルト
 6. 5YR5/1 黄灰色 腐植質シルト混じり粗砂



- P12**
1. 10YR4/1 黄灰色 細砂混じりシルト
 2. 7.5YR4/1 黄灰色 腐植質細砂混じり細砂
 3. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり中・粗砂
 4. 7.5YR5/1 黄灰色 中砂混じりシルト ベースのシルトブロック含む
 5. 7.5YR4/1 黄灰色 粗砂混じり腐植質 砂礫含む
 6. 7.5YR4/1 黄灰色 細砂質腐植質 ベースシルトブロック多く含むシルト
 7. 7.5YR5/1 黄灰色
- P90**
1. 7.5YR4/1 黄灰色 細砂混じり細砂
 2. 7.5YR4/1 黄灰色 腐植質細砂混じり細砂～中砂 中々明洞
 3. 7.5YR4/1 黄灰色
 4. 7.5YR4/1 黄灰色 中砂～粗砂混じり腐植質シルト
 5. 5YR10/1 黄灰色 粗砂・細砂混じりシルト
 6. 5YR4/1 黄灰色 中砂混じり腐植質シルト
 7. 7.5YR4/1 黄灰色 中砂混じり腐植質
 8. 7.5Y3/1 黄褐色
 9. 5YR4/1 黄灰色 中砂混じりシルト φ1 cm 内外角礫多く含む
 10. 2.5YR4/1 赤灰色 中砂混じり腐植質シルト
 11. 2.5YR4/1 赤灰色 灰白色シルト・腐植質シルトブロック混じり粘質シルト





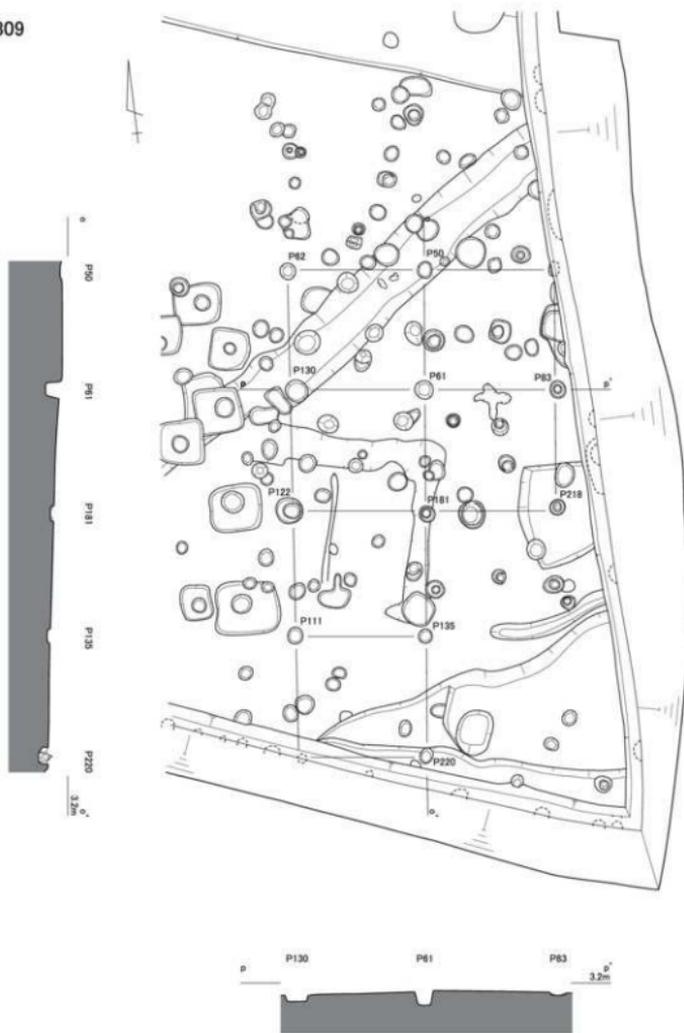
SB308



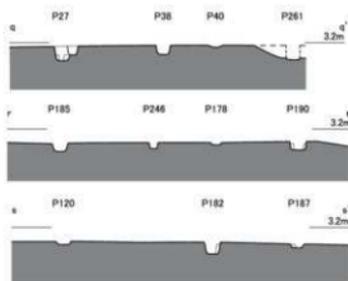
- | | | | |
|----------------------|---------|---------------|-----------------------|
| 1. 10YR4/1 ~ 10YR3/1 | 瓶灰色~黒褐色 | 中砂~細砂混じリシルト | 粘性多 |
| 2. 10YR4/1 | 瓶灰色 | 中砂~細砂 | 極細砂質シルト 61~2mmの角礫多く含む |
| 3. 10YR4/1 | 瓶灰色 | 極細砂~細砂多く含むシルト | 灰白色粘土ブロック入る |
| 4. 10YR4/1 | 瓶灰色 | 極細砂混じリシルト~粘土 | N7/ 灰白色粘土ブロック多 |



SB309

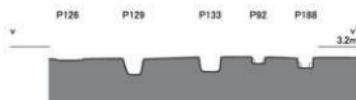
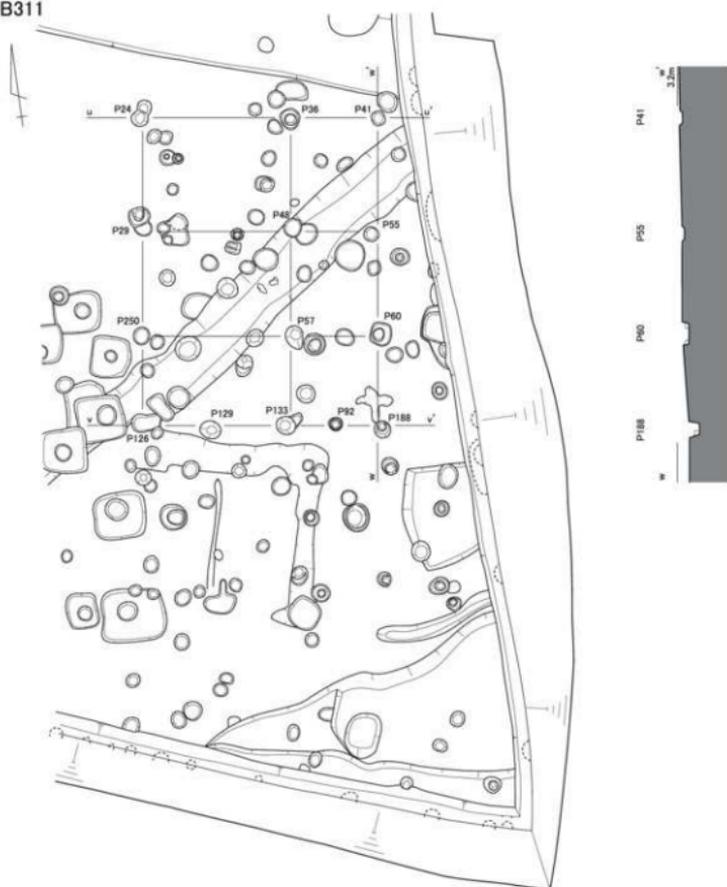


SB310

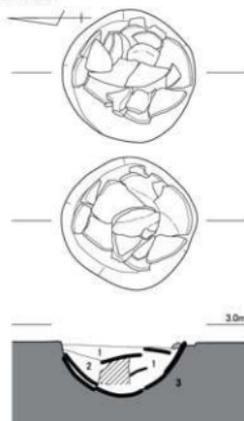


SB310

SB311

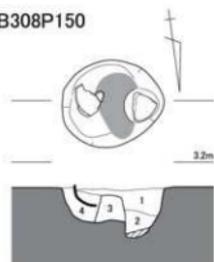


SK793



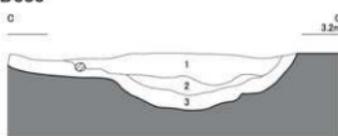
1. 10YR4/1 黄灰色 極細砂質シルト 2層より略調
2. 10YR4/1 黄灰色 φ1～2mmの礫質シルト 粘性あり (3層のブロック入る)
3. 10YR5/6 黄褐色 極細砂質シルト φ1～2mmの礫含む 鉄分多 第1面ベース

SB308P150



1. 10YR4/1～10YR3/1 褐色色 中砂～粗砂質シルト 粘性多
褐色色 中砂～粗砂 極細砂質シルト
2. 10YR4/1 φ1～2mmの礫多を含む
褐色色 極細砂～細砂多含むシルト
3. 10YR4/1 灰白色粘土ブロック入る
4. 10YR4/1 褐色色 極細砂混じりシルト～粘土
灰白色粘土ブロック (アタリ部分) 多

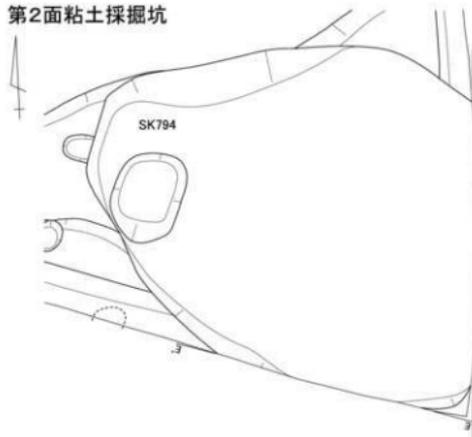
SD330



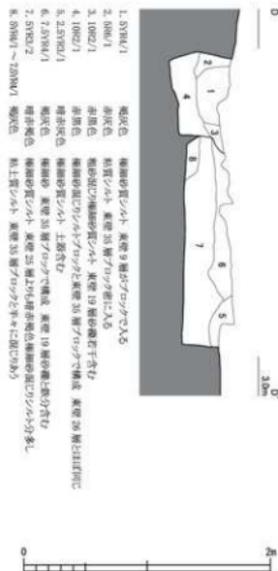
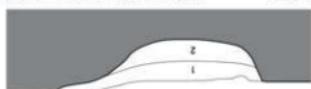
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 明黄褐色粗砂ブロックと明褐色粗砂ブロックを多く含む
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 2.5Y6/2 黄灰色 砂質シルト 明黄褐色粗砂ブロックと明褐色粗砂ブロックを多く含む



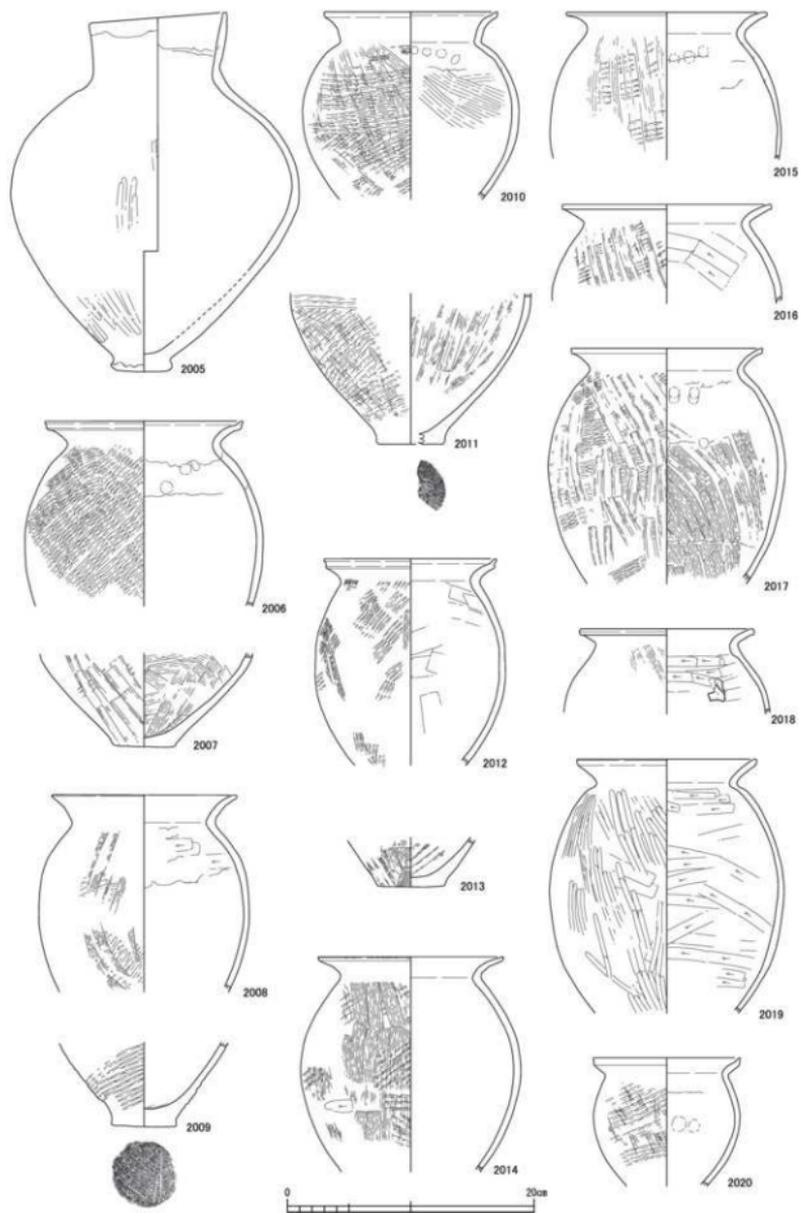
第2面粘土採掘坑

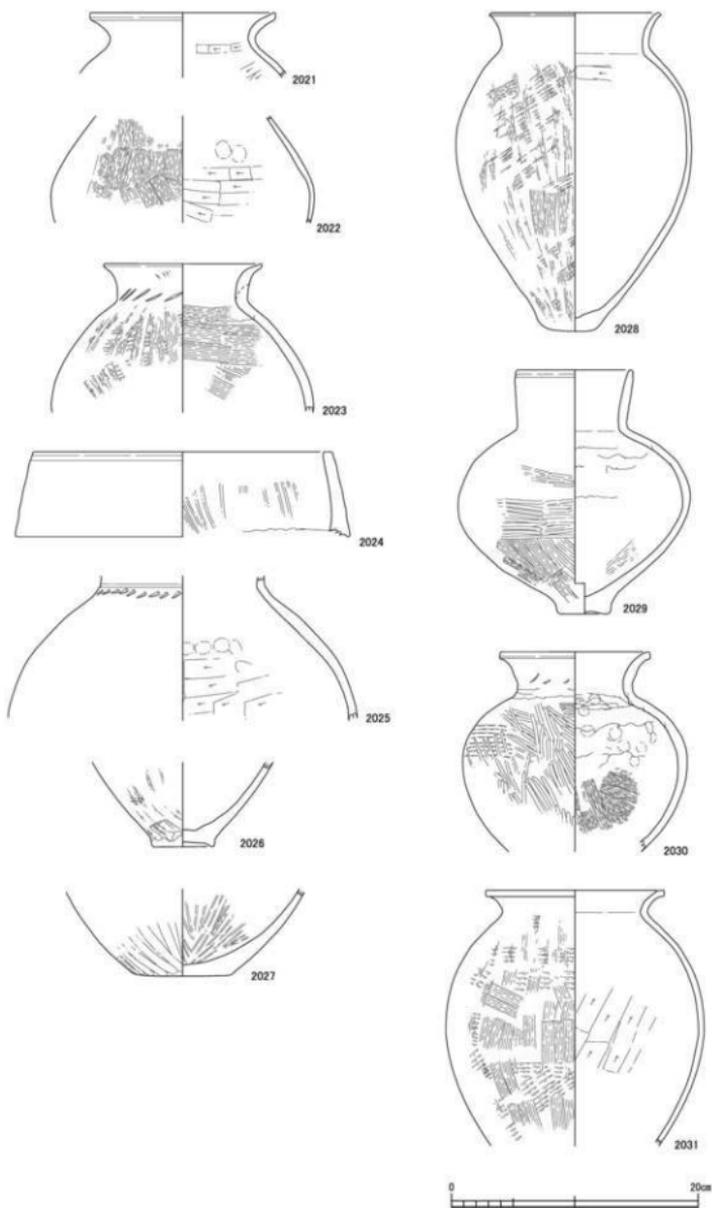


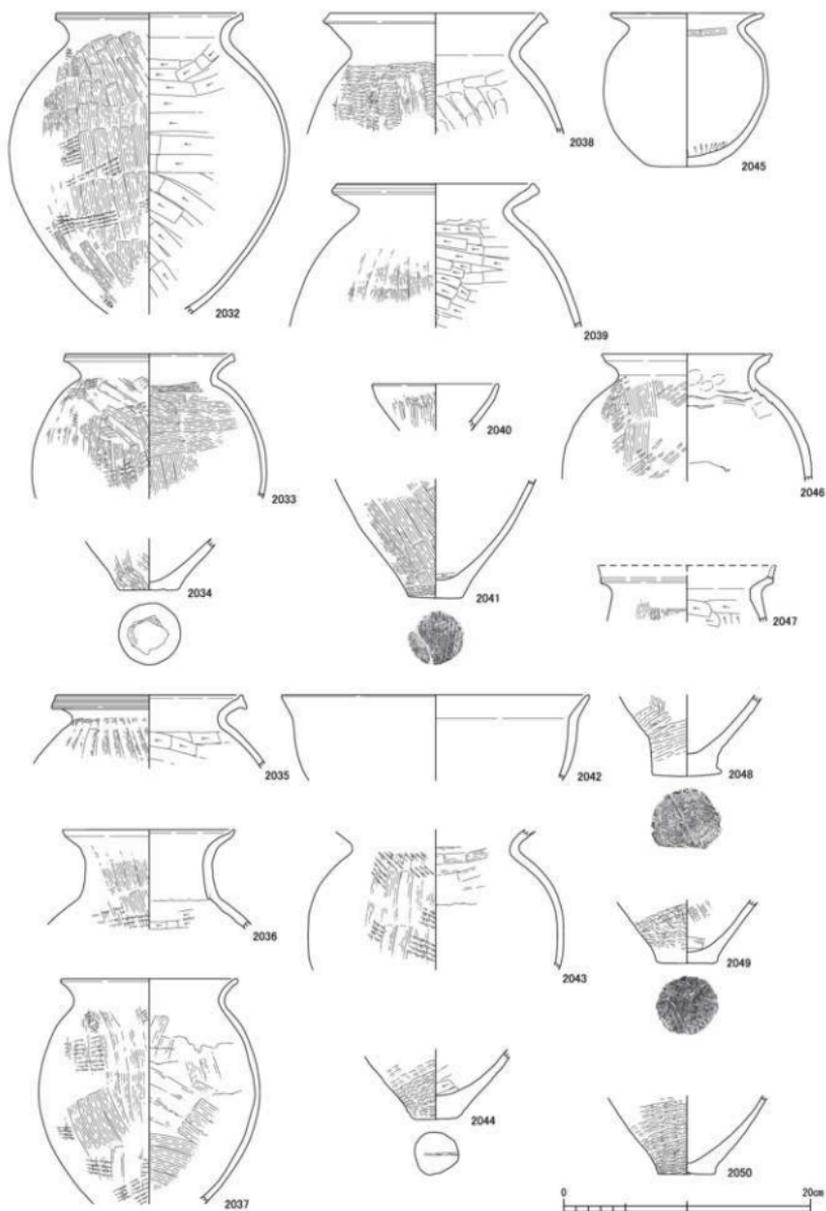
1. 5YR5/1 褐色色 極細砂を若干含むシルト～粘質シルト 南壁 11層のブロック多
2. 5YR4/1～7.5YR4/1 褐色色 極細砂を若干含むシルト～粘質シルト

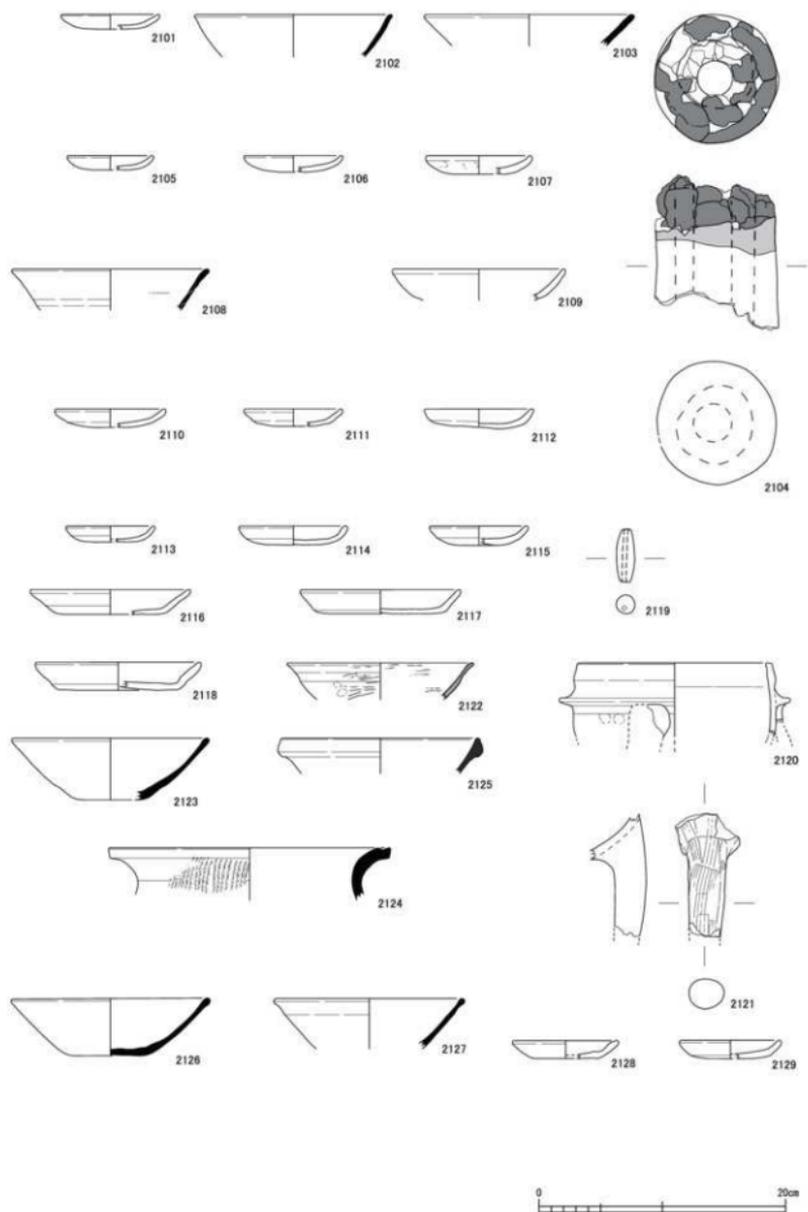


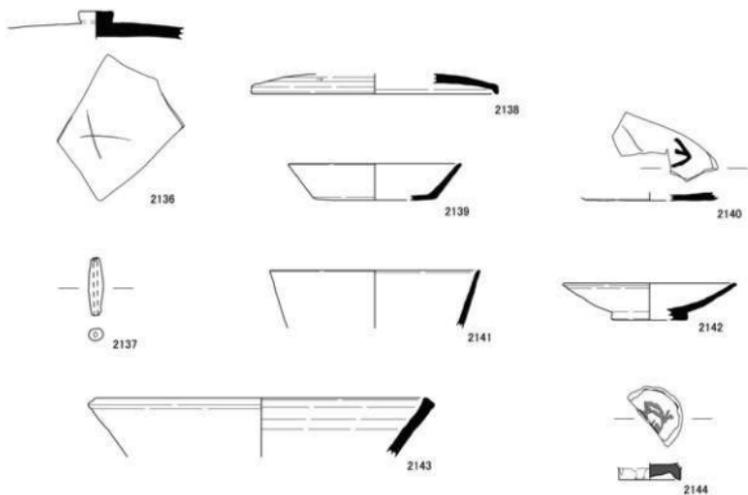
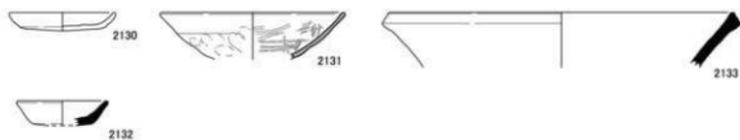
1. 5YR4/1 褐色色 極細砂質シルト 東壁 9層のブロック入る
2. 5YR4/1 褐色色 粘質シルト 東壁 35層のブロック入る
3. 10Y2/1 赤褐色 粘質シルト 東壁 19層の塊状土含む
4. 10Y2/1 赤褐色 粘質シルト 東壁 19層の塊状土含む
5. 2.5Y3/1 黄褐色 粘質シルト 土壁含む
6. 2.5Y4/1 黄褐色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む
7. 5YR2/2 黄褐色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む
8. 5YR4/1 褐色色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む
9. 5YR4/1 褐色色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む
10. 5YR4/1 褐色色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む
11. 5YR4/1 褐色色 粘質シルト 東壁 23層の塊状土含む

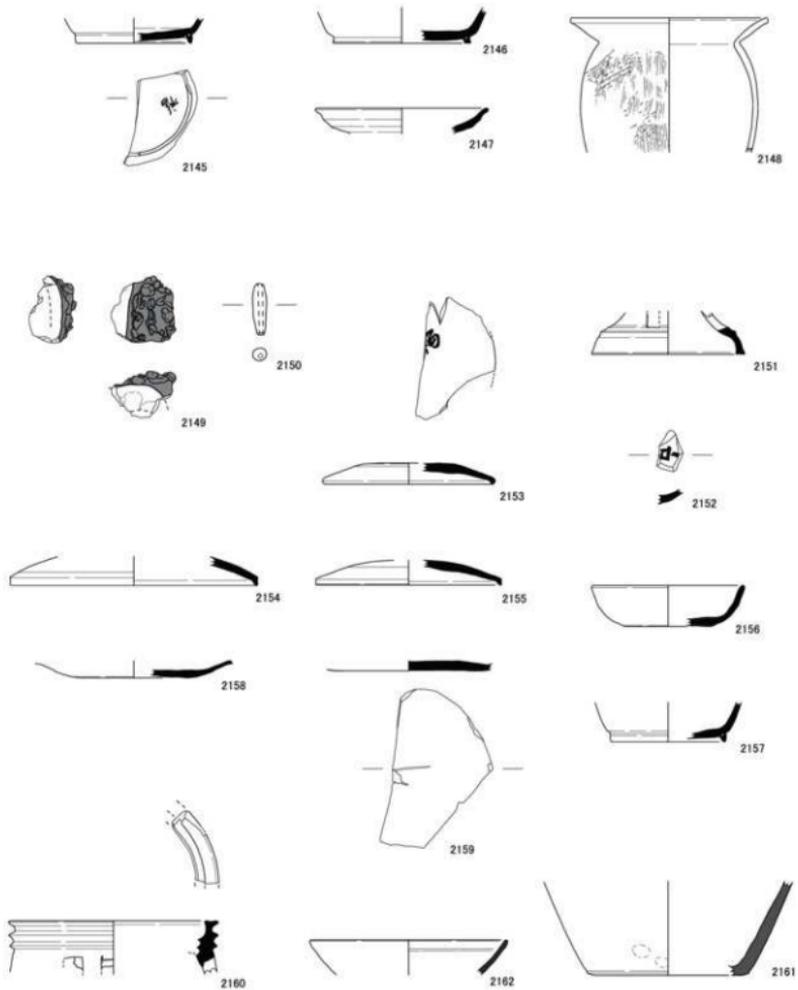


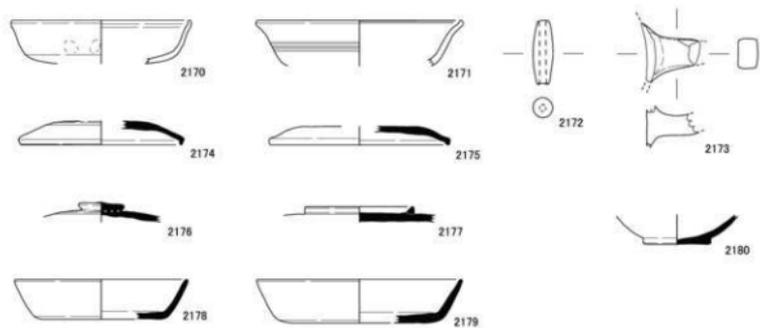
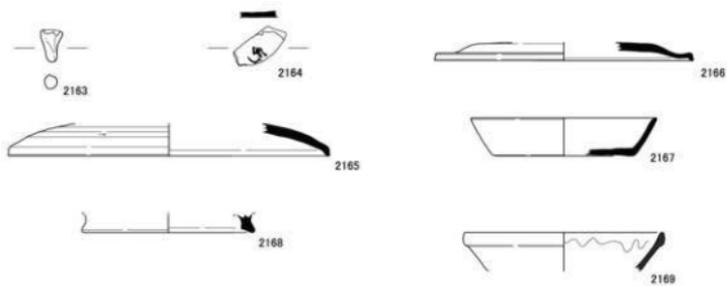


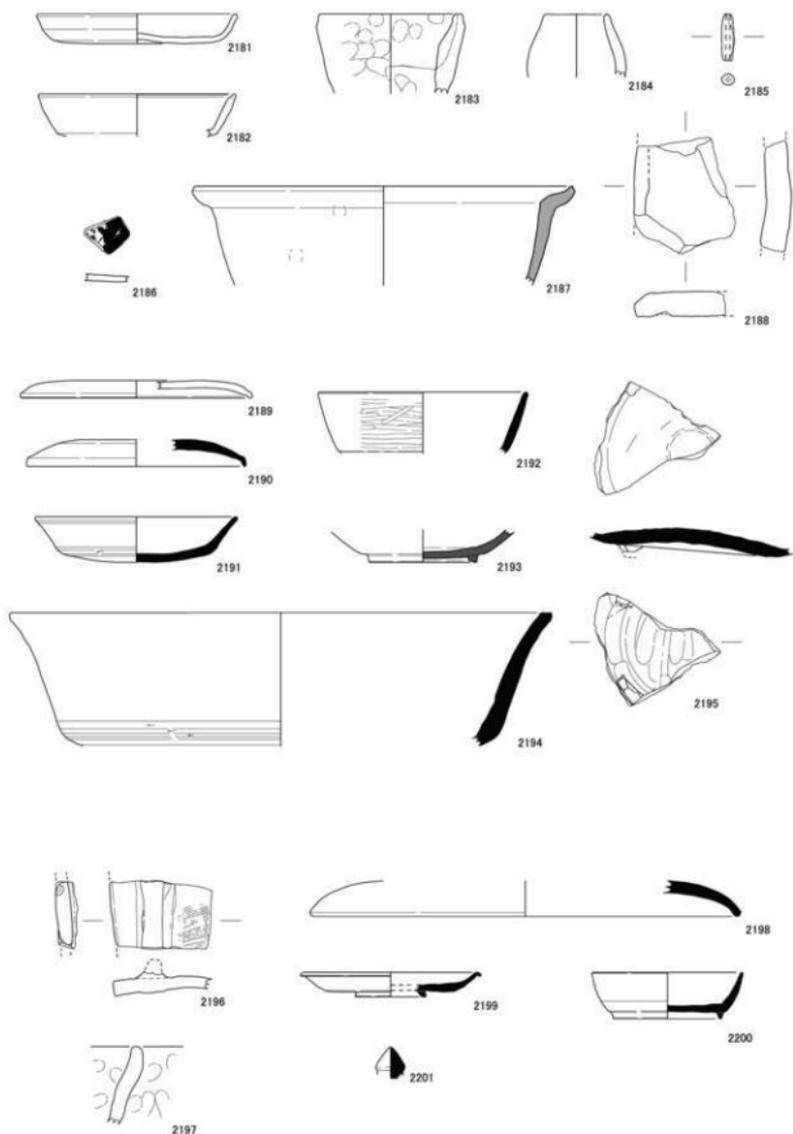


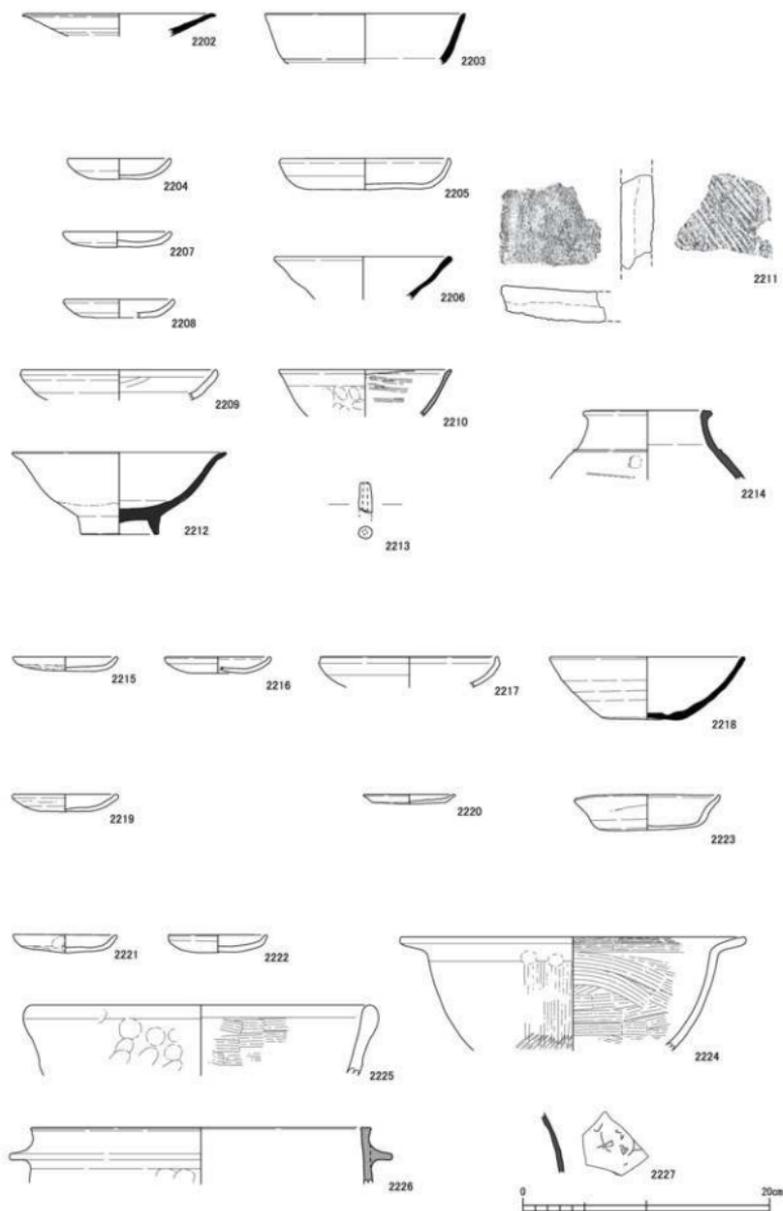


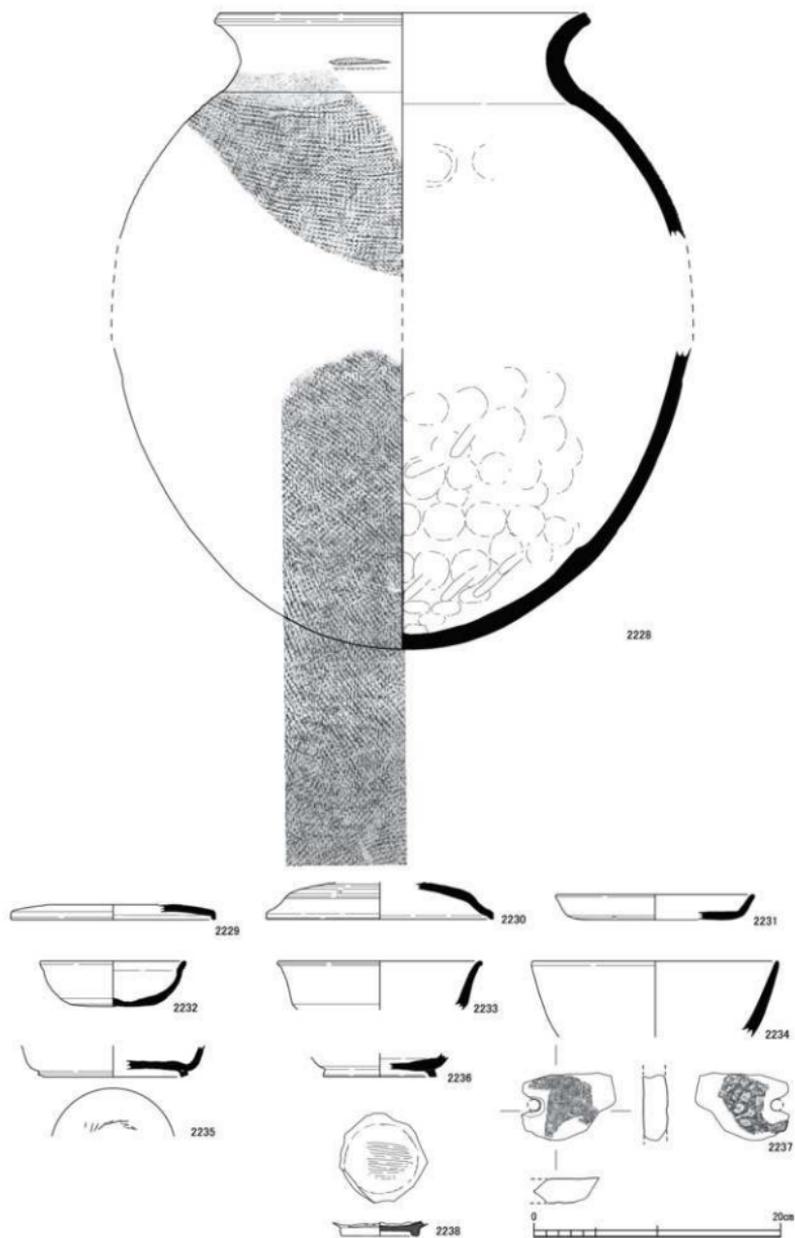












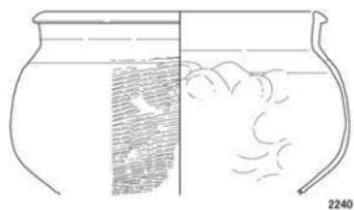
土器 2228~2238



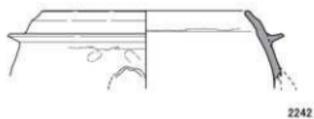
2239



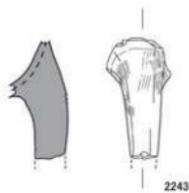
2241



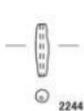
2240



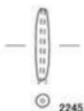
2242



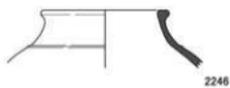
2243



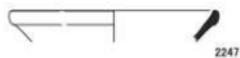
2244



2245



2246



2247



2248

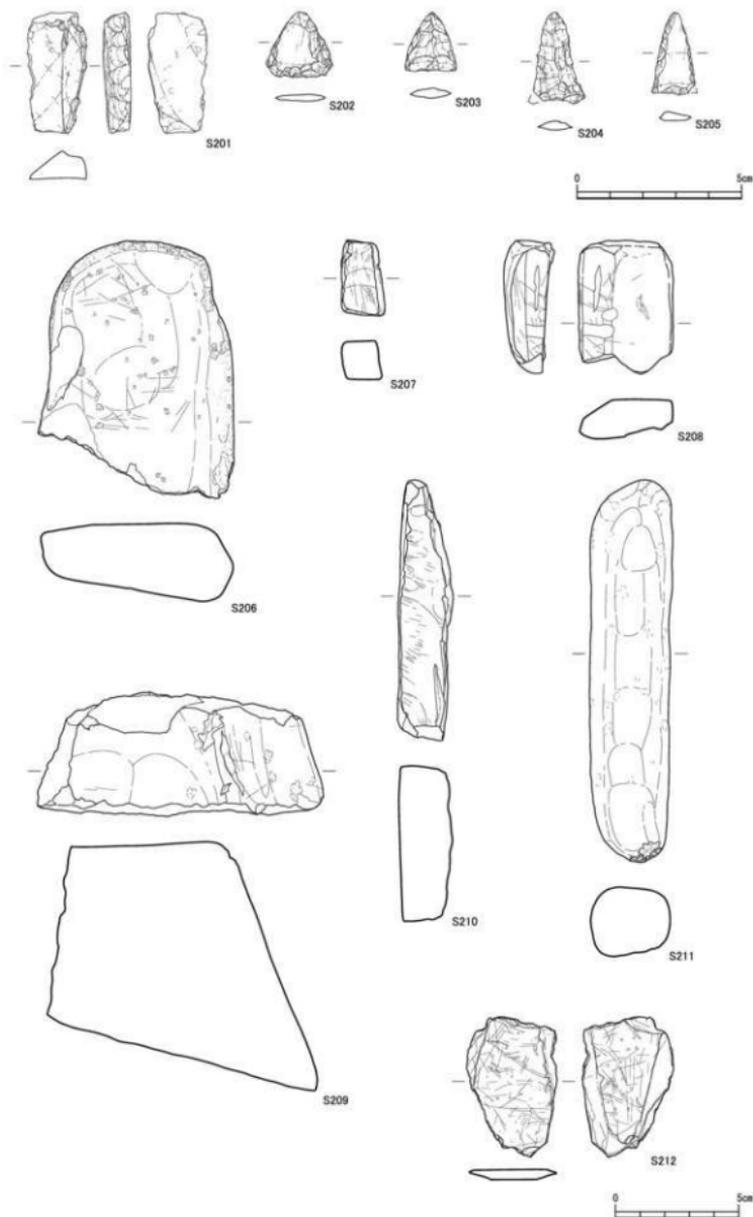


2249

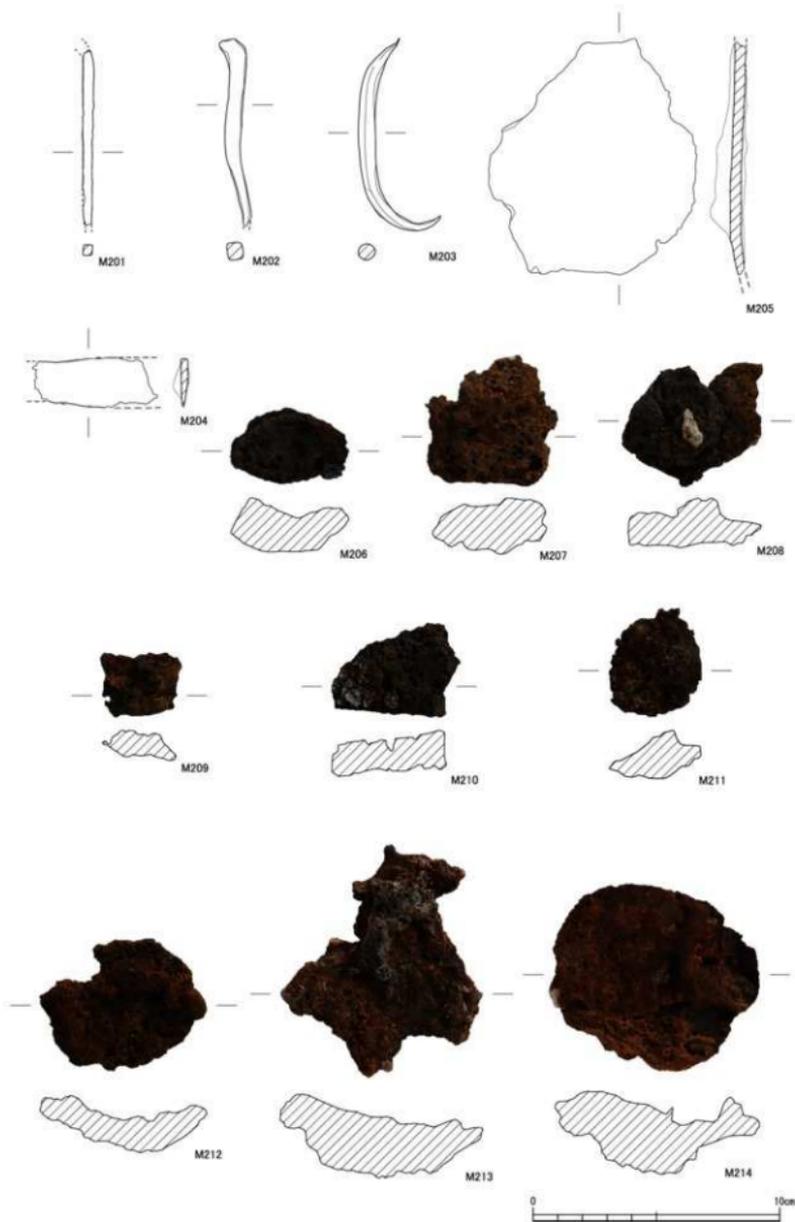


2250





石器 S201~S212



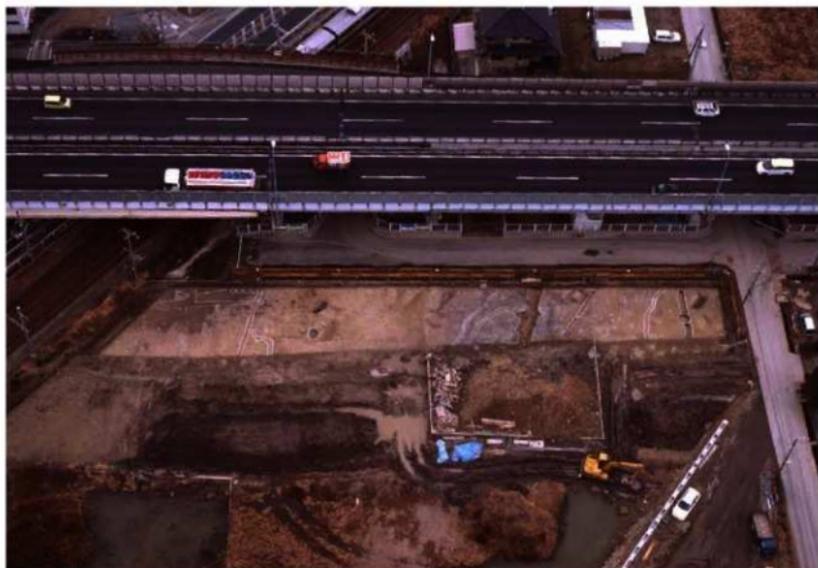
写
真
图
版



全景（2007年撮影）（東から）



全景（2007年撮影）（北から）



70区 近景（上が南）



70区 全景（上が南）



70 区 全景 (東から)



70区 全景（西から）



70 区 SB301・SB302 (西から)



SB301 P02 土層断面 (南から)



SB301 P05 土層断面 (南から)



SB301 P04 土層断面 (南から)



SB301 P05 石出土状況 (南から)



70区 SB303 (東から)



SB303 P02 土層断面 (南から)



SB303 P03 土層断面 (南から)



SB303 P05 土層断面 (南から)



SB303 P06 土層断面 (南から)



70 区 SB304 (西から)



SB304 P03 土層断面 (南から)



SB304 P05 土層断面 (南から)



SB304 P04 土層断面 (南から)



SB304 P05 柱出土状況 (南から)



SB304 P06 柱出土状況 (南から)



SB304 P07 土層断面 (南から)



SB304 P08 土層断面 (南から)



SB304 P09 土層断面 (南から)



SB304 P10 土層断面 (南から)



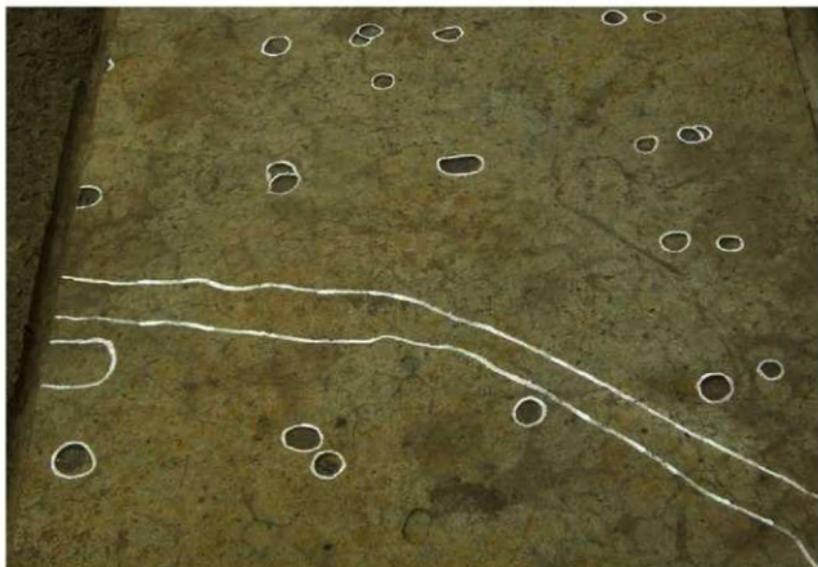
SB304 P11 土層断面 (南から)



SB304 P16 土層断面 (南から)



SB304 P17 石出土状況 (南から)



70 区 SB305 (西から)



SB305 P01 土層断面 (南から)



SB305 P02 遺物出土状況 (東から)



SB305 P01 石出土状況 (南から)



SB305 P02 土層断面 (南東から)



SB305 P03 石出土状況 (南から)



SB305 P04 柱出土状況 (東から)



SB305 P05 遺物出土状況 (南から)



B305 P06 土層断面 (南から)



SB305 P07 土層断面 (南から)



SB305 P09 土層断面 (南から)



SB305 P08 土層断面 (南から)



SB305 P09 鉄滓出土状況 (南から)



70 区 SA304 (北東から)



SA304 P01 土層断面 (南から)



SA304 P02 土層断面 (南から)



SA304 P03 土層断面 (南から)



SA304 P02 遺物検出状況 (南から)



SA304 P04 土層断面 (南から)



SA304 P05 土層断面 (南から)



SD301 土層断面 (南西から)



SD303 土層断面 (南西から)



SD304 土層断面 (西から)



SD303 W301 杭出土状況 (北東から)



SD306 土層断面 (南から)



SD308 土層断面 (南から)



SD307 土層断面 (東から)



SD310 土層断面 (南西から)



SD311 土層断面 (南から)



SD312 土層断面 (西から)



SD315 土層断面 (西から)



SK302 土層断面 (南から)



SK301 遺物出土状況 (西から)



SK308 (西から)



SK303 土層断面 (南から)



SK308 土層断面 (南から)



SK304 完掘状況 (南から)



SK305 完掘状況 (南から)



SK306 完掘状況 (南から)



SK307 完掘状況 (南から)



SK304・SK305・SK306・SK307 土層断面 (北から)



71 区・73 区 全景（上が南）



71 区 全景（東から）



71区 SD317 (東から)



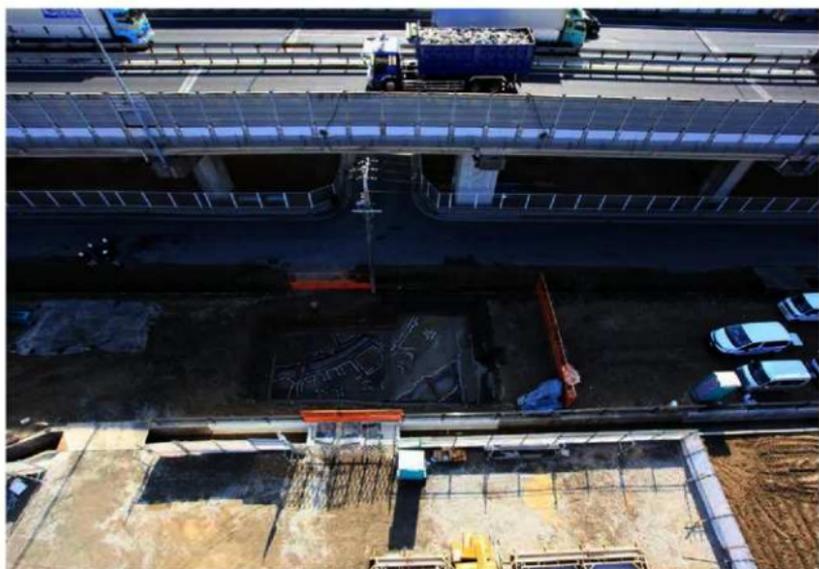
SD317 (東から)



SD317 土層断面 (東から)



72 区 遠景（東から）



72 区 遠景（北から）



上層水田（東から）



上層水田（西から）



上層水田 東半部 (東から)



上層水田 西半部 (西から)



SD318 (北から)



下層全景（北から）



下層水田跡（東から）



調査区北壁の状況（西北西から）



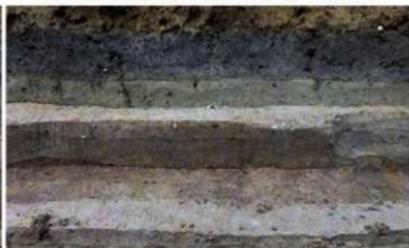
調査区北壁 東端の土層堆積（南から）



調査区北壁 SD318部分土層堆積（南から）



調査区中央東寄り土層堆積（南から）



調査区北壁中央 土層堆積（南から）



調査区北壁 SD319部分土層堆積（南から）



SD319 調査区北壁部分（南から）



SD320 土層堆積 (西から)



SD320 土層断面 (西から)



SD320 断ち割り (西から)



SX2003・SD320 (南南東から)



SX2004 (北東から)



SX2004 断ち割り (東から)



73区 全景（北から）



南壁土層断面（北から）



SD321 (北から)



SD322 (北から)



SD321 土層断面 (北から)



SD322 土層断面 (西から)

74 区 遠景 (東北東から)



74 区 遠景 (西から)



74 区 全景 (北から)





74区 全景（東から）



74区 全景（西から）



西壁土層断面（東から）



北壁西端土層断面（南から）



北壁西半土層断面（南から）



北壁中央付近土層断面（南から）



北壁東端土層断面（南から）



南壁中央部土層断面（北から）



P74101 (南から)



P74102 (南から)



SK401 (南から)



SX101 (南から)



旧河道 SR101 断ち割り状況 (南東から)

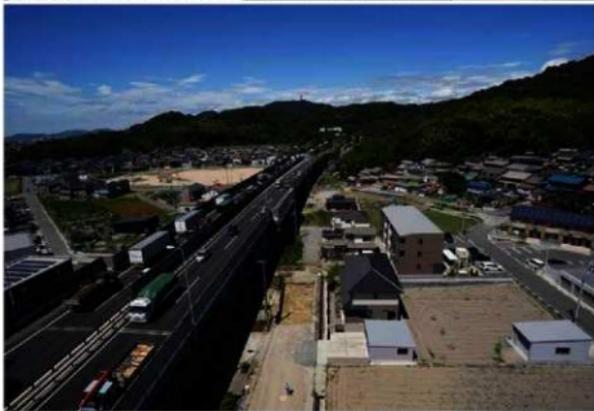


SR101 土層断面 (東から)

75 区 遠景 (西北西から)



75 区 遠景 (東から)



75 区 全景 (北から)





75区 近景 (西から)



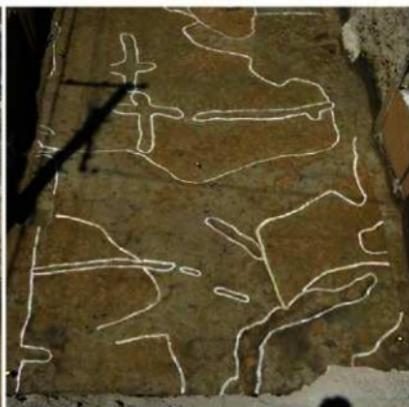
75区 全景 (西から)



75区 全景 (東から)



75 区 西半部 (東から)



75 区 東半部 (東から)



北壁 北東隅 (南から)



東壁 (西から)



南壁 (西北西から)



P75201 (北から)



奈良時代 SK516 (北から)



粘土採掘坑検出状況（北から）



粘土採掘坑検出状況（西から）



粘土採掘坑群（東から）



粘土採掘坑群（南南東から）



SK502・SK503（西から）



SK503（南から）



SK512・SK505・SK506（北から）



SK505（南から）



SK506 (北から)



SK506 土層断面 (東から)



SK507・SK508 (西から)



SK507・SK508 土層断面 (東から)



SK509・SK510 (東北東から)



SK509・SK510 土層断面 (東から)



SK511 (北から)



SK512 土器出土状況 (南から)



SK512 完掘状況 (北から)



SK512 土層断面 (南から)



SK514・SK515 (南から)



SK514・SK515 土層断面 (西から)



SK517-1・SK517-2 (南から)



SK517 土層断面 (南から)



SK518 (南から)



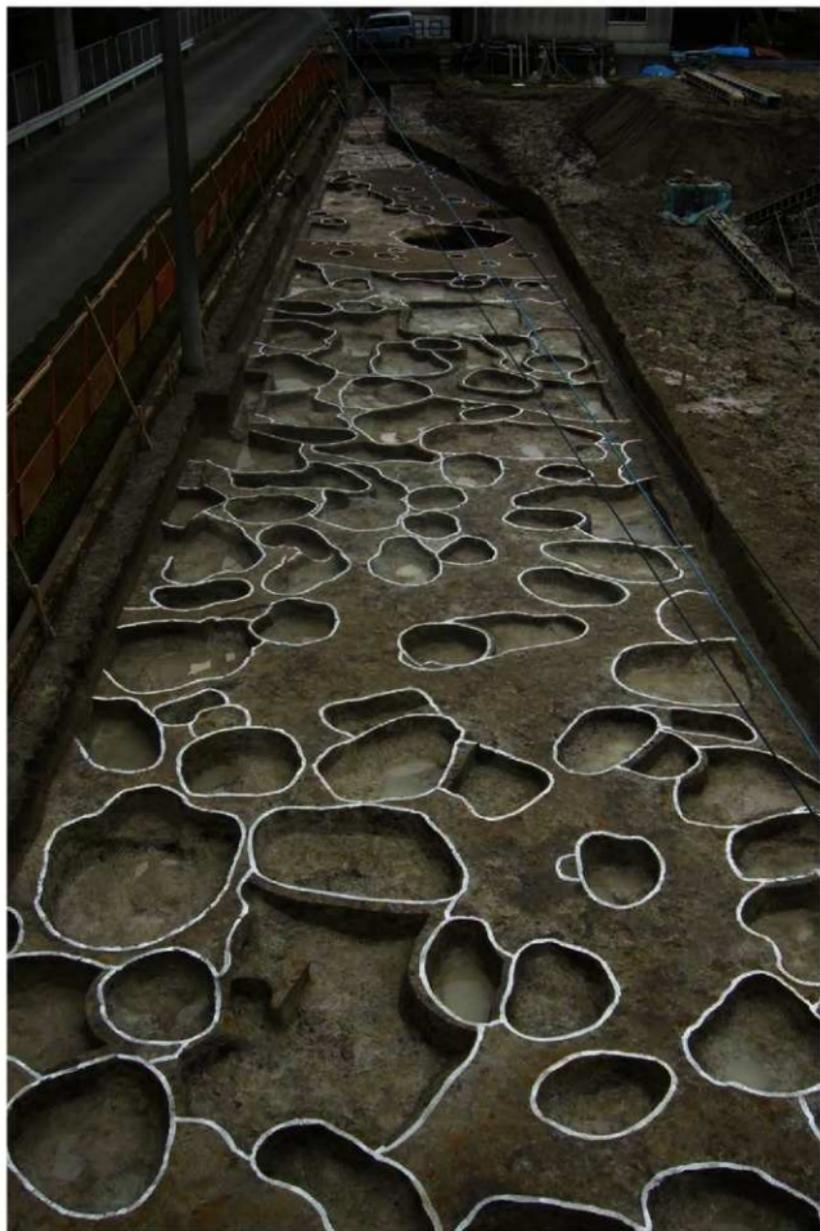
SD327 (北から)



76 区 全景 (上が南)



76 区 全景 (上が南)



76区 全景（東から）



SK650 遺物出土、完掘状況（西から）



SK605 土層断面、完掘状況（西から）



SK650 土層断面（南から）



SK610 土層断面、完掘状況（西から）



SK607 完掘状況（西から）



SK665 土層断面（南から）



SK604 土層断面、完掘状況（北から）



SK620 完掘状況（北から）



SK666・SK649・SK614・SK623 (東から)



SK666 土層断面 (西から)



SK649 土層断面 (南西から)



SK614 土層断面 (東から)



SK623 土層断面、遺物出土状況 (南から)



SK612 遺物出土状況 (西から)



SK613 遺物出土状況 (西から)



SK612 土層断面 (西から)



SK613 土層断面 (西から)



SK615 遺物出土状況 (北西から)



SK619 遺物出土状況 (北から)



SK615 土層断面 (西から)



SK619 土層断面 (北から)



SK624・SK630・SK669・SK631 (北から)



SK624 土層断面 (南西から)



SK630 土層断面 (北東から)



SK669 土層断面 (北から)



SK631 土層断面 (西から)



SK606 周辺 (北から)



SK606 遺物出土、完掘状況 (北から)



SK606 遺物出土状況 (東から)



SK606 土層断面 (西から)



SK606 遺物出土状況 (東から)



SK743 遺物出土、完掘状況（東から）



SK646 遺物出土、完掘状況（北から）



SK743 土層断面（北東から）



SK646 土層断面（北から）



SK632 遺物出土、完掘状況（西から）



SK621・SK622 遺物出土、完掘状況（西から）



SK632 土層断面（南西から）



SK621・SK622 土層断面（西から）



SK663 遺物出土状況（北東から）



SK627 完掘状況（西から）



SK663 土層断面（北東から）



SK627 土層断面（西から）



SK629 遺物出土、完掘状況（南西から）



SK625 完掘状況（西から）



SK629 遺物出土状況（南西から）



SK625 土層断面（西から）



SK628・SK673・SK664・SK675 (西から)



SK628 土層断面 (南西から)



SK673 土層断面 (北東から)



SK664 土層断面 (西から)



SK675 土層断面 (西から)



SK670・SK671 遺物出土、完掘状況（南から）



SK674 遺物出土状況（北から）



SK670・SK671 土層断面（南西から）



SK674 土層断面（東から）



SK658 遺物出土、完掘状況（南から）



SK633 遺物出土、完掘状況（西から）



SK658 土層断面（西から）



SK633 土層断面（南西から）



SK643 完掘状況（西から）



SK638 完掘状況（西から）



SK643 土層断面（西から）



SK638 土層断面（西から）



SK651 完掘状況（北から）



SK660 完掘状況（北から）



SK651 土層断面（西から）



SK660 土層断面（西から）



SK709 完掘状況（東から）



SK641 完掘状況（北から）



SK702 遺物出土、完掘状況（東から）



SK641 土層断面（西から）



SK652 土層断面（西から）



SK608 土層断面（北西から）



SK637 土層断面（西から）



SK640・SK642 土層断面（北から）



SK720 遺物出土、完掘状況（南から）



SK655 遺物出土、完掘状況（西から）



SK720 土層断面（南から）



SK655 土層断面（西から）



SK720 遺物出土状況（南から）



SK655 遺物出土状況（北から）



SK668 土層断面（北西から）



SK644 土層断面（東から）



SK679・SK680 遺物出土、完掘状況（北東から）



SK685 遺物出土状況（西から）



SK679・SK680 土層断面（北東から）



SK685 土層断面（西から）



SK721 遺物出土、完掘状況（南から）



SK685 遺物出土状況（北から）



SK721 土層断面（南から）



SK730 遺物出土、完掘状況（北西から）



SK699 土層断面 (北から)



SK725 土層断面 (南から)



SK711 土層断面 (東から)



SK713 土層断面 (北から)



SK716 遺物出土、完掘状況 (南西から)



SK715 遺物出土、完掘状況 (南から)



SK716 遺物出土状況 (南から)



SD329 完掘状況 (北から)

77 区 遠景 (西から)



77 区 第1面 (北から)



77 区 第1面近接 (北から)





第1面（南から）



第2面（南から）



南壁（西北西から）



南壁（東北東から）



東壁（西から）



東壁近接（西から）



南壁東半近接（北から）



南壁中央近接（北から）



奈良時代の掘立柱建物跡
SB306・SB307 (南から)



SB308・SB309 (東から)



SB310・SB311 (東から)



SB306 P80 土層断面 (北から)



SB306 P67 土層断面 (西から)



SB306 P67 土層断面 (東から)



SB306 P67 土層断面 (南から)



SB306 P67 土層断面 (北から)



SB306 P05 土層断面 (西から)



SB306 P139 土層断面 (東から)



SB306 P137 土層断面 (東から)



SB306 P136 土層断面 (西から)



SB306 P148 土層断面 (東から)



SB306 P123 土層断面 (東から)



SB305 P95・SB306 P100 (南から)



P98・SB307 P101・SB306 P102 (南から)



SB306 P102 (南から)



SB306 P106 (北から)



SB306 P106 (東から)



SB306 P106 (南から)



SB306 P106 (西から)



SB307 P16 (北から)



SB307 P16 (東から)



SB307 P63 (東から)



SB307 P76 (東から)



SB307 P176 (東から)



SB307 P09 (西から)



SB307 P04 (西から)



SB308 P229 遺物出土状況（西から）



SB308 P150 白磁碗出土状況（西から）



SB308 P150 土層断面（北から）



SB308 P191 土層断面（西から）



SB308 P195・P194（西から）



SB308 P195（南から）



SB309 P218 土器出土状況（北から）



SB309 P220 遺物出土状況（北から）



SB309 P220 土層断面（西から）

P77059 土師器皿出土状況
(南から)



P77070 土師器皿出土状況
(南から)



P77254 土師器皿出土状況
(東から)





SK793 須恵器壺検出状況 (南東から)



SK793 埋積状況 (西から)



SK793 埋納状況 (南東から)



SK793 完掘状況 (北西から)



SD330 全景 (南西から)



SD330 土層断面 (西から)



SD330 遺物出土状況 (南から)



第2面粘土探掘坑 (西から)



第2面粘土探掘坑近接 (西から)



南東隅 粘土探掘坑部分土層断面 (北西から)



平成 19 年度現地説明会状況



70 区現地説明会状況



76 区現地説明会状況





2010



2014



2012



2013



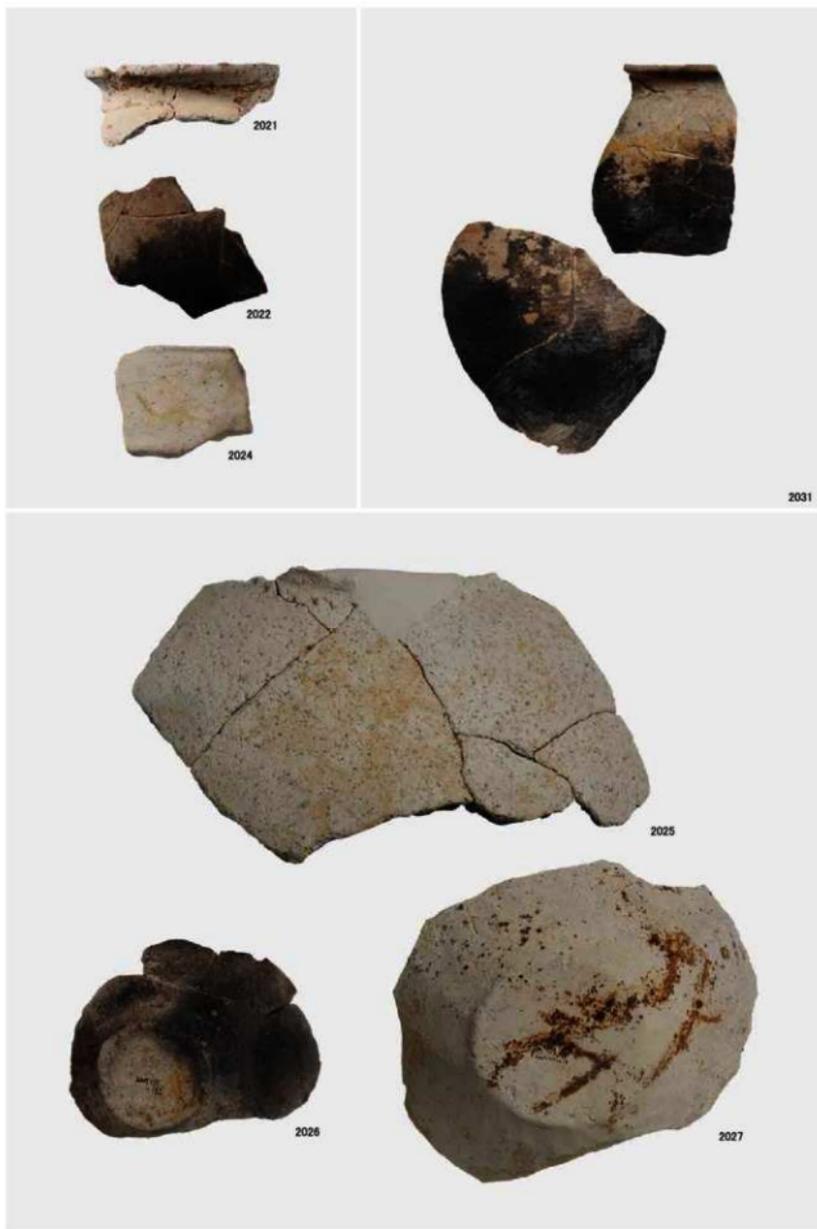
2011



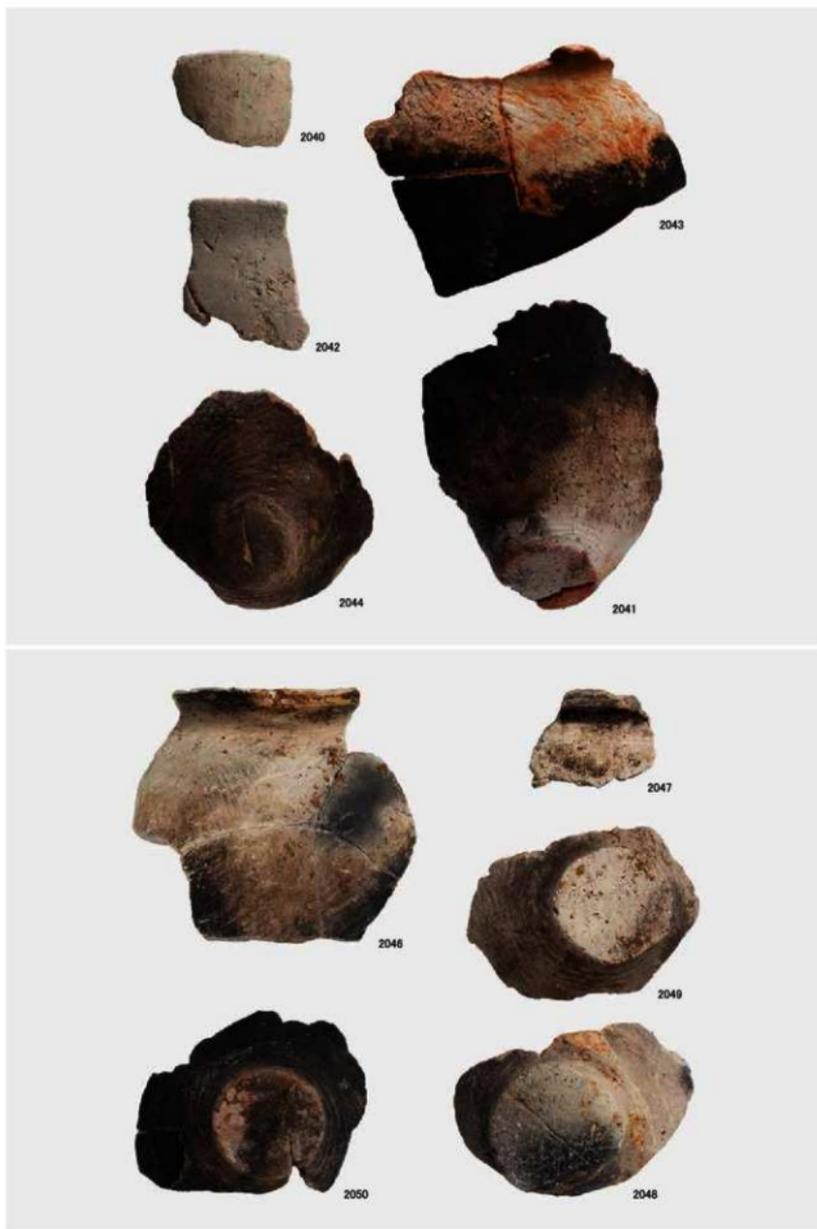
2009









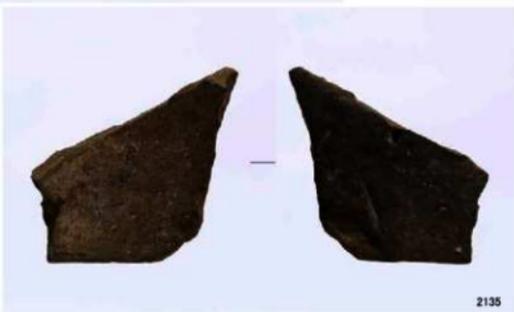


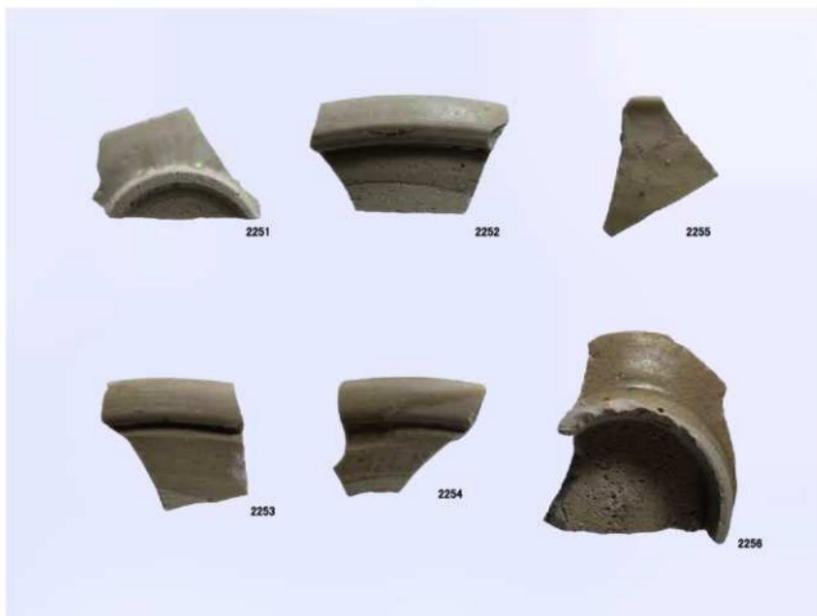


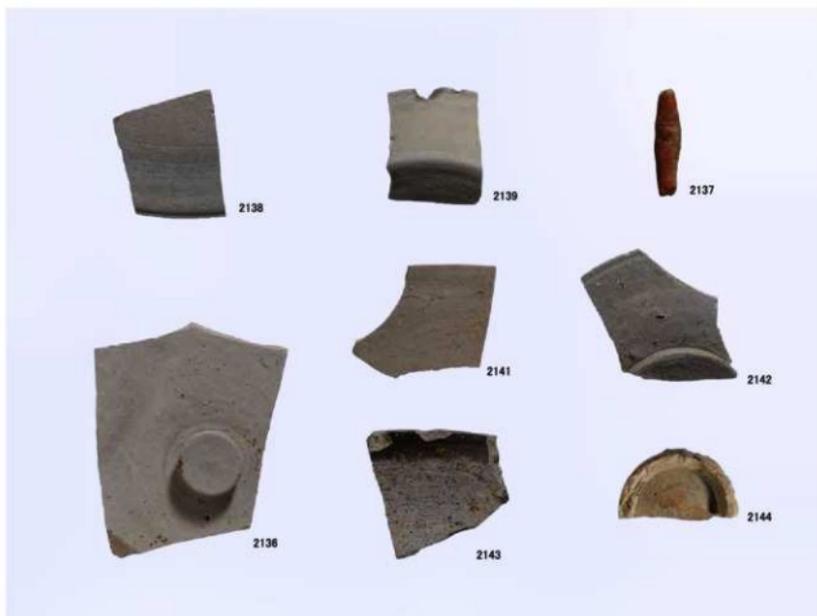














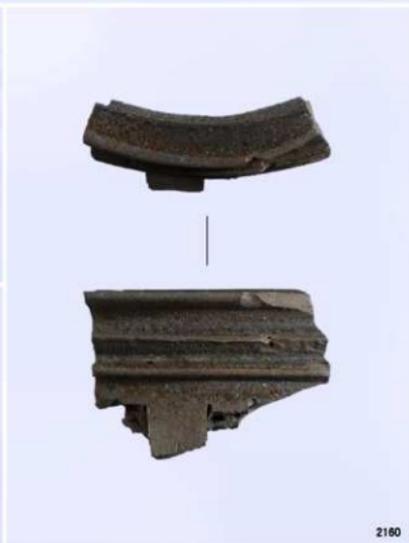
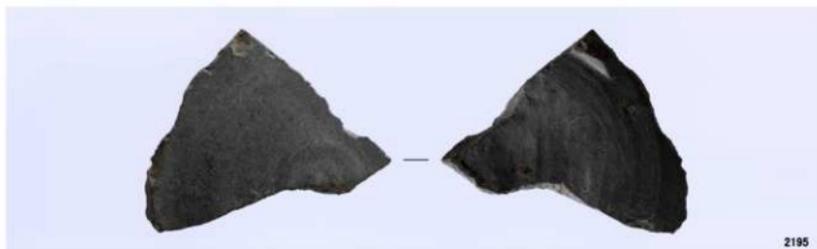












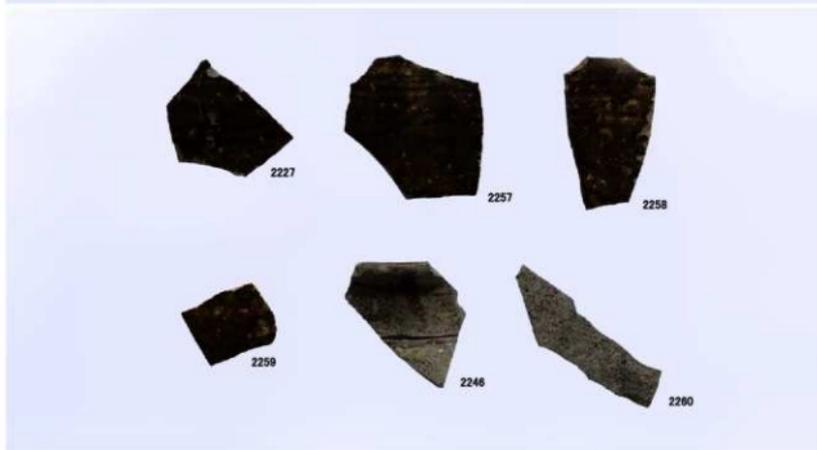




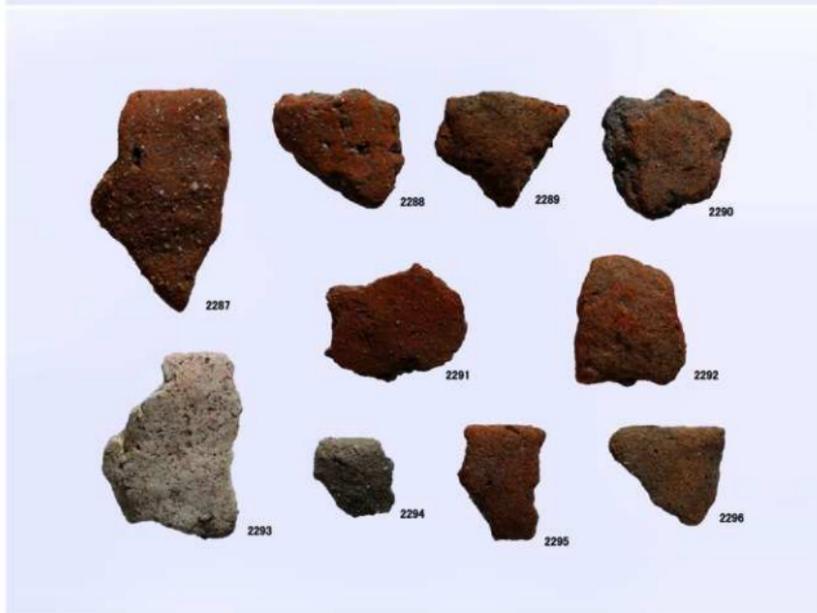
















報 告 書 抄 録

ふりがな	いけのしたいせき							
書名	池ノ下遺跡Ⅱ							
副書名	一般国道2号姫路バイパス改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第524冊							
編著者名	篠宮 正・鎌 英記・西口圭介・西山昌孝 神戸環境研究所・一般社団法人文化財科学研究センター							
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部							
所在地	〒675-0142 加古郡播磨町大中1丁目1番1号 (兵庫県立考古博物館内) ℡079-437-5561							
発行機関	兵庫県教育委員会							
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 ℡078-362-3784							
発行年月日	令和5(2022)年2月22日							
資料保管機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 ℡079-437-5589							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (遺跡調査番号)	調査面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
池ノ下遺跡	姫路市宮福	2821014	20578	34° 49' 1.26"	134° 39' 0.78"	20071207～20180906 (2007181・2017004・2017078・2018012)	1,885	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
池ノ下遺跡	集落・生産遺跡	弥生時代中期・後期末～古墳時代初頭	粘土採掘坑群・溝・水田遺構		庄内期の土器			
		奈良時代～平安時代前期	竪立柱建物跡・水田遺構		土師器・須恵器・墨書土器・円面硯 円形硯・転用硯・緑釉陶器・瓦			
		平安時代後期～鎌倉時代	竪立柱建物跡・土坑		墨書土器・華南産灰釉陶器壺・白磁燗 反り碗・亀山焼樂・柱根			
要約	調査地点の東端と西端にある扇状地上において奈良時代から鎌倉時代にかけての集落を調査した。また、両扇状地の間にある沖積地において粘土採掘坑群の調査を行った。粘土採掘坑群は弥生時代後期末～古墳時代初頭である。このほか、弥生時代中期・弥生時代末の溝、時期の確定できない水田遺構を検出している。遺物には奈良時代の円面硯・円形硯・墨書土器が出土しており、77区の竪立柱建物2棟と、区画整理事業に伴う調査結果を合わせ、西側の扇状地上から北側の山裾にかけて官衛が存在する可能性が高くなった。鎌倉時代の集落は、70区・77区において調査している。							

兵庫県文化財調査報告 第524冊

姫路市

池ノ下遺跡Ⅱ

—一般国道2号姫路バイパス改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和5（2023）年2月22日 発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号
(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：有限会社東光舎
〒675-0965 兵庫県姫路市東延末4丁目81
